

# 教 育 要 項

—— 履修の手引き ——

2013 年 4 月～2014 年 3 月

第 1 学年～第 6 学年

 東京医科歯科大学医学部医学科

# 目 次

医学部医学科カリキュラム構成図（旧カリキュラム）	4
医学部医学科カリキュラム構成図（新カリキュラム）	5
授 業 計 画 表	6
授 業 時 間 割	7

## 【授業概要】

### 第1学年

医 学 導 入	19
---------	----

### 第2学年

人 体 構 造 総 論	21
細 胞 生 物 学	23
神 經 生 理 導 入	25
生 理 学	28
組 織 学	32
人 体 解 剖 学	35
薬 理 学	39
生 化 学	43
分 子 遺 伝 学	47
神 經 解 剖 学	50
免 疫 I・II	55
神 經 科 学 ・ 基 礎	59
感 染 ・ 基 礎	63
東 洋 医 学	67
病 理 学（総論）	69
医 動 物 学	72

### 第3学年

腫 瘍 学	77
法 医 学	79
衛 生 学	81
社 会 医 学	83
公 衆 衛 生 学	85
東 洋 医 学	90
臨 床 ブ ロ ッ ク	
①臨 床 医 学 導 入	94
②循 環 器	96
③呼 吸 器	100

④消 化 器	102
⑤体液制御・泌尿器	106
⑥内 分 泌 ・ 代 謝	110
⑦血 液 ・ 腫 瘍	112
⑧一 般 外 科	114
⑨神 經 科 学 (臨 床)	116
⑩骨 ・ 関 節 ・ 脊 椎	120
⑪皮 膚 ・ ア レ ル ギ ー ・ 膠 原 病	122
⑫感 染 (臨 床)	124
⑬頭 頸 部 ・ 臨 床 (医 歯 学 融 合)	126
⑭老 年 医 学 (医 歯 学 融 合)	130

#### 第4学年

医 学 英 語 II	133
病 理 学 実 習	136
神 經 科 学 (臨 床)	138
消 化 器	142
血 液	144
公 衆 衛 生 学	146
老 年 病 学	151
神 經 精 神 医 学	153
外 科 学	157
整 形 外 科 学	160
皮 膚 科 学	162
泌 尿 器 科 学	165
眼 科 学	169
耳 鼻 咽 喉 科 学	171
放 射 線 医 学	174
産 科 婦 人 科 学	177
麻 醉 ・ 蘇 生 学	181
口 腔 外 科 学	183
救 急 医 学	185
形 成 外 科 学	188
頭 頸 部 外 科 学	191
心 療 ・ タ ー ミ ナ ル 医 学	193
臨 床 検 査 医 学	196
自 由 選 択 学 習	199

#### 第5学年

東 洋 医 学	203
先 端 医 学	203

基礎臨床総合講義 .....	203
<b>選択科目</b>	
研究実践プログラム .....	205
地域医療学習プログラム.....	209
<b>【別表】</b> 医学科コンピテンシー（第1学年・第2学年・第3学年対象）.....	211
学生周知事項 .....	221
東京医科歯科大学学則.....	225
東京医科歯科大学学部医学部履修規則（旧カリキュラム（4年次以降））.....	237
東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（新カリキュラム（3年次まで））.....	243
東京医科歯科大学医学部医学科専門科目履修内規.....	254
東京医科歯科大学医学部試験規則（平成21年度以前入学者） .....	255
東京医科歯科大学医学部試験規則（平成22年度入学者） .....	257
東京医科歯科大学試験規則（平成23年度以降入学者） .....	260
東京医科歯科大学医学部医学科試験内規.....	263
東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ.....	264
第2学年進級判定フローチャート.....	271
第3学年進級判定フローチャート.....	272
湯島キャンパス案内 .....	273

(平成22年度以前入学者)

# 医学部医学科カリキュラム構成図(旧カリキュラム)

1年		2年		3年		4年		5年		6年	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
医学導入	免疫学・I・II 細胞の構造・構築II 細胞の機能	感染症 東洋医学(基礎) 組織学	小児科学 循環器学 内分泌代謝	神経精神医学 産科・婦人科学 公衆衛生学 神・臨床神経 眼科学 外科学 臨床検査医学 皮膚科学 血液 病理学実習 神経精神医学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 泌尿器科学 心療・ターミナル学 放射線医学 麻酔・蘇生学 形成外科学 救急医学 頭頸部外科学 老年病学 口腔外科学 医学英語II	消化器ブロック 呼吸器ブロック 腎・体液制御ブロック 病理学総論ブロック 腫瘍学ブロック	神経精神医学 産科・婦人科学 公衆衛生学 神・臨床神経 眼科学 外科学 臨床検査医学 皮膚科学 血液 病理学実習 神経精神医学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 泌尿器科学 心療・ターミナル学 放射線医学 麻酔・蘇生学 形成外科学 救急医学 頭頸部外科学 老年病学 口腔外科学 医学英語II	基礎臨床総合講義 臨床実習関連講義 先端医学	臨床実習I 自由選択学習 (フロイデトレスト)	臨床実習II	臨床実習III	卒業試験
教 学	医の原則	社会医学 人体解剖学 生理学 神経科学実習 神・神経構造 薬理学 生殖・発達・加齢 神経科学・基礎 法医学 衛生学 生化学 医学英語II	医の原則	小児科学 循環器学 内分泌代謝 医事法学 膠原病・リウマチ学 医動物学	小児科学 循環器学 内分泌代謝 医事法学 膠原病・リウマチ学 医動物学	神経精神医学 産科・婦人科学 公衆衛生学 神・臨床神経 眼科学 外科学 臨床検査医学 皮膚科学 血液 病理学実習 神経精神医学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 泌尿器科学 心療・ターミナル学 放射線医学 麻酔・蘇生学 形成外科学 救急医学 頭頸部外科学 老年病学 口腔外科学 医学英語II	基礎臨床総合講義 臨床実習関連講義 先端医学	臨床実習I 自由選択学習 (フロイデトレスト)	臨床実習II	臨床実習III	卒業試験
化 学	物理学実習 情報科学	薬理学	薬理学	薬理学	薬理学	神経精神医学 産科・婦人科学 公衆衛生学 神・臨床神経 眼科学 外科学 臨床検査医学 皮膚科学 血液 病理学実習 神経精神医学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 泌尿器科学 心療・ターミナル学 放射線医学 麻酔・蘇生学 形成外科学 救急医学 頭頸部外科学 老年病学 口腔外科学 医学英語II	基礎臨床総合講義 臨床実習関連講義 先端医学	臨床実習I 自由選択学習 (フロイデトレスト)	臨床実習II	臨床実習III	卒業試験
身体運動学実習I 保健体育学	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	自由選択科目	神経精神医学 産科・婦人科学 公衆衛生学 神・臨床神経 眼科学 外科学 臨床検査医学 皮膚科学 血液 病理学実習 神経精神医学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 泌尿器科学 心療・ターミナル学 放射線医学 麻酔・蘇生学 形成外科学 救急医学 頭頸部外科学 老年病学 口腔外科学 医学英語II	基礎臨床総合講義 臨床実習関連講義 先端医学	臨床実習I 自由選択学習 (フロイデトレスト)	臨床実習II	臨床実習III	卒業試験
化学実験 生物実験	選択必須科目	選択必須科目	選択必須科目	選択必須科目	選択必須科目	神経精神医学 産科・婦人科学 公衆衛生学 神・臨床神経 眼科学 外科学 臨床検査医学 皮膚科学 血液 病理学実習 神経精神医学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 泌尿器科学 心療・ターミナル学 放射線医学 麻酔・蘇生学 形成外科学 救急医学 頭頸部外科学 老年病学 口腔外科学 医学英語II	基礎臨床総合講義 臨床実習関連講義 先端医学	臨床実習I 自由選択学習 (フロイデトレスト)	臨床実習II	臨床実習III	卒業試験
英 語						神経精神医学 産科・婦人科学 公衆衛生学 神・臨床神経 眼科学 外科学 臨床検査医学 皮膚科学 血液 病理学実習 神経精神医学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 泌尿器科学 心療・ターミナル学 放射線医学 麻酔・蘇生学 形成外科学 救急医学 頭頸部外科学 老年病学 口腔外科学 医学英語II	基礎臨床総合講義 臨床実習関連講義 先端医学	臨床実習I 自由選択学習 (フロイデトレスト)	臨床実習II	臨床実習III	卒業試験
						神経精神医学 産科・婦人科学 公衆衛生学 神・臨床神経 眼科学 外科学 臨床検査医学 皮膚科学 血液 病理学実習 神経精神医学 整形外科学 耳鼻咽喉科学 泌尿器科学 心療・ターミナル学 放射線医学 麻酔・蘇生学 形成外科学 救急医学 頭頸部外科学 老年病学 口腔外科学 医学英語II	基礎臨床総合講義 臨床実習関連講義 先端医学	臨床実習I 自由選択学習 (フロイデトレスト)	臨床実習II	臨床実習III	卒業試験

共用試験  
CBT・OSCE



平成25年度医学部医学科授業計画

第1学年			第2学年			第3学年			第4学年			第5学年			第6学年		
区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間	区分	期	間
前期授業	16W	平成25年 4.15(月)～7.31(木)	前期授業	16W	平成25年 4.8(月)～7.26(金)	前期授業	17W	平成25年 4.1(月)～7.26(金)	PCC	12W	平成25年 4.1(月)～6.22(金)	CC	4W	平成25年 4.1(月)～4.26(金)			
夏季休業		8.1(木)～9.6(金)	夏季休業		7.29(月)～8.30(金)	夏季休業		7.29(月)～8.30(金)	夏季休業								
前期授業	3W	9.9(月)～9.27(金)	前期授業	4W	9.2(月)～9.27(金)	前期授業	4W	9.2(月)～9.27(金)	前期授業	4W	7.1(月)～7.26(金)	夏季休業					
後期授業			後期授業	3W	9.30(月)～10.18(金)	後期授業	3W	9.30(月)～10.18(木)	後期授業								
後期授業	12W	9.30(月)～12.20(金)	臨時休業		10.21(月)	臨時休業		10.21(月)	臨時休業								
冬季休業			後期授業	9W	10.22(火)～12.20(金)	後期授業	9W	10.22(火)～12.20(金)	後期授業								
冬季休業			冬季休業		12.24(火)～26.1.3(金)	冬季休業		12.24(火)～26.1.3(金)	冬季休業								
後期授業	7W	平成26年 1.6(月)～2.18(金)	後期授業	9W	平成26年 1.6(月)～3.7(金)	後期授業	9W	平成26年 1.6(月)～3.7(金)	後期授業								
臨時休業			臨時休業		3.10(月)～	臨時休業		3.10(月)～	臨時休業								

主な行事予定

- 入学式 25. 4. 8 (月)
- M1新入生オリエンテーション 25. 4. 10 (水)～4. 11 (木)
- M1医学科ガイダンス 25. 4. 16 (火)
- M2カリキュラム説明 25. 4. 8 (月)
- 体育祭 25. 5. 11 (土) (予定)
- 健康診断 25. 5月中～下旬 (予定)
- 実験動物懸賞祭 25. 9月下旬 (予定)
- プロジェクトセメスター開始 25. 10. 7 (月)
- 創立記念日 25. 10. 12 (土)
- 御茶ノ水祭 25. 10. 19 (土)～20日 (日) (予定)
- 解剖体追悼式 25. 10. 17 (木) (予定)
- ご進言返還式 26. 1. 20 (火) (予定)
- プロジェクトセメスター発表会 26. 2. 21 (金)
- 医学科第4学年合宿研修 26. 2. 22 (土)～2. 23 (日)
- 卒業式 26. 3. 25 (火)

2013年度 講義室:MDタワー2階共用講義室2

日付		9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40
10/1	火	履修説明 田中雄二郎	国際医療/Professionalismシリーズ オリエンテーション 高田和生	多彩なキャリア①② 地域で命を支える 鎌田實先生	
10/8	火	医学の歴史と展望① 近代医学前史 佐藤達夫先生	症候学導入 オリエンテーション 田中雄二郎	国際医療①: グループ英語討論	国際医療①: 講義 地域間の健康格差とその是正 中村桂子先生
10/15	火	国際医療① TBL	医学の歴史と展望② 未定 榎本信幸先生	国際医療②: グループ英語討論	国際医療②: 講義 健康水準と医療システムの国際比較 中村桂子先生
10/22	火	国際医療② TBL	医学の歴史と展望③ 人の英知をこえた真実を求め 浅原弘嗣先生	国際医療③: グループ英語討論	国際医療③: 講義 ワクチン 本郷偉元先生
10/29	火	国際医療③ TBL	多彩なキャリア③ Physician Scientistとは? 宮坂信之先生	症候学導入①	
11/5	火	医学の歴史と展望④ 未定 中山啓子先生	多彩なキャリア④ 未定 中山敬一先生	症候学導入②	
11/12	火	症候学導入③		Professionalism①: グループ英語討論	多彩なキャリア⑤ 未定 川越正平先生
11/19	火	症候学導入④		Professionalism②: グループ英語討論	多彩なキャリア⑥ 保健医療行政への道 河原和夫先生
11/26	火	症候学導入⑤		Professionalism③: グループ英語討論	メンタルヘルスケア 平井伸英先生
12/3	火	症候学導入⑥		Professionalism④: グループ英語討論	PBL オリエンテーション 秋田恵一
12/10	火	PBL①		卒前留学の意義	
12/17	火	PBL②		実習①オリエンテーション 高田和生	実習②オリエンテーション 角/小牟田看護部長

1/7	火	実習 ①CC学生shadowing ②臨床系教員Shadowing ③看護師Shadowing/BLS ④患者Shadowing			
1/14	火				
1/21	火				
1/28	火				
2/4	火	総括(卒業時の獲得資質について) 田中雄二郎	研究者養成コースの説明 中田先生	予備	

平成25年度授業時間割 第2学年

前期(21週)2013年(平成25年) 4月8日(月)～9月27日(金)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/1	月					
4/2	火					
4/3	水					
4/4	木					
4/5	金					

4/8	月	入学式		カリキュラム説明会	医歯学融合教育カリキュラム説明	解剖学実習説明
4/9	火	人体構造総論1	人体構造総論2	細胞生物学1	研究者養成1	
4/10	水	人体構造総論3	人体構造総論4	神経生理導入1	研究者養成2	
4/11	木	人体構造総論5	人体構造総論6	細胞生物学2	研究者養成3	
4/12	金	人体構造総論7	人体構造総論8	神経生理導入2	研究者養成4	

4/15	月	人体構造総論9	人体構造総論10	神経生理導入3	研究者養成5	
4/16	火	細胞生物学3	神経生理導入4	神経生理導入5	研究者養成6	
4/17	水	人体構造総論11	人体構造総論12	生理学1	研究者養成7	
4/18	木	教養/医歯学基盤教育1		神経生理導入6	研究者養成8	
4/19	金	人体構造総論13	人体構造総論14	組織学1	組織学実習1	研究者養成9

4/22	月	人体構造総論15	人体構造総論16	組織学2	組織学実習2	組織学実習3
4/23	火	神経生理導入7	神経生理導入8	組織学3	組織学実習4	組織学実習5
4/24	水	人体構造総論17	人体構造総論18	人体解剖学1	人体解剖実習1	人体解剖実習2
4/25	木	教養/医歯学基盤教育2		人体解剖学2	人体解剖実習3	人体解剖実習4
4/26	金	人体構造総論19	人体構造総論20	組織学4	組織学実習6	組織学実習7

4/29	月	(祝)昭和の日				
4/30	火	生理学2	生理学3	人体解剖学3	人体解剖実習5	人体解剖実習6
5/1	水	人体構造総論21	人体構造総論22	組織学5	組織学実習8	組織学実習9
5/2	木	教養/医歯学基盤教育3		人体解剖学4	人体解剖実習7	人体解剖実習8
5/3	金	(祝)憲法記念日				

5/6	月	子どもの日振替休日				
5/7	火	神経生理導入9	神経生理導入10	人体解剖学5	人体解剖実習9	人体解剖実習10
5/8	水	人体構造総論23	人体構造総論24	組織学6	組織学実習10	組織学実習11
5/9	木	教養/医歯学基盤教育4		人体解剖学6	人体解剖実習11	人体解剖実習12
5/10	金	神経生理導入11	生理学4	人体解剖学7	人体解剖実習13	人体解剖実習14

5/13	月	神経生理導入12	生理学5	組織学7	細胞生物学4	
5/14	火	組織学実習12	組織学実習13	人体解剖学8	人体解剖実習15	人体解剖実習16
5/15	水	細胞生物学5	人体解剖学9	人体解剖学17	人体解剖実習18	
5/16	木	教養/医歯学基盤教育5		組織学8	組織学実習14	組織学実習15
5/17	金	生理学6	人体解剖学10	人体解剖実習19	人体解剖実習20	

5/20	月	生理学7	生理学8	組織学9	組織学実習16	組織学実習17
5/21	火	細胞生物学6	人体解剖学11	人体解剖実習21	人体解剖実習22	
5/22	水	生理学9	人体解剖学12	人体解剖実習23	人体解剖実習24	
5/23	木	教養/医歯学基盤教育6		組織学10	生理学10	
5/24	金	組織学実習18	組織学実習19	人体解剖学13	人体解剖実習25	人体解剖実習26

5/27	月	生理学11	生理学12	組織学11	生理学13	
5/28	火	組織学実習20	組織学実習21	人体解剖学14	人体解剖実習27	人体解剖実習28
5/29	水	細胞生物学7	人体解剖学15	人体解剖実習29	人体解剖実習30	
5/30	木	教養/医歯学基盤教育7		組織学12	組織学実習22	組織学実習23
5/31	金	生理学14	人体解剖学16	人体解剖実習31	人体解剖実習32	

6/3	月	生理学15	生理学16	組織学13	組織学実習24	組織学実習25
6/4	火	生理学17	人体解剖学17	人体解剖実習33	人体解剖実習34	
6/5	水	生理学18	人体解剖学18	人体解剖実習35	人体解剖実習36	
6/6	木	教養/医歯学基盤教育8		組織学14	組織学実習26	組織学実習27
6/7	金	生理学19	人体解剖学19	人体解剖実習37	人体解剖実習38	

6/10	月	生理学20	細胞生物学8	組織学15	組織学実習28	組織学実習29
6/11	火	細胞生物学9	人体解剖学20	人体解剖実習39	人体解剖実習40	
6/12	水	生理学21	人体解剖学21	人体解剖実習41	人体解剖実習42	
6/13	木	教養/医歯学基盤教育9		組織学16	組織学実習30	組織学実習31
6/14	金	細胞生物学10	人体解剖学22	人体解剖実習43	人体解剖実習44	

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/17	月	生理学22	細胞生物学11	組織学17	組織学実習32	組織学実習33
6/18	火	細胞生物学12	人体解剖学23	人体解剖実習45	人体解剖実習46	
6/19	水	生理学23	人体解剖学24	人体解剖実習47	人体解剖実習48	
6/20	木	教養/医歯学基盤教育10		組織学18	組織学実習34	組織学実習35
6/21	金	生理学24	人体解剖学25	人体解剖学26	人体解剖実習49	

6/24	月	頭頸部・基礎1	頭頸部・基礎2	頭頸部・基礎3	頭頸部・基礎実習1	頭頸部・基礎実習2
6/25	火	人体解剖学27	神経生理導入13	頭頸部・基礎4	頭頸部・基礎実習3	頭頸部・基礎実習4
6/26	水	頭頸部・基礎5	頭頸部・基礎6	頭頸部・基礎7	頭頸部・基礎実習5	頭頸部・基礎実習6
6/27	木	教養/医歯学基盤教育11		頭頸部・基礎8	頭頸部・基礎実習7	頭頸部・基礎実習8
6/28	金	頭頸部・基礎9	頭頸部・基礎10	頭頸部・基礎11	頭頸部・基礎実習9	頭頸部・基礎実習10

7/1	月	頭頸部・基礎12	頭頸部・基礎13	頭頸部・基礎14	頭頸部・基礎実習11	頭頸部・基礎実習12
7/2	火	人体解剖学28	神経生理導入14	頭頸部・基礎15	頭頸部・基礎実習13	頭頸部・基礎実習14
7/3	水	頭頸部・基礎16	頭頸部・基礎17	頭頸部・基礎18	頭頸部・基礎実習15	頭頸部・基礎実習16
7/4	木	教養/医歯学基盤教育12		頭頸部・基礎19	頭頸部・基礎実習17	頭頸部・基礎実習18
7/5	金	頭頸部・基礎20	頭頸部・基礎21	頭頸部・基礎22	頭頸部・基礎実習19	頭頸部・基礎実習20

7/8	月	頭頸部・基礎23	頭頸部・基礎24	頭頸部・基礎25	頭頸部・基礎実習21	頭頸部・基礎実習22
7/9	火	人体解剖学29	神経生理導入15	頭頸部・基礎26	頭頸部・基礎実習23	頭頸部・基礎実習24
7/10	水	頭頸部・基礎27	頭頸部・基礎28	頭頸部・基礎29	頭頸部・基礎実習25	頭頸部・基礎実習26
7/11	木	教養/医歯学基盤教育13		頭頸部・基礎30	頭頸部・基礎実習27	頭頸部・基礎実習28
7/12	金	頭頸部・基礎31	頭頸部・基礎32	頭頸部・基礎33	頭頸部・基礎実習29	頭頸部・基礎実習30

7/15	月	(祝)海の日				
7/16	火	組織学実習36	組織学実習37	生理学実習1	生理学実習2	生理学実習3
7/17	水	組織学実習38	組織学実習39	生理学実習4	生理学実習5	生理学実習6
7/18	木	教養/医歯学基盤教育14		生理学実習7	生理学実習8	生理学実習9
7/19	金	薬理学1	薬理学2	生理学実習10	生理学実習11	生理学実習12

7/22	月	薬理学3	薬理学4	生理学実習13	生理学実習14	生理学実習15
7/23	火	薬理学5	薬理学6	生理学実習16	生理学実習17	生理学実習18
7/24	水	薬理学7	薬理学8	生理学実習19	生理学実習20	生理学実習21
7/25	木	教養/医歯学基盤教育15		生理学実習22	生理学実習23	生理学実習24
7/26	金	薬理学9	薬理学10	生理学実習25	生理学実習26	生理学実習27

夏季休業：7月29日(月)～8月30日(金)

9/2	月	細胞生物学				
9/3	火	神経生理導入	頭頸部基礎			
9/4	水	人体構造総論				
9/5	木	人体解剖学				
9/6	金	組織学				

9/9	月	生理学				
9/10	火	薬理学11	薬理学12	薬理学実習1	薬理学実習2	薬理学実習3
9/11	水	薬理学13	薬理学14	薬理学実習4	薬理学実習5	薬理学実習6
9/12	木	薬理学15	薬理学16	薬理学実習7	薬理学実習8	薬理学実習9
9/13	金	生化学1	分子遺伝学1	薬理学実習10	薬理学実習11	薬理学実習12

9/16	月	(祝)敬老の日				
9/17	火	生化学2	分子遺伝学2	薬理学実習13	薬理学実習14	薬理学実習15
9/18	水	生化学3	分子遺伝学3	薬理学実習16	薬理学実習17	薬理学実習18
9/19	木	教養試験		薬理学実習19	薬理学実習20	薬理学実習21
9/20	金	生化学4	生化学5	薬理学実習22	薬理学実習23	薬理学実習24

9/23	月	(祝)秋分の日				
9/24	火	生化学6	分子遺伝学4	薬理学実習25	薬理学実習26	薬理学実習27
9/25	水	生化学7	分子遺伝学5	薬理学実習28	薬理学実習29	薬理学実習30
9/26	木	生化学8	分子遺伝学6	自習・補講	自習・補講	
9/27	金	生化学9	分子遺伝学7	自習・補講	自習・補講	

平成25年度授業時間割 第2学年

後期(20週) 25年9月30日(月)～26年3月7日(金)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/30	月	生化学 10	分子遺伝学 8	生化学実習 1	生化学実習 2	生化学実習 3
10/1	火	生化学 11	分子遺伝学 9	生化学実習 4	生化学実習 5	生化学実習 6
10/2	水	生化学 12	分子遺伝学 10	生化学実習 7	生化学実習 8	生化学実習 9
10/3	木	教養/医歯学基盤教育1		生化学実習 10	生化学実習 11	生化学実習 12
10/4	金	生化学 13	分子遺伝学 11	生化学実習 13	生化学実習 14	生化学実習 15

10/7	月	生化学 14	分子遺伝学 12	生化学実習 16	生化学実習 17	生化学実習 18
10/8	火	生化学 15	分子遺伝学 13	生化学実習 19	生化学実習 20	生化学実習 21
10/9	水	生化学 16	分子遺伝学 14	生化学実習 22	生化学実習 23	生化学実習 24
10/10	木	教養/医歯学基盤教育2		生化学実習 25	生化学実習 26	生化学実習 27
10/11	金	生化学 17	分子遺伝学 15	生化学実習 28	生化学実習 29	生化学実習 30

創立記念日 10月12日

10/14	月	(祝)体育の日				
10/15	火	分子遺伝学	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
10/16	水	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
10/17	木	自習・補講	解剖体追悼式(予定)			
10/18	金	薬理学	自習・補講	自習・補講	自習・補講	

お茶の水祭 10月19日(土)～10月20日(日)予定

10/21	月	臨時休業				
10/22	火	生化学	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
10/23	水	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
10/24	木	教養/医歯学基盤教育3		自習・補講	自習・補講	
10/25	金	免疫学 I 1	免疫学 I 2	神経解剖学 1	神経解剖学 2	神経解剖学実習 1

10/28	月	神経科学 1	神経科学 2	免疫学 I 3	免疫学 I 4	
10/29	火	神経科学 3	感染・基礎 1	免疫学 I 5	免疫学 I 6	
10/30	水	東洋医学 1	東洋医学 2	感染・基礎 2	感染・基礎 3	
10/31	木	教養/医歯学基盤教育4		免疫学 I 7	免疫学 I 8	
11/1	金	免疫学 I 9	免疫学 I 10	神経解剖学 3	神経解剖学 4	神経解剖学実習 2

11/4	月	文化の日振替休日				
11/5	火	免疫学 I 11	免疫学 I 12	神経科学 4	神経科学 5	
11/6	水	東洋医学 3	東洋医学 4	感染・基礎 4	神経科学 6	
11/7	木	教養/医歯学基盤教育5		感染・基礎 5	感染・基礎 6	
11/8	金	感染・基礎 7	感染・基礎 8	神経解剖学 5	神経解剖学実習 3	神経解剖学実習 4

11/11	月	免疫学 I 13	免疫学 II 1	神経科学 7	神経科学 8	
11/12	火	免疫学 II 2	免疫学 II 3	神経科学 9	感染・基礎 9	
11/13	水	東洋医学 5	東洋医学 6	感染・基礎 10	感染・基礎 11	
11/14	木	教養/医歯学基盤教育6		神経科学 10	神経科学 11	
11/15	金	免疫学 II 4	免疫学 II 5	神経解剖学 6	神経解剖学 7	神経解剖学実習 5

11/18	月	感染・基礎 12	感染・基礎 13	神経解剖学 8	神経解剖学 9	神経解剖学実習 6
11/19	火	免疫学 II 6	免疫学 II 7	神経科学 12	神経科学 13	
11/20	水	東洋医学 7	東洋医学 8	神経科学 14	神経科学 15	
11/21	木	教養/医歯学基盤教育7		感染・基礎 14	感染・基礎 15	
11/22	金	免疫学 II 8	免疫学 II 9	神経解剖学 10	神経解剖学実習 7	神経解剖学実習 8

11/25	月	免疫学 II 10	免疫学 II 11	神経解剖学 11	神経解剖学 12	神経解剖学実習 9
11/26	火	感染・基礎 16	感染・基礎 17	神経科学 16	神経科学 17	
11/27	水	感染・基礎 18	感染・基礎 19	神経科学 18	免疫学 II 12	
11/28	木	教養/医歯学基盤教育8		神経解剖学実習10	神経解剖学実習11	神経解剖学実習12
11/29	金	感染・基礎 20	感染・基礎 21	神経解剖学 13	神経解剖学 14	神経解剖学実習13

12/2	月	病理学総論ブロック					
12/3	火						
12/4	水						
12/5	木						教養/医歯学基盤教育9
12/6	金						

12/9	月	医動物学 1	医動物学 2	神経解剖学 15	神経解剖学 16	神経解剖学実習14
12/10	火	神経科学 19	神経科学 20	医動物学 3	医動物学 4	
12/11	水	神経科学 21	神経科学 22	医動物学 5	医動物学 6	
12/12	木	教養/医歯学基盤教育10		神経科学 23	神経科学 24	
12/13	金	医動物学 7	医動物学 8	神経解剖学 17	神経解剖学 18	神経解剖学 19

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/16	月	医動物学 9	医動物学 10	自習・補講	自習・補講	
12/17	火	神経科学 25	神経科学 26	自習・補講	自習・補講	
12/18	水	神経科学 27	神経科学 28	自習・補講	自習・補講	
12/19	木	教養/医歯学基盤教育11		自習・補講	自習・補講	
12/20	金	神経科学 29	神経科学 30	自習・補講	自習・補講	

冬季休業: 12月24日(火)～1月3日(金)

1/6	月	自習・補講	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
1/7	火	免疫学 I				
1/8	水	免疫学 II				
1/9	木	病理学				
1/10	金	自習・補講	医動物学 11	神経解剖学 20	神経解剖学 21	神経解剖学実習15

1/13	月	(祝)成人の日				
1/14	火	医動物学 12	医動物学 13	ご遺骨返還式(予定)		
1/15	水	神経科学 31	神経科学 32	医動物学実習 1	医動物学実習 2	医動物学実習 3
1/16	木	教養/医歯学基盤教育12		医動物学実習 4	医動物学実習 5	医動物学実習 6
1/17	金	東洋医学	医動物学 14	神経解剖学 22	神経解剖学 23	神経解剖学実習16

1/20	月	医動物学 15	医動物学 16	神経解剖学 24	神経解剖学 25	神経解剖学実習17
1/21	火	神経科学 33	神経科学 34	自習・補講	自習・補講	
1/22	水	神経解剖学 26	神経解剖学 27	医動物学実習 7	医動物学実習 8	医動物学実習 9
1/23	木	教養/医歯学基盤教育13		医動物学実習 10	医動物学実習 11	医動物学実習 12
1/24	金	自習・補講	自習・補講	神経解剖学 28	神経解剖学 29	神経解剖学実習18

1/27	月	自習・補講	自習・補講	感染・基礎実習 1	感染・基礎実習 2	感染・基礎実習 3
1/28	火	神経科学 35	神経科学 36	感染・基礎実習 4	感染・基礎実習 5	感染・基礎実習 6
1/29	水	自習・補講	神経科学 37	感染・基礎実習 7	感染・基礎実習 8	感染・基礎実習 9
1/30	木	教養/医歯学基盤教育14		感染・基礎実習 10	感染・基礎実習 11	感染・基礎実習 12
1/31	金	自習・補講	自習・補講	感染・基礎実習 13	感染・基礎実習 14	感染・基礎実習 15

2/3	月	自習・補講	医動物学 17	感染・基礎実習 16	感染・基礎実習 17	感染・基礎実習 18
2/4	火	自習・補講	神経科学 38	感染・基礎実習 19	感染・基礎実習 20	感染・基礎実習 21
2/5	水	自習・補講	神経科学 39	感染・基礎実習 22	感染・基礎実習 23	感染・基礎実習 24
2/6	木	教養/医歯学基盤教育15		感染・基礎実習 25	感染・基礎実習 26	感染・基礎実習 27
2/7	金	自習・補講	神経科学 40	感染・基礎実習 28	感染・基礎実習 29	感染・基礎実習 30

2/10	月	神経解剖学	自習・補講	医動物学実習 13	医動物学実習 14	医動物学実習 15
2/11	火	(祝)建国記念の日				
2/12	水	自習・補講	自習・補講	医動物学実習 16	医動物学実習 17	医動物学実習 18
2/13	木	教養試験		医動物学実習 19	医動物学実習 20	医動物学実習 21
2/14	金	自習・補講	自習・補講	医動物学実習 試	医動物学実習 試	医動物学実習 試

2/17	月	医動物学	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/18	火	感染・基礎	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/19	水	神経科学(生理)	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/20	木	神経科学(薬理)	自習・補講	自習・補講	自習・補講	
2/21	金					

2/24	月	再試験期間				
2/25	火					
2/26	水					
2/27	木					
2/28	金					

3/3	月	再試験期間					
3/4	火						
3/5	水						
3/6	木						教養再試験
3/7	金						

臨時休業 26.3月下旬～【予定】

進級判定教育委員会 26.3月中旬【予定】

進級判定教授会 26.3下旬【予定】

平成25年度授業時間割 第3学年

前期(21週)2013年(平成25年)4月8日(月)～9月27日(金)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/1	月					
4/2	火					
4/3	水					
4/4	木					
4/5	金					

4/8	月	腫瘍学ブロック				
4/9	火					
4/10	水					
4/11	木					
4/12	金					

4/15	月	法医学 1	衛生学 1	法医学 2	法医学 3	
4/16	火	社会医学 1	社会医学 2	法医学 4	法医学 5	
4/17	水	法医学 6	法医学 7	社会医学 3	社会医学 4	
4/18	木	教養/医歯学基盤教育1		法医学 8	法医学 9	
4/19	金	社会医学 5	社会医学 6			

4/22	月	法医学 10	衛生学 2	法医学 11	法医学 12	
4/23	火	社会医学 7	社会医学 8	法医学 13	法医学 14	
4/24	水	公衆衛生学 1	公衆衛生学 2	社会医学 9	社会医学 10	
4/25	木	教養/医歯学基盤教育2		法医学 15	法医学 16	
4/26	金	社会医学 11	社会医学 12	衛生学 3	衛生学 4	

4/29	月	(祝)昭和の日				
4/30	火	衛生学 5	衛生学 6	法医学実習 1	法医学実習 2	法医学実習 3
5/1	水	公衆衛生学 3	公衆衛生学 4	法医学実習 4	法医学実習 5	法医学実習 6
5/2	木	教養/医歯学基盤教育3		法医学実習 7	法医学実習 8	法医学実習 9
5/3	金	(祝)憲法記念日				

5/6	月	子どもの日振替休日				
5/7	火	社会医学 13	社会医学 14	衛生学 7	衛生学 8	
5/8	水	社会医学 15	社会医学 16	衛生学 9	衛生学 10	
5/9	木	教養/医歯学基盤教育4		衛生学 11	衛生学 12	
5/10	金	公衆衛生学 5	公衆衛生学 6	社会医学 17	自習・補講	

5/13	月	公衆衛生学 7	公衆衛生学 8	衛生学実習 1	衛生学実習 2	衛生学実習 3
5/14	火	公衆衛生学 9	公衆衛生学 10	衛生学実習 4	衛生学実習 5	衛生学実習 6
5/15	水	公衆衛生学 11	公衆衛生学 12	衛生学実習 7	衛生学実習 8	衛生学実習 9
5/16	木	教養/医歯学基盤教育5		衛生学実習 10	衛生学実習 11	衛生学実習 12
5/17	金	公衆衛生学 13	公衆衛生学 14	衛生学実習 13	衛生学実習 14	衛生学実習 15

5/20	月	腫瘍学				
5/21	火	衛生学				
5/22	水	法医学	社会医学			
5/23	木	教養/医歯学基盤教育6				
5/24	金	公衆衛生学				

5/27	月	臨床医学導入ブロック				
5/28	火					
5/29	水					
5/30	木					
5/31	金					

6/3	月	循環器ブロック(1週目)					
6/4	火						
6/5	水						
6/6	木						教養/医歯学基盤教育8
6/7	金						

6/10	月	循環器ブロック(2週目)					
6/11	火						
6/12	水						
6/13	木						教養/医歯学基盤教育9
6/14	金						

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/17	月	循環器ブロック(3週目)				
6/18	火					
6/19	水					
6/20	木					
6/21	金					

6/24	月	呼吸器ブロック(1週目)					
6/25	火						
6/26	水						
6/27	木						教養/医歯学基盤教育11
6/28	金						

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10	
7/1	月	呼吸器ブロック(2週目)					
7/2	火						
7/3	水						
7/4	木						教養/医歯学基盤教育12
7/5	金						

7/8	月	消化器ブロック(1週目)					
7/9	火						
7/10	水						
7/11	木						教養/医歯学基盤教育13
7/12	金						

7/15	月	(祝)海の日					
7/16	火	消化器ブロック(2週目)					
7/17	水						
7/18	木						教養/医歯学基盤教育14
7/19	金						

7/22	月	消化器ブロック(3週目)					
7/23	火						
7/24	水						
7/25	木						教養/医歯学基盤教育15
7/26	金						
7/27	土						

夏季休業：7月29日(月)～8月30日(金)

9/2	月	体液制御・泌尿器ブロック(1週目)				
9/3	火					
9/4	水					
9/5	木					
9/6	金					

9/9	月	体液制御・泌尿器ブロック(2週目)						
9/10	火							
9/11	水							
9/12	木						東洋医学 11	東洋医学 12
9/13	金							

9/16	月	(祝)敬老の日						
9/17	火	体液制御・泌尿器ブロック(3週目)						
9/18	水							
9/19	木						医歯学基盤教育2	東洋医学
9/20	金							

注：9/19 9:00～10:50医歯学基盤教育、11:00～11:50東洋医学試験

9/23	月	(祝)秋分の日					
9/24	火	内分泌・代謝ブロック(1週目)					
9/25	水						
9/26	木						医歯学基盤教育3
9/27	金						

平成25年度授業時間割 第3学年

後期(20週) 25年9月30日(月)～26年3月7日(金)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/30	月	内分泌・代謝ブロック(2週目)				
10/1	火					
10/2	水					
10/3	木					
10/4	金					

10/7	月	血液・腫瘍ブロック(1週目)				
10/8	火					
10/9	水					
10/10	木					
10/11	金					

創立記念日 10月12日

10/14	月	(祝)体育の日					
10/15	火	血液・腫瘍ブロック(2週目)					
10/16	水						
10/17	木						教養/医歯学基盤教育3
10/18	金						

お茶の水祭 10月19日(土)～10月20日(日)予定

10/21	月	臨時休業					
10/22	火	一般外科ブロック					
10/23	水						
10/24	木						医歯学基盤教育4
10/25	金						

10/28	月	神経科学(臨床)ブロック(1週目)				
10/29	火					
10/30	水					
10/31	木					
11/1	金					

11/4	月	文化の日振替休日					
11/5	火	神経科学(臨床)ブロック(2週目)					
11/6	水						
11/7	木						教養/医歯学基盤教育5
11/8	金						

11/11	月	神経科学(臨床)ブロック(3週目)				
11/12	火					
11/13	水					
11/14	木					
11/15	金					

11/18	月	神経科学(臨床)ブロック(4週目)				
11/19	火					
11/20	水					
11/21	木					
11/22	金					

11/25	月	骨・関節・脊椎ブロック(1週目)				
11/26	火					
11/27	水					
11/28	木					
11/29	金					

12/2	月	骨・関節・脊椎ブロック(2週目)				
12/3	火					
12/4	水					
12/5	木					
12/6	金					

12/9	月	皮膚・アレルギー・膠原病ブロック(1週目)				
12/10	火					
12/11	水					
12/12	木					
12/13	金					

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/16	月	皮膚・アレルギー・膠原病ブロック(2週目)				
12/17	火					
12/18	水					
12/19	木					
12/20	金					

冬季休業: 12月24日(火)～1月3日(金)

1/6	月	感染・臨床ブロック				
1/7	火					
1/8	水					
1/9	木					
1/10	金					

1/13	月	(祝)成人の日					
1/14	火	頭頸部・臨床(医歯学融合)ブロック(1週目)					
1/15	水						
1/16	木						教養/医歯学基盤教育12
1/17	金						

1/20	月	頭頸部・臨床(医歯学融合)ブロック(2週目)				
1/21	火					
1/22	水					
1/23	木					
1/24	金					

1/27	月	頭頸部・臨床(医歯学融合)ブロック(3週目)				
1/28	火					
1/29	水					
1/30	木					
1/31	金					

2/3	月	頭頸部・臨床(医歯学融合)ブロック(4週目)				
2/4	火					
2/5	水					
2/6	木					
2/7	金					

2/10	月	老年医学(医歯学融合)ブロック(1週目)					
2/11	火	(祝)建国記念の日					
2/12	水	老年医学(医歯学融合)ブロック(1週目)					
2/13	木						医歯学基盤教育6
2/14	金						

2/17	月	老年医学(医歯学融合)ブロック(2週目)				
2/18	火					
2/19	水					
2/20	木					
2/21	金	プロジェクトセメスターオリエンテーション				

2/24	月	再試験期間/Pilot Week(仮称)				
2/25	火					
2/26	水					
2/27	木					
2/28	金					

3/3	月	再試験期間				
3/4	火					
3/5	水					
3/6	木					
3/7	金					

臨時休業 26.3月下旬～【予定】

進級判定教育委員会 26.3月中旬【予定】

進級判定教授会 26.3下旬【予定】

平成25年度授業時間割 第4学年

前期(21週)2013年(平成25年) 4月1日(月)～9月27日(金)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
4/1	月	消化器ブロック(上部消化管)				
4/2	火					
4/3	水					
4/4	木					
4/5	金					

4/8	月	消化器ブロック(下部消化管)				
4/9	火					
4/10	水					
4/11	木					
4/12	金					

4/15	月	消化器ブロック(肝胆膵)				
4/16	火					
4/17	水					
4/18	木					
4/19	金					

4/22	月	臨床検査医学1	神・臨床神経1	産科・婦人科学1	公衆衛生学1	神・臨床神経2
4/23	火	産科・婦人科学2	神・臨床神経3	眼科学1	公衆衛生学2	神・臨床神経4
4/24	水	外科学1	臨床検査医学2	皮膚科学1	眼科学2	医学英語Ⅱ20
4/25	木	産科・婦人科学3	臨床検査医学3	血液1	自習・補講	
4/26	金	外科学2	皮膚科学2	眼科学3	公衆衛生学3	

4/29	月	(祝)昭和の日				
4/30	火	産科・婦人科学4	神経精神医学1	病理学実習1	病理学実習2	病理学実習3
5/1	水	外科学3	神経精神医学2	公衆衛生学4	皮膚科学3	
5/2	木	外科学4	公衆衛生学5	眼科学4	神・臨床神経5	血液2
5/3	金	(祝)憲法記念日				

5/6	月	子どもの日振替休日				
5/7	火	産科・婦人科学5	臨床検査医学4	公衆衛生学6	産科・婦人科学6	
5/8	水	外科学5	臨床検査医学5	公衆衛生学7	神・臨床神経6	
5/9	木	産科・婦人科学7	自習・補講	神・臨床神経7	神・臨床神経8	
5/10	金	外科学6	眼科学5	産科・婦人科学8	医学英語Ⅱ21	血液3

5/13	月	消化器試験	皮膚科学4	病理学実習4	病理学実習5	病理学実習6
5/14	火	神経精神医学3	眼科学6	整形外科1	皮膚科学5	
5/15	水	外科学7	眼科学7	病理学実習7	病理学実習8	病理学実習9
5/16	木	産科・婦人科学9	血液4	神・臨床神経9	神・臨床神経10	
5/17	金	外科学8	整形外科2	神経精神医学4	神経精神医学5	血液5

5/20	月	臨床検査医学試験	皮膚科学6	神・臨床神経11	神・臨床神経12	
5/21	火	産科・婦人科学10	眼科学8	皮膚科学7	神・臨床神経13	医学英語Ⅱ22
5/22	水	外科学9	眼科学9	病理学実習10	病理学実習11	病理学実習12
5/23	木	産科・婦人科学11	血液6	病理学実習13	病理学実習14	病理学実習15
5/24	金	外科学10	皮膚科学8	神・臨床神経14	血液7	

5/27	月	外科学11	整形外科3	病理学実習16	病理学実習17	病理学実習18
5/28	火	産科・婦人科学12	眼科学10	整形外科4	整形外科5	
5/29	水	外科学12	眼科学11	病理学実習19	病理学実習20	病理学実習21
5/30	木	産科・婦人科学13	血液8	神経精神医学6	神経精神医学7	
5/31	金	外科学13	外科学14	眼科学12	医学英語Ⅱ23	血液9

6/3	月	公衆衛生学実習1	公衆衛生学実習2	公衆衛生学実習3	公衆衛生学実習4	公衆衛生学実習5
6/4	火	公衆衛生学実習6	公衆衛生学実習7	公衆衛生学実習8	公衆衛生学実習9	公衆衛生学実習10
6/5	水	公衆衛生学実習11	公衆衛生学実習12	公衆衛生学実習13	公衆衛生学実習14	公衆衛生学実習15
6/6	木	公衆衛生学実習16	公衆衛生学実習17	公衆衛生学実習18	公衆衛生学実習19	公衆衛生学実習20
6/7	金	公衆衛生学実習21	公衆衛生学実習22	公衆衛生学実習23	公衆衛生学実習24	公衆衛生学実習25

6/10	月	公衆衛生学試験	眼科学13	神経精神医学8	神経精神医学9	
6/11	火	産科・婦人科学14	眼科学14	皮膚科学9	整形外科6	医学英語Ⅱ24
6/12	水	皮膚科学10	整形外科7	神経精神医学10	神経精神医学11	
6/13	木	産科・婦人科学15	血液10	神・臨床神経15	神・臨床神経16	
6/14	金	皮膚科学11	耳鼻咽喉科学1	神・臨床神経17	血液11	

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
6/17	月	外科学試験	耳鼻咽喉科学2	放射線医学1	放射線医学2	
6/18	火	産科・婦人科学16	心療・ターミナル医学1	病理学実習22	病理学実習23	病理学実習24
6/19	水	泌尿器科学1	整形外科8	病理学実習25	病理学実習26	病理学実習27
6/20	木	整形外科9	血液12	心療・ターミナル医学2	皮膚科学12	
6/21	金	神・臨床神経18	神・臨床神経19	神経精神医学12	医学英語Ⅱ25	血液13

6/24	月	眼科学試験	泌尿器科学2	血液14	血液15	
6/25	火	整形外科10	皮膚科学13	病理学実習28	病理学実習29	病理学実習30
6/26	水	病理学実習31	病理学実習32	病理学実習33	病理学実習34	病理学実習35
6/27	木	放射線医学3	放射線医学4	神・臨床神経20	皮膚科学14	
6/28	金	整形外科11	泌尿器科学3	神・臨床神経21	OSCE打合せ	
6/29	土	OSCE				
7/1	月	耳鼻咽喉科学3	心療・ターミナル医学3	麻酔・蘇生学1	皮膚科学15	
7/2	火	整形外科12	血液16	病理学実習36	病理学実習37	病理学実習38
7/3	水	泌尿器科学4	皮膚科学16	自習・補講	神経精神医学13	
7/4	木	耳鼻咽喉科学4	整形外科13	放射線医学5	放射線医学6	
7/5	金	放射線医学7	放射線医学8	泌尿器科学5	自習・補講	

7/8	月	産科・婦人科学試験	心療・ターミナル医学4	神・臨床神経22	整形外科14	
7/9	火	形成外科学1	神経精神医学14	泌尿器科学6	耳鼻咽喉科学5	医学英語Ⅱ26
7/10	水	形成外科学2	神経精神医学15	救急医学1	泌尿器科学7	血液17
7/11	木	整形外科15	放射線医学9	耳鼻咽喉科学6	耳鼻咽喉科学7	
7/12	金	放射線医学10	形成外科学3	整形外科16	自習・補講	

7/15	月	(祝)海の日				
7/16	火	血液試験	神・臨床神経23	形成外科学4	救急医学2	医学英語Ⅱ27
7/17	水	麻酔・蘇生学2	神・臨床神経24	心療・ターミナル医学5	泌尿器科学8	
7/18	木	皮膚科学試験	放射線医学11	耳鼻咽喉科学8	耳鼻咽喉科学9	
7/19	金	放射線医学12	耳鼻咽喉科学10	泌尿器科学9	自習・補講	

7/22	月	精神・心療試験	神・臨床神経25	麻酔・蘇生学3	救急医学3	
7/23	火	泌尿器科学10	麻酔・蘇生学4	神・臨床神経26	形成外科学5	
7/24	水	整形外科17	整形外科18	耳鼻咽喉科学11	神・臨床神経27	
7/25	木	形成外科学6	耳鼻咽喉科学12	泌尿器科学11	泌尿器科学12	
7/26	金	麻酔・蘇生学5	救急医学4	泌尿器科学13	自習・補講	

夏季休業：7月29日(月)～8月30日(金)

9/2	月	放射線医学試験	頭頸部外科学1	神・臨床神経28	麻酔・蘇生学6	
9/3	火	救急医学5	救急医学6	麻酔・蘇生学7	神・臨床神経29	
9/4	水	整形外科19	口腔外科学1	頭頸部外科学2	神・臨床神経30	
9/5	木	口腔外科学2	形成外科学7	頭頸部外科学3	老年病学1	
9/6	金	口腔外科学3	麻酔・蘇生学8	救急医学7	老年病学2	

9/9	月	整形外科科学試験	麻酔・蘇生学9	救急医学8	形成外科学8	
9/10	火	神・臨床神経31	麻酔・蘇生学10	神・臨床神経32	老年病学3	
9/11	水	口腔外科学4	神・臨床神経33	頭頸部外科学4	神・臨床神経34	
9/12	木	口腔外科学5	神・臨床神経35	頭頸部外科学5	老年病学4	
9/13	金	泌尿器科学試験	口腔外科学6	頭頸部外科学6	頭頸部外科学7	

9/16	月	(祝)敬老の日				
9/17	火	麻酔・蘇生学試験	老年病学5	神・臨床神経36		
9/18	水	救急医学9	救急医学10	口腔外科学7		
9/19	木	頭頸部外科学8	救急医学11	老年病学6		
9/20	金	形成外科学試験				

9/23	月	(祝)秋分の日				
9/24	火	耳鼻・頭頸部外科学試験				
9/25	水					
9/26	木	口腔外科学試験				
9/27	金	救急医学試験	フロントセミナー特別編(9/27)			

平成25年度授業時間割 第4学年

後期(20週) 25年9月30日(月)～26年3月7日(金)

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
9/30	月	神・神経内科試験				
10/1	火					
10/2	水	神・脳外科試験				
10/3	木	医学英語Ⅱ試験				
10/4	金	老年病学試験				

10/7	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
10/8	火	
10/9	水	
10/10	木	
10/11	金	

創立記念日 10月12日

10/14	月	(祝)体育の日
10/15	火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
10/16	水	
10/17	木	
10/18	金	

お茶の水祭 10月19日(土)～10月20日(日)予定

10/21	月	臨時休業
10/22	火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
10/23	水	
10/24	木	
10/25	金	

10/28	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
10/29	火	
10/30	水	
10/31	木	
11/1	金	

11/4	月	文化の日振替休日
11/5	火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
11/6	水	
11/7	木	
11/8	金	

11/11	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
11/12	火	
11/13	水	
11/14	木	
11/15	金	

11/18	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
11/19	火	
11/20	水	
11/21	木	
11/22	金	

11/25	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
11/26	火	
11/27	水	
11/28	木	
11/29	金	
11/30	土	CSA(クリニカル・スキルス・アセスメント)
12/2	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
12/3	火	
12/4	水	
12/5	木	
12/6	金	

12/9	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
12/10	火	
12/11	水	
12/12	木	
12/13	金	

日付		9:00～10:20	10:30～11:50	12:50～14:10	14:20～15:40	15:50～17:10
12/16	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)				
12/17	火					
12/18	水					
12/19	木					
12/20	金					

冬季休業: 12月24日(火)～1月3日(金)

1/6	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
1/7	火	
1/8	水	
1/9	木	
1/10	金	

1/13	月	(祝)成人の日
1/14	火	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
1/15	水	
1/16	木	
1/17	金	

1/20	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
1/21	火	
1/22	水	
1/23	木	
1/24	金	

1/27	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
1/28	火	
1/29	水	
1/30	木	
1/31	金	

2/3	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
2/4	火	
2/5	水	
2/6	木	
2/7	金	

2/10	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
2/11	火	(祝)建国記念の日
2/12	水	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
2/13	木	
2/14	金	

2/17	月	自由選択学習(プロジェクトセメスター)
2/18	火	
2/19	水	
2/20	木	
2/21	金	
自由選択学習(プロジェクトセメスター)成果発表会		
2/22(土)～23(日)合宿研修		
2/24	月	再試験期間
2/25	火	
2/26	水	
2/27	木	
2/28	金	

3/3	月	再試験期間
3/4	火	
3/5	水	
3/6	木	
3/7	金	

臨時休業 26.3月下旬～【予定】

進級判定教育委員会 26.3月中旬【予定】

進級判定教授会 26.3下旬【予定】

平成25年度授業時間割 第5学年

前期(22週) 25. 4. 1(月)~24. 9. 27(金)

日付		9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40	15:50~17:10
4/1	月	Pre Clinical Clerkship (総論) 1 W				
4/2	火					
4/3	水					
4/4	木					
4/5	金					

4/8	月	Pre Clinical Clerkship 2 W				
4/9	火					
4/10	水					
4/11	木					
4/12	金					

4/15	月	Pre Clinical Clerkship 3 W				
4/16	火					
4/17	水					
4/18	木					
4/19	金					

4/22	月	Pre Clinical Clerkship 4 W				
4/23	火					
4/24	水					
4/25	木					
4/26	金					

4/29	月	(祝) 昭和の日				
4/30	火	Pre Clinical Clerkship 5 W				
5/1	水					
5/2	木					
5/3	金	(祝) 憲法記念日				

5/6	月	子どもの日振替休日				
5/7	火	Pre Clinical Clerkship 6 W				
5/8	水					
5/9	木					
5/10	金					

5/13	月	Pre Clinical Clerkship 7 W				
5/14	火					
5/15	水					
5/16	木					
5/17	金					

5/20	月	Pre Clinical Clerkship 8 W				
5/21	火					
5/22	水					
5/23	木					
5/24	金					

5/27	月	Pre Clinical Clerkship 9 W				
5/28	火					
5/29	水					
5/30	木					
5/31	金					

6/3	月	Pre Clinical Clerkship 10 W				
6/4	火					
6/5	水					
6/6	木					
6/7	金					

6/10	月	Pre Clinical Clerkship 11 W				
6/11	火					
6/12	水					
6/13	木					
6/14	金					

日付		9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40	15:50~17:10
6/17	月	Pre Clinical Clerkship 12 W				
6/18	火					
6/19	水					
6/20	木					
6/21	金					

6/24	月	共用試験 C B T				
6/25	火	Pre Clinical Clerkship (総論) 13 W				
6/26	水					
6/27	木					
6/28	金					

6/29 (土)	共用試験 O S C E					
7/1	月	Clinical Clerkship 第1クール 1 W				
7/2	火					
7/3	水					
7/4	木					
7/5	金					

7/8	月	Clinical Clerkship 第1クール 2 W				
7/9	火					
7/10	水					
7/11	木					
7/12	金					

7/15	月	(祝) 海の日				
7/16	火	Clinical Clerkship 第1クール 3 W				
7/17	水					
7/18	木					
7/19	金					

7/22	月	Clinical Clerkship 第1クール 4 W				
7/23	火					
7/24	水					
7/25	木					
7/26	金					

夏季休業 7.29(月)~8.23(金)						
8/26	月	Clinical Clerkship 第2クール 1 W				
8/27	火					
8/28	水					
8/29	木					
8/30	金					

9/2	月	Clinical Clerkship 第2クール 2 W				
9/3	火					
9/4	水					
9/5	木					
9/6	金					

9/9	月	Clinical Clerkship 第2クール 3 W				
9/10	火					
9/11	水					
9/12	木					
9/13	金					

9/16	月	(祝) 敬老の日				
9/17	火	Clinical Clerkship 第2クール 4 W				
9/18	水					
9/19	木					
9/20	金					

9/23	月	(祝) 秋分の日				
9/24	火	Clinical Clerkship 第3クール 1 W				
9/25	水					
9/26	木					
9/27	金					

Clinical Clerkshipの日程は変更する可能性あり

平成25年度授業時間割 第5学年

後期(26週) 24.9.30(月)~25.3.28(金)

日付	9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40	15:50~17:10
9/30	月	Clinical Clerkship 第3クール 2W			
10/1	火				
10/2	水				
10/3	木				
10/4	金				

10/7	月	Clinical Clerkship 第3クール 3W			
10/8	火				
10/9	水				
10/10	木				
10/11	金				

創立記念日 10月12日

10/14	月	(祝)体育の日			
10/15	火	Clinical Clerkship 第3クール 4W			
10/16	水				
10/17	木				
10/18	金				

お茶の水祭 10月19日(土)~10月20日(日)予定

10/21	月	臨時休業			
10/22	火	Clinical Clerkship 第4クール 1W			
10/23	水				
10/24	木				
10/25	金				

10/28	月	Clinical Clerkship 第4クール 2W			
10/29	火				
10/30	水				
10/31	木				
11/1	金				

11/4	月	(祝)文化の日振替休日			
11/5	火	Clinical Clerkship 第4クール 3W			
11/6	水				
11/7	木				
11/8	金				

11/11	月	Clinical Clerkship 第4クール 4W			
11/12	火				
11/13	水				
11/14	木				
11/15	金				

11/18	月	Clinical Clerkship 第5クール 1W			
11/19	火				
11/20	水				
11/21	木				
11/22	金				

11/25	月	Clinical Clerkship 第5クール 2W			
11/26	火				
11/27	水				
11/28	木				
11/29	金				

12/2	月	Clinical Clerkship 第5クール 3W			
12/3	火				
12/4	水				
12/5	木				
12/6	金				

12/9	月	Clinical Clerkship 第5クール 4W			
12/10	火				
12/11	水				
12/12	木				
12/13	金				

12/16	月	Clinical Clerkship 総論			
12/17	火				
12/18	水				
12/19	木				
12/20	金				

冬季休業: 12月24日(火)~1月3日(金)

日付	9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40	15:50~17:10
1/6	月	Clinical Clerkship 第6クール 1W			
1/7	火				
1/8	水				
1/9	木				
1/10	金				

1/13	月	(祝)成人の日			
1/14	火	Clinical Clerkship 第6クール 2W			
1/15	水				
1/16	木				
1/17	金				

1/20	月	Clinical Clerkship 第6クール 3W			
1/21	火				
1/22	水				
1/23	木				
1/24	金				

1/27	月	Clinical Clerkship 第6クール 4W			
1/28	火				
1/29	水				
1/30	木				
1/31	金				

2/3	月	Clinical Clerkship 第7クール 1W			
2/4	火				
2/5	水				
2/6	木				
2/7	金				

2/10	月	Clinical Clerkship第6クール 4W			
2/11	火	(祝)建国記念の日			
2/12	水	Clinical Clerkship 第7クール 2W			
2/13	木				
2/14	金				

2/17	月	Clinical Clerkship 第7クール 3W			
2/18	火				
2/19	水				
2/20	木				
2/21	金				

2/24	月	Clinical Clerkship 第7クール 4W			
2/25	火				
2/26	水				
2/27	木				
2/28	金				

3/3	月	Clinical Clerkship 第8クール 1W			
3/4	火				
3/5	水				
3/6	木				
3/7	金				

3/10	月	Clinical Clerkship 第8クール 2W			
3/11	火				
3/12	水				
3/13	木				
3/14	金				

3/17	月	Clinical Clerkship 第8クール 3W			
3/18	火				
3/19	水				
3/20	木				
3/21	金				

3/24	月	Clinical Clerkship 第8クール 4W			
3/25	火				
3/26	水				
3/27	木				
3/28	金				

平成25年度授業時間割 第6学年

前期(22週) 25.4.1(月)~24.9.27(金)

日付	9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40	15:50~17:10
4/1 月	Clinical Clerkship 第10クール 1W				
4/2 火					
4/3 水					
4/4 木					
4/5 金					

4/8 月	Clinical Clerkship 第10クール 2W				
4/9 火					
4/10 水					
4/11 木					
4/12 金					

4/15 月	Clinical Clerkship 第10クール 3W				
4/16 火					
4/17 水					
4/18 木					
4/19 金					

4/22 月	Clinical Clerkship 第10クール 4W				
4/23 火					
4/24 水					
4/25 木					
4/26 金					

4/29 月	(祝) 昭和の日				
4/30 火	包括医療統合教育セッション				
5/1 水					
5/2 木					
5/3 金	(祝) 憲法記念日				

5/6 月	(祝) 子どもの日振替休日				
5/7 火	Clinical Clerkship 第11クール 1W				
5/8 水					
5/9 木					
5/10 金					

5/13 月	Clinical Clerkship 第11クール 2W				
5/14 火					
5/15 水					
5/16 木					
5/17 金					

5/20 月	Clinical Clerkship 第11クール 3W				
5/21 火					
5/22 水					
5/23 木					
5/24 金					

5/27 月	Clinical Clerkship 第11クール 4W				
5/28 火					
5/29 水					
5/30 木					
5/31 金					

6/3 月	Clinical Clerkship 第12クール 1W				
6/4 火					
6/5 水					
6/6 木					
6/7 金					

6/10 月	Clinical Clerkship 第12クール 2W				
6/11 火					
6/12 水					
6/13 木					
6/14 金					

日付	9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40	15:50~17:10
6/17 月	Clinical Clerkship 第12クール 3W				
6/18 火					
6/19 水					
6/20 木					
6/21 金					

6/24 月	Clinical Clerkship 第12クール 4W				
6/25 火					
6/26 水					
6/27 木					
6/28 金					

7/1 月	Clinical Clerkship 第13クール 1W				
7/2 火					
7/3 水					
7/4 木					
7/5 金					

7/8 月	Clinical Clerkship 第13クール 2W				
7/9 火					
7/10 水					
7/11 木					
7/12 金					

7/15 月	(祝) 海の日				
7/16 火	Clinical Clerkship 第13クール 3W				
7/17 水					
7/18 木					
7/19 金					

7/22 月	Clinical Clerkship 第13クール 4W				
7/23 火					
7/24 水					
7/25 木					
7/26 金					
7/27 土					

夏季休業 7.28(月)~8.23(金)

8/26 月	Clinical Clerkship 第15クール 1W				
8/27 火					
8/28 水					
8/29 木					
8/30 金					
8/31 土					

9/2 月	Clinical Clerkship 第15クール 2W				
9/3 火					
9/4 水					
9/5 木					
9/6 金					
9/7 土					

9/9 月	Clinical Clerkship 第15クール 3W				
9/10 火					
9/11 水					
9/12 木					
9/13 金					
9/14 土					

9/16 月	(祝) 敬老の日				
9/17 火	Clinical Clerkship 第15クール 4W				
9/18 水					
9/19 木					
9/20 金					

9/23 月	(祝) 秋分の日				
9/24 火	臨時休業				
9/25 水					
9/26 木					
9/27 金					

Clinical Clerkshipの日程は変更する可能性あり

平成25年度授業時間割 第6学年

後期(26週) 25. 9. 30(月)~26. 3. 28(金)

日付	9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40	15:50~17:10
9/30	月	臨時休業			
10/1	火				
10/2	水				
10/3	木				
10/4	金				

10/7	月	(祝) 体育の日			
10/8	火	卒業試験 1W			
10/9	水				
10/10	木				
10/11	金				

創立記念日 10月12日

10/14	月	(祝) 体育の日			
10/15	火	卒業試験 2W			
10/16	水				
10/17	木				
10/18	金				

10/21	月	卒業試験 3W			
10/22	火				
10/23	水				
10/24	木				
10/25	金				

10/28	月	卒業試験 4W			
10/29	火				
10/30	水				
10/31	木				
11/1	金				

11/4	月	文化の日振替休日			
11/5	火	卒業試験 5W			
11/6	水				
11/7	木				
11/8	金				

11/11	月	卒業試験 6W			
11/12	火				
11/13	水				
11/14	木				
11/15	金				

11/18	月	卒業再試験 1W			
11/19	火				
11/20	水				
11/21	木				
11/22	金				

11/25	月	卒業再試験 2W			
11/26	火				
11/27	水				
11/28	木				
11/29	金				

11/30(土) CSA(クリニカル・スキルス・アセスメント)

12/2	月	卒業再試験 3W			
12/3	火				
12/4	水				
12/5	木				
12/6	金				

12/9	月	卒業再試験 4W			
12/10	火				
12/11	水				
12/12	木				
12/13	金				

12/14(土) CSA(クリニカル・スキルス・アセスメント)再試験

12/16	月	卒業再試験 5W			
12/17	火				
12/18	水				
12/19	木				
12/20	金				

冬季休業: 12月24日(火)~1月3日(金)

日付	9:00~10:20	10:30~11:50	12:50~14:10	14:20~15:40	15:50~17:10
1/6	月	臨時休業			
1/7	火				
1/8	水				
1/9	木				
1/10	金				

1/13	月	(祝) 成人の日			
1/14	火	臨時休業			
1/15	水				
1/16	木				
1/17	金				

1/20	月	臨時休業			
1/21	火				
1/22	水				
1/23	木				
1/24	金				

1/27	月	臨時休業			
1/28	火				
1/29	水				
1/30	木				
1/31	金				

2/3	月	臨時休業			
2/4	火				
2/5	水				
2/6	木				
2/7	金				

2/10	月	臨時休業			
2/11	火	(祝) 建国記念の日			
2/12	水	臨時休業			
2/13	木				
2/14	金				

2/17	月	臨時休業			
2/18	火				
2/19	水				
2/20	木				
2/21	金				

2/24	月	臨時休業			
2/25	火				
2/26	水				
2/27	木				
2/28	金				

3/3	月	臨時休業			
3/4	火				
3/5	水				
3/6	木				
3/7	金				

3/10	月	臨時休業			
3/11	火				
3/12	水				
3/13	木				
3/14	金				

3/17	月	臨時休業			
3/18	火				
3/19	水				
3/20	木				
3/21	金				

3/24	月	臨時休業			
3/25	火	卒業式			
3/26	水	臨時休業			
3/27	木				
3/28	金				

# 授 業 概 要

(第 1 学年)

(英訳) Medical Introductory Course (MIC)

- 科目を履修して得られる能力  
別表参照
- 学習方法  
次ページの表による
- 教科書
  - 内科学第9 版 (朝倉書店 2007 年)
  - Harrison' s Principles of Internal Medicine 18th Edition (McGraw-Hill iPad版)
  - Gray' s Anatomy for Students (原著2 版 Churchill Livingstone 2009 年)
  - 標準生理学第7 版 (医学書院2009 年)
- 参考書
  - 川越正平、川畑雅照、松岡角英、和田忠志 著「君はどんな医師になりたいのか」 (医学書院 2002年)
  - 渡辺昇一 著「知的生活の方法」 (講談社現代新書 1976年)
  - 酒井邦嘉 著「科学者という仕事」 (中公新書 2006年)
  - 日野原重明 著「生きかた上手」 (ユーリーグ 2001年)
  - エリザベス・キューブラー・ロス 著「死ぬ瞬間」 -死とその課程について (中公文庫 2001年)
  - 松谷明彦、藤正 巖 著「人口減少社会の設計- 幸福な未来への経済学」 (中公新書 2002年)
- 成績評価の評価法  
次ページの表による
- 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)  
田中雄二郎 [ytanaka.merd@tmd.ac.jp](mailto:ytanaka.merd@tmd.ac.jp)

枠	医学科第1学年後期毎週火曜日終日(合計18日分、補講日含)、M&Dタワー2階共用講義室2(※)		
単位	6.5単位(全体として評価し付与する)		
授業の目的	専門教育の礎をつくる(教育理念、課程への理解、個々の学習目標と学習方法の探索、および自律性の涵養)		
到達目標と学習 方略・評価方法	具体的到達目標	学習方略	評価方法
	A) <b>社会における医師の役割／多彩なキャリア</b>  社会における医師の役割(現在および今後の様々な形)、様々な社会貢献の形を説明でき、将来のキャリアビジョンを描き始める	<ul style="list-style-type: none"> <li>中核病院医療、へき地医療、研究、医療行政、国際医療など、様々な社会貢献の形を、講演や shadowingを通して知る <ul style="list-style-type: none"> <li>講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域中核病院勤務医</li> <li>✓ アカデミックドクター(基礎、臨床)</li> <li>✓ 医療行政従事者</li> <li>✓ 国際医療従事者</li> </ul> </li> <li>シャドウイング <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 臨床系教員</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	レポート
	B) <b>医学の歴史と展望</b>  医学の発展の歴史を学び、医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学の発展の歴史を認識する</li> <li>医学の様々な分野でフロンティアを切り開く創造能力を養う</li> </ul>	レポート
	C) <b>国際医療</b>  国際人としての意識、そして広い視野を持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際人としての視野を高める／認識しておくべきトピックにつき、英語記事を基に小グループで英語議論を行い、その後当該領域を専門とする教員による日本語講義を行う。学習内容につき翌週復習・応用を行う(チーム基盤型学習形式にて)</li> <li>卒前留学経験者による講演により、同留学の意義を知る</li> </ul>	チーム基盤型学習 単語テスト ピア評価
	D) <b>自ら問題を提起し、解決に向けて、チームメンバーと協力し、効果的に取り組むことができる</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A), C), E), F)において、小グループにて自己問題提起/議論を行う</li> <li>与えられた課題に対し自己学習し、小グループにて情報共有する「症候学導入」を6回に渡り行う</li> <li>問題基盤型学習(Problem-based learning: PBL)を、2回に渡り行う</li> </ul>	提出課題 グループ提出物
	E) <b>6年間の医学学習を効果的なものとするための基盤を築き、内的学習動機づけを行う</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時の到達目標を認識させ、6年間の学習に対する内的動機づけを促す。 <ul style="list-style-type: none"> <li>第5学年学生の臨床実習のシャドウイング</li> <li>シミュレーション/救急蘇生実習</li> <li>患者シャドウイング</li> <li>看護師シャドウイング</li> </ul> </li> <li>これから学習する基礎医学・臨床医学において、原因・病態という視点だけでなく、臨床症候からの視点も備え、効果的な学習を可能とすることを目的として、「症候学導入」を6回に渡り行う</li> <li>6年間の医学学習に際しての自身のメンタルヘルスおよびセルフケアについて学ぶ。</li> </ul>	提出課題
	F) <b>Professionalism</b>  医師というプロフェッションに必要な態度を習得するための基盤を形成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語事例提示後、小グループで英語議論を行い、問題提起および考察を行う</li> </ul>	グループ提出物 単語テスト
単位／進級	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべて通して一つの単位認定とする</li> <li>単位未取得者は第2学年への進級不可、未取得者はコース全体が再履修となるので注意すること</li> </ul>		
学士編入生対応	補修+レポート提出		

(※)11月5日、平成26年1月28日、2月4日はM&Dタワー2階共用講義室1

# 授 業 概 要

(第 2 学年)

(英訳) Introduction to Human Anatomy

- 科目を履修して得られる能力
  
- 学習方法  
講義 (講義のストリーミングを Blackboard にて視聴できるので利用されたい)
  
- 教科書  
特に指定しないので、参考書にあげられたもののなかから自分に合ったものを購入すること。
  
- 参考書  
ラングマン人体発生学 第10版 2010年 メディカル・サイエンス・インターナショナル  
ラーセン最新人体発生学 第2版 1999年 西村書店  
ムーア 人体発生学 原著第8版 2011年 医歯薬出版株式会社  
遠山・大槻・中島編著 人体発生学 第1版 2003年 南山堂
  
- 参照 URL
  
- 成績評価の評価法  
筆記試験によって学習成果を問う。
  
- 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)  
秋田恵一 akita.fana@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前	年 期	人体構造総論			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/9	火	9:00～10:20	解剖学とは？・脊椎動物の基本体制	秋田恵一	3号館2階 医学科講義室1
4/9	火	10:30～11:50	人体発生学総論：発生学の考え方	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/10	水	9:00～10:20	人体発生学総論：細胞分裂・生殖細胞発生・卵巣周期と排卵	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/10	水	10:30～11:50	人体発生学総論：受精・着床・原腸形成・脊索	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/11	木	9:00～10:20	人体発生学総論：三胚葉の運命・外胚葉由来の構造	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/11	木	10:30～11:50	人体発生学総論：中胚葉由来の構造・内胚葉由来の構造	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/12	金	9:00～10:20	人体発生学総論：栄養膜の発達・胎盤	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/12	金	10:30～11:50	人体発生学総論：羊膜と臍帯・胎児期・子宮外妊娠・双胎	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/15	月	9:00～10:20	解剖学総論（1）	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/15	月	10:30～11:50	解剖学総論（2）	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/17	水	9:00～10:20	人体発生学各論：骨格・関節系	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/17	水	10:30～11:50	人体発生学各論：筋系	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/19	金	9:00～10:20	人体発生学各論：体腔・膜系，呼吸器系	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/19	金	10:30～11:50	人体発生学各論：消化器系①	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/22	月	9:00～10:20	人体発生学各論：消化器系②	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/22	月	10:30～11:50	人体発生学各論：循環器系①	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/24	水	9:00～10:20	人体発生学各論：循環器系②	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/24	水	10:30～11:50	人体発生学各論：循環器系③	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/26	金	9:00～10:20	人体発生学各論：泌尿生殖器系①	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/26	金	10:30～11:50	人体発生学各論：泌尿生殖器系②	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/1	水	9:00～10:20	人体発生学各論：頭頸部①（頭蓋骨・咽頭弓）	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/1	水	10:30～11:50	人体発生学各論：頭頸部②（顔面・頸部の形成）	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/8	水	9:00～10:20	人体発生学各論：頭頸部③（感覚器）	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/8	水	10:30～11:50	人体発生学総論：先天異常	〃	3号館2階 医学科講義室1
9/4	水	9:00～10:20	人体構造総論試験		3号館2階 医学科講義室1

(英訳) Cell Biology

○ 科目を履修して得られる能力

細胞生物学は細胞を単位として生命や病気を考えるというここ100年来の生物学の哲学を基にし、多様な研究方法を駆使する学問である。実際には1960年代に始まる電子顕微鏡で発見した細胞内の構造と生化学的な機能とをリンクさせる研究から始まっている。そうすると現代生物学の大部分は細胞生物学となり、すでに高校や教養でも或る程度習っていることになる。それらとの重複を避けて、少しだけ進んだ細胞生物学になるようにした。

前半は、細胞内小器官の構造と機能をやや進んだ観点から学習する。

後半は、細胞死、オートファジー、幹細胞、数理モデル化、器官形成、嗅覚系、等をそれぞれ専門の先生にお話いただく。最先端研究の成果もさることながら、それぞれの先生の問題へのアプローチの違い、もののみかたの違いのようなものを楽しんでほしい。

科目を履修することで、現代生物学、医学研究の基本が理解できるようになる。

○ 学習方法

教養までの生物学であやふやな点がある者は細胞生物学のごく簡単な教科書でよいから、読んでおくとよい(特に方法)。後は授業の理解に努めること。

○ 教科書

Molecular Biology of the Cell 第5版 (B. Alberts ら著、Garland Science 2008年)

(同翻訳) 細胞の分子生物学 第5版 (中村桂子ら翻訳、ニュートンプレス 2010年)

Molecular Cell Biology 第6版 (H. Lodish ら著、W H Freeman & Co、2007年)

細胞生物学 第1版 (永田和宏ら編、東京化学同人、2006年)

Essential 細胞生物学 原著第3版 (B. Alberts ら著、中村桂子ら訳、南江堂、2011年)

医学のための細胞生物学 第1版 (永田、塩田編、南山堂、2009年)

○ 参考書

各講義で適宜紹介する。

○ 成績評価の評価法

筆記試験によって評価する。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

中田隆夫 (nakata.cbio@tmd.ac.jp)

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前		細胞生物学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/9	火	12:50～14:10	分泌経路	中田隆夫	3号館2階 医学科講義室1
4/11	木	12:50～14:10	エンドサイトーシス	中田隆夫	3号館2階 医学科講義室1
4/16	火	9:00～10:20	細胞骨格	井上明宏	3号館2階 医学科講義室1
5/13	月	14:20～15:40	ミトコンドリア	清水重臣	3号館2階 医学科講義室1
5/15	水	9:00～10:20	細胞死	清水重臣	3号館2階 医学科講義室1
5/21	火	9:00～10:20	細胞周期と細胞老化	田中敦	3号館2階 医学科講義室1
5/29	水	9:00-10:20	幹細胞	西村栄美	3号館2階 医学科講義室1
6/10	月	10:30-11:50	オートファジー、細胞内分解系	水島 昇	3号館2階 医学科講義室1
6/11	火	9:00～10:20	細胞接着	畑 裕	3号館2階 医学科講義室1
6/14	金	9:00～10:20	細胞生物学研究の数理モデル化	中口悦史	3号館2階 医学科講義室1
6/17	月	10:30～11:50	器官形成の遺伝学（モデル動物としての魚類）	仁科博史	3号館2階 医学科講義室1
6/18	火	9:00～10:20	嗅覚系の細胞生物学	石井智浩	3号館2階 医学科講義室1
9/2	月	9:00～10:20	細胞生物学試験		3号館2階 医学科講義室1

(英訳) Introductory Neurophysiology

○ 科目を履修して得られる能力

神経系の基礎的な機能を含む人体機能を扱う本科目の履修を通して身につけられる能力：

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。

時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。

自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

○ 学習方法

この科目は、モジュール形式のカリキュラム導入に合わせて、2年生最初のモジュールの授業科目として新たに編成された。従って、独立した授業科目ではあるが、科目の内容は、「神経科学」及び「生理学実習」と密接に関連している。具体的には膜輸送、細胞膜電位、イオンチャンネルと受容体、興奮伝導、シナプス伝達など、神経生理学の基礎となる範囲を扱う。この科目で扱う範囲だけに合致した内容を記述するような書籍はないが、生理学・神経科学の教科書が参考書となる(下記)。授業では扱う内容の全体像を示すことを心がけるが、時間からしても制約がある。授業をきっかけとして、それ以上は学生が自ら学ぶことを身につけて欲しい。

○ 教科書

○ 参考書

小澤澗司 他編、標準生理学 第7版(医学書院、2009年)

Ganong's Review of Medical Physiology 第23版(McGraw-Hill, 2009年)

(同翻訳) ギャノン生理学 第23版(丸善、2011年)

Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 第12版(Saunders, 2010年)

(同翻訳) ガイトン生理学(原著11版、エルゼビアジャパン、2010年)

以上は「生理学」と共通。

J. G. Nicholls et al., From Neuron to Brain, 5th ed. (Sinauer, 2012年).

ダニエルトリッチ ニューロンの生理学 御子柴監訳 京大出版会 2009

S. Fox, Human Physiology, 12th ed. (McGraw-Hill, 2010年).

○ 参照 URL

○ 成績の評価方法

試験（記述式）と出席状況（毎回出欠を確認する）。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

杉原 泉      isugihara.phy1@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		神経生理導入			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/10	水	12:50～14:10	序論	杉原 泉	3号館2階 医学科講義室1
4/12	金	12:50～14:10	細胞膜 I (細胞内外の物理化学環境)	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/15	月	12:50～14:10	細胞膜 II (細胞膜電位)	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/16	火	10:30～11:50	細胞膜 III (膜輸送)	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/16	火	12:50～14:10	イオンチャンネルと受容体 I	古川哲史	3号館2階 医学科講義室1
4/18	木	12:50～14:10	神経細胞 構造と機能	中田隆夫	3号館2階 医学科講義室1
4/23	火	9:00～10:20	イオンチャンネルと受容体 II	古川哲史	3号館2階 医学科講義室1
4/23	火	10:30～11:50	神経の興奮と伝導 I	伊澤 佳子	3号館2階 医学科講義室1
5/7	火	9:00～10:20	神経の興奮と伝導 II	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/7	火	10:30～11:50	シナプス I (シナプスの生理学 - 1)	杉原 泉	3号館2階 医学科講義室1
5/10	金	9:00～10:20	シナプス II (シナプスの生理学 - 2)	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/13	月	9:00～10:20	シナプス III (シナプスの生理学 - 3)	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/25	火	10:30～11:50	神経の興奮と伝導 III	伊澤 佳子	3号館2階 医学科講義室1
7/2	火	10:30～11:50	反射と神経回路	杉内友理子	3号館2階 医学科講義室1
7/9	火	10:30～11:50	生体の神経生理学	高橋真有	3号館2階 医学科講義室1
9/3	火	9:00～10:20	神経生理導入試験		3号館2階 医学科講義室1

## (英訳) Physiology

## ○ 科目を履修して得られる能力

人体機能の特性とメカニズムを理解する上で必要な以下の能力を身につける。

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。

疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論でき、臨床的あるいは科学的問題提起ができる。

実習実験を実施して結果を得、それを口頭あるいは書面で明確に説明できる。

本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守し、基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える。

文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる。

記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる。

科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる。

他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる。

時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる。

自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる。

## ○ 学習方法

講義と実習からなる。講義の一部はディスカッション形式とする。講義では、筋、消化器、代謝、心臓・循環器、呼吸器、内分泌、動物モデルを中心に扱う。神経生理学、血液生理学、尿生成と体液の構成についてはそれぞれ神経科学、血液学、腎体液制御学で扱う。一部に順番が前後したり、重複したりする項目がある。したがって、教育カリキュラムに従うのみではなく、繰り返し自主的に学習して、断片的ではない体系化された基礎医学を各自構築されたい。

## ○ 教科書

標準生理学 第7版 (医学書院、2009年)

Ganong's Review of Medical Physiology 第23版 (McGraw-Hill Medical、2009年)

(同翻訳) ギャノン生理学 第23版 (丸善、2011年)

Guyton and Hall Textbook of Medical Physiology 第12版 (Saunders、2010年)

(同翻訳) ガイトン生理学 (原著11版、エルゼビアジャパン、2010年)

## ○ 参考書

各講義で適宜紹介する。

- 成績評価の評価法  
講義については筆記試験によって評価する。実習は、出席、実習態度、試験、レポートによって評価する。
  
- 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）  
杉原 泉（[isugihara.phy1@tmd.ac.jp](mailto:isugihara.phy1@tmd.ac.jp)） または 水島 昇（客員教授）  
([nmizu@m.u-tokyo.ac.jp](mailto:nmizu@m.u-tokyo.ac.jp))

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		生 理 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/17	水	12:50~14:10	体温調節	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
4/30	火	9:00~10:20	消化と吸収(1)	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
4/30	火	10:30~11:50	消化と吸収(2)	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
5/10	金	10:30~11:50	筋の収縮機構(1)	古川哲史	3号館2階 医学科講義室1
5/13	月	10:30~11:50	筋の収縮機構(2)	古川哲史	3号館2階 医学科講義室1
5/17	金	9:00~10:20	消化管運動	古川哲史	3号館2階 医学科講義室1
5/20	月	9:00~10:20	心臓(1)ポンプとしての心臓1	磯部光章	M&Dタワー2階 共用講義室1
5/20	月	10:30~11:50	心臓(2)ポンプとしての心臓2	磯部光章	M&Dタワー2階 共用講義室1
5/22	水	9:00~10:20	心臓(3)心臓の電氣的活動	古川哲史	3号館2階 医学科講義室1
5/23	木	14:20~15:40	未定		3号館2階 医学科講義室1
5/27	月	9:00~10:20	代謝生理	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
5/27	月	10:30~11:50	内分泌(1)視床下部・下垂体	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
5/27	月	14:20~15:40	循環(1)ヘモレオロジー・血行力学	吉田雅幸	3号館2階 医学科講義室1
5/31	金	9:00~10:20	心臓(4)心筋の興奮と収縮	古川哲史	3号館2階 医学科講義室1
6/3	月	9:00~10:20	内分泌(2)甲状腺・副甲状腺	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
6/3	月	10:30~11:50	内分泌(3)膵臓	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
6/4	火	9:00~10:20	循環(2)循環の神経性調節	吉田雅幸	3号館2階 医学科講義室1
6/5	水	9:00~10:20	内分泌(4)副腎	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
6/7	金	9:00~10:20	心臓(5)心電図	古川哲史	3号館2階 医学科講義室1
6/10	月	9:00~10:20	遺伝子組み換えマウス	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
6/12	水	9:00~10:20	内分泌(5)総論	(水島 昇)	3号館2階 医学科講義室1
6/17	月	9:00~10:20	呼吸(1)	宮崎泰成	3号館2階 医学科講義室1
6/19	水	9:00~10:20	未定		3号館2階 医学科講義室1
6/21	金	9:00~10:20	呼吸(2)	宮崎泰成	3号館2階 医学科講義室1
9/9	月	9:00~10:20	生理学試験		3号館2階 医学科講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 期 前		生理学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講義室
7/16	火	12:50～17:10	実習講義	システム神経生理学 細胞生理学	実習室 3号館6階
7/17	水	12:50～17:10	実習（1）	〃	〃
7/18	木	12:50～17:10	実習（2）	〃	〃
7/19	金	12:50～17:10	実習（3）	〃	〃
7/22	月	12:50～17:10	実習（4）	〃	〃
7/23	火	12:50～17:10	実習（5）	〃	〃
7/24	水	12:50～17:10	実習（6）	〃	〃
7/25	木	12:50～17:10	実習（7）	〃	〃
7/26	金	12:50～17:10	実習のまとめ・小テスト	〃	〃

(英訳) Histology

○ 科目を履修して得られる能力

組織学では、人体の顕微鏡レベルの構造を学ぶ。医学のプロフェッショナルとして、さらには国際人の基盤として人体の組織の名称を英語も含め正しく習得する。講義では、折に触れて、組織学に関わる科学の発展の歴史や最新の細胞生物学的知見についても紹介する。

組織学実習では、全身の組織の標本を観察しスケッチする。先輩から後輩へと連綿と受け継がれてきた組織標本を大切に扱うことで他者への感謝とつながりを学ぶ。実習をやりぬくことで、忍耐とともに、人体の主な構造については全て見たという達成感と自信を得る。実習では、教員が質問に答えるが、学生がお互いに教えあい議論することも歓迎される。実習の最後には実習試験があり、組織学全体を振り返る機会となっている。

講義、実習、試験を通じての目標は、科学者として、形態学の研究法を知ること、形態の表現のしかたを学ぶ(見たとおりに述べるだけだが、案外難しい)こと、そして、医師、医学生としては、主要な器官、組織について、あるいは標本内の正常組織について、臨床の現場で、教員(あるいは医療チームのだれか)に尋ねられたとき、それについて2-3分、満足のいくコミュニケーションができることが目標である。

○ 学習方法

講義とそれに続く実習からなる。講義では、実習する組織について概説し、実習のポイントを解説する。実習では、顕微鏡を用いて標本を観察、スケッチする。

○ 教科書

組織学の教科書とできれば図譜を揃えるとよい。藤田藤田 標準組織学 総論各論(第4版) 医学書院 2010; ROSS 組織学 南江堂 2010

○ 参考書

Molecular Biology of the Cell (細胞生物学的事項について)

○ 参照 URL

[www.tmd.ac.jp/cbio/index.html](http://www.tmd.ac.jp/cbio/index.html)

○ 成績評価の評価法

講義については筆記試験で評価する。

実習は実習試験とスケッチの提出により評価する。

○ 担当窓口(教員の氏名とメールアドレス)

中田隆夫 nakata.cbio@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		組 織 学		授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
年 月 日	曜 日	授 業 時 間				
4/19	金	12:50～14:10	組織学序論	中田隆夫	3号館2階 医学科講義室1	
4/22	月	12:50～14:10	上皮組織	〃	3号館2階 医学科講義室1	
4/23	火	12:50～14:10	結合組織	井上明宏	3号館2階 医学科講義室1	
4/26	金	12:50～14:10	筋組織	〃	3号館2階 医学科講義室1	
5/1	水	12:50～14:10	血管、軟骨	〃	3号館2階 医学科講義室1	
5/8	水	12:50～14:10	骨	〃	3号館2階 医学科講義室1	
5/13	月	12:50～14:10	神経組織	中田隆夫	3号館2階 医学科講義室1	
5/16	木	12:50～14:10	血液	井上明宏	3号館2階 医学科講義室1	
5/20	月	12:50～14:10	リンパ性器官	〃	M&Dタワー2階 共用講義室1	
5/23	木	12:50～14:10	呼吸器	中田隆夫	3号館2階 医学科講義室1	
5/27	月	12:50～14:10	消化器Ⅰ	井上明宏	3号館2階 医学科講義室1	
5/30	木	12:50～14:10	消化器Ⅱ	〃	3号館2階 医学科講義室1	
6/3	月	12:50～14:10	肝胆膵	〃	3号館2階 医学科講義室1	
6/6	木	12:50～14:10	泌尿器	〃	3号館2階 医学科講義室1	
6/10	月	12:50～14:10	内分泌器官	中田隆夫	3号館2階 医学科講義室1	
6/13	木	12:50～14:10	男性生殖器	井上明宏	3号館2階 医学科講義室1	
6/17	月	12:50～14:10	女性生殖器	〃	3号館2階 医学科講義室1	
6/20	木	12:50～14:10	皮膚	〃	3号館2階 医学科講義室1	
9/6	金	9:00～10:20	組織学試験		3号館2階 医学科講義室1	

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		組 織 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/19	金	14:20～15:40	組織学実習説明	井上明宏	3号館4階 学生実習室
4/22	月	14:20～17:10	上皮組織	中田隆夫	3号館4階 学生実習室
4/23	火	14:20～17:10	結合組織	井上明宏	3号館4階 学生実習室
4/26	金	14:20～17:10	筋組織	〃	3号館4階 学生実習室
5/1	水	14:20～17:10	血管、軟骨	〃	3号館4階 学生実習室
5/8	水	14:20～17:10	骨	〃	3号館4階 学生実習室
5/14	火	9:00～11:50	神経組織	中田隆夫	3号館4階 学生実習室
5/16	木	14:20～17:10	血液	井上明宏	3号館4階 学生実習室
5/20	月	14:20～17:10	リンパ性器官	〃	3号館4階 学生実習室
5/24	金	9:00～11:50	呼吸器	中田隆夫	3号館4階 学生実習室
5/28	火	9:00～11:50	消化器Ⅰ	井上明宏	3号館4階 学生実習室
5/30	木	14:20～17:10	消化器Ⅱ	〃	3号館4階 学生実習室
6/3	月	14:20～17:10	肝胆膵	〃	3号館4階 学生実習室
6/6	木	14:20～17:10	泌尿器	〃	3号館4階 学生実習室
6/10	月	14:20～17:10	内分泌器官	中田隆夫	3号館4階 学生実習室
6/13	木	14:20～17:10	男性生殖器	井上明宏	3号館4階 学生実習室
6/17	月	14:20～17:10	女性生殖器	〃	3号館4階 学生実習室
6/20	木	14:20～17:10	皮膚	〃	3号館4階 学生実習室
7/16	火	9:00～11:50	組織学実習補習	〃	3号館4階 学生実習室
7/17	水	9:00～11:50	組織学実習試験		3号館4階 学生実習室

授業科目 人体解剖学・人体解剖学実習 授業責任者 秋田 恵一

(英訳) Anatomy・Dissection Practice of Human Body

○ 科目を履修して得られる能力

○ 学習方法

講義・実習（講義のストリーミングを Blackboard にて視聴できるので利用されたい）  
解剖実習期間中に完了しなかった上下肢の解剖は、頭頸部基礎の期間中に並行して行うこと。

○ 教科書

解剖学を学ぶ上での教科書は特に指定しないので、参考書に挙げられたものの中から自分に合った解剖学書とアトラスを購入すること。ただし、期間中 2 回、および、頭頸部基礎の最終日に行われる単語テストは以下の冊子から出題される。各自購入して自習すること。

プロメテウス解剖学アトラス コンパクト版 2011 年 医学書院

○ 参考書

系統解剖学書

Gray's Anatomy (40th ed.) 2009 Churchill Livingstone

分担 解剖学（第 11 版）金原出版 1982 年

1 総説・骨学・靭帯学・筋学

2 脈管学・神経系

3 感覚器学・内臓学

局所・臨床解剖学書

Gray's Anatomy for Students 2<sup>nd</sup> ed. 2009 Churchill Livingstone

(訳本) グレイ解剖学 原著第 2 版 2011 年 エルゼビア・ジャパン

人体解剖学ハンドブック カラー版 1・2 2000 年 西村書店

ムーア臨床解剖学 第 2 版 2004 年メディカル・サイエンス・インターナショナル

スネル臨床解剖学 第 3 版 2002 年メディカル・サイエンス・インターナショナル

アトラス

プロメテウス解剖学アトラス 医学書院

解剖学総論・運動器系 第 2 版 2011 年

頸部/胸部/腹部/骨盤部 第 1 版 2007 年

頭部/神経解剖 第 1 版 2008 年

プロメテウス解剖学コアアトラス 2010 年 医学書院

グレイ解剖学アトラス 第 1 版 2008 年 エルゼビアジャパン

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

筆記試験および Blackboard 上の試験によって学習成果を問う。また、実習ごとの課題のレポートおよび、実習中に提出する課題などについても評価の対象になる。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

秋田恵一 akita.fana@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前	期	人 体 解 剖 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/24	水	12:50～14:10	体幹の骨	秋田恵一	3号館2階 医学科講義室1
4/25	木	12:50～14:10	上肢の骨	〃	3号館2階 医学科講義室1
4/30	火	12:50～14:10	下肢の骨	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/2	木	12:50～14:10	体表観察(仰臥位)・胸腹部(皮下)	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/7	火	12:50～14:10	頸部(皮下)・下腹部(皮下)	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/9	木	12:50～14:10	肩部(皮下)・浅胸筋・鎖骨離断・大腿伸側(皮下・浅層・深層)	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/10	金	12:50～14:10	体表観察(腹臥位)・頭部(皮下)・頸部(皮下)・背部(皮下)・腰部(皮下)	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/14	火	12:50～14:10	後頭の筋・浅背筋・殿部(皮下)・大腿屈側(皮下)	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/15	水	10:30～11:50	上肢帯近位部・殿部(浅層)	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/17	金	10:30～11:50	固有背筋(外側系・内側系)・脊柱傍筋	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/21	火	10:30～11:50	頸部(中層)・腹壁(浅層・深層)・鼠径管	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/22	水	10:30～11:50	腋窩・腕神経叢・大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/24	金	12:50～14:10	単語試験①(背部・上肢・下肢)	〃	MDタワー4階 情報検索室
5/28	火	12:50～14:10	胸郭・上縦隔・甲状腺	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/29	水	10:30～11:50	心臓の神経・後縦隔・心臓・肺	〃	3号館2階 医学科講義室1
5/31	金	10:30～11:50	腹膜・腸間膜の脈管・神経・上腹部浅部(脈管・神経)	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/4	火	10:30～11:50	肝臓の遊離・上腹部深部(脈管・神経)	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/5	水	10:30～11:50	消化管・肝臓	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/7	金	10:30～11:50	腹膜後器官・横隔膜・後体壁	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/11	火	10:30～11:50	脊柱管・脊髄・内頭蓋底・頭部離断・腰部離断・椎前筋・椎側筋・咽頭後壁	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/12	水	10:30～11:50	肩甲帯・殿部(深層)・腸腰筋の除去・腰神経叢	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/14	金	10:30～11:50	上肢(皮下)・会陰部(皮下)・寛骨の除去・股関節・会陰部(浅層)	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/18	火	10:30～11:50	上腕屈側・上腕伸側・仙骨神経叢・骨盤出口筋・内腸骨動脈・骨盤神経叢	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/19	水	10:30～11:50	下腿屈側(皮下)・下腿伸側(皮下)・足背(皮下)・骨盤内臓	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/21	金	10:30～11:50	単語試験②(胸部・腹部・骨盤)	〃	MDタワー4階 情報検索室
6/21	金	12:50～14:10	頭蓋の骨	〃	3号館2階 医学科講義室1
6/25	火	9:00～10:20	手掌(皮下・浅層)・前腕屈側(浅層・深層)・手掌(深層)・下腿伸側(浅層)・足背(浅層)	二村昭元	3号館2階 医学科講義室1
7/2	火	9:00～10:20	前腕伸側(浅層・深層)・下腿屈側(浅層)・足底(浅層)・膝関節・肘関節	〃	3号館2階 医学科講義室1
7/9	火	9:00～10:20	手背・下腿屈側(深層)・足底(深層)・手関節・足関節	〃	3号館2階 医学科講義室1
9/5	木	9:00～10:20	人体解剖学試験		3号館2階 医学科講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		人 体 解 剖 学 実 習		授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
年 月 日	曜 日	授 業 時 間				
4/24	水	14:20～17:10	体幹の骨	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館4階 組織学実習室	
4/25	木	14:20～17:10	上肢の骨	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館4階 組織学実習室	
4/30	火	14:20～17:10	下肢の骨	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館6階 生理学実習室	
5/2	木	14:20～17:10	体表観察(仰臥位)・胸腹部(皮下)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/7	火	14:20～17:10	頸部(皮下)・下腹部(皮下)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/9	木	14:20～17:10	肩部(皮下)・浅胸筋・鎖骨離断・大腿伸側(皮下・浅層・深層)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/10	金	14:20～17:10	体表観察(腹臥位)・頭部(皮下)・頸部(皮下)・背部(皮下)・腰部(皮下)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/14	火	14:20～17:10	後頭の筋・浅背筋・殿部(皮下)・大腿屈側(皮下)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/15	水	12:50～15:40	上肢帯近位部・殿部(浅層)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/17	金	12:50～15:40	固有背筋(外側系・内側系)・脊柱傍筋	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/21	火	12:50～15:40	頸部(中層)・腹壁(浅層・深層)・鼠径管	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/22	水	12:50～15:40	腋窩・腕神経叢・大腿伸側(深層)・大腿屈側(深層)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/24	金	14:20～17:10	上肢の切離・下肢の切離	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/28	火	14:20～17:10	胸郭・上縦隔・甲状腺	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/29	水	12:50～15:40	心臓の神経・後縦隔・心臓・肺	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
5/31	金	12:50～15:40	腹膜・腸間膜の脈管・神経・上腹部浅部	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/4	火	12:50～15:40	肝臓の遊離・上腹部深部(脈管・神経)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/5	水	12:50～15:40	消化管・肝臓	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/7	金	12:50～15:40	腹膜後器官・横隔膜・後体壁	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/11	火	12:50～15:40	脊柱管・脊髄・内頭蓋底・頭部離断・腰部離断・椎前筋・椎側筋・咽頭後壁	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/12	水	12:50～15:40	肩甲帯・殿部(深層)・腸腰筋の除去・腰神経叢	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/14	金	12:50～15:40	上肢(皮下)・会陰部(皮下)・寛骨の除去・股関節・会陰部(浅層)	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/18	火	12:50～15:40	上腕屈側・上腕伸側・仙骨神経叢・骨盤出口筋・内腸骨動脈・骨盤神経叢	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/19	水	12:50～15:40	下腿屈側(皮下)・骨盤内臓	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館地下1階 解剖実習室	
6/21	金	14:20～15:40	頭蓋の骨	秋田恵一、二村昭元、山口久美子、坂本裕次郎	3号館4階 組織学実習室	

(英訳) Pharmacology

○科目を履修して得られる能力

【別表】のとおり

○学習方法

基本的、代表的な薬物を取り上げて、その薬理作用、作用機序、代謝、臨床応用などについて系統的に解説し、その後の臨床講義や臨床の現場で多数の薬物に遭遇しても応用できるような薬理学的基礎を与えることを目的としています。また生理学、生化学、薬理学等の区別にあまりとらわれずに、広く「物質と生体の相互作用」という立場から教育を行います。また実習を通じた教育を重視しており、動物実験代替法としてコンピュータシミュレーションプログラムを用い、様々な組織標本、動物個体に対する多くの薬物の薬理効果を自分の目で直接確認してもらいます。また、薬物動態に関しても、実際に人を対象として実習を行ったならば膨大な時間や労力を要し、実質的には実施不可能な項目についても、シミュレーション実習により、短時間で行うことが可能になりました。

(1) 講義

題目及び内容	担当	題目及び内容	担当
総論 序論、薬力学	田邊	内分泌薬理	野田、三枝
薬物動態	安原	抗菌薬	安原
血管系薬理	三枝	免疫薬理	田邊
循環薬理	田邊	臨床薬理	安原
呼吸器薬理	田邊	イオンチャンネルとレセプター(*)	田邊
消化器薬理	田邊	神経筋接合部(*)	田邊
利尿薬	三枝	シナプスの分子生物学(*)	田邊
泌尿器・生殖器薬理	三枝	Caと細胞内情報伝達(*)	田邊
鎮痛薬	田邊	自律神経薬理(*)	三枝
抗炎症薬	田邊	中枢神経薬理(*)	三枝
抗リウマチ薬と痛風治療薬	田邊	神経精神薬理(*)	三枝

(\*)は神経科学系統講義

(2) 実習

題目	題目
実習講義	4. カエル腹直筋標本
シミュレーション実習	5. モルモット回腸標本
1. ラット横隔神経-横隔膜標本	6. 輸精管標本
2. 前頸骨筋-座骨神経標本	7. 動脈および静脈リング
3. 心拍数血圧標本	8. 薬物動態シミュレーション

受講前に必ず教科書・参考書の関連領域のところに一通り目を通しておくことが望ましい。授業では時間の関係で全てを教えることは不可能なので足りない部分は教科書等で自習し補完することが重要である。

○ 教科書

- ・ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 2006
- ・The Pharmacological Basis of Therapeutics 12版 2011
- ・グッドマンギルマン薬理書（上・下巻）11版 2007
- ・医系薬理学 2005
- ・図解薬理学 2008
- ・イラスト薬理学 3版 2006
- ・イオンチャンネルの分子生物学 1998
- ・カラー図解 これならわかる薬理学 2版 2012
- ・ローレンス臨床薬理学 2006
- ・NEW 薬理学 6版 2011
- ・標準薬理学 6版 2001
- ・Color Atlas of Pharmacology 2005

○ 参考書

- ・Principles of Neural Science 5<sup>th</sup> 2013
- ・Molecular Biology of the Cell 5<sup>th</sup> 2008

○ 成績評価の方法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。神経系の薬理に関しては神経科学として別に試験を行う。また実習に関しては、出席し実験レポートを提出することが必須で、実習態度も重視する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

田邊 勉      t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前・後期		薬 理 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/19	金	9:00～10:20	薬理学総論	田邊 勉	3号館2階 医学科講義室1
7/19	金	10:30～11:50	循環器系(1):心不全治療薬、抗不整脈薬	〃	3号館2階 医学科講義室1
7/22	月	9:00～10:20	薬物動態学(1)	安原真人	3号館2階 医学科講義室1
7/22	月	10:30～11:50	薬物動態学(2)	〃	3号館2階 医学科講義室1
7/23	火	9:00～10:20	循環器系(2):虚血性心疾患治療薬、高血圧治療薬	田邊 勉	3号館2階 医学科講義室1
7/23	火	10:30～11:50	血管系薬理:抗血栓薬、高脂血症治療薬循環器系	三枝弘尚	3号館2階 医学科講義室1
7/24	水	9:00～10:20	呼吸器・消化器作用薬	田邊 勉	3号館2階 医学科講義室1
7/24	水	10:30～11:50	利尿薬、泌尿器・生殖器作用薬	三枝弘尚	3号館2階 医学科講義室1
7/26	金	9:00～10:20	内分泌系(1):糖尿病治療薬	〃	3号館2階 医学科講義室1
7/26	金	10:30～11:50	内分泌系(2):骨粗鬆症治療薬	野田政樹	3号館2階 医学科講義室1
9/10	火	9:00～10:20	免疫抑制薬、糖質コルチコイド	田邊 勉	3号館2階 医学科講義室1
9/10	火	10:30～11:50	非ステロイド性抗炎症薬、抗リウマチ薬と痛風治療薬	〃	3号館2階 医学科講義室1
9/11	水	9:00～10:20	鎮痛薬(麻薬性、非麻薬性)	〃	3号館2階 医学科講義室1
9/11	水	10:30～11:50	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬)(1)	安原真人	3号館2階 医学科講義室1
9/12	木	9:00～10:20	抗菌薬(抗生物質、合成抗菌薬)(2)	〃	3号館2階 医学科講義室1
9/12	木	10:30～11:50	臨床薬理	〃	3号館2階 医学科講義室1
10/18	金	9:00～10:20	薬理学試験		3号館2階 医学科講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前 期		薬 理 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/10	火	12:50～17:10	実習説明会	田邊 勉 三枝弘尚 Zong Shuqin	3号館2階 医学科講義室1
9/11	水	12:50～17:10	実習（1-1）		実習室 3号館6階
9/12	木	12:50～17:10	実習（1-2）		
9/13	金	12:50～17:10	実習（1-3）、実習1まとめ		
9/17	火	12:50～17:10	実習（2-1）		
9/18	水	12:50～17:10	実習（2-2）		
9/19	木	12:50～17:10	実習（2-3）、実習2まとめ		
9/20	金	12:50～17:10	実習（3-1）		
9/24	火	12:50～17:10	実習（3-2）		
9/25	水	12:50～17:10	実習（3-3）、実習3まとめ		

## (英訳) Medical biochemistry

## ○ 科目を履修して得られる能力

医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる。  
倫理的事項に配慮して研究できる。  
未解決の問題を見出し、仮説を立て、指導者のもとで解決の資源と方法を見出せる。  
臨床や科学の興味ある領域の研究を、指導者のもとで行える。  
自由研究で明らかになった成果を発表できる。  
他者を尊重し敬意をもって接することが出来る。  
個人生活と医学科での学習、社会的責務のバランスをとれる。  
自立と監督・指導の必要性のバランスをとれる。  
時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示せる。  
文書課題を判読可能な形で期限内に提出できる。  
機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる。  
誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる。  
他者への良識を逸脱する振る舞いを認識し、改めることができる。  
エラーを指導者、監督に報告できる。  
記述、プレゼンテーション、論文において著作権を尊重して行動できる。  
自己の知識・能力・振る舞いを批判的に省察し、改善の目標を設定し、学習活動に取り組める。  
他人に建設的なフィードバックができる。  
ポートフォリオを活用できる。  
疾患の病因・病態・臨床徴候の理解に必要な基礎医学知識を提示できる。

## ○ 学習方法

系統講義：下記、参考書のいずれかを通読する。  
実習：実習に参加する。

## ○ 教科書

教科書として特定の本を指定しません。

## ○ 参考書

シンプル生化学 南江堂; 改訂第5版

Lippincott's Illustrated Reviews: Biochemistry, International Edition (Lippincott's Illustrated Reviews Series) Lippincott Williams & Wilkins; 5th revised international student ed 版

Harper's Illustrated Biochemistry, 28th Edition (LANGE Basic Science) McGraw-Hill Medical; 28 版

生化学の優れた参考書は多々ありますが、上記は比較的、医学の立場から書かれています。  
どの本でもよいのですが、どれか1冊、通読してください。

## ○ 参照 URL

特になし。

○ 成績評価の評価法

系統講義：筆記試験

実習：実習レポート、指導教官による全般的評価

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

畑 裕 yuhammch@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 前・後期		生 化 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/13	金	9:00~10:20	糖代謝 I	畑	3号館2階 医学科講義室1
9/17	火	9:00~10:20	糖代謝 II	畑	3号館2階 医学科講義室1
9/18	水	9:00~10:20	糖代謝 III	畑	3号館2階 医学科講義室1
9/20	金	9:00~10:20	脂質代謝 I	畑	3号館2階 医学科講義室1
9/20	金	10:30~11:50	脂質代謝 II	畑	3号館2階 医学科講義室1
9/24	火	9:00~10:20	脂質代謝 III	畑	3号館2階 医学科講義室1
9/25	水	9:00~10:20	アミノ酸代謝 I	畑	3号館2階 医学科講義室1
9/26	木	9:00~10:20	アミノ酸代謝 II	畑	3号館2階 医学科講義室1
9/27	金	9:00~10:20	動脈硬化と脂肪代謝	吉田	3号館2階 医学科講義室1
9/30	月	9:00~10:20	酵素(実習関連)	畑	3号館2階 医学科講義室1
10/1	水	9:00~10:20	プリン・ピリミジン代謝 I	畑	3号館2階 医学科講義室1
10/2	水	9:00~10:20	プリン・ピリミジン代謝 II	畑	3号館2階 医学科講義室1
10/4	金	9:00~10:20	電子伝達系	畑	3号館2階 医学科講義室1
10/7	月	9:00~10:20	栄養とシグナル伝達	中川	3号館2階 医学科講義室1
10/8	火	9:00~10:20	ポルフィリン・金属代謝	畑	3号館2階 医学科講義室1
10/9	水	9:00~10:20	ビタミン	畑	3号館2階 医学科講義室1
10/11	金	9:00~10:20	がんと代謝	畑	3号館2階 医学科講義室1
10/22	火	9:00~10:20	生化学試験	畑	3号館2階 医学科講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		生 化 学 実 習			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
9/30	月	12:50～17:10	実習	畑 裕 烏山 一	3号館5階 学生実習室
10/1	火	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室
10/2	水	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室
10/3	木	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室
10/4	金	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室
10/7	月	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室
10/8	火	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室
10/9	水	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室
10/10	木	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室
10/11	金	12:50～17:10	実習		3号館5階 学生実習室

(英訳) Molecular Genetics

○ 科目を履修して得られる能力

- ・世界的に注目されている医学／歯学／健康に関する主たるトピックについて、議論できる
- ・科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる
- ・医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
- ・臨床的あるいは科学的問題提起ができる
- ・他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる
- ・個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる
- ・自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる
- ・時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる
- ・文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる
- ・本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる
- ・常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる
- ・他者への良識を逸する振舞い（無礼、短気など）を認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる
- ・情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる
- ・記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる
- ・自身の知識・能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を同定し、改善の為の学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる
- ・自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる
- ・他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる
- ・ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる
- ・疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる

○ 学習方法

下記の教科書・参考書を用いて予習・復習をする。

○ 教科書

Molecular Biology of the Cell 5版 (Garland Science) (2008)

Essential 細胞生物学 原書第3版 (南江堂) (2011)

ヒトの分子遺伝学 第3版 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) (2007)

○ 参考書

同上

○ 参照 URL

<http://www.tmd.ac.jp/grad/syst/asahsyst/index.html>

(東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野)

○ 成績評価の評価法

試験および講義への出席状況で評価を行う。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

浅原 弘嗣（システム発生・再生医学分野・教授）

メールアドレス：asahara.syst@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期	分子遺伝学				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/13	金	10:30~11:50	遺伝学・分子生物学オーヴァービュー 歴史的観点から	浅原弘嗣	3号館2階 医学科講義室1
9/17	火	10:30~11:50	核酸・染色体の構造	〃	3号館2階 医学科講義室1
9/18	水	10:30~11:50	DNAの複製機構	伊藤義晃	3号館2階 医学科講義室1
9/24	火	10:30~11:50	DNAの修復と組み換え	(久保 純) <small>(独)国立成育医療研究センター</small>	3号館2階 医学科講義室1
9/25	水	10:30~11:50	ポストゲノム研究における新しい医学戦略・次世代の医学研究手法(イメージング、シーケンサー)	浅原弘嗣	3号館2階 医学科講義室1
9/26	木	10:30~11:50	クロマチンを介した制御機構	浅原弘嗣	3号館2階 医学科講義室1
9/27	金	10:30~11:50	RNAの制御機構と疾患	〃	3号館2階 医学科講義室1
9/30	月	10:30~11:50	ゲノムからみた発生医学・再生医学	浅原弘嗣	3号館2階 医学科講義室1
10/1	火	10:30~11:50	エピジェネティクスと医学	(石野史敏)	3号館2階 医学科講義室1
10/2	水	10:30~11:50	モデル動物と医学 マウス遺伝学を中心に	(高田修治) <small>(独)国立成育医療研究センター</small>	3号館2階 医学科講義室1
10/4	金	10:30~11:50	臨床遺伝学と疾患	浅原弘嗣	3号館2階 医学科講義室1
10/7	月	10:30~11:50	遺伝子診断・遺伝子治療	浅原弘嗣	3号館2階 医学科講義室1
10/8	火	10:30~11:50	ゲノム医学の基礎; 遺伝子多型と疾患の遺伝学	(山下 聡) <small>(独)国立成育医療研究センター</small>	3号館2階 医学科講義室1
10/9	水	10:30~11:50	タンパクの翻訳後調節とプロオミクス技術の革新	(乾 雅史) <small>(独)国立成育医療研究センター</small>	3号館2階 医学科講義室1
10/11	金	10:30~11:50	シグナルからみた遺伝子発現	(篠原正浩)	3号館2階 医学科講義室1
10/15	火	9:00~10:20	<b>分子遺伝学試験</b>		3号館2階 医学科講義室1

## (英訳) Neuroanatomy

## ○ 科目を履修して得られる能力

科目履修を通じて身に着けることが期待される能力（到達目標）は以下の通り。

- ・神経系の構造をその機能と関連付けて理解し、適切な専門用語を使用して的確に記述すること。
- ・実習を通じて生命倫理と規範の順守を実践し、バランスのとれた良識を形成すること。
- ・人体の正常機能と疾患、更には最新の神経科学を理解する基礎を確立すること。
- ・実習経験にもとづく思考、教員や同僚との議論、実習経過の記録や報告を通じて、問題の発見、提起からその解決に至る過程に含まれる科学的な方法論を体得すること。

## ○ 学習方法

神経解剖学は、実習講義・実習と特別講義から構成されます。実習前に、事前に配布したマニュアルの該当箇所（実習の手順を記載したもの）と講義資料に目を通し、アトラスや参考書を利用して観察すべき構造物の名称と場所（特にマニュアル中、太字で記載されているもの）について下調べを済ませておいて下さい。各回の実習に先立って1時間から1時間30分程度の実習講義を行います。マニュアルと講義資料を持参して下さい。実習では脊髄を除き、まず肉眼解剖学的観察を行い、その直後の時間枠で同じ場所の組織標本を鏡検します。必要に応じて肉眼解剖標本と組織標本を比較し、標本のオリエンテーション（周辺部との位置関係）の理解に努めることをすすめます。肉眼解剖用の解剖用具は一般の肉眼解剖用に購入したものを持参し、白衣、前掛け、マスク、ゴム手袋などを適宜使用して下さい。肉眼、組織解剖実習ともに標本のスケッチを課題としますので、A4版無地ノート（ルーズリーフ等バラバラになるものは不可）を持参して下さい。最終回の実習終了後に提出願います。また、実習講義だけでは十分に説明できない話題を取り上げる為、特別講義を行います。

## ○ 教科書

特に指定しません。以下のリストを参考に自分にあうものを選んでください。

（リストに載っているもの以外でも構いません。よい解剖学の教科書は一生もので、かつ教科書にじっくり目を通す時間は学生時代を逃すとなかなか期待できません。高価でも後々の使用に耐える、記述のしっかりした教科書をおすすめします。）

## ○ 参考書

1. 分冊 解剖学アトラス 3 神経系と感覚器、第6版、文光堂、2011
2. CORE TEXT 神経解剖学、第4版、廣川書店、1996
3. 脳解剖学、南江堂、1994
4. 神経解剖学、金芳堂、1998
5. 図説中枢神経系、第2版、医学書院、1991

6. ヒトの脳：神経解剖学・組織学アトラス、文光堂、2006
7. The Human Brain and Spinal Cord, 2nd ed., L. Heimer, Springer-Verlag, 1995
8. The Human Brain: An Introduction to its Functional Anatomy With STUDENT CONSULT Online Access, 6th ed., John Nolte, Mosby, 2008
9. The Human Nervous System, 3rd ed., J. K. Mai & G. Paxinos (Ed.), Academic Press, 2010
10. 脳の分子生物学、MEDSi、1996
11. Neuroscience: Exploring the Brain, 4th ed., M. F. Bear et al., Lippincott Williams & Wilkins, 2012
12. Neuroscience, 4th ed., D. Purves et al., Sinauer, 2008
13. Principles of Neural Science, E. R. Kandel et al., 5th ed., McGraw Hill, 2012
14. Essentials of Neural Science and Behavior, E. R. Kandel et al., Appleton & Lange, 1996
15. Neuroscience Textbook Set: Fundamental Neuroscience, L. R. Squire et al., 3rd ed., Academic Press, 2008
16. Histology of the Nervous System of Man and Vertebrates, Two-Volume Set, S. R. Cajal, Oxford, 1994
17. The Fine Structure of the Nervous System, A. Peters et al., 3rd ed., Oxford U. P., 1991
18. GRAY'S ANATOMY, L. H. Bannister et al., Churchill Livingstone, 1995

○ 参照 URL

最近解剖学関係でも有用な画像やテキストをネット上で公開している例が増えてきましたが、定評ある教科書を越える出来栄のところは数少なく、あくまで教科書の二次的資料として位置付けられるのが現況です。また、神経解剖学習時に 3D モデルの概念図は有用ですが、実習時に参考になる様な詳細なものは十分な普及をみません。幾つか実習講義中に補助的に使用する予定ですが、神経系の三次元的概念は実物をみて理解するのが最も早道です。

(1) The Washington University School of Medicine, Neuroscience Tutorial

<http://thalamus.wustl.edu/course/>

(2) 解剖学電子教科書

<http://web.sc.itc.keio.ac.jp/anatomy/academic/>

(3) Atlas of Microscopic Anatomy: A Functional Approach: Companion to Histology and Neuroanatomy

<http://www.anatomyatlases.org/MicroscopicAnatomy/MicroscopicAnatomy.shtml>

(4) Digital Anatomist Interactive Atlases

<http://www9.biostr.washington.edu/da.html>

(5) Homo sapiens dissectatus

<http://www.uni-mainz.de/FB/Medizin/Anatomie/workshop/vishuman/Eready.html>

(6) The Whole Brain Atlas

<http://www.med.harvard.edu/AANLIB/home.html>

(7) The Human Brain

<http://www.thehumanbrain.info/>

(ドイツ語だが関連サイトの <http://teaching.thehumanbrain.info/>も参考になる。)

(8) Allen Brain Atlas

<http://www.brain-map.org/>

(9) Anatomy and Histology, Karolinska Institute

<http://www.mic.stacken.kth.se//Anatomy.html>

(10) Neuroanatomy & Neuropathology on the Internet

<http://www.neuropat.dote.hu/>

○ 成績評価の評価法

実習出席とスケッチ、筆記試験、場合により試問、レポートをあわせて行います。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

寺田 純雄 [terada.nana@tmd.ac.jp](mailto:terada.nana@tmd.ac.jp)

(面会希望の際はメールにより事前に相談願います。)

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後		神 經 解 剖 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/25	金	12:50～14:10	イントロダクション、神経系の発生総論	寺田純雄	3号館2階 医学科講義室1
10/25	金	14:20～15:40	脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経の観察	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/1	金	12:50～14:10	脊髄の組織学(1)	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/1	金	14:20～15:40	脊髄の組織学(2)	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/8	金	12:50～14:10	脳幹・小脳の分離, 菱形窩〔第四脳室〕, 脳幹スライス標本の観察	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/15	金	12:50～14:10	延髄, 橋の組織学	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/15	金	14:20～15:40	中脳の組織学	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/18	月	12:50～14:10	特別講義1/脳幹網様体・自律神経系	(大竹一嘉) (グラクソ・スミスクライン)	3号館2階 医学科講義室1
11/18	月	14:20～15:40	特別講義2/神経系の血流支配	(大竹一嘉)	3号館2階 医学科講義室1
11/22	金	12:50～14:10	小脳の皮質区分と小脳核, 線維結合の観察	寺田純雄	3号館2階 医学科講義室1
11/25	月	12:50～14:10	小脳の組織学(1)	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/25	月	14:20～15:40	小脳の組織学(2)	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/29	金	12:50～14:10	大脳の半切, 大脳皮質(区分), 第三脳室, 視床下部の観察	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/29	金	14:20～15:40	特別講義3/間脳の構造と機能(1)	(大竹一嘉)	3号館2階 医学科講義室1
12/9	月	12:50～14:10	島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等の観察(1)	寺田純雄	3号館2階 医学科講義室1
12/9	月	14:20～15:40	島皮質, 皮質における連合・交連・投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等の観察(2)	〃	3号館2階 医学科講義室1
12/13	金	12:50～14:10	特別講義4/間脳の構造と機能(2)	(大竹一嘉)	3号館2階 医学科講義室1
12/13	金	14:20～15:40	特別講義5/味覚と嗅覚	(大竹一嘉)	3号館2階 医学科講義室1
12/13	金	15:50～17:10	特別講義6/脳幹の解剖学のまとめ、前庭覚と聴覚	(八木沼洋行) (福島医大)	3号館2階 医学科講義室1
1/10	金	12:50～14:10	大脳皮質の組織学, 代表的な神経伝導路のまとめ(1)	寺田純雄	3号館2階 医学科講義室1
1/10	金	14:20～15:40	大脳皮質の組織学, 代表的な神経伝導路のまとめ(2)	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/17	金	12:50～14:10	特別講義7/特論(1)マウス遺伝学概論	(武井陽介) (東京大)	3号館2階 医学科講義室1
1/17	金	14:20～15:40	側脳室, 海馬と脳弓, 扁桃核, 視床, 基底核等の観察	寺田純雄	3号館2階 医学科講義室1
1/20	月	12:50～14:10	辺縁系と海馬の組織学	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/20	月	14:20～15:40	視覚伝導路	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/22	水	9:00～10:20	特別講義8/特論(2)形態学研究概論	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/22	水	10:30～11:50	特別講義9/特論(3)顕微測光法	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/24	金	12:50～14:10	大脳基底核	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/24	金	14:20～15:40	大脳のスライス標本の観察、まとめ	〃	3号館2階 医学科講義室1
2/10	月	9:00～10:20	神経解剖学試験		3号館2階 医学科講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		神 経 解 剖 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/25	金	15:50～17:10	マクロ実習1 脳の概観, 髄膜と血管, 脳神経	寺田純雄	3号館B1F
11/1	金	15:50～17:10	ミクロ実習1 脊髄	〃	3号館4F
11/8	金	14:20～17:10	マクロ実習2 脳幹・小脳の分離, 菱形窩 (第四脳室), 脳幹スライス標本	〃	3号館B1F
11/15	金	15:50～17:10	ミクロ実習2 脳幹(1)	〃	3号館4F
11/18	月	15:50～17:10	ミクロ実習3 脳幹(2)	〃	〃
11/22	金	14:20～17:10	マクロ実習3 小脳	〃	3号館B1F
11/25	月	15:50～17:10	ミクロ実習4 小脳	〃	3号館4F
11/28	木	12:50～17:10	補講	〃	
11/29	金	15:50～17:10	マクロ実習4 大脳の半切, 大脳皮質(区分)	〃	3号館B1F
12/9	月	15:50～17:10	マクロ実習5 島皮質, 皮質における連合・交連・ 投射線維, 視放線, 内包, 視床, 基底核等	〃	〃
1/10	金	15:50～17:10	ミクロ実習5 中心前回と後回	〃	3号館4F
1/17	金	15:50～17:10	マクロ実習6 側脳室, 海馬と脳弓, 扁桃体, 視床, 基底核等	〃	3号館B1F
1/20	月	15:50～17:10	ミクロ実習6 海馬, 視覚領	〃	3号館4F
1/24	金	15:50～17:10	マクロ実習7 大脳のスライス標本	〃	3号館B1F

## (英訳) Immunology I (Basic)・II (Clinical)

## ○ 科目を履修して得られる能力

日常生活の中で、体のなかに免疫システムが備わっているおかげで私たちの生命が守られているのだと実感することはまずない。しかし実際には、私たちの体は外からは細菌やウイルスなど病原体の侵入、内においては癌細胞の出現と、絶えず自己の存続を脅かすような危険にさらされている。事実、生まれつき免疫システムに障害がある原発性免疫不全症患者や後天的に免疫不全状態となるエイズ患者では重篤な感染症を繰り返し、また白血病や肉腫などの悪性腫瘍が多発する。一方、医療技術の進歩にともない、臓器移植や再生医療など本来免疫システムが想定していなかったような人為的な状況が出現し、拒絶反応など免疫反応の制御がクローズアップされてきている。また、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの免疫病も大きな社会問題となっている。

本科目を履修することにより、免疫システムがどのような基盤から成り立ち、全体としてどのように制御されて、私たちの身体を守ってくれているのかを理解することができる。さらにその理解にもとづき、臨床の現場で遭遇する感染症、悪性腫瘍、アレルギー疾患、自己免疫疾患、移植臓器の拒絶反応など免疫関連疾患がどのようにして引き起こされるのかを理解できるようになる。

## ○ 学習方法

一方向的授業ではなくインタラクティブな双方向授業をめざしているので、ただじっと聞いているだけではなく、疑問に感じたことを積極的に質問し、討議の輪をひろげる努力をすること。授業では免疫システムのおもしろさ・巧妙さをまず理解できるように的を絞って討議するため、網羅的な講義はしない。したがって、いずれかの教科書（英語のものが望ましい）を通読し、免疫システムの基本的理解を深めること。

「免疫Ⅰ」では、まず免疫システムの特徴を把握し、リンパ球をはじめとする免疫担当細胞がどのような相互作用を経て外来異物に対する免疫反応を引き起こすのか、どのような機構によって免疫反応が統御されているのかを分子レベル、細胞レベル、個体レベルで理解することをめざす。ひきつづいておこなわれる「免疫Ⅱ」では、アレルギー疾患や自己免疫疾患などの医療の現場で問題となる免疫病を理解するという観点から授業がおこなわれるので、「免疫Ⅰ」で免疫システムの基本をしっかりと理解しておく必要がある。

## ○ 教科書

1. Immunobiology 8<sup>th</sup> Edition 2011年発刊、Garland Science社（日本語訳が南江堂から「免疫生物学」として出ているが原著第7版に基づくもの）：免疫教科書の定番
2. Cellular and Molecular Immunology 7<sup>th</sup> Edition (with Student Consult Online Access) 2011年発刊、Saunders社（日本語訳がエルゼビア・ジャパン社から「分子細胞免疫学」として出ているが原著第5版に基づくもの）：免疫教科書の定番

3. The Immune System 3<sup>rd</sup> Edition 2009 年発刊、Garland Science 社（日本語訳がメディカル・サイエンス・インターナショナル社から「エッセンシャル免疫学」として出ている）
4. 医系免疫学 改訂 12 版 2011 年発刊、中外医学社

○ 参考書

1. もっとよくわかる！免疫学（実験医学別冊、著者：河本宏）羊土社
2. 新・現代免疫物語 「抗体医薬」と「自然免疫」の驚異（ブルーバックス、著者：岸本忠三、中嶋彰）講談社

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

免疫 I、免疫 II に関して、それぞれ筆記試験をおこない評価する。また、各授業中に理解度を把握するため適宜小テストをおこなうことがある。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

烏山 一（[karasuyama.mbch@tmd.ac.jp](mailto:karasuyama.mbch@tmd.ac.jp)）

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後		免 疫 学 I			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/25	金	9:00～10:20	1. 序論「免疫系の機能と特徴」	烏山 一	3号館2階 医学科講義室1
10/25	金	10:30～11:50	2. 免疫系を構築する細胞・器官と役割	烏山 一	3号館2階 医学科講義室1
10/28	月	12:50～14:10	3. 抗体の働き・構造と補体の役割	烏山 一	3号館2階 医学科講義室1
10/28	月	14:20～15:40	4. 抗体遺伝子の特徴と再構成	烏山 一	3号館2階 医学科講義室1
10/29	火	12:50～14:10	5. B細胞の機能と分化	烏山 一	3号館2階 医学科講義室1
10/29	火	14:20～15:40	6. T細胞の種類と機能	神奈木 真理	3号館2階 医学科講義室1
10/31	木	12:50～14:10	7. T細胞の抗原認識	神奈木 真理	3号館2階 医学科講義室1
10/31	木	14:20～15:40	8. T細胞の発生と自己寛容の成立	神奈木 真理	3号館2階 医学科講義室1
11/1	金	9:00～10:20	9. NK細胞の機能と自己非自己識別機構	(反町 典子)	3号館2階 医学科講義室1
11/1	金	10:30～11:50	10. 共受容体による免疫調節、免疫寛容	東 みゆき	3号館2階 医学科講義室1
11/5	火	9:00～10:20	11. サイトカインによる免疫制御	中村 正孝	3号館2階 医学科講義室1
11/5	火	10:30～11:50	12. 自然免疫と獲得免疫の相互作用	鏑田 武志	3号館2階 医学科講義室1
11/11	月	9:00～10:20	13. 粘膜免疫	樗木 俊聡	3号館2階 医学科講義室1
1/7	火	9:00～10:20	免疫学 I 試験		3号館2階 医学科講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後		期 免 疫 学 II			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
11/11	月	10:30~11:50	1. 腸管の免疫と炎症	渡辺 守	3号館2階 医学科講義室1
11/12	火	9:00~10:20	2. HLAと疾患	木村 彰方	3号館2階 医学科講義室1
11/12	火	10:30~11:50	3. 臓器移植と免疫	磯部 光章	3号館2階 医学科講義室1
11/15	金	9:00~10:20	4. 感染症と免疫	神奈木 真理	3号館2階 医学科講義室1
11/15	金	10:30~11:50	5. 腫瘍と免疫	神奈木 真理	3号館2階 医学科講義室1
11/19	火	9:00~10:20	6. 先天性免疫不全症	今井 耕輔	3号館2階 医学科講義室1
11/19	火	10:30~11:50	7. 後天性免疫不全症 (AIDSを中心に)	神奈木 真理	3号館2階 医学科講義室1
11/22	金	9:00~10:20	8. アレルギー	横関 博雄	3号館2階 医学科講義室1
11/22	金	10:30~11:50	9. 骨と免疫	中島 友紀	3号館2階 医学科講義室1
11/25	月	9:00~10:20	10. 妊娠と免疫 (生殖免疫) : 不育症	(己斐 秀樹)	3号館2階 医学科講義室1
11/25	月	10:30~11:50	11. 自己免疫疾患	上阪 等	3号館2階 医学科講義室1
11/27	水	14:20~15:40	12. 加齢と免疫異常	(廣川 勝昱)	3号館2階 医学科講義室1
1/8	水	9:00~10:20	免疫学 II 試験		3号館2階 医学科講義室1

(英訳) Basic Neuroscience

○科目を履修して得られる能力

【別表】のとおり

○学習方法

ほんのしばらく前までは、夢物語であった脳の働き、たとえば学習、記憶、思考などの機能の解明には、どの辺を攻めれば近づけるかという戦略が、日常の研究の中に現れる時代になってきた。そうすると固定した概念からなる従来の生理学、解剖学、生化学、薬理学という枠組みで物を考えるわけには行かなくなる。世界の趨勢ではこのような分野をまとめて神経科学 (Neuroscience) と総称し、上述のような問題、あるいはそれにいたるための種々の基礎的な研究を一堂に論じる場が 30 年ほど前に生まれた。幸いこの大学には神経科学分野に身をおく研究者が多いので、授業科目にもこの総合的な考えを持ち込むこととした。もちろん上のような機能の問題に直ちに取り組めないが、最終的な目標をそのあたりに置いていることを授業担当者が自覚して、基礎的な形態、機能、物質、それに薬物の作用などと共に、初歩的な臨床の問題までをできるだけ理解しやすいように配列して講義、実習に臨む予定である。

正常状態における神経系の理解は、異常状態における神経系の病態の理解に必要な不可欠であるので、知識の羅列としてではなく、科学的な物の見方、考え方にたって内容を理解できる学生を育成することを考えて授業を進める。臨床医学に基礎医学がどのように繋がっていくかが理解できるようにする努力をこれに加えたい。

神経系は部分に分けて、一つずつを独立のものとして考えることが不可能な構造物である。したがってすべての講義に出席してはじめて全体が把握できるということを念頭に置いて欲しい。授業時間は限られており、すべての領域を含むことができないだけでなく、授業を聞くだけで充分理解が得られないのは当然である。受動的に学ぶのではなく、自ら学ぶことを学生時代に身につけて欲しい。

神経生理学については「神経生理学導入」で扱う神経細胞の機能の理解を基礎として、感覚・運動・高次機能等のシステム別に神経系の機能を論じる。

神経薬理学は、神経系の薬物に対する反応が話題の中心となるが、その基礎としてのレセプター、チャネルの構造、機能から説き起こし、個体の反応にまで進む。

○ 教科書

神経科学

E.R.Kandel, J.H.Schwartz and T.M.Jessell, Principles of Neural Science

(5th ed.) McGraw Hill, 2013.

脳神経科学 伊藤正男 他、三輪書店 2003.

神経生理学

小澤澗司 他、標準生理学 第7版 医学書院 2009.

J. G. Nicholls, From Neuron to Brain 5th ed., Sinauer, 2012

L. Squire, Fundamental Neuroscience, 4th ed., Academic, 2012.

神経薬理学

ハーバード大学テキスト病態生理に基づく臨床薬理学 MEDSi 2006

Siegel et al., Basic Neurochemistry, (8th ed.) Lippincott Williams of Wilkins 2012.

The Pharmacological Basis of Therapeutics McGraw Hill 12版 2011

○ 成績評価の方法

講義担当者が所属する分野毎（システム神経生理学、細胞薬理学）に試験を行い、それぞれに合格しなければならない。詳細については、必要に応じて掲示する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

杉原 泉 （生理） isugihara.phy1@tmd.ac.jp

田邊 勉 （薬理） t-tanabe.mphm@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		神経科学・基礎				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室	
10/28	月	9:00~10:20	運動系の中樞神経制御機構 脊髄Ⅰ(運動ニューロンと筋)	杉内友理子	3号館2階 医学科講義室1	
10/28	月	10:30~11:50	運動系の中樞神経制御機構 脊髄Ⅱ(脊髄反射)	"	3号館2階 医学科講義室1	
10/29	火	9:00~10:20	運動系の中樞神経制御機構 大脳運動野の機能	伊澤佳子	3号館2階 医学科講義室1	
11/5	火	12:50~14:10	運動系の中樞神経制御機構 錐体路とその障害の病態生理	"	3号館2階 医学科講義室1	
11/5	火	14:20~15:40	感覚系の生理学 ①体性感覚系 Ⅰ.末梢受容器の性質	杉内友理子	3号館2階 医学科講義室1	
11/6	水	14:20~15:40	感覚系の生理学 ①体性感覚系 Ⅱ.中枢機構	"	3号館2階 医学科講義室1	
11/11	月	12:50~14:10	感覚系の生理学 ①体性感覚系 Ⅲ.痛覚	"	3号館2階 医学科講義室1	
11/11	月	14:20~15:40	感覚系の生理学 ②視覚系 Ⅰ.網膜	伊澤佳子	3号館2階 医学科講義室1	
11/12	火	12:50~14:10	感覚系の生理学 ②視覚系 Ⅱ.色覚	"	3号館2階 医学科講義室1	
11/14	木	12:50~14:10	感覚系の生理学 ②視覚系 Ⅲ.中枢機構	"	3号館2階 医学科講義室1	
11/14	木	14:20~15:40	感覚系の生理学 ③前庭系 Ⅰ.前庭脊髄系と筋トーンス	杉内友理子	3号館2階 医学科講義室1	
11/19	火	12:50~14:10	感覚系の生理学 ③前庭系 Ⅱ.前庭眼反射	"	3号館2階 医学科講義室1	
11/19	火	14:20~15:40	感覚系の生理学 ④聴覚系 Ⅰ.末梢機構	杉原 泉	3号館2階 医学科講義室1	
11/20	水	12:50~14:10	感覚系の生理学 ④聴覚系 Ⅱ.中枢機構	(佐藤悠)	3号館2階 医学科講義室1	
11/20	水	14:20~15:40	自律神経系Ⅰ(自律神経系の生理学-1)	杉原 泉	3号館2階 医学科講義室1	
11/26	火	12:50~14:10	自律神経系Ⅱ(自律神経系の生理学-2)	"	3号館2階 医学科講義室1	
11/26	火	14:20~15:40	感覚系の生理学 ⑤体内の化学感覚・機械感覚	"	3号館2階 医学科講義室1	
11/27	水	12:50~14:10	自律神経系Ⅲ(視床下部と自律神経系中枢)	"	3号館2階 医学科講義室1	
12/10	火	9:00~10:20	イオンチャンネルとレセプターⅠ	田邊 勉	3号館2階 医学科講義室1	
12/10	火	10:30~11:50	イオンチャンネルとレセプターⅡ	"	3号館2階 医学科講義室1	
12/11	水	9:00~10:20	自律神経系Ⅳ(交感神経作動薬)	三枝弘尚	3号館2階 医学科講義室1	
12/11	水	10:30~11:50	自律神経系Ⅴ(副交感神経作動薬)	"	3号館2階 医学科講義室1	
12/12	木	12:50~14:10	シナプスⅣ(神経筋接合部)	田邊 勉	3号館2階 医学科講義室1	
12/12	木	14:20~15:40	シナプスⅤ(分子生物学)	"	3号館2階 医学科講義室1	
12/17	火	9:00~10:20	カルシウムと細胞内情報伝達系	"	3号館2階 医学科講義室1	
12/17	火	10:30~11:50	運動系の中樞神経制御機構 小脳の機能Ⅰ	杉原 泉	3号館2階 医学科講義室1	
12/18	水	9:00~10:20	" 小脳の機能Ⅱ	"	3号館2階 医学科講義室1	

平成25年度医学部医学科授業内容

12/18	水	10:30~11:50	運動系の中樞神経制御機構 視床と基底核	杉内友理子	3号館2階 医学科講義室1
12/20	金	9:00~10:20	” 基底核と不随意運動の病態生理	”	3号館2階 医学科講義室1
12/20	金	10:30~11:50	脳高次機能と中枢神経薬理 脳幹賦活系と睡眠	杉原 泉	3号館2階 医学科講義室1
1/15	水	9:00~10:20	” グリア細胞の機能	田中光一	3号館2階 医学科講義室1
1/15	水	10:30~11:50	運動系の中樞神経制御機構 眼球運動	高橋真有	3号館2階 医学科講義室1
1/21	火	9:00~10:20	脳高次機能と中枢神経薬理 脳高次機能(空間識、失認、前頭葉機能)	伊澤佳子	3号館2階 医学科講義室1
1/21	火	10:30~11:50	” 睡眠障害	西川 徹	3号館2階 医学科講義室1
1/28	火	9:00~10:20	” 感覚-運動変換と失語・失行	高橋真有	3号館2階 医学科講義室1
1/28	火	10:30~11:50	” 意志決定と社会的行動の脳機能	(中原裕之)	3号館2階 医学科講義室1
1/29	水	10:30~11:50	” 中枢神経薬理	三枝弘尚	3号館2階 医学科講義室1
2/4	火	10:30~11:50	” 精神神経薬理	”	3号館2階 医学科講義室1
2/5	水	10:30~11:50	” 辺縁系と報酬系	杉原 泉	3号館2階 医学科講義室1
2/7	金	10:30~11:50	” 記憶と学習	”	3号館2階 医学科講義室1
2/19	水	9:00~10:20	神経科学(生理)試験		3号館2階 医学科講義室1
2/20	木	9:00~10:20	神経科学(薬理)試験		3号館2階 医学科講義室1

## (英訳) Infection

## ○ 科目を履修して得られる能力

微生物とは肉眼で認めることのできない小さな生物の総称である。微生物は分類的に多種にわたり、その中にはウイルス、細菌および真菌などが含まれるが、このような生物を研究する科学が微生物学であり、それらによって引き起こされる病態が感染症である。医学の進歩により、多くの病原体による疾病の治療は可能になった。しかし近年、エイズ、C型肝炎、SARS、インフルエンザ、ヘリコバクターピロリあるいはメチシリン耐性ブドウ球菌感染症などの新興、再興感染症が新たな問題を提起している。感染基礎の講義では、微生物に関する基礎的知識と感染症の知識を身につけることを目標とする。学生は講義を通して微生物の構造、増殖、機能、遺伝に関する原理を理解し、別に行われる実習によって病原体の取り扱い、検査法、測定方法、感染メカニズムについて学ぶ。

## ○ 学習方法

病原体総論では微生物の概念と歴史、細菌の分類、構造、染色、代謝、培養について学ぶ。さらに微生物がなぜ宿主に感染病態をきたすのかについて学ぶ。

## 1. 細菌学

- 1) 総論的に細菌感染、遺伝学、薬物治療について学び、グラム陽性菌とグラム陰性菌に分けて基礎的事項を学ぶ。
- 2) 比較的稀な微生物（ノカルジア、放線菌、嫌気性菌、梅毒、リケッチア）についても学ぶ。
- 3) 抗酸菌の基礎的事項についての講義を通して結核、非定型抗酸菌の全体像を把握する。
- 4) 真菌に関しても同様に講義で理解する。

## 2. ウイルス学

- 1) ウイルス学総論ではウイルスの一般的性状、ウイルス粒子の構造、増殖、組織培養法および定量法等について学ぶ。
- 2) ウイルスの核酸と遺伝、干渉とインターフェロン、腫瘍発生、ウイルス感染症の治療、防疫、疫学および予防について学ぶ。
- 4) 病原因子、宿主因子、感染防御機構などについて学ぶ。
- 5) 各論ではRNAウイルス、DNAウイルスに分けて、ヒトの病原ウイルスについて詳しく学ぶ。

## 3. プリオン

蛋白性感染因子であるプリオンの性状と病原性プリオンが起す疾患について学ぶ。

講義及び実習には必ず出席すること。特に実習ではウイルスが感染した細胞あるいは細菌の集落等を実際に観察するなど、ほとんどの学生にとっては二度とない大切な機会となるので欠席しないこと。また病原微生物を実際に扱うので、教官の注意をよく守り感染しないように努める。

感染は医学の多くの科目と深い関係をもっている。特に免疫学、公衆衛生学、病理学、衛生学、医動物学、臨床面では内科学、外科学、小児科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学等と密接な関係がある。

○ 教科書・参考書

書名	著者名	発行所名
エッセンシャル微生物	高木 篤	医歯薬出版
戸田新細菌学	天児和暢	南山堂
標準微生物学	横田 健	医学書院
微生物学実習提要	東京大学医科学研究所	丸善
医学ウイルス学	White, Fenner	近代出版
一目でわかる微生物学と感染症	Stephen H. Gillespie & Kathleen B. Bamford	メディカル・サイエンス・ インターナショナル
Medical Microbiology (Eighteenth Ed.)	E.Jawetz	Maruzen Asia Ed.
Zinsser Microbiology (Nineteenth Ed.)	Joklil, Willett, Amos, Wilfert	Appleton Lange
Microbiology (Fourth Ed.)	Davis, Dulbecco, Eisen, Ginsberg	Lippincott
Fields Virology	Kripe, Howley	Lippincott

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

講義に関しては筆答試験で学習成果を問う。実習に関してはレポートを提出させ、筆答試験で学習成果を問う。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

山岡昇司    shojmmb@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		感 染 ・ 基 礎			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/29	火	10:30～11:50	病原体総論	山岡昇司	3号館2階 医学科講義室1
10/30	水	12:50～14:10	細菌学総論	(堀内三吉)	3号館2階 医学科講義室1
10/30	水	14:20～15:40	細菌感染の治療と予防	(岡村 登)	3号館2階 医学科講義室1
11/6	水	12:50～14:10	細菌遺伝学	中村正孝	3号館2階 医学科講義室1
11/7	木	12:50～14:10	グラム陽性菌の基礎知識	(堀内三吉)	3号館2階 医学科講義室1
11/7	木	14:20～15:40	グラム陰性菌の基礎知識	(岡村 登)	3号館2階 医学科講義室1
11/8	金	9:00～10:20	その他の病原体(嫌気性菌、リケッチア)	(堀内三吉)	3号館2階 医学科講義室1
11/8	金	10:30～11:50	ウイルス学総論	山岡昇司	3号館2階 医学科講義室1
11/12	火	14:20～15:40	ウイルスの複製と遺伝学	山岡昇司	3号館2階 医学科講義室1
11/13	水	12:50～14:10	RNAウイルス各論(1)	佐久間龍太	3号館2階 医学科講義室1
11/13	水	14:20～15:40	RNAウイルス各論(2)	山岡昇司	3号館2階 医学科講義室1
11/18	月	9:00～10:20	ヒトレトロウイルス感染症	佐久間龍太	3号館2階 医学科講義室1
11/18	月	10:30～11:50	ウイルス感染症の化学療法	佐久間龍太	3号館2階 医学科講義室1
11/21	木	12:50～14:10	DNAウイルス各論(1)	斉藤愛記	3号館2階 医学科講義室1
11/21	木	14:20～15:40	DNAウイルス各論(2)	斉藤愛記	3号館2階 医学科講義室1
11/26	火	9:00～10:20	腫瘍ウイルス	山岡昇司	3号館2階 医学科講義室1
11/26	火	10:30～11:50	感染免疫とワクチン	武内寛明	3号館2階 医学科講義室1
11/27	水	9:00～10:20	人畜共通感染症と新興・再興ウイルス感染症	武内寛明	3号館2階 医学科講義室1
11/27	水	10:30～11:50	輸入感染症	太田伸生	3号館2階 医学科講義室1
11/29	金	9:00～10:20	ウイルスベクターと研究応用	野阪哲哉	3号館2階 医学科講義室1
11/29	金	10:30～11:50	プリオン病	山岡昇司	3号館2階 医学科講義室1
2/18	火	9:00～10:20	感染・基礎試験		3号館2階 医学科講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		感 染 ・ 基 礎 実 習		授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
年 月 日	曜 日	授 業 時 間				
1/27	月	12:50～17:10		感染・基礎実習	山岡昇司 他	3号館5階 学生実習室
1/28	火	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室
1/29	水	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室
1/30	木	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室
1/31	金	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室
2/3	月	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室
2/4	火	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室
2/5	水	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室
2/6	木	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室
2/7	金	12:50～17:10	〃		〃	3号館5階 学生実習室

(英訳) Oriental Medicine

- 科目を履修して得られる能力
  - 東洋医学の基礎的な概念（陰陽論、五行論、気血津液、八綱弁証、臓腑概念、病態観、証）を理解し、説明できる。
  - 東洋医学の診断、治療の概念、薬学・方剤学の基礎について理解し、説明できる。
- 学習方法
  - 講義
- 教科書
  - 「標準東洋医学」 金原出版 仙頭正四郎
- 参考書
  - 基礎理論の理解に
    - 「中医学入門」神戸中医学研究会編著 医歯薬出版
    - 「中医学の基礎」平馬直樹・兵頭明・路京華・劉公望監修、東洋学術出版社
  - 一般向けの平易な内容で東洋医学理論を理解する
    - 「読体術:体質判別・養生論」仙頭正四郎 農文協
  - 臨床的な治療内容を含む
    - 「入門漢方医学」 日本東洋医学会学術教育委員会 編集 南江堂
    - 「症例から学ぶ和漢診療学 2 版」 寺澤 捷年著 医学書院
    - 「改訂・中医学基礎」上海中医学学院編 神戸中医学研究会訳 燎原
    - 「簡明 漢方医学」三重大学 東洋医学研究会
- 参照 URL
  - <http://www.jtcma.org/>
  - <http://www.jsom.or.jp/>
- 成績評価の評価法
  - 筆記試験
  - 多肢選択問題（連問形式）
- 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）
  - 別府正志 tmdustudent@masashi.beppu.ac

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		東 洋 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
10/30	水	9:00～10:20	葛根湯でなぜ風邪が治るのか一煎じ薬の体験一	仙頭 正四郎	3号館2階 医学科講義室1
10/30	水	10:30～11:50	陰陽論と気血津液・八綱弁証	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/6	水	9:00～10:20	五行説と臓腑概念	別府 正志	3号館2階 医学科講義室1
11/6	水	10:30～11:50	病態観(病因病機・素因誘因・内因外因)と証の概念	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/13	水	9:00～10:20	東洋医学的診断の概念と技術(四診と弁証)	仙頭 正四郎	3号館2階 医学科講義室1
11/13	水	10:30～11:50	症候の分析と治療	〃	3号館2階 医学科講義室1
11/20	水	9:00～10:20	治療概念(予防と治療の原則・標治本治)	別府 正志	3号館2階 医学科講義室1
11/20	水	10:30～11:50	中薬学・方剂学総論(四気五味・君臣佐使)	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/17	金	9:00～10:20	東洋医学試験		3号館2階 医学科講義室1

(英訳) Pathology

○科目を履修して得られる能力

病理学とは、ヒトの疾病の理論を扱う学問であり、主に細胞・組織・臓器の形態像に基づき、各種疾患の原因・進行・転帰を追究していく。ヒトの疾患は大きく腫瘍性疾患と非腫瘍性疾患に分類されるが、腫瘍についての学習は「腫瘍学」に譲り、「病理学総論」においては非腫瘍性疾患に焦点を絞って、主に炎症、免疫、循環障害、代謝障害の概念・病態生理について学ぶ。「腫瘍学」および「病理学総論」にて得られる知識は、全ての疾患を理解するための“縦糸”となり、その後予定されている授業で学ぶ各臓器の個々の疾患に関する各論的知識を“横糸”として組み合わせることで、ヒトの“病気”の姿が明確に織り成されるのである。

○学習方法

本科目は、1週間に講義と実習の全てを集中させた「病理総論ブロック」として授業が行われる。学生は数人ごとの小グループに分かれ、各グループには、病理学総論の4つの大テーマに関連して幾つかの課題が与えられる。ブロック週の前半はその課題に対する調査・探究をするための自習時間が多く取られる。授業は各班による課題の発表を主体として、学生同士で知識の共有とより深い理解を求められる。教官は網羅的授業は行わず、発表に対する補足の説明にとどまる。その後、テーマに関連する標本の顕微鏡実習を行う。講義と実習は必要最小限度にとどめてあり、自習時間を利用した、学生自身の十分な自己学習が求められる。

○授業のキーワード

細胞傷害、循環障害、代謝障害、炎症、免疫病理、遺伝子異常

○教科書・参考書

(1) Robbins & Cotran Pathologic Basis of Disease 8th ed. W B Saunders Co.

連携ウェブサイトあり。教科書付属のシリアルナンバー登録により、本文・図表の全てをウェブ上で閲覧可能。

(2) ロビンス基礎病理学 廣川書店

(1)の簡約版(Robbins Basic Pathology)の旧版の翻訳。

(3) 標準病理学 第3版 医学書院

編集協力：北川昌伸。

(4) 組織病理学アトラス 第5版 文光堂

(5) 外科病理学 文光堂

(6) 現代の病理学(総論、各論) 金原出版

(7) 病理学(総論、各論) 文光堂

### ○他科目との関連

病理学はヒトの正常形態・機能を基盤として病的状態を学ぶ学問であるから、あらゆる基礎医学・臨床医学と強く関連している。すなわち病理学は、基礎と臨床を結ぶ学際的分野である。

### ○成績評価の方法

ブロック週の翌々週に筆記試験を予定している。試験範囲は、講義・実習およびブロック週の全課題、のすべての内容である。

### ○受講上の注意

病理学はこれから臨床医学を学ぶ道程の一里塚であり、病理学講義では病気に関する数多くの医学用語に初めて接するところでもある。以後に続く臨床医学の講義に際しては、病理学総論に登場する医学用語の概念や各種病態を正しく把握しているか否かが、その理解度を大きく左右する。

一方、病理学はヒトの病的なことの理論であるから、その基盤は当然、正常状態にある。従って病理学を学習する際には、常に正常状態との対比を忘れてはならない。

☆具体的な日程および内容に関しては、事前に行う説明会にて説明します。

### ○担当窓口

人体病理学分野 小林大輔

Eメール：d-koba.pth1@tmd.ac.jp

# 平成25年度医学科第2学年「病理学総論」ブロック時間割

曜日 時間割	12/2(月)	12/3(火)	12/4(水)	12/5(木)	12/6(金)
1 9:00-9:50	病理総論概説 (包括病理学 北川教授)	学生発表 <炎症>	学生発表 <免疫>	(教養/歯学)基礎教 (育)	学生発表 <細胞障害・代謝障害>
2 10:00-10:50	ブロックの進め方につ いての説明 自習	解説・講義(炎症) (包括病理学 北川教授)	解説・講義(免疫) (人体病理学 江石教授)		細胞障害 代謝疾患 (人体病理学 伊藤(崇)助 教)
3 11:00-11:50					
4 12:50-13:40	自習	実習(炎症) (包括病理学 北川教授)	実習(免疫) (人体病理学 江石教授)	学生発表 <循環障害>	細胞・代謝障害:実習 (人体病理学 伊藤(崇)助 教)
5 13:50-14:40				循環障害 (人体病理学 小林助教)	
6 14:50-15:40		自習	自習	実習(循環障害) (人体病理学 小林助教)	自習
7 15:50-16:40					

\* 概説・学生発表・講義:3号館2階医学科講義室1 実習:3号館4階実習室

(英訳) Medical Zoology

○ 科目を履修して得られる能力

(A) 病原体としての寄生虫および宿主との相互作用の生物学的理解と研究能力の修得

- ・ 寄生虫の形態、代謝、生殖などの知識が得られる
- ・ 寄生虫に特有の感染防御免疫、免疫回避機構および免疫病因論の理解ができる

(B) 臨床寄生虫病学の基本的知識の修得

- ・ 寄生虫病の診断、治療、予防についての基本的な臨床能力が備わる
- ・ 診断法、治療法、ワクチンを含む予防法開発など今日の医療イノベーションに関する知識が備わる
- ・ 渡航者の安全を向上するための感染予防に関する指導能力が備わる

(C) 寄生虫感染症の社会医学的意義の修得

- ・ 寄生虫病ワクチンが実現できないことから、感染症予防の基本である病気の知識と行動変容の重要性を理解した医師になる
- ・ 生活環境中の寄生虫汚染の実態を学習し、感染のリスク評価をおこなう能力が備わる
- ・ 国際感染症としての寄生虫病の理解を通じて国際的視野が備わり、検疫行政や渡航医学等の専門性が獲得できる
- ・ 熱帯感染症としての寄生虫病を理解し、国際医療協力に必要とされる知識が備わる
- ・ 途上国医療に関係する国際機関や NGO の業務に必要な基礎知識が修得できる

○ 学習方法

講義で対象疾患に関するアウトライン（病原体の形態学、生理・生化学、遺伝学、疫学、生活史、臨床所見、病理、診断、治療、予防など）を教授するので、知識を修得した上で実習により実際の病原体と宿主の病理を観察する。講義では資料を当日配布するので、それにより講義内容を理解し、実習で寄生虫および寄生虫感染症の知識を確認すると共に、そこから様々な問題、疑問などについて教員と協議を行う。実習では永久標本だけではなく、生標本の供覧に努め、生きた知識を涵養する方法を摂る。

○ 教科書

特に指定しない。講義内容を解説した講義プリントを毎回配付するので、学習はこれに沿って進め、適宜参考書にあたりながら学習すること。

○ 参考書

図説人体寄生虫学 吉田幸雄、有菌直樹 著、南山堂 (2011)

標準医動物学 石井 明、鎮西康雄、太田伸生 編、医学書院 (1998)

寄生虫学テキスト 上村清 ほか編集、文光堂 (2003)

Medical Parasitology, E.K. Markel (ed), Saunders (2006)

Diagnostic Medical Parasitology, L. S. Gracia, ASN Press (2001)

Manson's Tropical Diseases, P. E. C. Manson-Bahr & D. R. Bell, Bailliere Tindall

Entomology in Human and Animal Health, Harwood & James

○ 成績評価の評価法

医動物学講義に関する筆答試験、および医動物学実習に関する標本識別能力の試験による

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

太田伸生（matata.vip@tmd.ac.jp）

赤尾信明（ocha.vip@tmd.ac.jp）

熊谷 貴（tkuma.vip@tmd.ac.jp）

関 丈典（sekivet.vip@tmd.ac.jp）

狩野繁之（国立国際医療研究センター）（kano@ri.ncgm.go.jp）

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後		医 動 物 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
12/9	月	9:00～10:20	医動物学総論	太田伸生	3号館2階 医学科講義室1
12/9	月	10:30～11:50	線虫病(1) 腸管寄生線虫症	赤尾信明	3号館2階 医学科講義室1
12/10	火	12:50～14:10	線虫病(2) フィラリア症	〃	3号館2階 医学科講義室1
12/10	火	14:20～15:40	線虫病(3) 幼線虫移行症	〃	3号館2階 医学科講義室1
12/11	水	12:50～14:10	吸虫病(1) 肺吸虫症、肝吸虫症、横川吸虫症ほか	関 文典	3号館2階 医学科講義室1
12/11	水	14:20～15:40	吸虫病(2) 住血吸虫症	熊谷 貴	3号館2階 医学科講義室1
12/13	金	9:00～10:20	条虫病(1) 腸管寄生条虫症	太田伸生	3号館2階 医学科講義室1
12/13	金	10:30～11:50	条虫病(2) エキノコックス症、囊虫症、弧虫症	赤尾信明	3号館2階 医学科講義室1
12/16	月	9:00～10:20	原虫病(1) 腸管寄生原虫症	〃	3号館2階 医学科講義室1
12/16	月	10:30～11:50	原虫病(2) トキソプラズマ症、膾トリコモナス症	熊谷 貴	3号館2階 医学科講義室1
1/10	金	10:30～11:50	原虫病(3) マラリア	太田伸生	3号館2階 医学科講義室1
1/14	火	9:00～10:20	原虫病(4) トリパノソーマ症、リーシュマニア症	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/14	火	10:30～11:50	節足動物	篠永 哲	3号館2階 医学科講義室1
1/17	金	10:30～11:50	有害動物	〃	3号館2階 医学科講義室1
1/20	月	9:00～10:20	寄生虫病診断学	赤尾信明	3号館2階 医学科講義室1
1/20	月	10:30～11:50	寄生虫病治療学	太田伸生	3号館2階 医学科講義室1
2/3	月	10:30～11:50	特別講義 「アジアのマラリアの動向」	狩野繁之	3号館2階 医学科講義室1
2/17	月	9:00～10:20	医動物学試験		3号館2階 医学科講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

2 学 年 後 期		医動物学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
1/15	水	12:50～17:10	線虫類(1) 消化管寄生線虫、動物由来線虫	全員	3号館5階 学生実習室
1/16	木	12:50～17:10	線虫類(2)・節足動物 フィラリア、ダニ、ノミ、シラミ	全員	3号館5階 学生実習室
1/22	水	12:50～17:10	吸虫類 肺吸虫、肝吸虫、横川吸虫、住血吸虫ほか	全員	3号館5階 学生実習室
1/23	木	12:50～17:10	条虫類 腸管寄生条虫、エキノコックス、囊虫症ほか	全員	3号館5階 学生実習室
2/10	月	12:50～17:10	原虫類(1) マラリア原虫	全員	3号館5階 学生実習室
2/12	水	12:50～17:10	原虫類(2) 消化管寄生原虫・糞便検査法	全員	3号館5階 学生実習室
2/13	木	12:50～17:10	原虫類(3) 組織寄生原虫	全員	3号館5階 学生実習室
2/14	金	12:50～17:10	医動物学実習試験		3号館5階 学生実習室

# 授 業 概 要

(第 3 学 年)

授業科目 腫瘍学

江石 義信  
授業責任者  
北川 昌伸

(英訳) Oncology

○ 科目を履修して得られる能力

この科目は1週間の間に講義と実習全てを集中して、「腫瘍学ブロック」として授業が行われる。この科目は、腫瘍とは何かという問題に始まり、腫瘍の特徴を病理学、分子生物学、疫学など様々な視点から概観することを目的とする。診断や治療などの臨床的側面についてはこの授業科目では扱わず、後に臨床各科やクリニカルワークシップなどにおいて扱われる。

授業の方法としては、ブロック期間中3回の PBL を軸とし、講義によって腫瘍全般に関わる基礎知識を、また顕微鏡自習によって代表的な腫瘍の観察を補完する。

○ 学習方法

各授業の開始時間に注意してください。

PBL の内容を深めるために、講義や実習で直接触れられなかった点についても自己学習が求められます。

○ 教科書

腫瘍に関する全体を腫瘍学としてまとめた教科書はない。腫瘍学は病理学総論と臨床各科の教科書の腫瘍部分を参考にされたい。

○ 参考書

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

筆記試験を行い、PBL や実習の出席状況などを加味して、総合的に判定する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

包括病理学分野 倉田 盛人 kurata.pth2@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前		腫 瘍 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/8	月	9:00～10:00	腫瘍の発生と分類	江石 義信	3号館3階 医学科講義室2
4/8	月	10:10～12:20	PBL解説	山口久美子	3号館3階 医学科講義室2
4/8	月	13:30～14:30	腫瘍の形態と良悪性	北川 昌伸	3号館3階 医学科講義室2
4/8	月	14:40～15:40	腫瘍の発育, 進展	北川 昌伸	3号館3階 医学科講義室2
4/9	火	9:00～10:00	発癌原因〈放射線と癌〉	澁谷 均	3号館3階 医学科講義室2
4/9	火	10:10～12:20	実習	小林 大輔	3号館3階 医学科講義室2
4/9	火	13:30～14:30	腫瘍マーカー	東田 修二	3号館3階 医学科講義室2
4/9	火	14:40～15:40	発癌原因〈ウイルスと癌〉	北川 昌伸	3号館3階 医学科講義室2
4/10	水	9:00～10:00	癌の疫学	高野 健人	3号館3階 医学科講義室2
4/10	水	10:10～12:20	大教室PBL		3号館3階 医学科講義室2
4/10	水	13:30～14:30	遺伝子変化と癌①	秋山 好光	3号館3階 医学科講義室2
4/10	水	14:40～15:40	遺伝子変化と癌②	秋山 好光	3号館3階 医学科講義室2
4/11	木	12:50～14:10	遺伝性疾患と腫瘍	湯浅 保仁	3号館3階 医学科講義室2
4/11	木	14:20～15:40	発がん物質	湯浅 保仁	3号館3階 医学科講義室2
4/12	金	9:00～10:00	癌と分化	深町 博史	3号館3階 医学科講義室2
4/12	金	10:10～12:20	実習	倉田 盛人	3号館3階 医学科講義室2
4/12	金	13:30～15:40	大教室PBL まとめ		3号館3階 医学科講義室2

(英訳) Forensic Medicine

- 科目を履修して得られる能力
  - (1) 死因、および、死因の種類を判断し、死体検案書（死亡診断書）を正しく作成できる。
  - (2) 外因死について、一般の人に分かりやすく説明できる。
  - (3) 異状死届けの必要な場合を全部説明できる。
  
- 学習方法

講義（系統的講義および応用的講義）と実習を行う。

系統的講義は次の項目を含み、死体検案に必要な知識を中心に講義する。内容は、死体現象、鋭器損傷、鈍器損傷、交通外傷・頭部損傷、窒息、環境異常（凍死・焼死・感電死など）、個人識別、中毒、内因性急死、など。応用的講義は、主として実務問題の解決に必要な知識や死因究明制度を中心に講義する。

実習では法医学特有の事項を体験することを目標として、次の項目を予定している。

症例検討、アルコール代謝酵素の多型。
  
- 教科書

特に指定しない。
  
- 参考書
  - ①NEW エッセンシャル法医学 第5版 高取健彦 監修 医師薬出版 2012
  - ②現代の法医学（第3版増補）永野耐造・若杉長英（編）金原出版 1998
  - ③標準法医学・医事法（第6版）石津日出雄・高津光洋（編）医学書院 2006
  - ④事例に学ぶ法医学・医事法（第3版）吉田謙一著 有斐閣ブック 2010
  
- 参照 URL

<http://www.tmd.ac.jp/med/legm/education.html>
  
- 成績評価の評価法

筆答試験で行う。出席状況も考慮する。実習は出席状況、レポート内容を考慮する。
  
- 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

法医学分野 上村公一 [kuemura.legm@tmd.ac.jp](mailto:kuemura.legm@tmd.ac.jp)

平成25年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		法 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/15	月	9:00~10:20	死体现象	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/15	月	12:50~14:10	損傷(1) 損傷総論、生活反応	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/15	月	14:20~15:40	損傷(2) 鋭器、鈍器	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/16	火	12:50~14:10	損傷(3) 銃器、頭部外傷	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/16	火	14:20~15:40	損傷(4) 交通外傷	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/17	水	9:00~10:20	窒息(1) 総論	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/17	水	10:30~11:50	窒息(2) 各論(縊頸、絞頸、扼頸、溺死、他)	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/18	木	12:50~14:10	個人識別(1) 法歯学	(日本大学歯学部 小室歳信)	3号館3階 医学科講義室2
4/18	木	14:20~15:40	個人識別(2) 血液型DNA型とその応用	(島根大学 竹 下治男)	3号館3階 医学科講義室2
4/22	月	9:00~10:20	個人識別(3) 物体検査	船越文司	3号館3階 医学科講義室2
4/22	月	12:50~14:10	中毒学(1) 総論	秋 利彦	3号館3階 医学科講義室2
4/22	月	14:20~15:40	中毒学(2) 各論(覚せい剤、アルコール、他)	秋 利彦	3号館3階 医学科講義室2
4/23	火	12:50~14:10	環境異常 (焼死、凍死、他)	鵜沼香奈	3号館3階 医学科講義室2
4/23	火	14:20~15:40	内因性急死	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/25	木	12:50~14:10	死亡診断書・死体検案書	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/25	木	14:20~15:40	死因究明制度	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
5/22	水	9:00~10:20	法医学試験		3号館3階 医学科講義室2

3 学 年 前 期		法 医 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/30	火	12:50~17:10	死体検案書作成・症例検討(1)	上村公一、秋 利彦、 船越文司、鵜沼香奈	3号館5階 学生実習室
5/1	水	12:50~17:10	アルコール(1)	上村公一、秋 利彦、 船越文司、鵜沼香奈	3号館5階 学生実習室
5/2	木	12:50~17:10	アルコール(2)・症例検討(2)	上村公一、秋 利彦、 船越文司、鵜沼香奈	3号館5階 学生実習室

(英訳) Hygiene

○ 科目を履修して得られる能力

衛生学は人間をとりまく自然的・社会的環境要因と健康との関連を考究し、疾病の予防・早期発見および健康の維持推進に役立てようとする学問である。従って衛生学では単に疾病を治療するだけでなく、疾病の背後にある種々の自然的・社会的要因をも考察して対応できる能力を養成する。

○ 学習方法

講義と実習

○ 教科書

「NEW 予防医学・公衆衛生学」改定第3版 岸玲子・古野純典・大前和幸・小泉昭夫編集 南江堂 2012

「標準公衆衛生・社会医学」第1版 岡崎勲・豊嶋英明・小林康毅編集 医学書院 2006

○ 参考書

「国民衛生の動向 2012/2013 年」(財)厚生統計協会 2012

「奪われし未来」オズボーン他著 翔泳社 1997

「Public Health and Preventive Medicine」15th ed., Maxcy-Rosenau-Last ed., McGraw-Hill

Medical Publishing, 2007

○ 参照 URL

厚生労働省：<http://www.mhlw.go.jp/>

環境省：<http://www.env.go.jp/>

国立感染症研究所：<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>

○ 成績評価の評価法

講義に関しては、筆答試験で学習成果を問う。実習については、レポート・口頭発表で判定する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

湯浅保仁（[yuasa.monc@tmd.ac.jp](mailto:yuasa.monc@tmd.ac.jp)）

平成25年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		衛 生 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/15	月	10:30~11:50	序論	湯浅保仁	3号館3階 医学科講義室2
4/22	月	10:30~11:50	水質汚染	秋山好光	3号館3階 医学科講義室2
4/26	金	12:50~14:10	大気汚染	深町博史	3号館3階 医学科講義室2
4/26	金	14:20~15:40	有機溶剤中毒	(那須民江・名 古屋大学)	3号館3階 医学科講義室2
4/30	火	9:00~10:20	ヒ素の環境汚染と毒性	(平野靖史郎・国 立環境研究所)	3号館3階 医学科講義室2
4/30	火	10:30~11:50	化学物質のヒトへの健康影響	(森 千里・千 葉大学)	3号館3階 医学科講義室2
5/7	火	12:50~14:10	化学物質の環境リスク解析	(吉田喜久雄・産業技 術総合研究所)	3号館3階 医学科講義室2
5/7	火	14:20~15:40	循環器病の疫学	(小久保喜弘・国立循 環器病センター)	3号館3階 医学科講義室2
5/8	水	12:50~14:10	感染症(1)	湯浅保仁	3号館3階 医学科講義室2
5/8	水	14:20~15:40	感染症(2)	湯浅保仁	3号館3階 医学科講義室2
5/9	木	12:50~14:10	食品・水媒介性疾病と食品衛生	(工藤泰雄・杏 林大学)	3号館3階 医学科講義室2
5/9	木	14:20~15:40	スポーツ医学	(福林 徹・早 稲田大学)	3号館3階 医学科講義室2
5/21	火	9:00~10:20	衛生学試験		3号館3階 医学科講義室2

3 学 年 前 期		衛 生 学 実 習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/13	月	12:50~17:10	環境測定	秋山好光	3号館5階 学生実習室
5/14	火	12:50~17:10	//	秋山好光	3号館5階 学生実習室
5/15	水	12:50~17:10	変異原性試験	深町博史	3号館5階 学生実習室
5/16	木	12:50~17:10	アルコール感受性の遺伝子検査・細胞へのDNA導入実験	湯浅保仁	3号館5階 学生実習室
5/17	金	12:50~17:10	体力測定	水野哲也	3号館5階 学生実習室

(英訳) Social Medicine

- 科目を履修して得られる能力  
総合講義「社会医学」では、「患者中心の医療」を実践し、社会医学的視点を持った医師となるための、基礎的な知識、技能および態度の習得を目的とする。「社会医学」は同時期に行われる「衛生学」、「公衆衛生学」、「法医学」、「医動物学」の講義内容と密接に関係している。さらに、医療関係者として必要な知識である医療制度、医事法、虐待関連問題についても講義する。
- 学習方法  
講義（系統的講義および応用的講義）を行う。
- 教科書  
特に指定しない。
- 参考書  
必要があれば、各担当教員が指示する。  
社会医学事典. 朝倉書店、2002
- 参照 URL  
各担当教員の所属分野のHP
- 成績評価の評価法  
出席状況、授業態度、および最終筆記試験の結果から総合的に判定する。
- 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）  
法医学分野 上村公一 [kuemura.legm@tmd.ac.jp](mailto:kuemura.legm@tmd.ac.jp)

3 学 年 前		社 会 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講義室
4/16	火	9:00～10:20	法と医療制度(1) 医療制度に関する基本法規	河原和夫	3号館3階 医学科講義室2
4/16	火	10:30～11:50	法と医療制度(2) 保健・福祉・介護分野の関連法規	河原和夫	3号館3階 医学科講義室2
4/17	水	12:50～14:10	法と医療制度(3) 死と法	上村公一	3号館3階 医学科講義室2
4/17	水	14:20～15:40	国際保健医療(1) 国際協力における社会医学の視点	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
4/19	金	9:00～10:20	国際保健医療(2) 多国間交流と協力	中村桂子	3号館3階 医学科講義室2
4/19	金	10:30～11:50	国際保健医療(3) NTD(顧みられない熱帯感染症)対策に関する国際連携について	太田伸生	3号館3階 医学科講義室2
4/23	火	9:00～10:20	国際保健医療(4) 熱帯医学とフィールドワーク	赤尾信明	3号館3階 医学科講義室2
4/23	火	10:30～11:50	国際保健医療(5) 地球環境問題	湯浅保仁	3号館3階 医学科講義室2
4/24	水	12:50～14:10	福祉・地域連携(1) 生活習慣病と健康	泉山 肇	3号館3階 医学科講義室2
4/24	水	14:20～15:40	福祉・地域連携(2) 医療機関の機能分化	泉山 肇	3号館3階 医学科講義室2
4/26	金	9:00～10:20	福祉・地域連携(3) 地域社会と保健医療福祉の連携	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
4/26	金	10:30～11:50	虐待関係(1) 児童虐待、乳幼児突然死	澤口聡子 (帝京平成大学 地域医療学部)	3号館3階 医学科講義室2
5/7	火	9:00～10:20	虐待関係(2) 小児の精神保健医療	横山恭子 (上智大学文学部)	3号館3階 医学科講義室2
5/7	火	10:30～11:50	犯罪医学 捜査のための法科学	櫻田宏一 (科学警察研究所)	3号館3階 医学科講義室2
5/8	水	9:00～10:20	医事法(1) 刑事事件としての医療事故	奥津康祐 (東京女子医科大学)	3号館3階 医学科講義室2
5/8	水	10:30～11:50	医事法(2) 臨床家の立場からみた医療事故	長野展久 (東京海上日動 メディカルサービス)	3号館3階 医学科講義室2
5/10	金	12:50～14:10	医事法(3) 民事事件としての医療事故	辻村貴子 (東京大学大学院医学系研 究科)	3号館3階 医学科講義室2
5/22	水	10:30～11:50	<b>社会医学試験</b>		3号館3階 医学科講義室2

(英訳) Public Health

### ○教育目的

医学を基礎医学、臨床医学、社会医学に大別すると、公衆衛生学は典型的な社会医学である。つまり、医学にあって特にその社会性に注目して、健康の仕組み、疾病の成立、予防の方法、医療のあり方などを扱う学問である。そこでは、決して単一の視座からのみ事象を解析することなく、多数の視点から様々な方法論を応用して解析し、社会における問題の所在とその構造を明らかにし、組織的な努力によって問題の解決をはかろうとするものである。卒前教育においては、知識・技能・態度 (attitude) という三種類のバランスのとれた基礎能力を養うことが一般目標である。なかでも、学生が今後自らの行う医学・医療を人間社会のなかにおいて位置づけ、問題の所在の把握とその解決能力を備えた **public health mind** を獲得することを教育の目的としている。その達成のために、生涯にわたって医師としての専門職に必要な公衆衛生学の基礎能力を養い、能動的な学習態度、知識、方法、制度、人材などさまざまな資源を広く適切に活用することによって、人間の健康に関する問題を現実に解決に導くための問題解決能力を開発する教育プログラムが用意されている。

### ○授業の概要

公衆衛生学の教育プログラムは、第3学年での公衆衛生学講義、第4学年での公衆衛生学課題研究、公衆衛生学実習、ならびに特別セミナーからなっている。

一般に公衆衛生学で扱う内容は、以下の項目である。

(I.保健医療論) 1.公衆衛生学の歴史、2.健康の概念と認識、3.健康と環境の相互影響、4.健康決定因子、5.人間居住環境、6.国際保健、7.地域保健・地域医療、8.都市保健、9.保健・医療・福祉の連携、10.保健・医療・福祉の制度・行政と資源、11.社会保障制度と医療経済、12.保健・医療・福祉関係法規、(II.予防と健康増進) 13.衛生統計・多変量解析、14.疫学、15.ヘルスプロモーション、16.健康教育、17.健康管理、18.生活習慣と健康、19.母子保健、20.成人・老人保健、21.学校保健、22.精神保健、23.産業医学・産業保健、24.環境中毒学、25.環境汚染と健康影響、26.環境保健・地球環境問題、27.食品保健・食生活と健康影響、28.感染症対策

公衆衛生学講義では、これらすべてを扱う時間がないが、医学系CBT・OSCEおよび医師国家試験における要求や、卒後の研修、また医師としての業務の社会性をふまえるならば、各自の自己学習におうところが大きい。公衆衛生学課題研究 (公衆衛生学実習) では、学生が個別に選択した課題に取り組み、資料・文献収集、取材、調査、データ解析を行い、レポートを作成する。特別セミナーや学外見学・演習では、共通の課題に少人数のグループで取り組む。これらのプログラムにより、公衆衛生学に関わる具体的な諸問題を多角的に考察し認識する能力、「自ら学びとる」能動的な学習能力、科学的に論理を展開する能力を開発し、自らの見解を聴衆にわかりやすく伝達する技能を養成する。

公衆衛生学の教育プログラムにあっては、講義の内容をふまえて、課題研究、実習、特別

セミナーに、自主性と新鮮な問題意識を持って参加することが求められる。特に、課題研究には各自の主体的な取り組みの姿勢があつて初めて、公衆衛生学の技能・態度が養われる。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を身につけてほしい。

#### ○授業のキーワード

健康の概念；環境と健康；社会環境の変動と国民の生活；疾病・障害の概念と社会；日本の保健・医療・福祉・介護制度の特徴；保健・医療・福祉・介護の組織と連携；地域連携クリティカルパス；国と地方公共団体；保健所；地方衛生研究所；市町村保健センター；高齢化・少子化社会；障害児（者）への対応；健やか親子 21；在宅ケア；地域保健・地域医療と医師の役割；医療計画（地域保健医療計画）；遠隔医療；プライマリーヘルスケア；Alma Ata宣言；健康増進；ヘルスプロモーション；健康日本 21；災害対策；救急・災害医療；へき地医療；保健・医療・福祉・介護従事者；社会保障の概念；医療保険と公費医療；医療経済；診療報酬制度；世界の保健・医療問題；国際保健・国際協力；世界保健機関（WHO）；地域保健法；健康増進法；母子保健法；精神保健福祉法；感染症法；検疫法；予防接種法；食品衛生法；学校保健法；労働基準法；労働安全衛生法；じん肺法；環境基本法；健康保険法；国民年金法；老人福祉法；高齢者の医療の確保に関する法律；介護保険法；コミュニティヘルス；予防医学；一次予防；二次予防；三次予防；がん対策；健康教育・学習；健康診断・診査；特定健康診査・特定保健指導；健康管理；母性保護；家族計画；母子健康手帳；療育・育成医療；生活習慣病；ゴールドプラン 21；地域精神保健活動；精神保健福祉センター；精神障害者の社会復帰施設；新興再興感染症；国民の栄養の現状と対策；食品の安全性と機能性；学校医；学校伝染病；学校精神保健；学校安全教育・安全管理；業務上疾病；産業医；健康管理；作業環境管理；作業管理；許容濃度と管理濃度；生物学的モニタリング；労働災害；トータルヘルスプロモーションプラン（THP）；労働安全衛生マネジメントシステム；環境汚染；公害

#### ○教科書・参考書

1. Wallace R. Maxey-Rosenau-Last public health and preventive medicine. 15th ed. New York: McGraw-Hill Medical; 2008. (図書館蔵書)
2. Detels R, et al., editors. Oxford textbook of public health, 5th ed. New York: Oxford University Press; 2011. (健康推進医学分野蔵書)
3. 鈴木庄亮, 他, 編. シンプル衛生公衆衛生学. 東京都: 南江堂, 2012. (図書館蔵書)
4. Roemer MI. National health systems of the world. volume I & II. New York: Oxford University Press; 1993. (図書館蔵書)
5. Takano T, editor. Healthy cities and urban policy research. London: Spon Press; 2003. (図書館蔵書)
6. 高野健人, 河原和夫, 他, 編. 社会医学事典. 東京: 朝倉書店, 2002. (図書館蔵書)
7. Marmot MG, Wilkinson RG. Social determinants of health. 2nd ed. New York:

- Oxford University Press; 2006. (健康推進医学分野蔵書)
8. 厚生統計協会, 編. 国民衛生の動向. 厚生指標臨時増刊, 各年発行.  
(図書館蔵書)
  9. 厚生労働省. 厚生労働白書. 東京:ぎょうせい, 各年発行.  
([http://www.mhlw.go.jp/toukei\\_hakusho/hakusho/](http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/))
  10. 日本疫学会, 編. 疫学-基礎から学ぶために.  
東京:南江堂, 1996. (図書館蔵書)
  11. Porta M. A dictionary of epidemiology. 5th ed. New York: Oxford University Press; 2008. (図書館蔵書)
  12. WHO西太平洋地域事務局. SARS—いかに世界的流行を止められたか.  
東京都:結核予防会, 2007. (健康推進医学分野蔵書)
  13. ルネデュボス. 健康という幻想 新装版—医学の生物学的変化.  
東京:紀伊國屋書店, 1977. (図書館蔵書)

#### ○他科目との関連

公衆衛生学は典型的な社会医学であるから、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。系別講義「社会医学」の他、系統講義「衛生学」、「医動物学」、「法医学」とは特に密接に関連する。

#### ○ 参照 URL

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進医学分野  
<http://www.tmd.ac.jp/med/hlth/depHP/index.html>  
政府統計の総合窓口 (e-Stat) <http://www.e-stat.go.jp/>  
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>  
東京都福祉保健局 <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/>  
世界保健機関 (WHO) <http://www.who.int/>

#### ○成績評価の方法

公衆衛生学の基礎的な知識を獲得しているかどうかの評価だけではなく、問題の所在の把握ならびに問題解決に必要な基礎的な技能を身につけているか、公衆衛生学に取り組む態度 (attitude)、自ら積極的に **public health mind** をもって課題に取り組んだかどうかについて評価を行い、これらを総合して最終評価とする。具体的には、基礎的な知識および技能の獲得の評価は最終筆記試験の結果により行う。態度の評価は、講義への参加態度をもって行う。最終筆記試験は、共用試験 (CBT) および医師国家試験に準じた多肢選択式問題と、問題の把握から解決までの理論的思考を問う論述問題とする。

#### ○受講上の注意

公衆衛生学の教育プログラムにあっては、自主性と新鮮な問題意識を持って参加することが求められる。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を

身につけてほしい。

○その他

(1)本科目は四大学連合・複合領域コース（生活空間研究コース）の授業科目である。

(2)講義等についての詳細は、大学院医歯学総合研究科健康推進医学分野ホームページ  
(<http://www.tmd.ac.jp/med/hlth/depHP/index.html>) を参照すること。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

高野健人 secretary1.hlth@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前 期		公衆衛生学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/24	水	9:00~10:20	公衆衛生学総論	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
4/24	水	10:30~11:50	疫学と保健統計	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
5/1	水	9:00~10:20	地域保健	中村桂子	3号館3階 医学科講義室2
5/1	水	10:30~11:50	母子保健	中村桂子	3号館3階 医学科講義室2
5/10	金	9:00~10:20	産業保健	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
5/10	金	10:30~11:50	健康増進政策	河原和夫	3号館3階 医学科講義室2
5/13	月	9:00~10:20	保健医療福祉連携（1）	中村桂子	3号館3階 医学科講義室2
5/13	月	10:30~11:50	保健医療福祉連携（2）	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
5/14	火	9:00~10:20	健康危機管理（1）	中村桂子	3号館3階 医学科講義室2
5/14	火	10:30~11:50	健康危機管理（2）	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
5/15	水	9:00~10:20	生活習慣病の疫学と対策（1）	中村桂子	3号館3階 医学科講義室2
5/15	水	10:30~11:50	生活習慣病の疫学と対策（2）	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
5/17	金	9:00~10:20	保健医療の産業化と国際化（1）	中村桂子	3号館3階 医学科講義室2
5/17	金	10:30~11:50	保健医療の産業化と国際化（2）	高野健人	3号館3階 医学科講義室2
5/24	金	9:00~10:20	公衆衛生学試験		3号館3階 医学科講義室2

(英訳) Oriental Medicine

- 科目を履修して得られる能力  
東洋医学の基礎的な概念（陰陽論、五行論、気血津液、八綱弁証、臓腑概念、病態観、証）を理解し、説明できる。  
東洋医学の診断、治療の概念、薬学・方剤学の基礎について理解し、説明できる。
- 学習方法  
講義
- 教科書  
「標準東洋医学」 金原出版 仙頭正四郎
- 参考書
  - 基礎理論の理解に  
「中医学入門」神戸中医学研究会編著 医歯薬出版  
「中医学の基礎」平馬直樹・兵頭明・路京華・劉公望監修、東洋学術出版社
  - 一般向けの平易な内容で東洋医学理論を理解する  
「読体術・体質判別・養生論」仙頭正四郎 農文協
  - 臨床的な治療内容を含む  
「入門漢方医学」日本東洋医学会学術教育委員会 編集 南江堂  
「症例から学ぶ和漢診療学 2 版」寺澤 捷年著 医学書院  
「改訂・中医学基礎」上海中医学院編 神戸中医学研究会訳 燎原  
「簡明 漢方医学」三重大学 東洋医学研究会
- 参照 URL  
<http://www.jtcma.org/>  
<http://www.jsom.or.jp/>
- 成績評価の評価法  
筆記試験  
多肢選択問題（連問形式）
- 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）  
別府正志 tmdustudent@masashi.beppu.ac

平成25年度医学部医学科授業内容

3 学 年 前		東 洋 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/5	木	9:00～10:20			3号館3階 医学科講義室2
9/5	木	10:30～11:50			3号館3階 医学科講義室2
9/12	木	9:00～10:20			3号館3階 医学科講義室2
9/12	木	10:30～11:50			3号館3階 医学科講義室2
9/19	木	11:00～11:50	東洋医学試験		

# 臨床ブロック

講義室：3号館3階医学科講義室2

- 科目を履修して得られる能力  
コンピテンシー → 別表を参照  
コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

臨床各ブロックの導入として、臨床検査と画像診断に関する総論的な講義を中心に学習を進める。臨床検査と画像診断の両者に関連するミニケースを提示し、講義で扱った内容の確認と応用をはかる。

○教科書（授業において学生の所持を前提とする書籍）

奈良信雄著：臨床検査値ポケットガイドブック-検査値の後ろに何が見えるか 中山書店、2011年

○参考書（学習の参考になる書籍）

奈良信雄編：臨床研修イラストレイテッド第3巻基本手技「診察と検査」羊土社、2011年  
福井次矢、奈良信雄編：内科診断学、医学書院、2008年  
奈良信雄監訳：ウイントロブ臨床血液学アトラス、メディカル・サイエンス・インターナショナル社、2008年  
多田信平・石井千佳子：CT・MRI解剖事典 ベクトル・コア  
久保淳司・木下文雄：核医学ノート 第5版 金原出版

○参考URL（学習の参考になるサイト）

WWW.tasc-2-pad.org

○成績評価方法

金曜午後のTBLにより評価を行う。基礎確認テストも参考にする。

○受講上の注意

検査の意義、解釈などは学生自身で考察することが望ましい。このためにも教科書、参考書をよく読んで理解を深めておくこと。また、基礎医学、臨床医学のすべてと関連するので、他科目の知識を応用すること。

○問い合わせ先（担当教員）

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
奈良 信雄	臨床検査医学	nara.mlab@tmd.ac.jp
渋谷 均	腫瘍放射線医学	sby.mrad@tmd.ac.jp
東田 修二	臨床検査医学	tohda.mlab@tmd.ac.jp
岸野 充浩	腫瘍放射線医学	ksnmrad@tmd.ac.jp

## 第1週

5月27日 月	5月28日 火	5月29日 水	5月30日 木	5月31日 金
9:00-10:20 基礎医学復習 (小テスト等)	9:00-10:20 担当教員: 松本 哲哉  感染症検査学	9:00-10:20 担当教員: 大橋 勇  画像診断 総論 (基礎小テスト含む)	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員 鳥井原 彰  核医学
10:30-11:50 担当教員: 奈良 信雄  臨床検査総論	10:30-11:50 担当教員: 佐藤 和人  免疫血清検査学	10:30-11:50 担当教員: 大橋 勇  腹部画像診断		10:30-10:20 担当教員 齋田 幸久  胸部画像診断
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 梶原 道子  輸血検査学	12:50-14:10 担当教員: 東田 修二  血液検査学、遺伝子 検査学	12:50-14:10 担当教員: 北詰 良雄  骨盤画像診断	12:50-14:10 担当教員 徳丸 阿耶  神経放射線	12:50-15:40  評価(TBL)
14:20-15:40 担当教員: 東條 尚子  生理検査学	14:20-15:40 担当教員: 奈良 信雄  生化学検査学	14:20-15:40 担当教員: 東田、岸野  ミニケース	14:20-15:20 担当教員 岸野 充浩  IVR	

○科目を履修して得られる能力

- コンピテンシー → 別表を参照  
 コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

このコースは広く循環器疾患の基礎的事項、検査法、疾患について学び、さらに代表的な症候を呈した循環器疾患の臨床例から、その臨床症状の成り立ち、背景、病態、診断への道筋、治療法の考え方など様々な側面を学習するために企画されている。症例を通じて、情報収集、検査・治療計画立案法などの臨床的考え方を学び、もって問題探求、問題解決力を養うことを目的としている。臨床的な観点から循環器疾患の成り立ち、病態、診断法、治療法を講義する。後半は臨床講義として症例を通じて臨床的な考え方も含めて学ぶ。

○教科書（授業において学生の所持を前提とする書籍）

1. Harrison: Principles of Internal medicine (McGraw-Hill)
2. Braunwald: Heart Disease (W. B. Saunders) 7th edition 2006年
3. 循環器病学 基礎と臨床(西村書店) 2010年

○参考書（学習の参考になる書籍）

○参考URL（学習の参考になるサイト）

○成績評価方法

コース修了後に筆記試験を行う。

○受講上の注意

循環器疾患に関連した解剖学、病理学、生理学、生化学、薬理学等に関する基礎的知識を再確認しておくこと。学生の積極的な参加が求められるコースである。  
 ミニケースは、学生が参加する授業形態である。循環器ブロック開始時に、各講義の担当者3-4名を決定し、代表者が教員の連絡先を循環器内科医局秘書(担当:山崎、内線5231)に照会する。担当者は教員に連絡を取り、講義内容の指示を受けること。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
磯部 光章	循環器内科	isobemi.cvm@tmd.ac.jp
荒井 裕国	心臓血管外科	hiro.tsrg@tmd.ac.jp
平尾 見三	不整脈センター	0160.cvm@tmd.ac.jp
井上 芳徳	血管外科	yoshi.inoue.srg1@tmd.ac.jp
土井庄三郎	小児科	sdoi.ped@tmd.ac.jp

第1週

6月3日 月	6月4日 火	6月5日 水	6月6日 木	6月7日 金
9:00-10:20 基礎医学復習 (小テスト等) (担当教員:磯部 光章)	9:00-10:20 担当教員: 磯部 光章  循環器総論	9:00-10:20 担当教員: 古川 哲史  不整脈 I (基礎)	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 伊藤 宏  心不全
10:30-11:50 担当教員: 田中 道雄  循環器疾患の病理	10:30-11:50 担当教員: 平尾 見三  循環器症候学	10:30-11:50 担当教員: 川端美穂子  心電図		10:30-11:50 担当教員: 川端美穂子  大動脈疾患
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 前嶋 康浩  循環生理学/薬理学	12:50-14:10 担当教員: 足利 貴志  身体所見	12:50-14:10 担当教員: 東 亮子  画像診断/心エコー、 心筋シンチ	12:50-14:10 担当教員: 土井庄三郎  先天性心疾患 II	12:50-14:10 担当教員: 横山 泰廣  心臓カテーテル検査、 電気生理検査
		14:20-15:40 担当教員: 土井庄三郎  先天性心疾患 I	14:20-15:40 担当教員: 土井庄三郎  先天性心疾患 III	

第2週

6月10日 月	6月11日 火	6月12日 水	6月13日 木	6月14日 金
9:00-10:20 担当教員: 平尾 見三  不整脈II(頻脈)	9:00-10:20 担当教員: 荒井 裕国 循環器外科総論/病 態生理と外科治療総 論	9:00-10:20 担当教員: 荒井 裕国  虚血性心疾患III(外科)	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 水野 友裕  弁膜症 外科治療
10:30-11:50 担当教員: 横山 泰廣  不整脈III(徐脈)	10:30-11:50 担当教員: 前嶋 康浩  心筋疾患 I	10:30-11:50 担当教員: 吉川 俊治  弁膜症(内科)		10:30-11:50 担当教員: 前田 真吾  感染性心内膜炎 心膜疾患
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 栗原 顕  虚血性心疾患I(内科)	12:50-14:10 担当教員: 佐々木 毅  心筋疾患 II	12:50-14:10 担当教員: 地引 政利  動脈疾患 I	12:50-14:10 担当教員: 西山 光則  先天性心疾患IV (心エコー、カテー テル治療)	12:50-14:10 担当教員: 篠岡 太郎  肺循環
14:20-15:40 担当教員: 足利 貴志  虚血性心疾患 II (内科)		14:20-15:40 担当教員: 井上 芳徳  動脈疾患 II	14:20-15:40 担当教員: 八島 正文  小児循環器外科治療	

第3週

6月17日 月	6月18日 火	6月19日 水	6月20日 木	6月21日 金
9:00-10:20 担当教員：工藤 敏文 静脈疾患、リンパ疾患	9:00-10:20 担当教員：荒井 裕国 体外循環、補助循環、人工心臓、心臓移植	9:00-10:20 担当教員：足利 貴志 ミニケース4 胸痛	教養／ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員：地引 政利 ミニケース9 間欠性跛行
	10:30-11:50 担当教員：磯部 光章 ミニケース3 発熱	10:30-11:50 担当教員：横山 泰廣 ミニケース5 呼吸困難		10:30-11:50 担当教員：井上 芳徳 ミニケース10 腹痛
昼休み				
12:50-14:10 担当教員：磯部 光章 ミニケース1 失神		12:50-14:10 担当教員：磯部 光章 ミニケース6 息切れ		12:50-15:20 評価 試験
14:20-15:40 担当教員：平尾 見三 ミニケース2 めまい、動悸		14:20-15:40 担当教員：田淵 典之 ミニケース7 背部痛	14:20-15:40 担当教員：泉田 直己 ミニケース8 チアノーゼ	

○科目を履修して得られる能力

- コンピテンシー → 別表を参照  
 コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

1. PBL: 1週につき1シナリオ、計2シナリオを用いる。金曜に各グループの発表と総括を行う。  
 2. 講義: 臨床解剖、呼吸生理、画像診断について概説し、病態理解の一助とする。各論として主要な呼吸器疾患(間質性肺炎、肉芽腫性肺疾患、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、胸膜・縦隔疾患)を取りあげ、一部はミニケース形式で講義する。また、病理学的理解を深めるために、腫瘍と非腫瘍について実習を行う。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

1. 門脇孝、永井良三編 カラー版内科学 西村書店 2012年

○参考書 (学習の参考になる書籍)

1. 日本肺癌学会編 EBMの手法による肺癌診療ガイドライン2005年版  
 2. 日本肺癌学会編 EBMの手法による肺癌診療ガイドライン2010年版  
 3. 別冊医学のあゆみ 呼吸器疾患-state of the art- 医歯薬出版 2007年  
 4. 日本呼吸器学会編 COPD診断と治療のためのガイドライン第3版 2009年

○参考URL (学習の参考になるサイト)

1. 稲瀬直彦著 TMDU呼吸器病学(本学教育用e-learningのWebclassにブロック開始時までには掲載予定)

○成績評価方法

PBL、講義、実習の出席を前提に試験で評価する。

○受講上の注意

私語を慎み、講義の妨げとなる行為は行わないこと。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名) (診療科・分野) (Eメールアドレス)  
 稲瀬 直彦 呼吸器内科・統合呼吸器病学分野 ninase.pulm@tmd.ac.jp

## 第1週

6月24日 月	6月25日 火	6月26日 水	6月27日 木	6月28日 金
9:00-10:20 担当教員: 立石  PBL1-1	9:00-10:20 担当教員: 秋田  呼吸器系の構造	9:00-9:50  自習	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 立石  PBL1-3
10:30-11:50 担当教員: 坂下  肺癌	10:30-11:50 担当教員: 稲瀬  COPD・DPB	10:00-11:50 担当教員: 立石  PBL1-2		10:30-11:50 担当教員: 土屋  PBL発表
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 玉岡  動脈血ガス分析	12:50-14:10 担当教員: 稲瀬  呼吸障害	12:50-15:40 担当教員: 明石  病理実習(腫瘍)	12:50-14:10 担当教員: 角  呼吸器系の画像検査	12:50-14:10 担当教員: 稲瀬  肺循環障害
14:20-15:40 担当教員: 東條  呼吸機能検査	14:20-15:40 担当教員: 土屋  気管支喘息		14:20-15:40 担当教員: 大久保  呼吸器外科総論	14:20-15:40 担当教員: 稲瀬  胸膜・縦隔疾患

## 第2週

7月1日 月	7月2日 火	7月3日 水	7月4日 木	7月5日 金
9:00-10:20 担当教員: 古澤  PBL2-1	9:00-10:20 担当教員: 古澤  間質性肺炎・膠原病 肺	9:00-10:50 担当教員: 古澤  PBL2-2	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 古澤  PBL2-3
10:30-11:50 担当教員: 岡本  気管支鏡検査	10:30-11:50 担当教員: 長澤  小児科領域の呼吸器 疾患	11:00-11:50 担当教員: 稲瀬 気管支拡張症・無気 肺		10:30-11:50 担当教員: 稲瀬  PBL発表
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 藤江  肺感染症	12:50-14:10 担当教員: 稲瀬  二次性間質性肺炎・ 好酸球性肺炎	12:50-15:40 担当教員: 明石  病理実習(非腫瘍)	12:50-14:10 担当教員: 立石  ミニケース 肉芽腫性疾患	自習
14:20-15:40 担当教員: 大久保  外科治療(肺腫瘍)	14:20-15:40 担当教員: 藤江  ミニケース 日和見感染		14:20-15:40 担当教員: 石橋  外科治療(縦隔腫瘍 ほか)	13:40-15:40  試験

- 科目を履修して得られる能力
- コンピテンシー → 別表を参照
- コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

消化器疾患を中心とした、医学的問題解決の実践を学ぶことを通じて、次年度以降のclinical clerkshipに対応する総合的な能力を磨き、信頼される医師となるための基礎を形成することを目標とする。カリキュラムは以下の内容から構成される。

1. PBL (Problem Based Learning) 2. Lecture 3. Pathology Laboratory 4. その他のdiscussion型講義  
 PBLは3週間に3セットのPBLが行われる。ここでは、一つのシナリオから、学生自ら問題点を抽出し、それをお互いに議論しあい、科学的・理論的にその問題点を理解することによって、消化器系疾患の病因・病態生理を学習することを目的とする。また、理解した病因・病態生理を、シナリオの患者のケア・治療にいかに応用するかを学ぶこととなる。小グループ討論を中心に進行するため、各人の積極的な参加によって、学習効率はより高くなるものと期待する。さらに、PBLの効率をより高めるために、各論の講義や討論型講義を組み合わせて、内容を補完しあうように工夫した。また、実際の患者のシナリオを用いるため、そのなかで、倫理的側面や社会医学的な問題点についても学ぶ機会が与えられる。

扱う疾患としては消化器系疾患の全てを網羅する。その上で、関連した病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、画像診断学などについても含まれている。尚、疾患の診断・治療の実際については、後年のclinical clerkshipでさらに詳しく学習し習得することになる。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

Harrison's Principles of Internal Medicine (McGraw-Hill) 18th (2011/7)  
 内科学(朝倉書店)第9版(2007/09)  
 標準外科学(医学書院、【第12版】2010年)  
 その他、関連した解剖学(Gray's Anatomy for Students (Paperback)など)、生理学、生化学、病理学、薬理学で用いられている教科書

○参考書 (学習の参考になる書籍)

内科学書(中山書店)改訂第7版(2009/10)  
 ハリソン内科学 第3版 メディカル・サイエンス・インターナショナル(2009/12)  
 Textbook of Gastroenterology (Blackwell Publishers) 5th(2008/12)  
 Schiff's Diseases of the Liver (Wiley) 11th(2011/12)  
 新臨床外科学(医学書院、【第4版】2006年)  
 NEW外科学(南江堂、【第3版】2012年2月)  
 臨床外科学3 消化器外科学(朝倉書店、2006年)  
 Schwartz's Principles of Surgery. 9th ed.(McGraw-Hill, U.S.A.【第9版】2009年)  
 Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice. (Saunders, U.S.A.【第19版】2012/02)

○参考URL (学習の参考になるサイト)

○成績評価方法

出席の有無を確認し、これを総合評価に加える。  
 3分の2以上の出席がないものは試験の受験資格を欠く。  
 試験は筆答試験でその成果を問う。

○受講上の注意

PBLがこの講義の中心となるので、学生各々が積極的に参加し、討論で決まった課題の自己学習をすること。各々の自己学習の程度によってグループ全体の達成度が左右されるので、各グループで積極的・効率的な学習が達成できるよう期待します。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
朝比奈 靖浩	消化器内科	asahina.gast@tmd.ac.jp
永井 鑑	食道・胃外科	nagai.srg1@tmd.ac.jp
石黒 めぐみ	大腸・肛門外科	ishiguro.srg2@tmd.ac.jp
中村 典明	肝胆膵外科	nori.srg1@tmd.ac.jp
伊藤 崇	病理学	t.tito.ph1@tmd.ac.jp

平成25年度 医学部医学科授業内容

消化器  
第1週

(ブロック番号 4)

3 週間ブロック

7月8日 月	7月9日 火	7月10日 水	7月11日 木	7月12日 金
9:00-10:50 担当教員: 内科・外科  PBL: 上部消化管1	9:00-10:50 担当教員: 河野  ミニケース: 上部消化管疾患	9:00-10:50 担当教員: 内科・外科  PBL: 上部消化管2	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:50 担当教員: 内科・外科  PBL: 上部消化管3
11:00-11:50 担当教員: 秋田 解剖学講義	11:00-11:50 担当教員: 田邊 上部消化管疾患と 薬理	11:00-11:50 担当教員: 川田 上部消化管疾患の 検査法		11:00-11:50 担当教員: 中島 上部消化管疾患の 外科治療
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 河野  講義: 上部消化管+消化管 の最近のトピックス	12:50-14:10 担当教員: 荒木  講義: 胃良性疾患	12:50-15:40 担当教員: 伊藤(崇)	12:50-14:10 担当教員: 永井  講義: 食道癌の病態生理	12:50-15:50 担当教員: 河野
14:20-15:40 担当教員: 加藤(敬)  講義: 内視鏡治療	14:20-15:40 担当教員: 河野  講義: 食道良性疾患	病理実習: 上部消化管	14:20-15:40 担当教員: 小嶋  講義: 胃癌の病態生理	PBL総括

第2週

7月15日 月	7月16日 火	7月17日 水	7月18日 木	7月19日 金	
祝日 (海の日)	9:00-10:50 担当教員: 外科のみ  PBL: 肝胆膵1	9:00-10:50 担当教員: 内科のみ  PBL: 肝胆膵2	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:50 担当教員: 内科のみ  PBL: 肝胆膵3	
	11:00-11:50 担当教員: 秋田 解剖学講義	11:00-11:50 担当教員: 佐藤(千) 講義: 薬物性肝障害		11:00-11:50 担当教員: 朝比奈 PBL総括	
	昼休み				
	12:50-13:40 担当教員: 工藤 集中討論: 肝臓の生理学	12:50-15:40 担当教員: 倉田	12:50-13:40 担当教員: 朝比奈 講義: ウイルス性肝炎	12:50-14:30 担当教員: 柿沼・中川	ミニケース: 肝炎
13:50-14:40 担当教員: 田中 講義: 肝悪性腫瘍	病理実習(肝胆膵)	13:50-14:40 担当教員: 東 講義: 肝硬変			
14:50-15:40 担当教員: 中村 講義: 胆膵悪性腫瘍			14:50-15:40 担当教員: 大岡 講義: 胆道良性疾患	14:40-15:40 担当教員: 大岡 講義: 膵良性疾患	

第3週

7月22日 月	7月23日 火	7月24日 水	7月25日 木	7月26日 金
9:00-10:50 担当教員：内科・外科  PBL:下部消化管1	9:00-9:50 担当教員：飯田 講義： 大腸癌の発生機序 10:00-10:50 担当教員：飯田 講義：遺伝性大腸癌	9:00-10:50 担当教員：内科・外科  PBL:下部消化管2	教養／ 医歯学融合教育	9:00-10:50 担当教員：内科・外科  PBL:下部消化管3
11:00-11:50 担当教員：秋田 解剖学講義	11:00-11:50 担当教員：永石 講義： 炎症性腸疾患の臨床	11:00-11:50 担当教員：渡辺 講義： 炎症性腸疾患の病態		11:00-11:50 担当教員：長堀 PBL総括
昼休み				
12:50-13:40 担当教員：岡本 講義： 下部消化管の生理学	12:50-13:40 担当教員：大島 講義：多彩な腸疾患	12:50-15:40 担当教員：根木  病理実習： 下部消化管	12:50-14:10 担当教員：長堀・藤井  ミニケース 下部消化管疾患	12:50-15:40  筆記試験
13:50-14:40 担当教員：杉原 講義： 下部消化管腫瘍	14:50-15:40 担当教員：長堀 講義：下部消化管の 機能障害			
14:50-15:40 担当教員：小林 講義： 先端外科学内視鏡	14:50-15:40 担当教員：大塚 講義：小腸疾患			

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー → 別表を参照  
コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

腎臓内科領域においては、体液制御機構など腎臓機能の基礎から多様な腎疾患について病態生理を主として学ぶ。第一週に講義と病理実習により基本的知識を取得し、週の最後に知識の確認テストを行う。第2週はこれらの知識をもとに実際の症例における病態生理をPBL、ミニケースを通して学ぶ。

泌尿器科領域においては、主な領域(腫瘍、排尿生理、生殖生理、結石・感染等)についての系統講義、および泌尿器腫瘍の病理実習により、医学生として必要な知識を身につける。ミニケースにより、系統講義や病理実習で身につけた知識を統合させ、討論する力を養う。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

医学スーパーラーニングシリーズ 腎臓内科学 シュプリンガー・ジャパン  
NEW泌尿器科学

○参考書 (学習の参考になる書籍)

Renal Pathophysiology The essential. Lippincott Williams & Wilkins  
上記の日本語版: 体液異常と腎臓の病態生理。メディカルサイエンスインターナショナル  
酸塩基平衡、水・電解質が好きになる。羊土社  
Campbell-Walsh Urology イラストレイテッド ミニマム創内視鏡下泌尿器手術

○参考URL (学習の参考になるサイト)

日本腎臓学会 腎臓に関するクイズ <http://e-test.amu.lumber-mill.info/show/index>  
東京医科歯科大学腎臓内科 <http://www.tmd.ac.jp/grad/kid/kid-J.htm>

東京医科歯科大学大学院 腎泌尿器外科 <http://www.tmd.ac.jp/med/uro/index.htm>  
日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会 <http://www.minimumendo.jp/>

○成績評価方法

腎臓内科領域は、出席、基礎医学復習の確認テスト、学習状況確認テスト、PBLの発表内容、最終日(第二週水曜午後)の試験によって評価する。  
泌尿器科領域は、出席状況、ミニケースでの内容および最終日のテストで総合的に評価する。  
病理実習の内容は、各腎臓内科・泌尿器科の最終試験の中で試験を行う。  
ブロック全体としての評価を上記の成績を総合して判定する。

○受講上の注意

第一週の1時限目に基礎医学復習の確認テストを行うので、各自生理学教科書の腎体液に関する部分はあらかじめ自習しておくこと。  
積極的な討議・実習への参加が求められる。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
内田 信一	腎臓内科	suchida.kid@tmd.ac.jp
蘇原 映誠	血液浄化療法部	esohara.kid@tmd.ac.jp
木島 敏樹	泌尿器科	toshiki.uro@tmd.ac.jp
藤井 靖久	泌尿器科	y-fujii.uro@tmd.ac.jp

第1週

9月2日 月	9月3日 火	9月4日 水	9月5日 木	9月6日 金
9:00-10:20 担当教員: 内田  基礎医学復習(未定)	9:00-10:20 担当教員: 頼  腎炎・ネフローゼ1	9:00-10:20 担当教員: 岡戸  急性腎障害	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 野田  腎と血管
10:30-11:50 担当教員: 佐々木  ネフロン の構造と 機能	10:30-11:50 担当教員: 頼  腎炎・ネフローゼ2	10:30-11:50 担当教員: 未定  慢性腎障害		10:30-11:50 担当教員: 岡戸  血液浄化・腎移植
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 内田  電解質・血液ガスの 基礎	12:50-14:10 担当教員: 蘇原  2次性腎疾患1	12:50-15:40 担当教員:  病理実習 1次性腎疾患	12:50-14:10 担当教員: 内田・岡戸  large class PBL (未定)	12:50-14:10 担当教員: 未定  尿細管疾患・嚢胞性 腎疾患
14:20-15:40 担当教員: 安藤  腎疾患の症候・検査	14:20-15:40 担当教員: 蘇原  2次性腎疾患2		10:30-11:50 担当教員: 内田・岡戸  large class PBL (未定)	14:20-15:40 担当教員: 内田  学習状況確認テスト

第2週

9月9日 月	9月10日 火	9月11日 水	9月12日 木	9月13日 金
9:00-10:20 担当教員: 内田・頼  large class PBL (未定)	9:00-10:20 担当教員: 未定  ミニケース腎内	9:00-10:20 担当教員: 未定  ミニケース腎内	教養/ 医歯学融合教育	9:00-9:50 担当教員: 齋藤  腎がん
10:30-11:50 担当教員: 内田・頼  large class PBL (未定)	10:30-11:50 担当教員: 未定  ミニケース腎内	10:30-11:50 担当教員: 未定  ミニケース腎内		10:00-10:50 担当教員: 齋藤  腎がん
昼休み				11:00-11:50 担当教員: 石岡  精巣がん
12:50-13:40 担当教員: 吉田  前立腺肥大症	12:50-14:10 担当教員: 小児科  小児の輸液(未定)	12:50-15:40 担当教員:  病理実習 2次性腎疾患	12:50-13:40 担当教員: 木原  前立腺がん	12:50-13:40 担当教員: 石岡  精巣がん
13:50-14:40 担当教員: 吉田  前立腺肥大症			13:50-14:40 担当教員: 木原  前立腺がん	13:50-14:40 担当教員: 木島  蓄排尿
14:50-15:40 担当教員: 中西 尿路感染・尿路結石・ 泌尿器救急疾患	14:20-15:40 担当教員: 内田/岡戸  患者さま講演会 (未定)		14:50-15:40 担当教員: 藤井  ミニケース	14:50-15:40 担当教員: 沼尾  尿路の閉塞性疾患

第3週

9月16日 月	9月17日 火	9月18日 水	9月19日 木	9月20日 金	
祝日 (敬老の日)	9:00-11:50 ミニケース 担当:藤井	9:00-11:50  病理実習	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:50 ミニケース 担当:藤井	
				11:00-11:50 担当教員: 木島 性機能	
	昼休み				
	12:50-13:40 担当教員: 松岡 膀胱がん	12:50-13:40 担当教員: 沼尾 副腎腫瘍	12:50-13:40 担当教員: 木原 泌尿器低侵襲治療	12:50-15:40 評価 腎臓内科 泌尿器科	
	13:50-14:40 担当教員: 松岡 膀胱がん	13:50-14:40 担当教員: 石坂 男性不妊	13:50-15:40 ミニケース 担当:藤井		
14:50-15:40 担当教員: 松岡 上部尿路がん	14:50-15:40 担当教員: 石坂 性分化異常・ 先天異常				

○科目を履修して得られる能力

- コンピテンシー → 別表を参照  
 コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

「内分泌器官」と「ホルモン」に関する総論を踏まえて、生体の恒常性維持機構とその破綻により発症する内分泌疾患および代謝疾患に関する各論を学習します。「内分泌器官」の形態学(解剖学、病理学)や画像診断学(放射線科)あるいは「ホルモン」の生化学、生理学、薬理学、分子生物学の基礎を理解し、各臓器別疾患としては視床下部・下垂体、甲状腺、副甲状腺、副腎、性腺などに関連する内分泌疾患と糖尿病を中心とする代謝疾患(生活習慣病)を統合的に理解します。学内外の第一人者による講義により、未来志向型の内分泌・代謝学に関する最先端の知識を習得します。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

特に指定はないが、下記参考図書のうち少なくとも一つを所持してほしい。

○参考書 (学習の参考になる書籍)

- 1) 新臨床内科学:高久文彦 他 編集(第9版)医学書院, 2009
- 2) 内科学書:小川聡 編集(第7版)中山書店, 2009
- 3) 講義録 内分泌・代謝学 メジカルビュー社, 2005
- 4) 病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第3版 メディックメディア, 2012

○参考URL (学習の参考になるサイト)

<http://www.tmd.ac.jp/grad/cme/index.html>

○成績評価方法

TBL、小テスト、最終の筆記試験(コアカリキュラムの内容に準じ、医師国家試験に準拠した出題形式)の結果により可否判定します。

○受講上の注意

内分泌・代謝学は基礎と臨床の距離が最も近い学問であり、生体情報伝達分子である「ホルモン」に関する生化学、生理学あるいは薬理学を意識して受講してほしい。講義では受け身ではなく、担当講師に積極的に疑問をぶつけて自らで解決してほしい。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
吉本 貴宣	糖尿病・内分泌・代謝内科	tyoshimoto.mem@tmd.ac.jp
三原 正朋	糖尿病・内分泌・代謝内科	mmihara.mem@tmd.ac.jp
南 勲	糖尿病・内分泌・代謝内科	iminami.mem@tmd.ac.jp

## 第1週

9月23日 月	9月24日 火	9月25日 水	9月26日 木	9月27日 金
秋分の日	9:00-10:20 基礎医学復習 (小テスト)	9:00-10:20 担当教員: 菅波  肥満とやせ	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 加藤  脂質異常症
	10:30-11:50 担当教員: 小川  内分泌・代謝学 総論1	10:30-11:50 担当教員: 小川  糖代謝1		10:30-11:50 担当教員: 三原  糖代謝2
昼休み				
秋分の日	12:50-14:10 担当教員: 小川  内分泌・代謝学 総論2	12:50-14:10 担当教員: 南  甲状腺疾患	12:50-14:10 担当教員: 南  TBL1-①	12:50-14:10 担当教員: 三原  TBL1-②
	14:20-15:40 担当教員: 学外講師  特論①	14:20-15:40 担当教員: 吉本  副腎疾患1	14:20-15:40 担当教員: 加藤  骨カルシウム代謝	14:20-15:40 担当教員: 学外講師  特論②

## 第2週

9月30日 月	10月1日 火	10月2日 水	10月3日 木	10月4日 金
9:00-10:20 担当教員: 土井  視床下部・ 下垂体疾患1	9:00-10:20 担当教員: 吉本  副腎疾患2	9:00-10:20 担当教員: 杉山  ホルモン受容体 異常症	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 加藤  TBL2-⑤
10:30-11:50 担当教員: 土井  視床下部・ 下垂体疾患2	10:30-11:50 担当教員: 学外講師  特論③	10:30-11:50 担当教員: 南  TBL2-④		10:30-11:50 担当教員: 三原  TBL2-⑥
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 吉本  TBL2-③	12:50-14:10 担当教員: 小川  メタボリック シンドローム	12:50-14:10 担当教員: 泉山  多発内分泌疾患と ホルモン産生腫瘍	12:50-14:10 担当教員: 南  臨床栄養学	12:50-15:40 筆記試験
14:20-15:40 担当教員: 三原  糖代謝3	14:20-15:40 担当教員: 三原  糖代謝4	14:20-15:40 担当教員: 吉本  高血圧症 (含二次性高血圧)	14:20-15:40 担当教員: 学外講師  特論④	

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー → 別表を参照  
 コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

前半週は基本項目について講義(基礎の復習と総論、疾患各論)を行い、後半は応用項目について実習や症例発表(従来の臨床講義に相当。PBL形式を予定)を中心に学ぶ。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

Harrison's Principles of Internal Medicine、内科学 第9版 (朝倉書店)、血液細胞アトラス第5版 (文光堂)

○参考書 (学習の参考になる書籍)

Wintrobe's Clinical Hematology, WHO classification Tumours of Haematopoietic and Lymphoid Tissues, 病気がみえる〈vol.5〉血液 医療情報科学研究所  
 臨床検査ガイド 2011-2012(文光堂)  
 がん・放射線療法2010(篠原出版新社)  
 放射線治療マニュアル(中外医学社) / Pediatric Hematology 3rd ed 2009 Wiley, John & Sons, Incorporated  
 小児白血病・リンパ腫の診療ガイドライン 2011年版  
 編集:日本小児血液学会 金原出版 2011年  
 小児がん経験者のフォローアップ  
 監訳:日本小児白血病リンパ腫研究グループ 日本医学館 2008年  
 小児血液・腫瘍疾患治療プロトコール集  
 編集:月本一郎 医歯薬ジャーナル社 2003年  
 Hanks G et al eds. Oxford Textbook of Palliative Medicine 4th edition. Oxford University Press, New York, 2011  
 Holland JC et al.eds. Psycho-oncology, 2nd ed. Oxford University Press, New York, 2010  
 Chochinov HM & Breitbart W ed. Handbook of Psychiatry in Palliative Medicine, 2nd ed. Oxford University Press, New York, 2009  
 大西秀樹編集. サイコオンコロジー(専門医のための精神科臨床リュミエール24). 中山書店, 2010年  
 内富庸介、小川朝生編集. 精神腫瘍学. 医学書院, 2011年  
 清水 研編著. がん診療に携わるすべての医師のための心のケアガイド. 真興交易, 2011年

○参考URL (学習の参考になるサイト)

放射線治療ガイドライン2008: <http://www.kkr-smc.com/rad/guideline/2008/>  
 緩和ケア継続教育プログラム/<http://www.jspm-peace.jp/>

○成績評価方法

試験により評価する。  
 内科3-4(60点)  
 放射線科1(15点)  
 小児1(15点)  
 緩和1(10点)

○受講上の注意

このブロックでは、血液疾患、造血器腫瘍と、それらのみならず、腫瘍全体について、疾患概念、病理および画像診断法、そして化学療法、放射線治療、造血幹細胞移植、支持療法などの内科的治療法を学ぶ。医師として必要な疾患についての知識に加え、患者に共感し、その肉体的、精神的苦痛を解決することのできる、患者の立場に立った医療をおこなうにはどうしたらよいか、総合的に学んでいただきたい。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
三浦修	血液内科	miura.hema@tmd.ac.jp
新井文子	血液内科	ara.hema@tmd.ac.jp
岸野充浩	放射線治療	ksnmrad@tmd.ac.jp
三宅智	臨床腫瘍学	sm.conc@tmd.ac.jp
長澤正之	小児科	mn3-ped@tmd.ac.jp

## 第1週

10月7日 月	10月8日 火	10月9日 水	10月10日 木	10月11日 金
9:00-10:20 担当教員: 新井文子 造血器と造血のしくみ	9:00-10:20 担当教員: 新井文子 骨髄(白血球)系疾患 -2 骨髄異形成症 候群、骨髄増殖性腫 瘍	9:00-10:20 担当教員: 福田哲也 リンパ系疾患-2 多発性骨髄腫と 類縁疾患等	教養/ 医歯学融合教育	9:00-11:20 担当教員:  ケーススタディー 白血病(血液内科) Large classroom PBL
10:30-11:50 担当教員: 水谷修紀 赤血球系疾患-小児	10:30-11:50 担当教員: 水谷修紀 凝固異常(小児)	担当教員: 三浦修 赤血球系疾患-2		
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 新井文子 骨髄(白血球)系疾患 -1 急性白血病	12:50-14:10 担当教員: 三浦修 赤血球系疾患-1	12:50-14:10 担当教員: 小山高敏 凝固異常(成人)	12:50-14:10 担当教員: 林敬二 放射線治療総論	12:50-14:10 担当教員: 坂本先生 放射線生物学
14:20-15:40 担当教員: 水谷修紀 骨髄(白血球)系疾患 -小児	14:20-15:40 担当教員: 福田哲也 リンパ系疾患-1 悪性リンパ腫	14:20-15:40 担当教員: 三浦修 赤血球系疾患-3	14:20-15:40 担当教員: 中川恵子 放射線治療各論-1	14:20-15:40 担当教員: 放射線科 放射線治療各論-2

## 第2週

10月14日 月	10月15日 火	10月16日 水	10月17日 木	10月18日 金
祝日 (体育の日)	9:00-10:20 担当教員: 三宅・松島 緩和ケア・心身医療 科	9:00-10:20 担当教員: 三宅・松島 緩和ケア・心身医療 科	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 坂下・植竹 化学療法
	10:30-11:50 担当教員: 三宅・松島 緩和ケア・心身医療 科	10:30-11:50 担当教員: 東田修二 血液細胞の見方と血 液疾患の特殊検査		10:30-11:50 担当教員: 三宅・松島 緩和ケア・心身医療 科
	12:50-14:10 担当教員: 北川昌伸 病理講義	12:50-15:40 ケーススタディー 小児科(小児科)	12:50-15:40 担当教員: 倉田盛人 病理実習	12:50-15:40 評価 内科 3-4 (60点) 放射線科 1 (15点) 小児 1 (15点) 緩和 1 (10点) 30分フィードバック、 総括(血液内科)

- 科目を履修して得られる能力  
コンピテンシー → 別表を参照  
コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

各テーマごとに講義 and/or ミニケース方式にて行う。各テーマの最初に基礎医学の復習を行う。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

標準外科学 第12版 医学書院 2010年、新臨床外科学 第4版 医学書院 2006年、NEW外科学 第3版 南江堂 2012年、臨床外科学1・2・3 朝倉書店 2006年、

○参考書 (学習の参考になる書籍)

Schwartz's Principles of Surgery 9th ed. McGraw-Hill Professional, USA 2009年、Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice 19th ed. Saunders, USA 2012年、乳癌取扱い規約 第16版 金原出版 2008年、科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン1.2 金原出版 2011年版(第1版)、

○参考URL (学習の参考になるサイト)

Minds(マインズ) 医療情報サービス <http://minds.jcqhc.or.jp/n/top.php>、がん情報サービス <http://ganjoho.jp/public/index.html>、REICISTガイドライン改訂版ver.1.1 <http://www.jcog.jp/doctor/tool/recistv11.html>、Common Terminology Criteria for Adverse Events (CTCAE) ver. 4.0 <http://www.jcog.jp/doctor/tool/ctcae4.html>、

○成績評価方法

最終日に全受講範囲を対象とした試験を行なう。試験の成績に出席状況を加味して総合評価とする。

○受講上の注意

インフォームド・コンセント以外の 基礎医学の復習は各テーマ毎にその冒頭で行われるが、基礎医学カリキュラム及び消化器・循環器ブロックで履修した基礎医学部分を通読してから本ブロックを受講すること。また、受講後には同日中に教科書・参考書の関連領域を通読し、復習・理解しておくことが望ましい。各授業(コマ)では出席をとります。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
石黒めぐみ	腫瘍外科学分野(大腸・肛門外科)	ishiguro.srg2@tmd.ac.jp
佐藤隆宣	腫瘍外科学分野(乳線外科)	sato.srg2@tmd.ac.jp
中村典明	肝胆膵・総合外科学分野(肝胆膵外科)	nori.srg1@tmd.ac.jp
永井 鑑	食道・一般外科学分野(食道・胃外科)	nagai.srg1@tmd.ac.jp
井上芳徳	食道・一般外科学分野(血管外科)	yoshi.inoue.srg1@tmd.ac.jp

平成25年度 医学部医学科授業内容  
 一般外科 (ブロック番号 8)  
 第1週

1 週間ブロック

10月21日 月	10月22日 火	10月23日 水	10月24日 木	10月25日 金	
臨時休業	9:00-10:20 担当教員: 杉原 外科診断学・症候学、インフォームド・コンセント	9:00-10:20 担当教員: 石黒 小腸・大腸の外科(1) 大腸癌の外科治療	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 佐藤 乳線	
	10:30-11:50 担当教員: 永井 侵襲・代謝・栄養	10:30-11:50 担当教員: 石黒 小腸・大腸の外科(2)急性腹症を中心に(ミニケース)		10:30-11:50 担当教員: 岡本健太郎 小児の外科	
	昼休み				
	12:50-14:10 担当教員: 井上 血管の外科(止血・凝固、創傷治癒)	12:50-14:10 担当教員: 中島康晃 食道・横隔膜の外科	12:50-14:10 担当教員: 田中 膵・胆道の外科	12:50-14:10 担当教員: 三宅智 緩和医療	
	14:20-15:40 担当教員: 中嶋 昭 ヘルニア(成人・小児)	14:20-15:40 担当教員: 小嶋 胃・十二指腸の外科(手術合併症・術後障害)	14:20-15:40 担当教員: 中村 肝・脾の外科	14:20-15:40 評価(試験)	

- 科目を履修して得られる能力  
コンピテンシー → 別表を参照  
コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

授業は、神経解剖学、神経化学、神経生理学などの基礎的知識の復習に引き続き、教員による講義を行う。その他にもTBLや学生が数名でグループを作り実際の症例を担当し自ら授業を行う臨床講義の形式もある。いずれにしても、学生自身の自主的・積極的な参加が前提となっている。本授業は単独で存在しているわけではなく、すでに学習した基礎神経科学からこれから学ぶクリニカルクラークシップにいたる一連の授業の一つであり、卒業時には主な神経疾患に対する基本的臨床能力を修得できていることを目指している。

○教科書（授業において学生の所持を前提とする書籍）

シラバス・テキストを配布します。

○参考書（学習の参考になる書籍）

医学生・研修医のための神経内科学 神田 隆 中外医学社、2008  
ベッドサイドの神経の診かた 改定17版 田崎義昭他編 南山堂、2010  
脳神経外科学 太田富雄・松谷雅生編 金芳堂、2008  
標準精神医学 野村総一郎、樋口輝彦編集、医学書院、2002  
カプラン、臨床精神医学テキスト、井上令一、四宮滋子訳、医学書院MYW、2002  
Youmans Neurological Surgery, Vol.1-4 Winn H.R. 編 Saunders、2011  
DSM-IV（精神疾患の分類と診断の手引き）高橋三郎他訳、医学書院、2002

○参考URL（学習の参考になるサイト）

神経内科：専用のシラバスを作成し、ホームページに随時アップデートする予定  
脳神経外科疾患情報ページ <http://square.umin.ac.jp/neuroinf/index.html>  
精神科情報ページ 日本うつ病学会<http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/>  
日本臨床精神神経薬理学会<http://plaza.umin.ac.jp/JSPD/index.html>  
日本睡眠学会<http://www.jssr.jp/>

○成績評価方法

基礎復讐テスト10点 X3回、TBL 40点X3回 試験150点 の計300点満点 60%以上の計180点を合格とする。神経内科は、臨床講義4回で各5点の試験、総合試験30点で合計50点を各科配分の試験50点分とする。

○受講上の注意

授業を効率よく、効果的に受けるためには、基礎知識を復習し、予定の部分を予習したうえで授業に臨むことが必要である。また成績評価にはTBLやCBLなどのactive learningの成績も重要視している。学生自ら積極的に授業に参加することが必要である。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
石川 欽也	神経内科	pico.nuro@tmd.ac.jp
車地 暁生	精神科	0724.psyc@tmd.ac.jp
前原 健寿	脳外科	maehara.nsrq@tmd.ac.jp

第1週

10月28日 月	10月29日 火	10月30日 水	10月31日 木	11月1日 金
9:00-9:50 担当教員：前原、石川、車地  ブロックガイダンス	9:00-10:50 担当教員：車地  基礎ミニテスト、 復習(神経生化)	9:00-10:50 担当教員：石川  基礎ミニテスト、 復習(生理)	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:50 担当教員：東森  臨床講義 (血管内治療科)
10:00-11:50 担当教員：稲次 基礎ミニテスト、 復習(神経解剖)	11:00-11:50 担当教員：根本 血管内治療科概説	11:00-11:50 担当教員：前原 検査(2)機能 (脳波、てんかん)		11:00-11:50 担当教員：叶内 神経内科機能① (頭痛、めまい)
昼休み				
12:50-13:40 担当教員：水澤 神経内科 神経内科概説	12:50-13:40 担当教員：吉野 脳血管解剖	12:50-13:40 担当教員：菅原 脳外科 意識障害	12:50-13:40 担当教員：白石 神経内科 脳血管障 害	12:50-13:40 担当教員：稲次 脳外科 くも膜下出血
13:50-14:40 担当教員：前原 脳外科 脳外科概説	13:50-15:40 担当教員：田中 検査(1)画像検査 (CT,MRI,SPECT,PET)	13:50-15:40 担当教員：横田 神経内科 診察と症候学	13:50-15:40 担当教員：白石、石橋 神経内科 脳梗塞	13:50-14:40 担当教員：工藤 脳外科 脳出血
14:50-15:40 担当教員：西川 精神科 精神科概説				14:50-15:40 担当教員：三木 血管内治療

第2週

11月4日 月	11月5日 火	11月6日 水	11月7日 木	11月8日 金
祝日 (振替休日)	9:00-10:50 担当教員：西川 精神科 統合失調症	9:00-11:50 担当教員：成相、田村  脳外科 脳腫瘍	教養/ 医歯学融合教育	9:00-11:50 担当教員：河野、稲次、前原  TBL(脳外科)
	11:00-11:50 担当教員：富田 脳外科 頭部外傷	昼休み		
	12:50-13:40 担当教員：竹内 精神科 症状精神病 リエゾン	12:50-15:40 担当教員：小林  病理実習 (脳腫瘍・血管障害)		12:50-13:40 担当教員：横田 神経内科 脱髄性疾
	13:50-15:40 担当教員：冶徳 他 CBL(精神科)		13:50-15:40 担当教員：横田 神経内科 臨床講義1	TBL(脳外科)

第3週

11月11日 月	11月12日 火	11月13日 水	11月14日 木	11月15日 金
9:00-9:50 担当教員: 石橋 神経内科 感染症	9:00-10:50 担当教員: 大島 精神科 神経症性障害	9:00-9:50 担当教員: 水澤 神経内科 脊髄小脳変性症	教養/ 医歯学融合教育	9:00-9:50 担当教員: 菅原 脳外科 小児奇形
10:00-10:50 担当教員: 三條 神経内科 認知症(AD)		10:00-10:50 担当教員: 横田 神経内科 ALS		10:00-10:50 担当教員: 叶内 検査(2)生理検査 (伝導検査、他)
11:00-11:50 担当教員: 三條 神経内科 認知症(AD以外)	11:00-11:50 担当教員: 山岡 心身医療科(1) 心身症と摂食障害	11:00-11:50 担当教員: 松島 心身医療科(2) 精神腫瘍学 昼休み		11:00-11:50 担当教員: 石原 神経内科 Guillain-Barre症候群
12:50-13:40 担当教員: 武田 精神科 認知症(周辺症状)	12:50-13:40 担当教員: 成相 脳外科 老年脳外科	12:50-15:40 担当教員: 未定	12:50-13:40 担当教員: 石川 神経内科 パーキンソン病	12:50-13:40 担当教員: 石原、石橋 神経内科 筋疾患または感染症
13:50-15:40 担当教員: 三條 神経内科 臨床講義2	13:50-14:40 担当教員: 山本 精神科 アルコール・ 薬物関連障害	病理実習 (感染症、脱髄性疾 患、神経変性疾患)	13:50-14:40 担当教員: 石川 神経内科 不随意運動	13:50-15:40 担当教員: 水澤 神経内科 臨床講義3
	14:50-15:40 担当教員: 仲谷 精神科 パーソナリティー障害		14:50-15:40 担当教員: 稲次 脳外科 定位	14:50-15:40 担当教員:

第4週

11月18日 月	11月19日 火	11月20日 水	11月21日 木	11月22日 金
9:00-9:50 担当教員: 大久保 神経内科 炎症性筋疾患・傍腫瘍性症候群	9:00-9:50 担当教員: 平井 精神科 睡眠障害	9:00-10:50 担当教員: 京野 他 CBL(精神科)	教養/ 医歯学融合教育	9:00-11:50 担当教員: 水澤、西川 前原 他  試験
10:00-11:50 担当教員: 石川 神経内科 臨床講義4	10:00-11:50 担当教員: 車地 精神科 気分障害			
12:50-15:40 担当教員: 石川  TBL(神経内科)	12:50-14:40 担当教員: 山田 精神科 小児精神	12:50-15:40 担当教員: 上里 他  TBL(精神科)		
				14:50-15:40 担当教員: 水澤 他 フィードバック

授業科目名 **骨・関節・脊椎**  
(ブロック番号 10)

授業責任者 **大川 淳**

- 科目を履修して得られる能力  
コンピテンシー → 別表を参照  
コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

講義及び大教室PBLを中心に行う。第2週目にはビデオまたはライブによる関節鏡や人工関節手術見学を予定している。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

内田淳正監修:標準整形外科学 第11版 医学書院 2011

○参考書 (学習の参考になる書籍)

越智隆弘総編集:最新整形外科学体系1~25巻 中山書店 2006~2008 (整形外科医局所蔵)

○参考URL (学習の参考になるサイト)

UpToDate <http://www.uptodate.com/contents/search>  
日本整形外科学会HP <http://www.joa.or.jp/jp/index.html>

○成績評価方法

CBTおよび出席率

○受講上の注意

講義のプリントは用意しない。講義内容はWebClassを参照のこと。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名) (診療科・分野) (Eメールアドレス)

大川淳 神野哲也 加藤剛	整形外科 整形外科 整形外科	okawa.orth@tmd.ac.jp jinno.orth@tmd.ac.jp kato.orth@tmd.ac.jp
--------------------	----------------------	---

平成25年度 医学部医学科授業内容

骨・関節・脊椎

(ブロック番号 10)

2 週間ブロック

第1週

11月25日 月	11月26日 火	11月27日 水	11月28日 木	11月29日 金
9:00-10:20 基礎医学復習 (小テスト等)	9:00-10:20 担当教員: 吉井 脊椎Ⅱ (腰椎疾患・脊柱変形)	9:00-10:20 担当教員: 阿江 骨軟部腫瘍Ⅰ	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 猪瀬 ミニケース 脊椎Ⅱ
10:30-11:50 担当教員: 大川 整形外科 総論	10:30-11:50 担当教員: 加藤 脊椎外傷	10:30-11:50 担当教員: 澤村 骨軟部腫瘍Ⅱ		10:30-11:50 担当教員: 早乙女 人工骨と生体材料
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 川端 脊椎Ⅰ (頰椎疾患・脊髄腫瘍)	12:50-14:10 担当教員: 若林 手外科・上肢外傷	12:50-14:10 担当教員: 野田・竹田 代謝性骨疾患	大教室PBL 脊椎脊髄・神経疾患	12:50-14:10 担当教員: 柳下 外傷学総論
14:20-15:40 担当教員: 川端 ミニケース 脊椎Ⅰ	14:20-15:40 担当教員: 若林 末梢神経障害	14:20-15:40 担当教員: 瀬川 小児整形		14:20-15:40 担当教員: 二村 ミニケース 手・末梢神経

第2週

12月2日 月	12月3日 火	12月4日 水	12月5日 木	12月6日 金
9:00-10:20 担当教員: 関矢 軟骨代謝・再生医学	9:00-10:20 担当教員: 古賀大 骨盤・股関節外傷	9:00-10:20 担当教員: 森田 リハビリテーションⅠ	教養/ 医歯学融合教育	9:00-11:50 担当教員: 宗田・渡邊 大教室PBL 膝関節疾患
10:30-11:50 担当教員: 宗田 膝関節疾患	10:30-11:50 担当教員: 神野 股関節疾患	10:30-11:50 担当教員: 森田 リハビリテーションⅡ		
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 柳下 スポーツ整形と 高圧酸素療法	12:50-14:10 担当教員: 望月 肩・肘関節疾患	12:50-15:40 担当教員: 二村・神野	12:50-14:10 担当教員: 古賀英 ミニケース 関節疾患Ⅱ	12:50-15:40 評価
14:20-15:40 担当教員: 加藤 整形外科炎症性疾患	14:20-15:40 担当教員: 望月 ミニケース 関節疾患Ⅰ	ライブサージェリー (THA/関節鏡など)	14:20-15:40 担当教員: 麻生 ロコモティブシンドローム	

授業科目名 **皮膚・アレルギー・膠原病**  
(ブロック番号 11)

授業責任者 **ブロック責任者 上阪 等**  
(皮膚・アレルギー責任者 横関 博雄、膠原病・リウマチ内科責任者 上阪 等)

- 科目を履修して得られる能力  
コンピテンシー → 別表を参照  
コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

第一週(皮膚・アレルギー)  
解剖学、病理組織学、生理学、生化学、そして免疫・アレルギー学などの基礎医学の知識を応用し、皮膚疾患・アレルギー疾患の病態生理の理解を目指す。前半は、非免疫学的機序による皮膚疾患を扱う。後半は皮膚アレルギー疾患を中心に、呼吸器・鼻・眼など他臓器のアレルギー疾患を併せて扱い、アレルギー疾患を包括的に学習する。特に重要な疾患については、臨床例を通じて、学生主体の討論を行い、疾患についての基本的知識や、患者を診察するための考え方を習得することを目的とした授業を行う。

第二週(膠原病・リウマチ内科)  
学生が膠原病・リウマチ性疾患の臨床を学ぶにおいて、特に重要な膠原病・リウマチ性疾患または疾患群について、それらの病態生理／臨床免疫学的側面の理解、そしてプレクリニカルクラークシップにおける頻度の高い症候へのアプローチの学習の基盤となる考え方の習得を支援し、各膠原病・リウマチ性疾患または疾患群に関する概念・病因・症候・治療について概説し、学生が将来臨床に応用できる知識と考え方を自己主導的に習得するのを支援する。

○教科書(授業において学生の所持を前提とする書籍)

第一週(皮膚・アレルギー)  
上野賢一著「皮膚科学」金芳堂出版、池田重雄他監修「標準皮膚科学」医学書院、西山茂夫著「皮膚病アトラス」文光堂、清水宏著「あたらしい皮膚科学」中山書店

第二週(膠原病・リウマチ内科)  
ハリソン内科学第3版(原著第17版);メディカル・サイエンス・インターナショナル 発行年2009年

○参考書(学習の参考になる書籍)

第一週(皮膚・アレルギー)  
「現代皮膚科学体系」中山書店、「皮膚科Mook」(疾患毎に別冊になっている)金原書店、  
「Rook/Wilkinson/Ebling: Textbook of Dermatology」Blackwell Scientific Publication.、「Fitzpatrick et al.: Dermatology in General Medicine」McGraw-Hill Book Co.、「Lever/Schaunburg-Lever: Histopathology of the Skin」JB Lippincott Co.

第二週(膠原病・リウマチ内科)  
リウマチ病学テキスト、診断と治療社 発行年2010年  
ワシントンマニュアル(WM)リウマチ科コンサルト;メディカル・サイエンス・インターナショナル 発行年2006年

○参考URL(学習の参考になるサイト)

○成績評価方法

学習到達度評価は3回のTBL(非免疫学皮膚疾患、アレルギー疾患、膠原病・リウマチ内科疾患)を用いて行う。それぞれが合格基準を満たすことを要求する。

○受講上の注意

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
上阪 等	膠原病・リウマチ内科	kohsaka.rheu@tmd.ac.jp
高村 聡人	膠原病・リウマチ内科	takamura.rheu@tmd.ac.jp
横関 博雄	皮膚科	3064.derm@tmd.ac.jp

平成25年度 医学部医学科授業内容  
皮膚・アレルギー・膠原病(ブロック番号 11)  
第1週

2 週間ブロック

12月9日 月	12月10日 火	12月11日 水	12月12日 木	12月13日 金
9:00-9:50 担当教員: 横関 博雄 皮膚の構造・機能・ 役割	9:00-9:50 担当教員: 西澤 彩 肉芽腫症・代謝性 疾患	9:00-11:50 担当教員: 横関 博雄 宇賀神つかさ	教養/ 医歯学融合教育	9:00-9:50 担当教員: 稲瀬 直彦 気管支喘息
10:00-10:50 担当教員: 横関 博雄 皮膚科診断学	10:00-10:50 担当教員: 加藤 卓朗 皮膚感染症 I	TBL(非免疫学的疾患)		10:00-10:50 担当教員: 鈴木 康弘 鼻眼アレルギー
11:00-11:50 担当教員: 井川 健 角化のメカニズムと 角化異常症の理解	11:00-11:50 担当教員: 吉田 正己 皮膚感染症 II			11:00-11:50 担当教員: 佐藤 貴浩 皮膚自己免疫疾患 (水疱症)
昼休み				
12:50-13:40 担当教員: 山口 裕史 色素性疾患	12:50-13:40 担当教員: 勝俣 道夫 母斑と母斑症	12:50-13:40 担当教員: 烏山一・河野洋平 免疫学復習 (講義・テスト)	12:50-13:40 担当教員: 高山かおる 皮膚自己免疫疾患 (乾癬) case-based	12:50-15:40 担当教員: 横関博雄 宇賀神つかさ
13:50-14:40 担当教員: 山口 裕史 皮膚血管障害	13:50-14:40 担当教員: 勝俣 道夫 皮膚良性腫瘍	13:50-14:40 担当教員: 横関 博雄 皮膚アレルギー 疾患 I	13:50-14:40 担当教員: 横関 博雄 薬疹・薬物障害	TBL(アレルギー疾患)
14:50-15:40 担当教員: 西澤 彩 物理化学的障害	14:50-15:40 担当教員: 並木 剛 皮膚悪性腫瘍	14:50-15:40 担当教員: 井川 健 皮膚アレルギー 疾患 II	14:50-15:40 担当教員: 宇賀神つかさ 食物・薬物アレルギー(アナ フィラキシー) case-based	

第2週

12月16日 月	12月17日 火	12月18日 水	12月19日 木	12月20日 金
9:00-10:20 担当教員: 上阪 膠原病総論①	9:00-10:20 担当教員: 高村 全身性エリテマ トーデス①	9:00-10:20 担当教員: 齊藤 血管炎	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 担当教員: 針谷 膠原病総論②
10:30-11:50 担当教員: 岩井 関節リウマチ①	10:30-11:50 担当教員: 窪田 全身性エリテマ トーデス② 演習	10:30-11:50 担当教員: 宮部 成人発症Still病・ 不明熱		10:30-11:50 担当教員: 小池 膠原病の治療薬
昼休み				
12:50-14:10 担当教員: 萩山 関節リウマチ② 演習	12:50-13:40 担当教員: 杉原 多発性筋炎・皮膚筋 炎 13:50-14:40 担当教員: 長坂 Sjogren症候群・ Behcet病 14:50-15:40 担当教員: 鈴木 結晶性関節炎	12:50-15:40 担当教員: 鈴木志保 病理実習	12:50-14:10 担当教員: 山田 強皮症・ 混合性結合組織病 14:20-15:40 担当教員: 皮膚科高河 膠原病の皮疹	12:50-15:40 担当教員: 高田 TBL

○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー → 別表を参照  
 コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

講義・ミニケース・TBL・小テスト・PBL

○教科書（授業において学生の所持を前提とする書籍）

感染症学を網羅した内科学教科書[ハリソン内科学、内科学(朝倉書店)、内科学書(中山書店)、内科学(文光堂)、新臨床内科学など]

○参考書（学習の参考になる書籍）

Principles and practice of infectious diseases (by Mandell et al)、感染症専門医テキスト(日本感染症学会編)、感染症学(診断と治療社)、レジデントのための感染症診療マニュアル(医学書院)

○参考URL（学習の参考になるサイト）

国立感染症研究所感染症情報センター <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>, 厚生労働省検疫所FORTH <http://www.forth.go.jp/>, 日本感染症学会 <http://www.kansensho.or.jp/>, 米国感染症学会IDSA <http://www.idsociety.org/Index.aspx>

○成績評価方法

小テスト(40%)、PBL(60%) : 全員が自分の担当内容をレポート(A4 1枚)として提出、グループ毎の発表会を行うが、その内容も採点に加味される(抽出した項目の妥当性、導出した結論の妥当性、発表が簡潔で過不足なく行えたか、全員参加の姿勢の有無)

○受講上の注意

TBL、PBLには特に主体的に参加することを求める。PBLレポートはそれぞれが自分で取り組み、自分なりの回答を記載したものを評価する。グループ単位での発表会も行い、その結果もPBL評価に含める。各自がPC、書籍、資料を持参してよく、インターネットなどの様々な媒体を用いて情報収集をしながら参加する。グループ内では協力してよいが、レポートの内容がほぼ同一であるなど、主体的参加が評価できない場合には大きな減点の対象となる。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
小池竜司	感染対策室・臨床試験管理センター	koike.rheu@tmd.ac.jp

第1週

1月6日 月	1月7日 火	1月8日 水	1月9日 木	1月10日 金
9:00-10:20 基礎医学復習 (山岡 昇司教授)	9:00-9:50 担当教員: 小池竜司 真菌感染症	9:00-9:50 担当教員: 角田篤信(仮) プライマリケアにおける 耳鼻咽喉科感染症	教養/ 医歯学融合教育	9:00-9:50 担当教員: 小池竜司 海外の感染症と疫学
10:00-11:20 担当教員: 齋藤良一 (保健衛生学科)	10:00-10:50 担当教員: 小池竜司 日和見感染症	10:00-10:50 担当教員: 小池竜司 プライマリケアにおけ るウイルス感染症		10:00-10:50 担当教員: 小池竜司 小テスト
感染症診断の 臨床検査	11:00-11:50 担当教員: 小池竜司 ミニケース	11:00-11:50 担当教員: 藤江俊秀 プライマリケアにおけ る肺感染症		11:00-11:50 担当教員: 小池竜司 large class PBL
昼休み				
12:50-13:40 担当教員: 吉田正己 (東邦大佐倉病院) 皮膚科における性感染症	12:50-13:40 担当教員: 永井鑑(仮) 外科感染症	12:50-13:40 担当教員: 登坂直規(仮) 救急医療における感 染症	12:50-13:40 担当教員: 長澤正之 小児の感染症(1)	12:50-15:40 PBL続き 評価 (発表会+レポート)
13:50-14:40 担当教員: 尾林聡(仮) 女性診療科における 性感染症	13:50-15:10 担当教員: 小池竜司 TBL: 病院感染・ 院内感染	13:50-14:40 担当教員: 小池竜司 プライマリケアにおけ る腸管感染症	13:50-14:40 担当教員: 長澤正之 小児の感染症(2)	
14:50-15:40 担当教員: 横山みなと(仮) 泌尿器科における 性感染症		14:50-15:40 担当教員: 小池竜司 ミニケース	14:50-15:40 担当教員: 長澤正之 予防接種とワクチン	

○科目を履修して得られる能力

- コンピテンシー → 別表を参照  
 コア・カリ(H23) → 別表を参照

○学習方法

ブロック開始時にこれまで学んできた基礎的事項の理解度を試す、頭頸部領域全般についての基礎医学の復習小テストを領域別に3回に分けて行う。当ブロックの講義を行う主たる診療科は、耳鼻咽喉科(第1週)、頭頸部外科(第2週)、形成外科(第2～3週)、口腔外科(第3週)、眼科(第4週)であるが、適宜関連する他科、即ち、臨床解剖(第1・2週)、放射線科(第2週)、脳外科(第2週)、歯科(第3週)、矯正科(第3週)といった他科の協力も得てこれらの領域の講義も複合的に取り入れ、理解を深める手助けとする。なお、形成外科については、その診療範囲は全身であるため、講義、試験とも、頭頸部領域のみでなく全身を対象としたものになる。また、第2週には医科歯科合同の病理実習を行い、各週の後半には主たる診療科のミニケースや患者参加型講義を行い、臨床推論の基礎と実際を学んで行く。第2～4週の最終日(金曜日)には医歯学融合教育支援センターの協力を得てTBLを行って知識の統合的な理解を深め、更に筆記試験による学習内容の理解の確認を行う。

○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 喜多村健・森山寛 編 改訂第2版 南江堂 2007  
 標準形成外科学 第6版 平林慎一・鈴木茂彦編 医学書院 2011  
 標準口腔外科学 第3版 野間弘康・瀬戸皖一編 医学書院 2004  
 現代の眼科学 第11版 所敬監修 金原出版 2012

○参考書 (学習の参考になる書籍)

新耳鼻咽喉科学 改訂11版 野村恭也監修 南山堂 2013  
 ENT臨床フロンティア がんを見逃さない—頭頸部癌診療の最前線 岸本誠司編 中山書店 2013  
 Grabb and Smith's Plastic Surgery 6th ed. Charles H.M. Little Brown 2007  
 Operative Oral and Maxillofacial Surgery 2nd ed. John Langdon et al. HODDER ARNOLD 2011  
 眼科検査法ハンドブック 第4版 小口芳久 他 編 医学書院 2005  
 Clinical Ophthalmology 7th ed. Jack J Kanski, Saunders 2011

○参考URL (学習の参考になるサイト)

日本耳鼻咽喉科学会ホームページ <http://www.jibika.or.jp/>  
 日本頭頸部癌学会ホームページ <http://www.jshnc.umin.ne.jp/>  
 日本形成外科学会ホームページ <http://www.jsprs.or.jp/>  
 日本口腔外科学会ホームページ <http://www.jsoms.or.jp/>  
 日本眼科学会ホームページ <http://www.nichigan.or.jp/index.jsp>  
<http://lib.tmd.ac.jp/e-service/e-books.html>

○成績評価方法

講義や実習の出席状況及び態度、第2～4週の最終日(金曜日)に行われるTBLと筆記試験による評価を総合して判定する。

○受講上の注意

大人数での講義や実習となるので、これらを円滑に進めるため、時間厳守とし、担当教員の業務遂行にも協力していただきたい。特に患者参加型講義においては遅刻、私語、写真撮影や音声の記録は厳禁とする。

○問い合わせ先(担当教員)

(教員名)	(診療科・分野)	(Eメールアドレス)
杉本 太郎	耳鼻咽喉科	sugimoto.oto@tmd.ac.jp
森 弘樹	形成外科	moriplas@tmd.ac.jp
島本 裕彰	口腔外科	hiroaki.osur@tmd.ac.jp
田中 明子	眼科	tanaka.oph@tmd.ac.jp
小林 大輔	人体病理	d-koba.pth1@tmd.ac.jp

平成25年度 医学部医学科授業内容

頭頸部・臨床  
第1週

(ブロック番号 13)

4 週間ブロック

1月13日 月	1月14日 火	1月15日 水	1月16日 木	1月17日 金	
祝日 (成人の日)	9:00-9:50 基礎医学復習小テスト 耳鼻咽喉科・脳外科 頭頸部外科	9:00-9:50 耳鼻咽喉科 担当教員: 高橋 正時 耳科学3(内耳)	教養/ 医歯学融合教育	9:00-9:50 耳鼻咽喉科 担当教員: 喜多村 健 喉頭2(疾患)	
	10:00-10:50 基礎医学復習小テスト 形成外科 口腔外科・歯科	10:00-10:50 耳鼻咽喉科 担当教員: 角田 篤信 耳科学4(めまい・平衡障害)		10:00-10:50 耳鼻咽喉科 担当教員: 野口 佳裕 口腔・唾液腺疾患	
	11:00-11:50 基礎医学復習小テスト 眼科	11:00-11:50 耳鼻咽喉科 担当教員: 鈴木 康弘 鼻科学1(解剖・生理)		11:00-11:50 耳鼻咽喉科 担当教員: 鈴木 康弘 咽頭・全身疾患	
	昼休み				
	12:50-13:40 耳鼻咽喉科 担当教員: 喜多村 健 耳鼻咽喉科学総論	12:50-13:40 耳鼻咽喉科 担当教員: 野口 佳裕 鼻科学2(検査)		12:50-14:10 担当教員: 喜多村 健 耳鼻咽喉科ミニケース	12:50-13:40 耳鼻咽喉科 担当教員: 角田 篤信 救急疾患
13:50-14:40 耳鼻咽喉科 担当教員: 喜多村 健 耳科学1(症候学)	13:50-14:40 耳鼻咽喉科 担当教員: 戸叶 尚史 鼻科学3(アレルギー)	14:20-15:40 担当教員: 喜多村 健	13:50-14:40 臨床解剖 担当教員: 秋田 恵一 頭頸部領域の臨床解剖 1(頸部)		
14:50-15:40 耳鼻咽喉科 担当教員: 野口 佳裕 耳科学2(外耳・中耳)	14:50-15:40 耳鼻咽喉科 担当教員: 岩崎 朱見 喉頭1(総論)	耳鼻咽喉科 患者参加型講義	14:50-15:40 担当教員: 予備枠		

第2週

1月20日 月	1月21日 火	1月22日 水	1月23日 木	1月24日 金
9:00-9:50 頭頸部外科 担当教員: 岸本 誠司 頭頸部外科学総論	9:00-9:50 頭頸部外科 担当教員: 別府 武 口腔・唾液腺の腫瘍	9:00-9:50 形成外科 担当教員: 岡崎 睦 頭頸部・頭蓋底再建の現状と課題	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20 耳鼻咽喉科TBL
10:00-10:50 臨床解剖 担当教員: 秋田 恵一 頭頸部領域の臨床解剖 2(頭蓋底)	10:00-10:50 頭頸部外科 担当教員: 杉本 太郎 中下咽頭・喉頭の腫瘍	10:00-10:50 頭頸部外科 担当教員: 川端 一嘉 がん専門病院における 頭頸部癌治療の現状		10:30-11:50 評価(耳鼻咽喉科) & フィードバック
11:00-11:50 放射線科 担当教員: 渋谷 均 頭頸部癌の放射線治療	11:00-11:50 頭頸部外科 担当教員: 角 卓郎 甲状腺・気管食道・頸部の疾患	11:00-11:50 担当教員: 予備枠		
昼休み				
12:50-13:40 頭頸部外科 担当教員: 杉本 太郎 頭頸部癌の化学療法	12:50-13:40 形成外科 担当教員: 森 弘樹 形成外科総論	12:50-14:10 担当教員: 角 卓郎 頭頸部外科ミニケース		12:50-15:40 担当教員: 人体病理 小林 大輔 口腔病理 山口 朗 頭頸部病理実習 (医学部歯学部合同)
13:50-14:40 頭頸部外科 担当教員: 岸本 誠司 聴器・鼻副鼻腔・上咽頭・頭蓋底の腫瘍	13:50-14:40 形成外科 担当教員: 岡崎 睦 顔面領域の構造と外傷	14:20-15:40 担当教員: 杉本 太郎 頭頸部外科 患者参加型講義 or ミニケース		14:20-15:40 評価(頭頸部外科) 評価(脳神経外科) & フィードバック
14:50-15:40 脳外科 担当教員: 前原 健寿 頭蓋底腫瘍・脳神経	14:50-15:40 形成外科 担当教員: 岡崎 睦 組織再建の考え方と臨床例			

第3週

1月27日 月	1月28日 火	1月29日 水	1月30日 木	1月31日 金
9:00-9:50 口腔外科 担当教員: 小村 健 口腔外科総論	9:00-9:50 形成外科 担当教員: 宇佐美 聡 手足・体幹の先天異常と外傷	9:00-9:50 口腔外科 担当教員: 儀武 啓幸 顎関節疾患	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20  形成外科TBL
10:00-10:50 口腔外科 担当教員: 小村 健 顎口腔の悪性腫瘍	10:00-10:50 形成外科 担当教員: 田中顕太郎 形成外科褥瘡と難治性潰瘍	10:00-10:50 歯科 担当教員: 荒木 孝二 歯・歯周疾患と炎症性疾患		10:30-11:50  評価(形成外科) & フィードバック
11:00-11:50 口腔外科 担当教員: 樺沢 勇司 顎口腔の外傷	11:00-11:50 形成外科 担当教員: 森 弘樹 美容外科	11:00-11:50 口腔外科 担当教員: 津島 文彦 口腔粘膜疾患		
昼休み				
12:50-13:40 形成外科 担当教員: 植村 法子 顔面・頭部領域の先天異常	12:50-13:40 矯正 担当教員: 小野 卓史 矯正総論	12:50-14:10 担当教員: 島本裕彰 口腔外科ミニケース	12:50-14:10 担当教員: 森 弘樹 形成外科ミニケース	12:50-14:10  口腔外科TBL 歯科TBL
13:50-14:40 形成外科 担当教員: 植村 法子 熱傷の局所治療と瘢痕ケロイド	13:50-14:40 口腔外科 担当教員: 原田 清 口腔顎顔面の先天性疾患と顎顔面変形症	14:20-15:40 担当教員: 島本裕彰 口腔外科 患者参加型講義 or ミニケース	14:20-15:40 担当教員: 宇佐美 聡 形成外科 患者参加型講義 or ミニケース	14:20-15:40 評価(口腔外科) 評価(歯科) & フィードバック
14:50-15:40 形成外科 担当教員: 田中顕太郎 皮膚・軟部腫瘍の診断と治療	14:50-15:40 口腔外科 担当教員: 山口 聡 顎口腔の良性腫瘍および嚢胞			

第4週

2月3日 月	2月4日 火	2月5日 水	2月6日 木	2月7日 金
9:00-9:50 眼科 担当教員: 眼科教授 眼科序論	9:00-9:50 眼科 担当教員: 高瀬 博 ぶどう膜炎	9:00-9:50 眼科 担当教員: 白土 城照 緑内障	教養/ 医歯学融合教育	9:00-10:20  眼科TBL
10:00-10:50 眼科 担当教員: 鴨居 功樹 眼症候学	10:00-10:50 眼科 担当教員: 高瀬 博 白内障	10:00-10:50 眼科 担当教員: 清澤 源弘 神経眼科		10:30-11:50  評価(眼科) & フィードバック
11:00-11:50 眼科 担当教員: 宮永 将 眼科検査方法	11:00-11:50 眼科 担当教員: 佐々木秀次 角膜	11:00-11:50 担当教員: 予備枠		
昼休み				
12:50-13:40 眼科 担当教員: 大野 京子 屈折異常・調節障害	12:50-13:40 眼科 担当教員: 大野 京子 網膜血管疾患・色覚	12:50-13:40 担当教員: 予備枠	12:50-14:10 担当教員: 小川 学 眼科ミニケース	予備枠
13:50-14:40 眼科 担当教員: 田中 明子 斜視・弱視	13:50-14:40 眼科 担当教員: 菅本 良治 網膜剥離・糖尿病網膜症	13:50-14:40 担当教員: 予備枠	14:20-15:40 担当教員: 堀江真太郎 眼科 患者参加型講義 or ミニケース	
14:50-15:40 眼科 担当教員: 東 範行 小児眼科・未熟児眼	14:50-15:40 眼科 担当教員: 鴨居 功樹 救急疾患	14:50-15:40 担当教員: 予備枠		

# 授業科目名 老年医学

(医歯学融合) (ブロック番号 14)

授業責任者 下門顕太郎・水口俊介

## ○科目を履修して得られる能力

コンピテンシー → 別表を参照  
コア・カリ(H23) → 別表を参照

## ○学習方法

教科書および参考図書、文献をもとにした自主学習を前提とする。それをふまえて、講義および症例を用いたグループ討論、高齢者体験実習、口腔ケア実習、学外実習に参加し、知識の整理と臨床的な応用能力を身につける。特に、老年医学ブロックは医学部と歯学部の合同ブロックであり、知識の交換や相互理解、協力姿勢を身につけることが求められる。

## ○教科書 (授業において学生の所持を前提とする書籍)

老年医学 日本老年医学会編(西村書店)、日本老年歯科医学会監修 高齢者歯科診療ガイドブック(財団法人 口腔保健協会)

## ○参考書 (学習の参考になる書籍)

老年医学テキスト(日本老年医学会編)、健康長寿診療ハンドブック(日本老年医学会編)、高齢者総合的機能評価ガイドライン(鳥羽研二)、認知症地域ケアガイドブック(認知症介護研究・研修東京センター監修)、新老年学第3版(大内尉義・秋山弘子)、日本老年歯科医学会監修 高齢者歯科診療ガイドブック(財団法人 口腔保健協会)、Brocklehurst's TEXTBOOK OF Geriatric Medicine and Gerontology(7th edition)、The Washington Manual Subspecialty Consult Series Geriatrics Subspecialty Consult

## ○参考URL (学習の参考になるサイト)

日本老年医学会 <http://www.jpn-geriat-soc.or.jp/index.html> 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>  
日本老年歯科医学会 <http://www.gerodontology.jp/> 摂食・嚥下リハビリテーション学会  
<http://www.jsdr.or.jp/>

## ○成績評価方法

ブロック最終日の筆記試験、TBLでの評価、学外実習のレポート、日々の提出課題、出席

## ○受講上の注意

授業中およびTBL等のグループ学習において、パソコンや携帯端末等を用いた電子化資料の使用ならびにインターネットでの検索を禁止いたします。必ず、あらかじめ自己学習をし、認められた図書や資料を使用して下さい。

## ○問い合わせ先(担当教員)

(教員名) (診療科・分野) (Eメールアドレス)

下門顕太郎	医学部老年病内科	k.shimoka.vasc@tmd.ac.jp
水口俊介	歯学部全部床義歯補綴学	s.minakuchi.gerd@tmd.ac.jp
阿部庸子	医学部老年病内科	yk.abe.vasc@tmd.ac.jp

平成25年度 医学部医学科授業内容

老年医学

(ブロック番号 14)

2 週間ブロック

第1週

2月10日 月		2月11日 火	2月12日 水	2月13日 木	2月14日 金
9:00-9:50 担当教員: 下門顕太郎 基礎医学復習		祝日 (建国記念日)	9:00-9:50 担当教員: 下門顕太郎 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化①	教養/ 医歯学融合教育	9:00-11:50 担当教員: 阿部庸子
10:00-11:50 担当教員: 下門顕太郎 ミニケース			10:00-10:50 担当教員: 下門顕太郎 加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化②		ミニケース
昼休み			11:00-11:50 担当教員: 阿部庸子 老年症候群		昼休み
12:50-15:40 口腔ケア実習	12:50-15:40 高齢者体験実習		12:50-13:40 担当教員: 丸山直記 加齢のメカニズム①	12:50-13:40 担当教員: 水口俊介 高齢者歯科	12:50-13:40 担当教員: 下門顕太郎 多病・非特異的症状
			13:50-14:40 担当教員: 下門顕太郎 加齢のメカニズム②	13:50-14:40 担当教員: 豊島堅志 高齢者の栄養	13:50-14:40 担当教員: 整形外科 骨折(骨粗鬆症)・転倒・歩行機能障害
			14:50-15:40 担当教員: 豊島堅志 高齢者の薬物療法	14:50-15:40 担当教員: 形成外科 褥瘡	14:50-15:40 担当教員: 下門顕太郎 高齢者総合的機能評価(CGA)

第2週

2月17日 月		2月18日 火	2月19日 水	2月20日 木	2月21日 金
9:00-9:50 担当教員: 阿部庸子 介護保険制度・チーム医療・地域医療		学外実習	9:00-9:50 担当教員: 下門顕太郎 認知症・せん妄	教養/ 医歯学融合教育	自習
10:00-10:50 担当教員: 下門顕太郎 ケースカンファレンス			10:00-10:50 担当教員: 中根綾子 摂食嚥下機能① 歯科の内容		10:00-11:00 筆記試験
昼休み			11:00-11:50 担当教員: 耳鼻咽喉科 摂食嚥下機能② 医科の内容		自習
12:50-15:40 高齢者体験実習	12:50-15:40 口腔ケア実習		12:50-15:40 担当教員: 根木真理子 病理実習	12:50-13:40 パラメディカル講義	TBL
				自習	
		14:50-15:40 学外実習報告会		自習	

# 授 業 概 要

(第 4 学年)

## (英訳) English for Medicine Ⅱ

## ○ 科目を履修して得られる能力

本学が掲げる教育理念・目的（「幅広い教養と豊かな感性を備え、広い視野と高い倫理観を持ち、自ら問題を提起し解決する姿勢に富み、医学のフロンティアを切り開く創造能力があり、地球的規模で働く国際人としての意識を持つ医師・医学研究者の育成」）の実現には、以下に挙げる資質が不可欠である。

- ・ グローバルスタンダードに沿った医療を提供する
- ・ 基礎・臨床研究を行い、情報を世界に向けて発信する
- ・ 国際舞台で意見交換を行い、生命科学の発展に貢献する

これら資質の獲得のためには、医学知識の習得に加え、以下の能力の習得が必要である。

- 1) 英語による医学情報（論文やデータベース）を読む能力
- 2) 英語により情報発信を行い、また国際舞台で議論する能力
- 3) 臨床問題解決における、臨床情報収集およびその批判的検証を行う能力  
(Evidence-based medicine (EBM)の理解と実践)

したがって医学英語Ⅱにおいては、これら3つの能力の習得を到達目標に掲げ、それらに対する学生による必要性の認識、および自己主導的学習をサポートするための学習機会を提供する。

## ○ 学習方法

(第4学年該当部分のみ記載)

臨床症例を基盤とし、様々な臨床問題の解決における情報収集およびその批判的検証のための技能修得を目的とし、全体講義／議論、および4人程度の小グループでの議論／課題取組を行う。

## ○ 教科書

- ・ 岡田 聚、名木田恵理子 著「最新医学用語演習」(南雲堂 1993年)

## ○ 参考書

- ・ 相原守夫、池田正行、三原華子、村山隆之 監訳「医学文献ユーザーズガイド」(凸版メディア 2010年)
- ・ 能登 洋 著「EBMの正しい理解と実践 Q&A」(羊土社 2003年)

## ○ 参照 URL

## ○ 成績評価の評価法

第4学年に最終試験を行う。最終成績は以下にもとづき判定される。

- ・ Class participation (discussion/presentation/comment) and write-ups (35%)
- ・ Vocabulary quiz score (第3学年) (30%)

- Final exam score (35%)

- ◇ 3分の2以上出席していないものは最終試験受験資格を欠く。
- ◇ 遅刻は本人の学習の妨げになるほか、同じグループのメンバーの学習にも大きな迷惑となることから、厳しく取扱う。
- ◇ 出席状況や取組姿勢、成績が著しく悪い場合は、海外研修応募の際などに考慮対象となる。

- 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

高田和生 takada.rheu@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前		医 学 英 語			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/24	水	15:50～17:10	導入	高田	MDタワー2階 共用講義室1等
5/10	金	14:20～15:40	臨床問題の定義、臨床研究デザイン	高田	MDタワー2階 共用講義室1等
5/21	火	15:50～17:10	「予後」に関するエビデンスの検証	高田	MDタワー2階 共用講義室1等
5/31	金	14:20～15:40	エビデンスの検索	高田	MDタワー4階 図書館情報検索 室
6/11	火	15:50～17:10	「治療/予防」に関するエビデンスの検証	高田	MDタワー2階 共用講義室1等
6/21	金	14:20～15:40	「診断」に関するエビデンスの検証	高田	MDタワー2階 共用講義室1等
7/9	火	15:50～17:10	演習	高田	MDタワー2階 共用講義室1等
7/16	火	15:50～17:10	総説エビデンスの検証	高田	MDタワー2階 共用講義室1等
10/3	木	9:00～10:20	医学英語試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Pathology Lab Work

- 科目を履修して得られる能力  
病理学とは広義にはヒトの病気の理論のことであり、病気の原因、進行、転帰について、主として細胞・組織・臓器の形態的な面から追求する分野である。病理学実習では、個々の臓器における代表的疾患の組織像を観察し、その病気の実態を学ぶ。
- 学習方法  
準備された実習書に従い、各症例の標本を顕微鏡にて観察する。  
なお病理学はヒトの病的なことの理論であるから、当然のことながら正常状態を基盤として  
いる。故に標本を顕微鏡で観察する際には、組織学の知識は必要不可欠である。十分  
な復習をするか、実習に組織学の教材も持参することをお勧めする。
- 教科書
- 参考書
  - (1) 標準病理学 医学書院
  - (2) ロビンス基礎病理学 廣川書店
  - (3) 組織病理学アトラス 文光堂
  - (4) 病理学(総論、各論) 文光堂
  - (5) 現代の病理学(総論、各論) 金原出版
  - (6) 外科病理学 文光堂
- 参照 URL
- 成績評価の評価法  
筆記試験を実施する。
- 担当窓口(教員の氏名とメールアドレス)  
阿部 志保 ssuzpth2@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		病 理 学 実 習			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
4/30	火	12:50～17:10	症例を用いた実習	病理教員	3号館4階 学生実習室
5/13	月	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/15	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/22	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/23	木	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/27	月	12:50～17:10	〃	〃	〃
5/29	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
6/18	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
6/19	水	12:50～17:10	〃	〃	〃
6/25	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
6/26	水	9:00～17:10	〃	〃	〃
7/2	火	12:50～17:10	〃	〃	〃
			※ 実習内容の詳細は実習初日に説明します。		

（英訳） Clinical Neuroscience

○ 教育目的

臨床神経科学は基礎神経科学に引き続き、脳、脊髄、末梢神経、筋を含む広義の神経系の疾患あるいは病態を扱う学問である。ただし、現在のプログラムでは精神医学は別のコースになっており、主に神経内科学と脳神経外科学からなる。

神経系の広がりや広汎さとその機能の多様さから、出現する神経症状・徴候は非常に多彩であり扱う疾患も多い。また、ADL や QOL の障害も大きく、迅速で正しい診断と適切な予防・治療・ケアが重要であることを学ぶ。そのため、基本となる症状・徴候、疾患とその成り立ちをよく理解する。

○ 科目を履修して得られる能力

- 1) 神経系・神経疾患の特徴を理解する。
- 2) 主な神経症状・徴候とその発現機序を理解する。
- 3) 神経学的診察の基本を理解する。
- 4) 主な神経疾患の発症機序・診断・治療・予防などの基本を理解する。

○ 学習方法

授業は教員による講義の他、学生が数名でグループを作り実際の症例を担当し自ら授業を行う臨床講義の形式もある。いずれにしても、学生自身の自主的・積極的な参加が前提となっている。本授業は単独で存在しているわけではなく、すでに学習した基礎神経科学からこれから学ぶクリニカルクラークシップにいたる一連の授業の一つであり、卒業時には主な神経疾患に対する基本的臨床能力を修得できていることを目指している。

○ 教科書

書名	著者名	出版社
神経内科学書 2 版	豊倉康夫編	朝倉書店, 2006
神経内科ハンドブック 4 版	水野美邦編	医学書院, 2010
臨床神経内科 5 版	平山恵三編	南山堂, 2006
医学生・研修医のための神経内科学	神田隆	中外医学社, 2008
ベッドサイドの神経の診方 17 版	田崎義昭他編	南山堂, 2010
Merritt's Neurology, 12th ed.	Rowland	Lippincott, 2009
標準脳神経外科学 12 版	山浦晶編	医学書院, 2010
脳神経外科学 11 版	太田富雄・松谷雅生編	金芳堂, 2012
医学生のための脳神経外科学必修講義 2 版	松谷雅生	メジカルビュー社, 2006
ニュースタンダード脳神経外科学 3 版	生塩之敬編	三輪書店, 2012

○ 参考書

書名	著書名	出版社
脳神経外科周術期管理の全て 3版	松谷雅生・田村晃編	メジカルビュー社, 2009
脳神経外科疾患の手術と適応 I, II 2版	阿部弘ほか編	朝倉書店, 2003
脳腫瘍, その病理と臨床 絶版	佐野圭司	医学書院, 1981
Youmans Neurological Surgery, Vol.1-4	Winn H.R. 編	Saunders, 2011
Neurosurgery, Vol. 1-3	Wilkins R.H. & Regachary S.S	McGraw-Hill, 1996
Cranial Neuroimaging and Clinical Neuroanatomy	Kretschmann H.J. & Weinrich W.	Thieme, 2004
The Ciba Collection of Medical Illustrations	Netter F.H.	CIBA, 1983

○ 成績評価の方法

定期試験による。ただし、講義に際しては、随時、出席、小試験等による評価も行う。

○ 授業のキーワード

神経学, (脳) 神経内科, 脳神経外科, 機能脳神経外科, 手術, 画像診断, 単純 X 線写真, 血管造影, 脊髄造影, CT, MRI, MRA, 機能 MRI, SPECT, PET, 脳磁図, 脳波, 誘発電位, 筋電図, 神経伝導検査, 脳脊髄液, 頭蓋内圧, 脳浮腫, 脳ヘルニア, 脳循環代謝, 高次脳機能, 意識障害, グラスゴー昏睡尺度 (GCS), 日本昏睡尺度 (JCS), 昏睡, 脳死, 頭部外傷, 頭蓋骨折, 頭蓋内血腫, 脳動脈瘤, 脳動静脈奇形, くも膜下出血, 脳内出血, 脳梗塞, 血栓, 塞栓, ラクナ, アテローム, もやもや病, 水頭症, 先天奇形, 脳腫瘍, 脊髄腫瘍, 脊椎・脊髄外科, てんかん, 頭痛, 神経痛, 髄膜炎, 脳炎, 多発性硬化症, Alzheimer 病, Parkinson 病, 筋萎縮側索硬化症, 脊髄小脳変性症, 痙性対麻痺, Charcot-Marie-Tooth 病, Guillain-Barré 症候群, 重症筋無力症, 多発筋炎, 筋ジストロフィー症, 起立性低血圧, 神経因性膀胱, 傍腫瘍性症候群

○ 担当窓口

神経内科：大久保 卓哉 (ohkunuro@tmd.ac.jp)

脳神経外科：稲次 基希 (inaji.nsrq@tmd.ac.jp)

血管内治療科：吉野 義一 (yoshino.evs@tmd.ac.jp)

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前・後 期		神・臨床神経			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/22	月	10:30～11:50	神経症状の診察と症候学	横田 隆徳	MDタワー2階 共用講義室1
4/22	月	15:50～17:10	神経疾患とその特徴	水澤英洋	MDタワー2階 共用講義室1
4/23	火	10:30～11:50	脳血管障害:脳梗塞 I	白石 淳	MDタワー2階 共用講義室1
4/23	火	15:50～17:10	意識障害	前原健寿	MDタワー2階 共用講義室1
5/2	木	14:20～15:40	神経疾患の画像検査	田中洋次	MDタワー2階 共用講義室1
5/8	水	14:20～15:40	脳血管障害:外科的アプローチ	前原健寿	MDタワー2階 共用講義室1
5/9	木	12:50～14:10	血管内治療総論	根本 繁	MDタワー2階 共用講義室1
5/9	木	14:20～15:40	脳血管障害:脳梗塞 II	白石 淳	MDタワー2階 共用講義室1
5/16	木	12:50～14:10	髄膜炎・脳炎	水澤英洋	MDタワー2階 共用講義室1
5/16	木	14:20～15:40	脳血管障害:脳出血 I	工藤巧巳	MDタワー2階 共用講義室1
5/20	月	12:50～14:10	神経疾患の検査法 (電気生理)	叶内 匡	3号館2階 医学科講義室1
5/20	月	14:20～15:40	脳血管障害:脳出血 II くも膜下出血	吉野義一	3号館2階 医学科講義室1
5/21	火	14:20～15:40	不随意運動の病態生理とその治療	横田/稲次	MDタワー2階 共用講義室1
5/24	金	12:50～14:10	脱髄性疾患・多発性硬化症とADEM	横田隆徳	MDタワー2階 共用講義室1
6/13	木	12:50～14:10	Alzheimer病	(道川誠)	MDタワー2階 共用講義室1
6/13	木	14:20～15:40	筋萎縮性側索硬化症と運動ニューロン疾患	水澤英洋	MDタワー2階 共用講義室1
6/14	金	12:50～14:10	発作性・機能的疾患(てんかん)	前原健寿	MDタワー2階 共用講義室1
6/21	金	9:00～10:20	脳・神経系の腫瘍 I	田村 郁	MDタワー2階 共用講義室1
6/21	金	10:30～11:50	脳・神経系の腫瘍 II	成相 直	MDタワー2階 共用講義室1
6/27	木	12:50～14:10	パーキンソン病とパーキンソン症候群	水澤英洋	MDタワー2階 共用講義室1
6/28	金	12:50～14:10	Creutzfeldt-Jacob病	(山田正仁)	MDタワー2階 共用講義室1
7/8	月	12:50～14:10	Charcot-Marie-Tooth病と遺伝性末梢神経障害	(神田隆)	MDタワー2階 共用講義室1
7/16	火	10:30～11:50	重症筋無力症と周期性四肢麻痺	石川欽也	MDタワー2階 共用講義室1
7/17	水	10:30～11:50	脊髄小脳変性症	水澤英洋	MDタワー2階 共用講義室1
7/22	月	10:30～11:50	Guillain-Barre症候群とCIDP	(山脇正永)	MDタワー2階 共用講義室1
7/23	火	12:50～14:10	神経変性疾患の病理	(内原俊記)	MDタワー2階 共用講義室1
7/24	水	14:20～15:40	筋疾患	石川欽也	MDタワー2階 共用講義室1

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前・後 期		神・臨床神経				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室	
9/2	月	12:50～14:10	内科疾患に伴う神経障害	(三苦先生)	MDタワー2階 共用講義室1	
9/3	火	14:20～15:40	失語・失行・失認(神経心理学)	(福井俊哉)	MDタワー2階 共用講義室1	
9/4	水	14:20～15:40	炎症性筋疾患、傍腫瘍性症候群	大久保卓哉	MDタワー2階 共用講義室1	
9/10	火	9:00～10:20	発作性・機能的疾患(頭痛)	叶内 匡	MDタワー2階 共用講義室1	
9/10	火	12:50～14:10	AD以外の認知症	三條伸夫	MDタワー2階 共用講義室1	
9/11	水	10:30～11:50	神経疾患のリハビリテーション	(新井雅信)	MDタワー2階 共用講義室1	
9/11	水	14:20～15:40	代謝・中毒疾患	石橋 哲	MDタワー2階 共用講義室1	
9/12	木	10:30～11:50	先天性疾患・奇形	菅原貴志	MDタワー2階 共用講義室1	
9/17	火	12:50～14:10	頭部外傷の全て	(富田博樹)	MDタワー2階 共用講義室1	
9/30	月	9:00～10:20	神・神経内科試験		1号館西9階 特別講堂	
10/2	水	9:00～10:20	神・脳神経外科試験		1号館西9階 特別講堂	

(英訳) Gastroenterology and Hepatology

○ 教育目標

本講義「消化器病学」では、従来の内科学・外科学に含まれていた消化器系疾患すべてを対象として、日常遭遇する疾患のみならず、希ではあっても臨床的に重要な疾患をも含み、その病因、病態生理、診断や治療に向けた考え方を正しく理解することを目指す。従って、内科学・外科学の他の分野と密接な関係を持ち、また病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学などの他の基礎医学とも関連した包括的な知識・考え方を習得する。

消化器疾患を中心とした、医学的問題解決の実際を学ぶことを通じて、次年度以降の **clinical clerkship** (臨床実習) に対応しうる総合的な能力を磨き、信頼される医師となるための基礎を形成することを目標とする。

○ 授業の概要

本講義は消化器系疾患に関連した上記の基礎医学・臨床医学の講義の他に、医学生自らが積極的に問題を発見し、それに取り組み、その問題を科学的・論理的に解決してゆく過程を習得するために、集中型カリキュラムを作成した。

カリキュラムは以下の内容から構成される。

1. PBL (Problem Based Learning)
2. Lecture
3. Pathology Laboratory
4. その他の discussion 型講義

PBL は3週間に3セットの PBL が行われる。詳細は、授業開始前に別途説明する予定であるが、ここでは、一つのシナリオから、学生自ら問題点を抽出し、それをお互いに議論しあい、科学的・理論的にその問題点を理解することによって、消化器系疾患の病因・病態生理を学習することを目的とする。また、理解した病因・病態生理を、シナリオの患者のケア・治療にいかに応用するかを学ぶこととなる。小グループ討論を中心に進行するため、各人の積極的な参加によって、学習効率はより高くなるものと期待する。さらに、PBL の効率をより高めるために、上記2-4に示す各論の講義や討論型講義を組み合わせ、内容を補完しあうように工夫した。同級生とのグループ学習および成果発表は、コミュニケーションスキルやリーダーシップを学ぶ機会ともなる。また、実際の患者のシナリオを用いるため、そのなかで、倫理的側面や社会医学的な問題点についても学ぶ機会が与えられる。

扱う疾患としては消化器系疾患の全てを網羅する。その上で、関連した病理学、解剖学、生理学、生化学、薬理学、微生物学、画像診断学などについても含まれている。また、このカリキュラムの構成に当たって、消化器病学に関連する内科学・外科学・病理学の従来型系

統講義はないため、この3週間で消化器疾患について効率よく自主学習できるよう、努力されたい。

尚、疾患の診断・治療の実際については、後年の clinical clerkship でさらに詳しく学習し習得することになる。消化器病学に関連する他の臨床講義（BSL など）に関しては、内科学及び外科学の項を参照して欲しい。

○ 教科書・参考書

Harrison's Principles of Internal Medicine (McGraw - Hill) 18th (2011/7)

内科学 (朝倉書店) 第9版 (2007/09)

内科学書 (中山書店) 改訂第7版 (2009/10)

ハリソン内科学 第3版 メディカル・サイエンス・インターナショナル (2009/12)

Textbook of Gastroenterology (Blackwell Publishers) 5th(2008/12)

Schiff's Diseases of the Liver (Wiley) 11th(2011/12)

標準外科学 (医学書院、【第12版】2010年)

新臨床外科学 (医学書院、【第4版】2006年)

NEW 外科学 (南江堂、【第3版】2012年2月)

臨床外科学3 消化器外科学 (朝倉書店、2006年)

Schwartz's Principles of Surgery. 9th ed. (McGraw-Hill, U.S.A. 【第9版】2009年)

Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice. (Saunders, U.S.A. 【第19版】2012年2月 (予定))

その他、関連した解剖学(Gray's Anatomy for Students (Paperback)など)、生理学、生化学、病理学、薬理学で用いられている教科書

○ 成績評価の評価法

出席の有無を確認し、これを総合評価に加える。

3分の2以上の出席がないものは試験の受験資格を欠く。

試験は筆答試験でその成果を問う。

○受講上の注意

前記のように、PBLがこの講義の中心となるので、学生各々が積極的に参加し、討論で決まった課題の自己学習をすること。各々の自己学習の程度によってグループ全体の達成度が左右されるので、各グループで積極的・効率的な学習が達成できるよう期待します。学習の方法については、PBL チューターに確認すること。

欠席の場合は、グループの他の学生にも影響があるので、PBL チューターか講義担当者に予め届け出て許可を得ること。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

朝比奈 靖浩 asahina.gast@tmd.ac.jp

(英訳) Hematology

○ 科目を履修して得られる能力

血球細胞の形態と機能および産生（造血）機構と、止血線溶の調節機構につき理解し、成人および小児の血液疾患の病態、病理、診断、治療等を統合的に学習することによりより深い理解力を得ることができる。

○ 学習方法

造血臓器や血球細胞の形態や機能を主とした基礎編と、赤血球系・白血球系・止血系の3系統の血液疾患の病態、病理、診断、治療等を統合的に学習する臨床編とからなり、臨床編では、成人と小児の臨床血液病学とを統合的に学習するとともに、小児期の病態の特徴に基づいた診断法や治療法を理解し、代表的な疾患に関しては症例基盤型学習によりより深い理解と問題解決能力が得られる。

○ 教科書

○ 参考書

Essential Haematology, 6th ed. (Wiley-Blackwell, 2011)

Wintrobe's Clinical Hematology, 12th ed. (Lippincott, Williams & Wilkins, 2009)

Nathan and Oski's Hematology of Infancy and Childhood. W. B. Saunders, 2009

Robbins Pathologic Basis of Disease, 7th ed. Section 12: The hematopoietic and lymphoid systems. (W. B. Saunders, 2003).

○ 参照 URL

特になし。

○ 成績評価の評価法

講義に関しては、筆答試験でその学習成果を問う。また、一部の講義の際には、小テストを行い理解度を把握する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

三浦 修 miura.hema@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		血 液			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/25	木	12:50～14:10	造血臓器の発生と構造	井上明宏	MDタワー2階 共用講義室1
5/2	木	15:50～17:10	血球細胞の形態と発生分化(実習形式)	井上明宏	MDタワー2階 共用講義室1
5/10	金	15:50～17:10	臨床血液病学総論	三浦 修	MDタワー2階 共用講義室1
5/16	木	10:30～11:50	赤血球系疾患(Ⅰ)	〃	MDタワー2階 共用講義室1
5/17	金	15:50～17:10	赤血球系疾患(Ⅱ)	〃	MDタワー2階 共用講義室1
5/23	木	10:30～11:50	赤血球系疾患(Ⅲ)	〃	MDタワー2階 共用講義室1
5/24	金	14:20～15:40	白血球系疾患(Ⅰ)急性白血病	新井文子	MDタワー2階 共用講義室1
5/30	木	10:30～11:50	白血球系疾患(Ⅱ)骨髄異形成症候群と骨髄増殖性疾患	新井文子	MDタワー2階 共用講義室1
5/31	金	15:50～17:10	白血球系疾患(Ⅲ)小児期の白血球異常とその特徴	水谷修紀	MDタワー2階 共用講義室1
6/13	木	10:30～11:50	血液・悪性リンパ腫の病理	北川昌伸	MDタワー2階 共用講義室1
6/14	金	14:20～15:40	リンパ系腫瘍の臨床 (Ⅰ)	福田哲也	MDタワー2階 共用講義室1
6/20	木	10:30～11:50	白血病臨床講義	新井文子	MDタワー2階 共用講義室1
6/21	金	15:50～17:10	リンパ系腫瘍の臨床 (Ⅱ)	福田哲也	MDタワー2階 共用講義室1
6/24	月	12:50～14:10	赤血球系疾患(Ⅳ)小児期に問題となる貧血とその特徴	水谷修紀	MDタワー2階 共用講義室1
6/24	月	14:20～15:40	止血異常(Ⅱ):小児期の止血異常とその特徴	〃	MDタワー2階 共用講義室1
7/2	火	10:30～11:50	悪性リンパ腫臨床講義	新井文子	MDタワー2階 共用講義室1
7/10	水	15:50～17:10	止血異常(Ⅰ)	小山高敏	MDタワー2階 共用講義室1
7/16	火	9:00～10:20	血液試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Public Health

#### ○教育目的

医学を基礎医学、臨床医学、社会医学に大別すると、公衆衛生学は典型的な社会医学である。つまり、医学にあって特にその社会性に注目して、健康の仕組み、疾病の成立、予防の方法、医療のあり方などを扱う学問である。そこでは、決して単一の視座からのみ事象を解析することなく、多数の視点から様々な方法論を応用して解析し、社会における問題の所在とその構造を明らかにし、組織的な努力によって問題の解決をはかろうとするものである。卒前教育においては、知識・技能・態度 (attitude) という三種類のバランスのとれた基礎能力を養うことが一般目標である。なかでも、学生が今後自らの行う医学・医療を人間社会のなかにおいて位置づけ、問題の所在の把握とその解決能力を備えた **public health mind** を獲得することを教育の目的としている。その達成のために、生涯にわたって医師としての専門職に必要な公衆衛生学の基礎能力を養い、能動的な学習態度、知識、方法、制度、人材などさまざまな資源を広く適切に活用することによって、人間の健康に関する問題を現実に解決に導くための問題解決能力を開発する教育プログラムが用意されている。

#### ○授業の概要

公衆衛生学の教育プログラムは、公衆衛生学講義、公衆衛生学課題研究、公衆衛生学実習、ならびに特別セミナーからなっている。

一般に公衆衛生学で扱う内容は、以下の項目である。

(I.保健医療論) 1.公衆衛生学の歴史、2.健康の概念と認識、3.健康と環境の相互影響、4.健康決定因子、5.人間居住環境、6.国際保健、7.地域保健・地域医療、8.都市保健、9.保健・医療・福祉の連携、10.保健・医療・福祉の制度・行政と資源、11.社会保障制度と医療経済、12.保健・医療・福祉関係法規、(II.予防と健康増進) 13.衛生統計・多変量解析、14.疫学、15.ヘルスプロモーション、16.健康教育、17.健康管理、18.生活習慣と健康、19.母子保健、20.成人・老人保健、21.学校保健、22.精神保健、23.産業医学・産業保健、24.環境中毒学、25.環境汚染と健康影響、26.環境保健・地球環境問題、27.食品保健・食生活と健康影響、28.感染症対策

公衆衛生学講義では、これらすべてを扱う時間がないが、医学系CBT・OSCEおよび医師国家試験における要求や、卒後の研修、また医師としての業務の社会性をふまえるならば、各自の自己学習におうところが大きい。

公衆衛生学課題研究 (公衆衛生学実習) では、学生が個別に選択した課題に取り組み、資料・文献収集、取材、調査、データ解析を行い、レポートを作成する。特別セミナーや学外見学・演習では、共通の課題に少人数のグループで取り組む。これらのプログラムにより、公衆衛生学に関わる具体的な諸問題を多角的に考察し認識する能力、「自ら学びとる」能動的な学習能力、科学的に論理を展開する能力を開発し、自らの見解を聴衆にわかりやすく伝達する技能を養成する。

公衆衛生学の教育プログラムにあつては、講義の内容をふまえて、課題研究、実習、特別セミナーに、自主性と新鮮な問題意識を持って参加することが求められる。特に、課題研究には各自の主體的な取り組みの姿勢があつて初めて、公衆衛生学の技能・態度が養われる。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を身につけてほしい。

#### ○授業のキーワード

健康の概念；環境と健康；社会環境の変動と国民の生活；疾病・障害の概念と社会；日本の保健・医療・福祉・介護制度の特徴；保健・医療・福祉・介護の組織と連携；地域連携クリティカルパス；国と地方公共団体；保健所；地方衛生研究所；市町村保健センター；高齢化・少子化社会；障害児（者）への対応；健やか親子 21；在宅ケア；地域保健・地域医療と医師の役割；医療計画（地域保健医療計画）；遠隔医療；プライマリーヘルスケア；Alma Ata宣言；健康増進；ヘルスプロモーション；健康日本 21；災害対策；救急・災害医療；へき地医療；保健・医療・福祉・介護従事者；社会保障の概念；医療保険と公費医療；医療経済；診療報酬制度；世界の保健・医療問題；国際保健・国際協力；世界保健機関（WHO）；地域保健法；健康増進法；母子保健法；精神保健福祉法；感染症法；検疫法；予防接種法；食品衛生法；学校保健法；労働基準法；労働安全衛生法；じん肺法；環境基本法；健康保険法；国民年金法；老人福祉法；高齢者の医療の確保に関する法律；介護保険法；コミュニティヘルス；予防医学；一次予防；二次予防；三次予防；がん対策；健康教育・学習；健康診断・診査；特定健康診査・特定保健指導；健康管理；母性保護；家族計画；母子健康手帳；療育・育成医療；生活習慣病；ゴールドプラン 21；地域精神保健活動；精神保健福祉センター；精神障害者の社会復帰施設；新興再興感染症；国民の栄養の現状と対策；食品の安全性と機能性；学校医；学校伝染病；学校精神保健；学校安全教育・安全管理；業務上疾病；産業医；健康管理；作業環境管理；作業管理；許容濃度と管理濃度；生物学的モニタリング；労働災害；トータルヘルスプロモーションプラン（THP）；労働安全衛生マネジメントシステム；環境汚染；公害

#### ○教科書・参考書

1. Wallace R. Maxey-Rosenau-Last public health and preventive medicine. 15th ed. New York: McGraw-Hill Medical; 2008. (図書館蔵書)
2. Detels R, et al., editors. Oxford textbook of public health, 5th ed. New York: Oxford University Press; 2011. (健康推進医学分野蔵書)
3. 鈴木庄亮, 他, 編. シンプル衛生公衆衛生学. 東京都: 南江堂, 2012. (図書館蔵書)
4. Roemer MI. National health systems of the world. volume I & II. New York: Oxford University Press; 1993. (図書館蔵書)
5. Takano T, editor. Healthy cities and urban policy research. London: Spon Press; 2003. (図書館蔵書)
6. 高野健人, 河原和夫, 他, 編. 社会医学事典. 東京: 朝倉書店, 2002. (図書館蔵書)

7. Marmot MG, Wilkinson RG. Social determinants of health. 2nd ed. New York: Oxford University Press; 2006. (健康推進医学分野蔵書)
8. 厚生統計協会, 編. 国民衛生の動向. 厚生指標臨時増刊, 各年発行.  
(図書館蔵書)
9. 厚生労働省. 厚生労働白書. 東京:ぎょうせい, 各年発行.  
([http://www.mhlw.go.jp/toukei\\_hakusho/hakusho/](http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/))
10. 日本疫学会, 編. 疫学-基礎から学ぶために.  
東京:南江堂, 1996. (図書館蔵書)
11. Porta M. A dictionary of epidemiology. 5th ed. New York: Oxford University Press; 2008. (図書館蔵書)
12. WHO西太平洋地域事務局. SARS—いかに世界的流行を止められたか.  
東京都:結核予防会, 2007. (健康推進医学分野蔵書)
13. ルネデュボス. 健康という幻想 新装版—医学の生物学的変化.  
東京:紀伊國屋書店, 1977. (図書館蔵書)

#### ○他科目との関連

公衆衛生学は典型的な社会医学であるから、基礎医学、臨床医学の各科目と深く関係する。系別講義「社会医学」の他、系統講義「衛生学」、「医動物学」、「法医学」とは特に密接に関連する。

#### ○ 参照 URL

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科健康推進医学分野

<http://www.tmd.ac.jp/med/hlth/depHP/index.html>

政府統計の総合窓口 (e-Stat) <http://www.e-stat.go.jp/>

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

東京都福祉保健局 <http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/>

世界保健機関 (WHO) <http://www.who.int/>

#### ○成績評価の方法

公衆衛生学の基礎的な知識を獲得しているかどうかの評価だけではなく、問題の所在の把握ならびに問題解決に必要な基礎的な技能を身につけているか、公衆衛生学に取り組む態度 (attitude)、自ら積極的に public health mind をもって課題に取り組んだかどうかについて評価を行い、これらを総合して最終評価とする。具体的には、基礎的な知識の獲得の評価は最終筆記試験の結果により行う。技能の獲得の評価は、公衆衛生学課題研究のレポート、発表ならびに最終筆記試験の結果により行う。態度の評価は、講義・特別セミナー・公衆衛生学学外実習への参加態度ならびに公衆衛生学課題研究への取り組みの姿勢をもって行う。最終筆記試験は、共用試験 (CBT) および医師国家試験に準じた多肢選択式問題と、問題の把握から解決までの理論的思考を問う論述問題とする。

#### ○受講上の注意

公衆衛生学の教育プログラムにあっては、講義の内容をふまえて、課題研究、特別セミナー、学外実習に、自主性と新鮮な問題意識を持って参加することが求められる。特に、課題研究には各自の主体的な取り組みの姿勢があって初めて、公衆衛生学の技能・態度が養われる。現実の問題に直面して、課題を多角的に把握し、問題解決手法を検討するプロセスを通じて、確実な科学的事実に基づき、論理を展開できる能力、共感していく態度を身につけてほしい。

○その他

(1)本科目は四大学連合・複合領域コース（生活空間研究コース）の授業科目である。

(2)講義等についての詳細は、大学院医歯学総合研究科健康推進医学分野ホームページ（<http://www.tmd.ac.jp/med/hlth/depHP/index.html>）を参照すること。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

高野健人 secretary1.hlth@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		公衆衛生学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/22	月	14:20～15:40	公衆衛生学総論	高野健人	MDタワー2階 共用講義室1
4/23	火	14:20～15:40	疫学・臨床疫学	〃	MDタワー2階 共用講義室1
4/26	金	14:20～15:40	健康増進政策の立案と評価	河原和夫	MDタワー2階 共用講義室1
5/1	水	12:50～14:10	母子保健・学校保健	中村桂子	MDタワー2階 共用講義室1
5/2	木	10:30～11:50	産業保健・産業医学と産業医	高野健人	MDタワー2階 共用講義室1
5/7	火	12:50～14:10	保健医療行政	〃	MDタワー2階 共用講義室1
5/8	水	12:50～14:10	地域保健	中村桂子	MDタワー2階 共用講義室1
6/10	月	9:00～10:20	公衆衛生学試験		1号館西9階 特別講堂

4 学 年 前 期		公衆衛生学実習			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/3	月	9:00～17:10	公衆衛生学実習(予防と健康管理・増進)	高野健人, 他	MDタワー2階 共用講義室1, 実習室
6/4	火	9:00～17:10	公衆衛生学実習(社会保障制度と医療経済)	〃	MDタワー2階 共用講義室1, 実習室
6/5	水	9:00～17:10	公衆衛生学実習(保健・医療・福祉・介護の仕組み・法規・資源)	〃	1号館9階西 特別講堂、 実習室
6/6	木	9:00～17:10	公衆衛生学実習(地域保健・地域医療)	〃	1号館9階西 特別講堂、 実習室
6/7	金	9:00～17:10	公衆衛生学実習(国際保健・環境保健)	〃	1号館9階西 特別講堂、 実習室

(英訳) Geriatrics

○教育目的

社会全体の高齢化を反映して、一部の科を除けば、高齢者が患者のかなりの部分を占めている。将来どのような専門を専攻するにしても、加齢にともなう身体・精神諸機能の変化や、高齢者の疾病の特徴を理解しておくことは重要である。本コースの到達目標は、高齢者の診療にあたって留意すべき事項の概要を理解することである。

○授業の概要

総論で高齢者の疾病の特徴、老年症候群などを学習したのち、実際の症例の分析を行いながら高齢者の診療上問題となる事項を学習する。

○授業のキーワード

総合医療、チーム医療、加齢に伴う身体・精神の変化、高齢者の疾病の特徴、老年症候群、CGA、生活習慣病、動脈硬化

○教科書・参考書

- (1) 日本老年医学会編 改訂版 老年医学テキスト メジカルビュー社 (2008年改訂版)
- (2) Kane RL, Ouslander JC, Abrass IB “Essential of Clinical Geriatrics 4th ed” McGraw Hill (1994)
- (3) Ham RJ, Sloane PD et.al. “Primary Care Geriatrics” 5th ed (2007)

○他科目との関連

老年病は内科の一分野であり、内科各科のすべての知識を基礎に成り立っている。また整形外科、精神科、歯科、看護、社会福祉、リハビリテーションなど幅広い医療専門職とチームを組んで診療にあたることが多いので、これまで学んだ各分野の知識や常識を動員して総合する作業が必要である。

○成績評価の方法

出席、レポート提出、試験

○受講上の注意

老化に伴う生理的变化、老化の生物学等を学習する。系別総合講義とあわせて、老年病学の枠組みを理解できるように計画されている。知識伝達型の講義ではないので、教科書を読んで知識を習得することが前提となっている。

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前・後期		老 年 病 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/5	木	14:20～15:40	高齢者疾患の特徴(1)	下門顕太郎	MDタワー2階 共用講義室1
9/6	金	14:20～15:40	〃 (2)	〃	MDタワー2階 共用講義室1
9/10	火	14:20～15:40	高齢者の心疾患	金子英司	MDタワー2階 共用講義室1
9/12	木	14:20～15:40	高齢者の精神、心理	阿部庸子	MDタワー2階 共用講義室1
9/17	火	10:30～11:50	ケーススタディ(1)	金子英司	MDタワー2階 共用講義室1
9/19	木	12:50～14:10	〃 (2)	下門顕太郎	MDタワー2階 共用講義室1
10/4	金	9:00～10:20	老年病学試験		

(英訳) Neuropsychiatry

### ○ 教育目標

人間は身体的、心理的、そして社会的な存在であり、それらが健全な平衡状態にある時が健康であるといえる。精神医学は心理的な部分に重点をおきながら身体的、社会的存在としての人間の病態を対象とする学問である。そのため、精神医学は臨床医学全般の基礎をなすと同時に社会精神医学、司法精神医学、精神保健学までも含む幅広い学問であるといえる。医学における神経精神医学に関しての教育目標として、精神の病的状態の原因、症状、経過、予後についての学習を通して、病める人間としての患者を全体的にとらえ、かつ理解する能力を習得することを目標とする。さらに、治療の場においては心理学的、社会学的、生物学的な手法が駆使されることを実習および体験し、今後の臨床研修において、医療人あるいは研究者としての自己発展の基盤形成に寄与する。

### ○ 学習方法

- 1) 系統講義では、精神疾患の分類などの症候論について、その総論的にふれてから、心因性、内因性、外因性の各疾患に関する各論へと展開していく。精神症状ないし精神疾患がもつ独自性を認識し、同時にそれを医学的および科学的に把握するための基本を学ぶ。
- 2) 臨床講義では、毎回、教官の指導のもとにプラクチカントが症例を提示し、具体的な症状・経過に基づいて、診断および治療に関する討論をおこなう。なお、司法精神医学や児童精神医学など、各種関連領域についての特別講義がこの時期に繰り込まれ、幅広い知識を身につけるよう促す。
- 3) 臨床実習の Combination Block (1 週間) では、入院患者 1 名についてのレポートをまとめながら、実際の診療を見学するだけでなく、外来新患の予診取り、入院患者のためのレクリエーションやデーケアへの参加、病棟カンファランスでの症例のプレゼンテーションを行い、クルズスによって薬物療法、精神療法および心理社会療法の知識と理解を豊かなものにする。Clinical Clerkship (4 週間) では、新規に入院した患者の入院初日から、受け持ち医師グループの一員として、その診断および治療などの診療に参加し、入院カンファランスでは、自ら症例提示を行い、診断や治療の問題点についての議論に主体的に参加する。この他、外来新患の予診取りを多数例行い、病棟レクリエーションとデーケアへの参加を内容面と回数において充実させて、いわゆる「関与しながらの観察」を行うことによって、精神障害患者の言動を指標とした精神症状の理解や治療効果の評価の実際を経験する。また、各精神障害についての各論的クルズスによって、幅広い知識と理解につなげる。Combination Block および Clinical Clerkship のいずれにおいても、総括討論においては、実習の評価だけでなく、実習によって得られた知識と経験の確認と統合を行う。

○ 教科書

書名	著者名	発行所名	発行年
Kaplan & Sadock's Comprehensive Textbook of Psychiatry(図書館電子図書)	Benjamin J. Sadock, Birginia A. Sadock 編	Lippincott Williams & Wilkins	2005年
カプラン、臨床精神医学ハンドブック、第3版	融 道男、岩脇 淳 監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2007年 9月
標準精神医学(第4版)	野村総一郎、樋口輝彦、尾崎紀夫 編	医学書院	2009年 3月

○ 参考書

書名	著者名	発行所名	発行年
ICD-10、精神および行動の障害、臨床記述と診断ガイドライン(新訂版)	融 道男、中根允文、小見山実 訳	医学書院	2005年 11月
DSM-IV-TR、精神疾患の診断・統計マニュアル—新訂版—	高橋三郎、大野 裕、染矢俊幸 訳	医学書院	2004年 1月
DSM-IV-TR、精神疾患の分類と診断の手引き—新訂版—	高橋三郎、大野 裕、染矢俊幸 訳	医学書院	2003年 8月
精神薬理学エッセンシャルズ(第3版)	仙波純一、松浦雅人、中山和彦、宮田久嗣 監訳	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2010年 5月
Principles & Practice of Psychopharmacotherapy(図書館電子図書)	Frank J. Ayd Jr. ほか 編	Lippincott Williams & Wilkins	2006年
Lewis's Child and Adolescent Psychiatry: A Comprehensive Textbook(図書館電子図書)	André Martin, Fred R. Volkmar 編	Lippincott Williams & Wilkins	2007年
ポケット臨床脳波	福沢 等 著	日本医事新報社	2005年 2月
現代精神医学事典	加藤敏ほか 編	弘文堂	2011年 10月

○ 参照 URL

日本精神神経学会：<http://www.jspn.or.jp/index.shtml> (統合失調症について)

日本うつ病学会：<http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/index.html> (治療ガイドライン)

日本臨床精神薬理学会：<http://www.jsncp.org/index.html> (臨床評価尺度、重篤副作用マニュアル)

日本睡眠学会 : <http://www.jssr.jp/index.html> (睡眠障害の基礎知識)

○ 成績評価の評価法

系統講義および臨床講義については、講義終了後に行われる試験で評価する。Combination Block および Clinical Clerkship の成績は卒業試験に加え採点する。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

授業責任者 : 西川 徹 (tnis.psyc@tmd.ac.jp)

クラークシップディレクター : 車地暁生 (0724.psyc@tmd.ac.jp)

クラークシップチューター : 京野穂集 (hotz@hotmail.co.jp)

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		神経精神医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/30	火	10:30～11:50	精神医学総論・精神医学的診断学	西川 徹	MDタワー2階 共用講義室1
5/1	水	10:30～11:50	アルコール関連問題・薬物依存	山本 直樹	MDタワー2階 共用講義室1
5/14	火	9:00～10:20	児童青年精神医学	(山田佐登留)	MDタワー2階 共用講義室1
5/17	金	12:50～14:10	統合失調症	西川 徹	MDタワー2階 共用講義室1
5/17	金	14:20～15:40	気分障害	車地 暁生	MDタワー2階 共用講義室1
5/30	木	12:50～14:10	精神医学と法律	(中谷 陽二)	MDタワー2階 共用講義室1
5/30	木	14:20～15:40	てんかん	(加藤 昌明)	MDタワー2階 共用講義室1
6/10	月	12:50～14:10	器質性精神障害・リエゾン精神医学	竹内 崇	MDタワー2階 共用講義室1
6/10	月	14:20～15:40	神経症障害	(大島 一成)	MDタワー2階 共用講義室1
6/12	水	12:50～14:10	パーソナリティ障害	(仲谷 誠)	MDタワー2階 共用講義室1
6/12	水	14:20～15:40	老年期精神障害	(小山 恵子)	MDタワー2階 共用講義室1
6/21	金	12:50～14:10	精神症状論	(花村 誠一)	MDタワー2階 共用講義室1
7/3	水	14:20～15:40	臨床講義・不安障害	武田 充弘	MDタワー2階 共用講義室1
7/9	火	10:30～11:50	臨床講義・統合失調症	治徳 大介	MDタワー2階 共用講義室1
7/10	水	10:30～11:50	臨床講義・気分障害	上里 彰仁	MDタワー2階 共用講義室1
7/22	月	9:00～10:20	神経精神医学・心療ターミナル医学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Surgery

○ 科目を履修して得られる能力

外科的諸疾患についての考え方、診断と外科的治療の基本原則の理解をはかる。

○ 学習方法【授業の概要】

病態論、診断学、手術適応、手術術式、周術期管理、救急処置を中心に学習する。

また、医の倫理、インフォームド・コンセント、QOLについても外科の立場から触れる。

項目	主な内容／キーワード
<ul style="list-style-type: none"> <li>● インフォームド・コンセント</li> <li>外科診断学・症候学</li> </ul>	病歴聴取、診察、各種画像診断、患者接遇
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 栄養・代謝</li> </ul>	周術期の輸液・栄養管理を中心に
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 炎症・侵襲、熱傷</li> </ul>	炎症・侵襲に対する生体反応とその管理、熱傷
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 血管外科</li> </ul>	動脈瘤、閉塞、静脈瘤等の診断と治療
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 食道・横隔膜疾患</li> <li>● 胃・十二指腸疾患</li> <li>● 小腸・大腸疾患</li> <li>● 肝胆膵疾患</li> <li>● 乳腺疾患</li> <li>● ヘルニア・腹壁・腹膜</li> <li>● 小児外科</li> </ul>	各領域の悪性疾患・良性疾患の病態、診断、治療方針の決定、治療（手術）
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 化学療法</li> </ul>	抗がん剤治療の基本的な考え方と実際 トランスレーショナルリサーチ
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 遺伝子・分子生物学</li> </ul>	外科治療が中心となる遺伝性腫瘍 診断・治療への分子生物学的アプローチ

○ 教科書・参考書

- ・ 標準外科学（医学書院、【第12版】2010年）
- ・ 新臨床外科学（医学書院、【第4版】2006年）
- ・ NEW 外科学（南江堂、【改訂第3版】2012年）
- ・ 臨床外科学3 消化器外科学（朝倉書店、2006年）
- ・ Schwartz's Principles of Surgery. 9th ed. (McGraw-Hill, U.S.A. 【第9版】2009年)
- ・ Sabiston Textbook of Surgery: The Biological Basis of Modern Surgical Practice. (Saunders, U.S.A. 【第19版】2012年)

○ 参照 URL

- Minds 医療情報サービス <http://minds.jcqh.or.jp>
  - ・・・各種診療ガイドライン、一般向けガイドラインの解説などが閲覧できます。
- がん情報サービス <http://ganjoho.jp/public/index.html>
  - ・・・国立がん研究センターがん対策情報センターが配信  
各種がんの解説、最新統計などが医療者向け／一般向けに掲載されています。

○ 成績評価の評価法

定期試験による（第4学年前期）

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

腫瘍外科学分野： 石黒めぐみ ([ishiguro.srg2@tmd.ac.jp](mailto:ishiguro.srg2@tmd.ac.jp))

肝胆膵・総合外科学分野： 田中真二 ([shinji.msrg@tmd.ac.jp](mailto:shinji.msrg@tmd.ac.jp))

食道・一般外科学分野： 中島康晃 ([yasu.nakajima.srg1@tmd.ac.jp](mailto:yasu.nakajima.srg1@tmd.ac.jp))

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		外 科 学				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室	
4/24	水	9:00～10:20	インフォームド・コンセント、外科診断学・症候学	杉原健一	MDタワー2階 共用講義室1	
4/26	金	9:00～10:20	ヘルニア・腹壁・腹膜	(中嶋昭)日産厚生 会玉川病院外科	MDタワー2階 共用講義室1	
5/1	水	9:00～10:20	血管外科	井上芳徳	MDタワー2階 共用講義室1	
5/2	木	9:00～10:20	栄養・代謝	永井鑑	MDタワー2階 共用講義室1	
5/8	水	9:00～10:20	食道	河野辰幸	MDタワー2階 共用講義室1	
5/10	金	9:00～10:20	小児外科	(岡本健太郎) 獨協医科大学 小児外科	MDタワー2階 共用講義室1	
5/15	水	9:00～10:20	乳腺	佐藤隆宣	MDタワー2階 共用講義室1	
5/17	金	9:00～10:20	小腸・大腸	石黒めぐみ	MDタワー2階 共用講義室1	
5/22	水	9:00～10:20	肝胆膵(1)	中村典明	MDタワー2階 共用講義室1	
5/24	金	9:00～10:20	肝胆膵(2)	田中真二	MDタワー2階 共用講義室1	
5/27	月	9:00～10:20	胃・十二指腸	小嶋一幸	MDタワー2階 共用講義室1	
5/29	水	9:00～10:20	化学療法	植竹宏之	MDタワー2階 共用講義室1	
5/31	金	9:00～10:20	炎症・侵襲・熱傷	(遠藤健) 日本赤十字社 医療センター外科	MDタワー2階 共用講義室1	
5/31	金	10:30～11:50	遺伝子・分子生物学	飯田聡	MDタワー2階 共用講義室1	
6/17	月	9:00～10:20	外科学試験		1号館西9階 特別講堂	

## (英訳) Orthopaedic Surgery

## ○ 科目を履修して得られる能力

整形外科は身体の運動機能障害を治療する診療科であり、高齢者の健康寿命延伸の要となる。その治療対象は骨関節および脊椎と脊髄・末梢神経であり、外傷と疾病、加齢に起因する身体運動機能の不全状態を健康に戻すことを目標にする。患者の年齢層も小児から高齢者まで多彩であり、加えて骨肉腫をはじめとする骨軟部腫瘍や骨粗鬆症、スポーツ障害も扱うので、対象疾患はかなりバラエティに富んでいる。各領域の専門性がかなり高いのも特徴である。

講義により、整形外科領域の疾患概念と診断・治療法の基本を知ることができる。とくに、どの診療科に進むにあたって臨床を行う限り必要とされる、身体機能維持に関する基本的知識を身につけられる。治療に関しては、手術治療の考え方を学ぶことが中心であるが、保存治療としての運動療法（コンディショニング、リハビリテーションを含む）や理学療法の概念を知ることができる。また、近年の人工材料や再生医療の進歩は整形外科領域から発信されたものも多く、それらに関する最新知見にも触れることで臨床現場における **translational research** の重要性を知ることができる。

## ○ 学習方法

- 1) 整形外科で扱う疾患を部位別に分け、脊椎・上肢・股関節・膝関節に大別してそれぞれの専門医が外傷学とスポーツ障害・加齢性疾患を分けて講義を行う。骨軟部腫瘍・骨代謝疾患、リハビリテーションなどは横断的に扱う。
- 2) 骨関節・脊椎領域の画像診断（X線・MRI・CT・エコーなど）は診断および治療法決定に重要であり、講義では教科書で得られない画像診断のポイントを提示する。
- 3) 臨床講義、ミニケースでは実際の患者情報を用いて、知識の整理を図る。
- 4) クリニカルクラークシップでは手術参加を基本とし、その前段階として講義中に手術動画を供覧し、整形外科手術の方法論を学ぶ。
- 5) 単に傷病や手術の知識のみならず、医療者や医師患者間のコミュニケーション能力やカンファランスでのプレゼンテーションなど、医師としての基本的能力を講義・クリニカルクラークシップを通じて習得する。

## ○ 教科書

内田淳正監修：標準整形外科学 第11版 医学書院 2011

## ○ 参考書

越智隆弘総編集：最新整形外科学体系 1～25巻 中山書店 2006～2008（整形外科 蔵書）

## ○ 参照 URL

UpToDate <http://www.uptodate.com/contents/search>

日本整形外科学会 HP <http://www.joa.or.jp/jp/index.html>

## ○ 成績評価の評価法

CBT および出席率

## ○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

大川淳 [ookawa.orth@tmd.ac.jp](mailto:ookawa.orth@tmd.ac.jp)

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前		整 形 外 科			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
5/14	火	12:50～14:10	整形外科の現状と未来	大川 淳	MDタワー2階 共用講義室1
5/17	金	10:30～11:50	外傷学総論	柳下和慶	MDタワー2階 共用講義室1
5/27	月	10:30～11:50	手外科	若林良明	MDタワー2階 共用講義室1
5/28	火	12:50～14:10	股関節疾患	神野哲也	MDタワー2階 共用講義室1
5/28	火	14:20～15:40	脊椎疾患(腰椎、脊柱変形)	吉井俊貴	MDタワー2階 共用講義室1
6/11	火	14:20～15:40	脊椎疾患(頸椎、脊髄腫瘍)	川端茂徳	MDタワー2階 共用講義室1
6/12	水	10:30～11:50	脊椎外傷	加藤 剛	MDタワー2階 共用講義室1
6/19	水	10:30～11:50	骨軟部腫瘍	(阿江啓介)	MDタワー2階 共用講義室1
6/20	木	9:00～10:20	代謝性骨疾患	野田政樹 (竹田 秀)	MDタワー2階 共用講義室1
6/25	火	9:00～10:20	肩・肘関節疾患	望月智之	MDタワー2階 共用講義室1
6/28	金	9:00～10:20	膝関節疾患とスポーツ整形	宗田 大	MDタワー2階 共用講義室1
7/2	火	9:00～10:20	小児整形外科	瀬川裕子	MDタワー2階 共用講義室1
7/4	木	10:30～11:50	人工骨と生体材料	早乙女進一	MDタワー2階 共用講義室1
7/8	月	14:20～15:40	軟骨代謝・再生医学	関矢一郎	MDタワー2階 共用講義室1
7/11	木	9:00～10:20	リハビリテーション	森田定雄	MDタワー2階 共用講義室1
7/12	金	12:50～14:10	リハビリテーション	〃	MDタワー2階 共用講義室1
7/24	水	9:00～10:20	臨床講義(膝関節)	古賀英之	MDタワー2階 共用講義室1
7/24	水	10:30～11:50	臨床講義(骨軟部腫瘍)	澤村千草	MDタワー2階 共用講義室1
9/4	水	9:00～10:20	臨床講義(脊椎)	猪瀬弘之	MDタワー2階 共用講義室1
9/9	月	9:00～10:20	整形外科学試験		1号館西9階 特別講堂

## (英訳) Dermatology

## ○ 科目を履修して得られる能力

皮膚科学は、皮膚に表現される症状の観察結果を基盤にして、生体の活動を読み取る学問である。そのため、形態学を中心として発展し、ほとんど全ての疾患概念が組み立てられているが、近年の免疫学、生化学、生理学、分子生物学の長足の進歩に伴い、皮膚疾患の病態生理、病因が明かにされ、疾患概念についての修正が加えられ、また、皮膚疾患治療へのアプローチも容易になってきている。

皮膚科学は、疾患の検索において、種々の内科学的手法を駆使する学問であるが、治療においては、外科学的手法をも駆使する学問である。皮膚疾患は、全身状態と深い関わりをもって皮膚に表現されてくるので、皮膚疾患を診る場合には、常に全身的な視野にたって観察することが要求される。

皮膚病変は、病因の如何にかかわらず、皮膚を「発現の場」としているため、病変を理解するためには、皮膚の解剖学、病理組織学、生理学、生化学、免疫・アレルギー学、分子生物学などの基礎医学の知識を応用したとらえ方が要求される。

臨床初年次では、皮膚科学の基本的事項について学習する。理解を容易にするために、臨床例を中心にして、学生主体の討論を行い、皮膚疾患についての基本的知識を習得することを目的とする。加えて、それらの疾患についての最近の知見について解説を行う。皮膚疾患は非常に多数あるので、できるだけ重要な疾患にしぼり、皮膚疾患患者を診察するための考え方を習得することを目的とした授業を行う。授業の範囲からはずれた疾患については、自己学習を行うことが義務づけられていることを忘れないで欲しい。

2年次より開始される臨床実習では、実際の皮膚病変に直接接して考えることを目的としている。外来患者全てが実習の対象となる。初診外来患者の病歴を聴取し、同時に皮膚病変の観察を行う。患者の持つ皮膚疾患の診断、検査の組み立て、病因の追求について学習する。外来では、できるだけ多くの症例を経験し、経験した症例については、そのつど簡単な解説は行われるが、診療後にその症例についての自己学習を行うことが義務付けられている。病棟入院患者については、患者の副主治医として診療に参加し、診断、検査、治療の実際について学習する。皮膚検査、軟膏処置などを体験する。その際、単に教官から教わるというのではなく、一人の医師として「自ら診、自ら考える」という心構えのもとに、積極的に診療活動に参画することを期待している。また、皮膚疾患を持つ患者は、心の面でも複雑な状況にあることをも考慮し、「如何に患者さんに接するべきか」についても十分に学んで欲しい。学外病院での実習では、日頃の診療でよく見かけるポピュラーな皮膚疾患について経験を積む。

## ○ 学習方法

- 1 皮膚疾患診断のための基本的知識と技術皮膚の構造と機能、皮疹の種類とその見分け方・考え方、皮膚科検査法（パッチテスト、皮内テスト、皮膚機能検査など）について自己学習する
- 2 蕁麻疹・痒疹・紅皮症蕁麻疹の分類・発症機序・原因検索法、痒疹の種類と原因検索法、紅皮症の種類と紅皮症をきたす基礎疾患について臨床例をもとに学習する
- 3 角化異常による皮膚疾患先天性角化異常症の種類と遺伝子異常、乾癬、類乾癬、扁平苔癬の病態・診断・治療法について臨床例をもとに学習する
- 4 湿疹・皮膚炎群の疾患アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎、脂漏性皮膚炎、貨幣状湿疹、ピダール苔癬などの湿疹皮膚炎群の疾患とその類症の病態・原因・診断・鑑別診断・検査法・治療について臨床例をもとに学習する
- 5 血流障害・血管炎による皮膚疾患紫斑・潰瘍の形成機序、アナフィラクトイド紫斑、アレルギー性血管炎、結節性多発性動脈炎、全身疾患に伴う血管炎・血流障害の臨床例を中心にして学習する
- 6 膠原病の皮膚症状各種膠原病に出現する皮膚症状の種類とその発症機序、診断における皮膚症状の位置付けなどを臨床例を中心にして学習する
- 7 薬物障害による皮膚症状薬疹・中毒疹の原因薬剤・因子、病型、皮膚症状の発症機序、原因薬物・因子の検索法、治療法について臨床例を中心に学習する
- 8 水疱症先天性表皮水疱症の診断と鑑別診断、遺伝子異常、自己免疫性水疱症の病態、診断と診断法、治療について臨床例をもとに学習する

- 9 母斑・皮膚腫瘍母斑及び母斑症、良性腫瘍、悪性腫瘍の種類、良性と悪性の鑑別法について学習する
- 10 感染症一般細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症、性感染症の種類とその起炎菌、診断のポイントと治療の基本について学習する
- 11 皮膚疾患の見方・考え方皮膚疾患全体を通してどのように観察し、観察結果を診断、治療につなげるかを解説する

○ 教科書

- 1 上野賢一著 「皮膚科学」 金芳堂出版
- 2 池田重雄他監修「標準皮膚科学」 医学書院
- 3 西山茂夫著 「皮膚病アトラス」 文光堂
- 4 清水宏著 「あたらしい皮膚科学」 中山書店

○ 参考書

- 1 現代皮膚科学大系 中山書店
  - 2 皮膚科Mook (疾患毎に分冊となっている) 金原出版
  - 3 Rook/Wilkinson/Ebling: Textbook of Dermatology. Blackwell Scientific Publication.
  - 4 Fitzpatrick et al: Dermatology in General Medicine. McGraw-Hill Book Co.
  - 5 Lever/Schaunburg-Lever: Histopathology of the Skin. JB Lippincott Co.
- いずれも皮膚科図書室にあり。その他最近の文献が知りたい場合には、皮膚科講義中に相談

○ 参照 URL

○ 成績評価の評価法

- 1) 講義中に小試験を行い筆記試験の参考とする。
- 2) クリニカルクラークシップでは受け持ち症例を主体として口頭試験を行う。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

井川 健 (k.igawa.derm@tmd.ac.jp)

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前		皮 膚 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/24	水	12:50～14:10	皮膚科総論Ⅰ	横関博雄	MDタワー2階 共用講義室1
4/26	金	10:30～11:50	皮膚科総論Ⅱ	横関博雄	MDタワー2階 共用講義室1
5/1	水	14:20～15:40	湿疹・皮膚炎群Ⅰ	横関博雄	MDタワー2階 共用講義室1
5/13	月	10:30～11:50	湿疹・皮膚炎群Ⅱ ※	横関博雄	MDタワー2階 共用講義室1
5/14	火	14:20～15:40	蕁麻疹・痒疹・紅皮症Ⅰ	井川 健	MDタワー2階 共用講義室1
5/20	月	10:30～11:50	蕁麻疹・痒疹・紅皮症Ⅱ ※	井川 健	3号館2階 医学科講義室1
5/21	火	12:50～14:10	附属器疾患・美容	高山かおる	MDタワー2階 共用講義室1
5/24	金	10:30～11:50	循環障害・血管炎	(山口 裕史)	MDタワー2階 共用講義室1
6/11	火	12:50～14:10	角化症・炎症性角化症	高山かおる	MDタワー2階 共用講義室1
6/12	水	9:00～10:20	水疱症	井川 健	MDタワー2階 共用講義室1
6/14	金	9:00～10:20	母斑・良性腫瘍	(勝俣 道夫)	MDタワー2階 共用講義室1
6/20	木	14:20～15:40	感染症Ⅰ	(加藤卓朗)	MDタワー2階 共用講義室1
6/25	火	10:30～11:50	感染症Ⅱ	(吉田正己)	MDタワー2階 共用講義室1
6/27	木	14:20～15:40	薬物障害・光線過敏症	西澤 綾	MDタワー2階 共用講義室1
7/1	月	14:20～15:40	膠原病	(高河慎介)	MDタワー2階 共用講義室1
7/3	水	10:30～11:50	皮膚悪性腫瘍	(並木 剛)	MDタワー2階 共用講義室1
7/18	木	9:00～10:20	皮膚科学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Urology

## ○教育目標

### 1 緒言

泌尿器科学は、腎・尿路系、精巣・精路系および内分泌系（副腎・上皮小体など）の疾患を扱う。泌尿器科学はもともと外科学の専門分野のひとつとして発展したものであるが、現在は、世界的な高齢化の潮流の中で、腫瘍性疾患および前立腺肥大症を中心とした排尿障害の治療は世界的な背景を持つ大きなニーズとなっている。また、増加を続ける尿路結石および性機能障害への対応も求められており、腎不全・腎移植、多様な先天異常も対応すべき疾患となっている。つまり、泌尿器科学は、腫瘍学、神経泌尿器科学、尿路結石学、腎臓病学、移植学、内視鏡学に加え、前立腺肥大症、性機能障害など男子生殖系に関する生殖生理学、先天異常を含む発生学、さらに副腎、上皮小体、生殖腺にかかわる臨床内分泌学を領域としている。症例毎の病態生理を多面的に解明して適切に外科療法あるいは内科的治療を加えるという立場で腎・尿路系、精巣・精路系および内分泌系の疾患をとり扱う領域と言える。

診断のための検査法は多岐にわたり、各種画像診断、内視鏡的検査、生検などの他に細菌学的検査、内分泌学的検査も必要であり、さらに腎機能検査、循環器系や神経系の検査を行い、これらと腎・尿路、精巣・精路、内分泌系疾患との関連および高齢化の中で増加する合併疾患との関連を究明していかなくてはならない。

当科では、上記の社会の要請に応える様々な革新的な取り組みを行っている（当科ホームページ参照）、基本的な泌尿器科領域の知識の上にたち、この取り組みの理由、進行過程などを理解し、泌尿器科の臨床および臨床研究への洞察を深めてもらいたい。

## II 授業の目的と過程

### 1. 講義

腎・尿路系、精巣・精路系、内分泌系におこる疾患の種類、その発生病理、頻度、症候、診断、検査、治療などについて医師として必要な一般的な基礎知識を習得する。また、泌尿器科において経験した臨床例を通じて、症状、検査所見の持つ意味を考察し、診断を確定するための検査の進め方、その疾患に対する治療法を学ぶ。到達目標について学生自身が考え、討論して臨床の場における思考法を身につける。

### 2、プレクラークシップ

泌尿器科の講義で習得した知識が、クラークシップで十分に多面的に活用されることを目的とした後腹膜・骨盤部を対象とした実習中心のコースである。腎臓内科、病理学、解剖学、産婦人科、大腸肛門外科、肝胆膵外科、消化器内科、放射線科などと合同協力して、近隣臓器との関連も含めた総合的な診断実習を目指している。

### 3、クリニカルクラークシップ

臨床実習で、学生自身が患者さんと直接接することにより、これまで習得した知識がどのように活用されるかを自らの経験を通じて体得してもらおう。具体的な診断法、治療法を見て、その実態に触れ、持つ意義をより深く洞察してもらおう。単に疾患のみを考えるのではなく、疾患を持ち、これに悩む患者さんに対して医師がどのような責任と役割を果たしうるかという患者指向の医療を体得することもクリニカルクラークシップの大きな目的である。さらに当科で開発を進めている様々な新しい診断法、治療法を体験し、臨床における問題点の抽出、その改善のための研究開発過程に触れる。

#### ○授業の概要

4 年生前期 次の項目で授業を行う。

尿路の閉塞性疾患	1
尿路結石症、尿路感染症、先天異常	1
前立腺肥大症	1
腎癌	1
尿路上皮癌	2
前立腺癌	2
精巣癌	1
蓄排尿障害	1
内分泌疾患（副腎）	1
性機能障害	1
男性不妊症、性分化異常	1

授業はまず、腫瘍学で学んだ基礎的な知識をもとに腎癌、尿路上皮癌、前立腺癌、精巣癌について実際の臨床に即して講義を行う。次に、生理学で学んだ自律神経機能の知識を応用して蓄排尿機能、性機能を学び、それが障害された疾患を理解する。また、尿路閉塞による尿流のうっ滞、感染、結石形成のサイクルを中心に、尿路機能および病態生理を解説し、前立腺肥大症を含む尿流障害を生ずる疾患への理解を深める。さらに内分泌学および発生学で学んだ知識を基礎に、副腎腫瘍や性分化異常を含む泌尿器科的内分泌疾患について臨床に即した講義を行う。

#### 5 年生前期 プレクラーシップ

後腹膜・骨盤部を対象とした実習中心のコースとして腎臓内科、病理学、解剖学、産婦人科、大腸肛門外科、肝胆膵外科、消化器内科、放射線科などと合同協力して総合的な診断実習を行う。

#### 5 年生後期～6 年生前期 クリニカルクラークシップ

病棟では、病棟担当医の各グループに配属され、泌尿器科的診断、治療法の実践を学ぶ。手術室では、手術、特に当科で開発している低侵襲手術を実体験する。

○教科書・参考書

Campbell-Walsh Urology: Expert Consult Premium Edition (Saunders) 2011

標準泌尿器科学 第8版 (医学書院) 2010

ミニマム創内視鏡下泌尿器手術 (医学書院) 2002

イラストレイテッド ミニマム創内視鏡下泌尿器手術 (医学書院) 2007

新しい診断と治療のABC 45 腎癌・膀胱癌 (最新医学社) 2007 同改訂版 2011

新しい診断と治療のABC 49 前立腺癌 (最新医学社) 2007

泌尿器科のホームページ (疾患の最新の概説が記載されている)

○成績評価の方法

- 1) 講義中に逐次小試験を行う。成績は講座試験の評点に際し、参考資料とする。
- 2) クリニカルクラークシップでは、最終日にカンファランスを行い、評点する。成績は講座試験の評点に際し、参考資料とする。

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

木原 和徳 k-kihara.uro@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前	年 期	泌 尿 器 科 学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
6/19	水	9:00~10:20	蓄排尿機能障害	木島敏樹	MDタワー2階 共用講義室1
6/24	月	10:30~11:50	尿路上皮腫瘍	藤井靖久	MDタワー2階 共用講義室1
6/28	金	10:30~11:50	性機能障害	木島敏樹	MDタワー2階 共用講義室1
7/3	水	9:00~10:20	尿路上皮腫瘍	藤井靖久	MDタワー2階 共用講義室1
7/5	金	12:50~14:10	腎癌	齋藤一隆	MDタワー2階 共用講義室1
7/9	火	12:50~14:10	前立腺癌	木原和徳	MDタワー2階 共用講義室1
7/10	水	14:20~15:40	前立腺癌	木原和徳	MDタワー2階 共用講義室1
7/17	水	14:20~15:40	精巣癌	石岡淳一郎	MDタワー2階 共用講義室1
7/19	金	12:50~14:10	内分泌疾患(副腎)	沼尾 昇	MDタワー2階 共用講義室1
7/23	火	9:00~10:20	前立腺肥大症	吉田宗一郎	MDタワー2階 共用講義室1
7/25	木	12:50~14:10	尿路の閉塞性疾患	松岡 陽	MDタワー2階 共用講義室1
7/25	木	14:20~15:40	男性不妊症、性分化異常	(石坂和博) 帝京大学溝の口病院	MDタワー2階 共用講義室1
7/26	金	12:50~14:10	尿路結石症、尿路感染症、先天異常	中西泰一	MDタワー2階 共用講義室1
9/13	金	9:00~10:20	<b>泌尿器科学試験</b>		

(英訳) Ophthalmology

○教育目標

臨床各科の教育要領を検討するにあたり、眼科学においては、基礎医学において特に感覚器の一つとしての眼の生理学に関して十分な知識が習得せられていることが必要となる。

疾患知識については、具体的に主たる症状、臨床所見、原因及び病態生理、さらに治療法の概要の把握が必要である。

診断手技と治療手技は基本的な事項の習得を目標とする。

○授業の概要

1. 眼科疾患序論

眼科検査法概論目の構造と仕組み、及び眼科検査に関するオリエンテーション

2. 屈折異常、斜視、弱視

屈折調節の異常と小児眼科（斜視、斜弱）

3. 眼瞼、結膜、涙器、強膜の疾患

外眼部疾患総説

4. 角膜疾患

角膜の生理と病態の解釈、角膜移植

5. 水晶体の疾患

水晶体の疾患、白内障の手術療法を含む

6. ぶどう膜の疾患

ぶどう膜炎を中心にぶどう膜の疾患を述べる

7. 黄斑部疾患、網膜変性疾患

黄斑部疾患、網膜変性疾患の総説と治療法の解説

8. 網膜・硝子体疾患、未熟児網膜症

網膜剥離の診断と治療、未熟児網膜症

9. 高血圧、眼底出血、糖尿病網膜症

高血圧性網膜症、眼底出血、糖尿病網膜症の診断と治療

10. 緑内障

緑内障の病態と治療、緑内障眼底所見

11. 眼外傷、救急疾患

眼科救急診療の実際を解説

12. 視神経疾患、視路疾患

視神経疾患、視路疾患、視野の測り方とその解釈

13. 眼窩疾患

眼窩疾患の解説

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前		眼 科 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/23	火	12:50～14:10	眼科序論	大野京子	MDタワー2階 共用講義室1
4/24	水	14:20～15:40	眼症候学	鴨居 功樹	MDタワー2階 共用講義室1
4/26	金	12:50～14:10	斜視・弱視	林 憲吾	MDタワー2階 共用講義室1
5/2	木	12:50～14:10	眼科検査法概論	堀江真太郎	MDタワー2階 共用講義室1
5/10	金	10:30～11:50	角結膜症候	小川 学	MDタワー2階 共用講義室1
5/14	火	10:30～11:50	小児眼科・未熟児眼	(東 範行)	MDタワー2階 共用講義室1
5/15	水	10:30～11:50	神経眼科	(清澤 源弘)	MDタワー2階 共用講義室1
5/21	火	10:30～11:50	屈折異常・調節障害	大野京子	MDタワー2階 共用講義室1
5/22	水	10:30～11:50	白内障	高瀬 博	MDタワー2階 共用講義室1
5/28	火	10:30～11:50	ぶどう膜炎	鴨居 功樹	MDタワー2階 共用講義室1
5/29	水	10:30～11:50	網膜血管病変・色覚	大野京子	MDタワー2階 共用講義室1
5/31	金	12:50～14:10	緑内障	高瀬 博	MDタワー2階 共用講義室1
6/10	月	10:30～11:50	網膜剥離・糖尿病網膜症	小川 学	MDタワー2階 共用講義室1
6/11	火	10:30～11:50	救急疾患・外傷	鴨居 功樹	MDタワー2階 共用講義室1
6/24	月	9:00～10:20	眼科学試験	大野京子	1号館西9階 特別講堂

(英訳) Otorhinolaryngology

### ○教育目標

耳鼻咽喉科学は、重要な器官を多く内臓する頭頸部にあつて、耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭とその関連領域を扱う。この領域の特徴とされるものをあげてみると、およそ次のごとく要約することができる。

1. この領域は呼吸道と消化管の入口部であり外界との接点となっているので、病原性微生物その他の有害物質の侵入門戸となる機会が多く、感染性炎症が主体となった疾患がきわめて多い。また、それらは全身性疾患に発展したり関連したりすることも多い。
2. 脳神経の末梢部分と直接あるいは間接的につよい関連があり、神経障害症状の観察、解明とともに治療に関して関与することになる。
3. 自律神経とも、この領域に分布する知覚枝を介して深い関連を有する。
4. 聴覚、嗅覚、味覚を司る感覚器と、身体平衡を司る前庭平衡器を含み、また人間の社会生活に欠くことのできないコミュニケーション機構の input としての聴覚機構と、output としての音声と言語の生成機構を有する。
5. 扱う多くの器官は粘膜上皮でおおわれており、またそれらは硬い骨組織に囲まれているので、それらの病態の特殊性を理解して疾患を考えねばならない。
6. この領域の悪性腫瘍は全身のその約5%とされている。頻度としては特に高いとは言えないが、治癒の成否を左右する早期の時点では患者の多くは専門医を訪れないで、一般医あるいは内科、外科医を受診する。したがって早期診断の必ずしも容易でないこの疾患を早期に診断あるいは疑いを持ち専門医に送ることが、予後の鍵をにぎることになる場合が多い。
7. 上気道の閉塞あるいは出血は瞬時にして生命をおびやかすことになるので、これらに対する救急処置の知識は全ての医師にとって、必要不可欠である。
8. 発生学的にこの領域に奇形が生じ易い。
9. この領域の疾患の所見は直接あるいは器具を用いて比較的容易に肉眼で観察確認できることが多く、診断の重要な助けとなるので、その技術の習得は医師全般にわたって必要である。講義割当時間数（医学部4年） 1時間20分×12回

### ○授業の概要

耳鼻咽喉科学は、耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭とその関連領域を扱い、感覚器ならびに上

部消化管ならびに上気道を対象としている。授業ではその一部が示されるのみであるが、学習し身に付けておくと、どの分野を卒後専攻しても、良き臨床医になるが為の基本となる。さらに、授業では自己学習に必要な指針が示される。学生は、この授業を聴講し、呈示された問題点を、教科書にて確認し、記載内容を学習・習得するよう求められる。

#### ○教科書

1. 喜多村健、森山寛 編「NEW 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学」改訂第2版南江堂 2007 (図書館蔵書)
2. 切替一郎 原著、野村恭也 編著「新耳鼻咽喉科学」第10版南山堂 2004 (図書館蔵書)

#### ○参考書 (全て耳鼻咽喉科蔵書)

1. 小林武夫 編「新図解 耳鼻咽喉科検査法」第1版金原出版 2000
2. 日本聴覚医学会 編、立木 孝 監修「聴覚検査の実際」改訂3版南山堂 2009
3. 日本耳科学会、日本小児耳鼻咽喉科学会、日本耳鼻咽喉科感染症研究会 編「小児急性中耳炎診療ガイドライン 2009年版」金原出版 2009
4. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業前庭機能異常に関する調査研究班 (2008～2010年度) 編「メニエール病診療ガイドライン 2011年版」金原出版 2011
5. 鼻アレルギー診療ガイドライン作成委員会 作成「鼻アレルギー診療ガイドライン 2009年版」ライフサイエンス 2008
6. 日本めまい平衡医学会 編「イラストめまいの検査 改訂第2版」診断と治療社2009
7. Michael J Gleeson (Editor), Nicholas S Jones (Editor), Ray Clarke (Editor), Linda Luxon (Editor), John Hibbert (Editor), John Watkinson (Editor) 「Scott-Brown's Otorhinolaryngology: Head and Neck Surgery」7th edition Hodder Arnold 2008

#### ○参照 URL

1. 東京医科歯科大学耳鼻咽喉科学分野 頭頸部外科学分野 <http://www.tmd.ac.jp/oto/>
2. 社団法人 日本耳鼻咽喉科学会 [www.jibika.or.jp/](http://www.jibika.or.jp/)

#### ○成績評価の評価法

授業中に適宜行う小テストならびに耳鼻咽喉科学試験をもとに評価する。

#### ○担当窓口

喜多村 健 kitamura.oto@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前		耳鼻咽喉科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
6/14	金	10:30～11:50	総論・耳科学1	喜多村 健	MDタワー2階 共用講義室1
6/17	月	10:30～11:50	耳科学2	野口 佳裕	MDタワー2階 共用講義室1
7/1	月	9:00～10:20	耳科学3	高橋 正時	MDタワー2階 共用講義室1
7/4	木	9:00～10:20	耳科学4	角田 篤信	MDタワー2階 共用講義室1
7/9	火	14:20～15:40	鼻科学1	鈴木 康弘	MDタワー2階 共用講義室1
7/11	木	12:50～14:10	鼻科学2	野口 佳裕	MDタワー2階 共用講義室1
7/11	木	14:20～15:40	鼻科学3	戸叶 尚史	MDタワー2階 共用講義室1
7/18	木	12:50～14:10	喉頭1	岩崎 朱美	MDタワー2階 共用講義室1
7/18	木	14:20～15:40	喉頭2	喜多村 健	MDタワー2階 共用講義室1
7/19	金	10:30～11:50	口腔・唾液腺	角 卓郎	MDタワー2階 共用講義室1
7/24	水	12:50～14:10	咽頭・全身疾患	鈴木 康弘	MDタワー2階 共用講義室1
7/25	木	10:30～11:50	救急疾患	角田 篤信	MDタワー2階 共用講義室1
9/24	火	9:00～10:20	耳鼻咽喉科学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Radiology

○教育目標

1. 放射線医学は他の臨床各科の診療にも深く関連しており、教育内容の上では各科と重複する分野もある。放射線科では、放射線医学を単に装置の性能や便利さ、技術のみにとらわれずに、画像診断情報の総合的な利用法や治療における患者への対応の修得を目標としている。
2. 放射線医学は、放射線基礎医学（物理学、生物学、障害）、画像診断学、治療学に大別される。講義並びに臨床実習の細目は後述するが、診断学ではCTを含めたX線診断、インターベンション、超音波断層像、MRIならびに核医学の評価などの系統的な読影法、鑑別診断の進め方などを主として教育する。治療学（放射線腫瘍学）では放射線療法の意義、適応、方法などを教育し、放射線取り扱いに伴う障害とその防護については放射線基礎医学の中で教育する。

○授業の概要

講義時間は放射線基礎医学 10%、診断学（超音波、インターベンション、CT、MRI、核医学を含む）70%、治療学 20%の時間に配分され、また臨床実習の時間帯は診断学、治療学に配分されている。

なお、放射線科は他の臨床各科との密なる連携が不可欠であるので他科との合同講義（画像診断や腫瘍学）には積極的に参加するように努めている。

1) 放射線基礎医学

放射線を正しく利用するには放射線に関する基礎的事項の理解が必要である。これらの事項は一括して講義すると同時に、臨床系講義及び実習時間に織り込むようにする。

- ・ 診断及び治療に必要な放射線物理
- ・ 細胞及び組織の放射線生物学
- ・ 放射線障害とその防護

2) 診 断 学

イ) X線像（X線CT像を含む）の読影法の基礎、診断過程と鑑別診断に重点をおく。

- ・ 神経放射線
- ・ 頭頸部疾患
- ・ 心、肺、大血管など胸部疾患
- ・ 胆嚢、肝、膵を含む消化器疾患
- ・ 泌尿器系を含む腹部疾患
- ・ 骨、関節疾患

ロ) 超音波検査の実際と読影の基礎

ハ) MRI（Magnetic Resonance Imaging）と読影の基礎

## 二) Interventional Radiology

### ホ) 核 医 学

RI 診療に関する基礎知識及び臨床的応用について一通りの知識を与える。

- ・ SPECT 検査の基礎と臨床
- ・ PET・CT 検査の基礎と臨床

### 3) 放射線治療学

放射線治療の基礎的概念、各疾患に対する治療の有意性、治療方法及び治療に伴う障害について見識を与える。

- ・ 頭頸部腫瘍（口腔癌、上顎洞癌、咽頭癌、喉頭癌など）の根治治療
- ・ 悪性リンパ腫など放射線にも抗癌剤にも感受性の高い腫瘍
- ・ 乳癌、前立腺癌などの小線源治療を含む根治治療
- ・ 放射線と化学療法との併用
- ・ 子宮・食道・胆道の高線量腔内照射治療

なお、臨床実習日程については臨床実習手帳を参照すること。修得目標は以下のごとくである。

- 1) 診断学：専門化された特殊撮影手技を短期間で修得することは卒前教育のレベルでは不可能と思われる。したがって画像診断の基礎的知識、各画像診断における正常像への理解を深めることを目標とする。また RI 取り扱い上の注意、防護、管理及び測定法などについての理解を深める。
- 2) 治療学：学生に放射線治療機器を操作させたり、小線源を取り扱わせることは出来ない。このため根治疾患や姑息治療、癌放射線治療などについての広い知識の取得に努めることで十分と思われる。

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前		放 射 線 医 学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
6/17	月	12:50～14:10	画像診断 総論	大橋 勇	MDタワー2階 共用講義室1
6/17	月	14:20～15:40	骨盤画像診断	北詰 良雄	MDタワー2階 共用講義室1
6/27	木	9:00～10:20	核医学総論	鳥井原 彰	MDタワー2階 共用講義室1
6/27	木	10:30～11:50	治療総論	林 敬二	MDタワー2階 共用講義室1
7/4	木	12:50～14:10	放射線生物学	(坂本 澄彦)	MDタワー2階 共用講義室1
7/4	木	14:20～15:40	胸部画像診断	(斎田 幸久)	MDタワー2階 共用講義室1
7/5	金	9:00～10:20	核医学各論	(牧野)	MDタワー2階 共用講義室1
7/5	金	10:30～11:50	神経放射線	(徳丸 阿耶)	MDタワー2階 共用講義室1
7/11	木	10:30～11:50	腹部画像診断	大橋 勇	MDタワー2階 共用講義室1
7/12	金	9:00～10:20	血管・IVR	岸野 充浩	MDタワー2階 共用講義室1
7/18	木	10:30～11:50	治療各論	中川 恵子	MDタワー2階 共用講義室1
7/19	金	9:00～10:20	治療各論	(戸田 一真)	MDタワー2階 共用講義室1
9/2	月	9:00～10:20	放射線医学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Obstetrics and Gynecology

### ○教育目標

産科学と婦人科学の医学・医療における有機的な関連性に基づき、思春期より更年期・老年期までの一連の流れの中での女性の生理的・病的現象の系統的な理解を目標とする。思春期の発来から女性特有の月経周期が確立し性機能が成熟するまでの生殖内分泌、生殖年齢に達した後の受胎・妊娠・分娩・産褥を取り囲む生殖生理・周産期に関連した諸問題、成熟期より中高年にかけて発生する腫瘍学・感染症を中心とした婦人科疾患、そして更年期より老年期に移り特に近年注目される生殖臓器の aging などについて、これらの病態、診療の実際と治療を主眼とする。そして今日広く受け入れられている基本的な病態・検査・診断・治療に加え、最近進歩の著しい情報やテクノロジー・新しい診断基準・最新の治療法などについても積極的に授業に導入する。

### ○授業の概要

授業は、系統講義、臨床講義と実習、クリニカルクラークシップⅠ、Ⅱ、Ⅲよりなる。系統講義は生殖機能総論から始まり、月経周期とその障害・リプロダクションに関連した内容、とくに不妊症には重点を置き、体外受精・胚移植など新しいテクノロジー、子宮内膜症や多嚢胞性卵巣の病態・診断・治療も含まれる。次に、妊娠の成立から妊娠・分娩・産褥・新生児における周産期を、最近の母子管理法の進歩をトピックスに交えて学習する。次いで女性の臨床的な解剖・生理の特異性を理解するとともに婦人科腫瘍学を学び、近年長足の進歩を遂げている画像診断・生化学的診断そして化学療法の実際について、臨床の現場で生じる問題を反映した学習を目指す。これと同時に、婦人科感染症についても学習する。また加齢に伴う女性に特有の身体的・精神的な変化と症状障害についての理解を通じて、今後問題になる高齢化社会における医学への取組みを考える。授業内容を実際の症例を通じて体験的に理解する目的で、系統講義に加えて臨床講義や実習の時間をなるべく多く組み込み、またクリニカルクラークシップでは学生が自ら積極的に参加する自主性を重んじ、産婦人科臨床の理解を深める。クリニカルクラークシップⅡ、Ⅲでは、系統講義・臨床講義で得られた知識を基礎として、産婦人科外来患者および入院患者を対象に、問診、診断、治療の原則を習得する。分娩に立ち合って周産期医学を見学し、また手術の見学のみならず実際に手術に参加して、術前・術後の一連の流れを十分に学習する。クリニカルクラークシップⅠにおいては腹部のセッションの中で、婦人科診療と腹部症状からみた婦人科的疾患の診断について小グループを対象としたクルズスと実習を行う。

### ○授業のキーワード

生殖内分泌、思春期、月経異常、排卵障害、機能的出血、不妊症、体外受精・胚移植、子宮内膜症、多嚢胞性卵巣、妊娠の成立、不育症、妊娠の生理、合併症妊娠、異常妊娠、多胎妊娠、異常分娩、産褥の生理、新生児、周産期医学、胎児・胎盤系、妊娠中毒症、絨毛性

疾患、婦人科腫瘍学、性器の形態、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣嚢腫、卵巣癌、卵管癌、外陰癌、画像診断、婦人科化学療法、婦人科感染症、加齢・更年期障害、骨粗鬆症、高脂血症

#### ○教科書・参考書

- 「標準産科婦人科学」 丸尾猛・岡井崇 編 医学書院 2007年  
「プリンシパル産科婦人科学」 メジカルビュー社 2008年  
「産婦人科研修の必修知識 2011」 日本産科婦人科学会 編 2011年  
「臨床研修イラストレイテッド 3. 基本手技[診察と検査]」 奈良信雄 編 羊土社 2011年  
「女性診療科 最新超音波診断」 関谷隆夫・石原楷輔 著 永井書店  
「婦人科疾患のMRI診断」 富樫かおり 著 医学書院  
「産科婦人科用語集・用語解説集」 日本産科婦人科学会 編 金原出版 2008年  
「産婦人科診療ガイドライン 産科編 2011」 日本産科婦人科学会 編  
「産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2011」 日本産科婦人科学会 編  
「新生児蘇生法テキスト 改訂第2版」 田村正徳 著 メジカルビュー社  
「MFICU マニュアル」 メディカ出版  
「生殖医療ガイドブック 2010 (第1版)」 金原出版  
「子宮頸癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版  
「子宮体癌取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版  
「卵巣腫瘍取り扱い規約」 日本産科婦人科学会 編 金原出版  
「婦人科がん標準化学療法の実際」 金原出版

"WHO Classification Tumors of the Breast and Female Genital Organs" A. Tavassoli & Peter Devilee

"Clinical Gynecologic Oncology" Di Saia

"Principles and Practice of Gynecologic Oncology, 5th ed." Richard R. Baraket, Maurie Markman, Marcus E. Randall

#### ○他科目との関連

周産期や思春期は新生児、NICU、小児科と、合併症を有する妊婦や手術症例の診断・治療については内科・外科、ER と関連が深い。画像診断では放射線科と、更年期障害では精神神経科や整形外科と密接な関係がある。

#### ○成績評価の方法

講義に関しては講義への出席（各授業後の小テスト）と筆答試験で、クリニカルクラークシップⅡ、Ⅲの評価は実習中の態度、技能、知識を中心に口答試験とレポートの内容によって行う。クリニカルクラークシップⅠでは、カンファレンスでのプレゼンテーションを評価対象としている。

#### ○受講上の注意

産婦人科の全体像を把握するように一連の講義・実習が組み立てられているので欠席をしないこと。学生が自主的に学習する態度を尊重するので、特にクリニカルクラークシップⅡ、

ⅢとクリニカルクラークシップⅠには積極的に参加すること。医学教育の必須条件として分娩に立ち合う機会をもつこと（学生のための夜間待機室が設けられている）。

○担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

久保田 俊郎（t.kubota.gyne@tmd.ac.jp）

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		産科・婦人科学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/22	月	12:50～14:10	月経異常	久保田俊郎	MDタワー2階 共用講義室1
4/23	火	9:00～10:20	不妊の診断と治療(1)	原田竜也	MDタワー2階 共用講義室1
4/25	木	9:00～10:20	不妊の診断と治療(2)	〃	MDタワー2階 共用講義室1
4/30	火	9:00～10:20	臨床講義①〔不妊症例〕	須藤乃里子	MDタワー2階 共用講義室1
5/7	火	9:00～10:20	分娩の機序・生理	宮坂尚幸	MDタワー2階 共用講義室1
5/7	火	14:20～15:40	妊娠初期の異常(1)	寺内公一	MDタワー2階 共用講義室1
5/9	木	9:00～10:20	妊娠中～後期の異常(1)	大井理恵	MDタワー2階 共用講義室1
5/10	金	12:50～14:10	妊娠中～後期の異常(2)	鳥羽三佳代	MDタワー2階 共用講義室1
5/16	木	9:00～10:20	分娩・産褥期の異常(1)	宮坂尚幸	MDタワー2階 共用講義室1
5/21	火	9:00～10:20	分娩・産褥期の異常(2)	〃	MDタワー2階 共用講義室1
5/23	木	9:00～10:20	臨床講義②〔妊娠症例〕	江川真希子	MDタワー2階 共用講義室1
5/28	火	9:00～10:20	婦人科腫瘍の診断と治療(1)	若林晶	MDタワー2階 共用講義室1
5/30	木	9:00～10:20	婦人科腫瘍の診断と治療(2)	尾林聡	MDタワー2階 共用講義室1
6/11	火	9:00～10:20	婦人科腫瘍の診断と治療(3)	(大塚伊佐夫) 亀田メディカル センター	MDタワー2階 共用講義室1
6/13	木	9:00～10:20	臨床講義③〔婦人科腫瘍症例〕	若菜公雄	MDタワー2階 共用講義室1
6/18	火	9:00～10:20	婦人科良性腫瘍と腹腔鏡下手術	吉木尚之	MDタワー2階 共用講義室1
7/8	月	9:00～10:20	産科・婦人科学試験		1号館西9階 特別講室

(英訳) Anesthesiology

○教育目標

従来、麻酔といえば、単に手術にともなう痛みをとり除くだけであると考えられていた。しかし、今日の麻酔学は患者を痛みから解放するにとどまらない。麻酔学は病態生理や薬理学などの広範な知識に裏づけされた全身管理学であり、さらに重篤な患者の全身管理や救急蘇生にも関与する分野である。

学生は、(1) 全身麻酔薬と局所麻酔薬の薬物動態学と薬力学を理解する。(2) 麻酔に必要な解剖学、生理学とくに呼吸生理、循環生理、疼痛生理を理解する。(3) 内科疾患や外科疾患と麻酔の関連について理解する。

臨床実習については、指導教官と一緒に実際の麻酔に従事し、麻酔全般への理解を深める。術前の患者評価および評価によって得た重要事項に対する麻酔管理を実習することによって、いかにして安全な麻酔管理が行われるかを学習する。さらにペインクリニックでは、慢性疼痛を訴える患者の疼痛管理の実習を行う。

○授業の概要

講義による。

○教科書・参考書

指定無し。

標準麻酔科学 第6版 医学書院

○成績の評価の評価法

定期試験および出席

○ 担当窓口 (教員の氏名とメールアドレス)

榎田浩史 makita.mane@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期	麻酔・蘇生学				
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/1	月	12:50～14:10	麻酔科学概論	榎田浩史	MDタワー2階 共用講義室1
7/17	水	9:00～10:20	静脈麻酔薬	内田篤治郎	MDタワー2階 共用講義室1
7/22	月	12:50～14:10	吸入麻酔薬(薬理、吸収と排泄)	里元麻衣子	MDタワー2階 共用講義室1
7/23	火	10:30～11:50	筋弛緩薬と拮抗薬	倉田二郎	MDタワー2階 共用講義室1
7/26	金	9:00～10:20	麻酔回路・気道確保法	中澤弘一	MDタワー2階 共用講義室1
9/2	月	14:20～15:40	呼吸器外科の麻酔・脳外科の麻酔	石川晴士	MDタワー2階 共用講義室1
9/3	火	12:50～14:10	疼痛生理とペインクリニック	舩田昭夫	MDタワー2階 共用講義室1
9/6	金	10:30～11:50	脊髄くも膜下麻酔と硬膜外麻酔	(大島勉)(癌研究会 有明病院)	MDタワー2階 共用講義室1
9/9	月	10:30～11:50	小児麻酔・産科麻酔	石川晴士	MDタワー2階 共用講義室1
9/10	火	10:30～11:50	局所麻酔薬と局所麻酔法(神経ブロックなど)	舩田昭夫	MDタワー2階 共用講義室1
9/17	火	9:00～10:20	麻酔・蘇生学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Oral and Maxillofacial Surgery

#### ○教育目標

口腔は消化管ならびに気道の入口で、咀嚼、嚥下、味覚等の機能や構音、発語機能などを司っており、社会生活においても欠くことのできない重要な器官である。口腔諸組織の疾患は快適な生活を送るためにも他の疾患同様早期に発見し治療されなければならないことは云うまでもない。齲蝕と歯周疾患は罹患率が高く、わが国では歯を喪失する原因の二大疾患であり、約90%がこれらの疾患によって歯が失われている。また歯に直接関連する疾患以外にも、炎症、腫瘍、外傷、先天性疾患など、口腔には多種多様の疾患が発生する。ことに現在のような高齢化社会にあっては健康を維持するうえでその予防と機能回復のための治療はきわめて重要である。そこで口腔外科学の講義では歯科学を含む口腔科学について診断と治療の基本的な知識を習得し、また口腔領域で必要とされる診察手技および診断法、さらに口腔疾患と全身との関係、あるいは全身的疾患の発症の場としての口腔所見の見方などの点について学習する。

口腔疾患の特徴は比較的視診の行いやすい部位であり、齲蝕や歯周疾患をはじめ歯肉癌、舌癌などの口腔癌にいたるまでその診察法と治療の知識は医師にとって健康管理の第一歩と云っても過言ではない。

#### ○授業の概要

4年次には、講義により口腔外科における診断、病因、治療、予後、予防等の基本的事項を学習する。

5年次には、臨床実習により口腔外科診療で必要とされる診察手技、検査法、診断法とともに、口腔疾患と全身の関係、口腔に出現する全身疾患等について学習する。

#### ○教科書・参考書

口腔外科学 第3版 医歯薬出版 2010年

標準口腔外科学 第3版 医学書院 2004年

口腔外科専門医マニュアル 日本口腔外科学会編 2011年

#### ○成績評価の方法

講義に関しては講義への出席と筆答試験で総合的に評価する。臨床実習では出席状況を評価対象とする。

#### ○担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

小村 健 omura.osur@tmd.ac.jp、原田 清 haradak.mfs@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		口 腔 外 科 学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
9/4	水	10:30~11:50	歯・歯周疾患と炎症性疾患	原田 清	MDタワー2階 共用講義室1
9/5	木	9:00~10:20	歯原性腫瘍、口腔顎顔面の嚢胞	山口	MDタワー2階 共用講義室1
9/6	金	9:00~10:20	口腔粘膜の疾患	鵜沢	MDタワー2階 共用講義室1
9/11	水	9:00~10:20	口腔顎顔面領域の腫瘍	原田浩之	MDタワー2階 共用講義室1
9/12	木	9:00~10:20	口腔顎顔面領域の外傷	生田 稔	MDタワー2階 共用講義室1
9/13	金	10:30~11:50	口腔顎顔面領域の先天性疾患と変形症	森田圭一・樺沢勇司	MDタワー2階 共用講義室1
9/18	水	12:50~14:10	顎関節疾患	木野	MDタワー2階 共用講義室1
9/26	木	9:00~10:20	口腔外科学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Emergency and Critical Care Medicine

○科目を履修して得られる能力

すべての臨床分野は、救急疾患を含んでおり、救急医療はすべての臨床分野の集合体である。原因疾患の如何を問わず、緊急の生命維持、重篤な病態への対応は共通であり、この分野を救急医学は担当する。生命の危機に瀕した重症病態の解明、その治療手技に関して、発想の原点はどこにあるか、豊かな発想を絶やさないようにするにはどうすべきか、臨床医として患者にどのように接すべきか、それはどのような病態生理学的背景に基づいているか、これらの考え方の筋道を討論し、学生諸君の積極的意欲を刺激することを目的とする。

得られる能力として、

救急蘇生法、救急診断、外傷初療、心肺停止、モニタリング、呼吸管理、人工呼吸法、循環管理、体液・電解質・酸塩基平衡、栄養管理、血液浄化療法、脳低温療法、高気圧酸素療法、侵襲と生体反応、敗血症、DIC、災害医学、トリアージ、臓器不全、ショック、多発外傷、熱傷、体温異常、急性中毒

に関する基礎概念、病態の理解、診断・治療に関する基礎知識を習得する。

○学習方法

(1) 講義緊急の生命維持療法の基礎知識の習得と、その理論的背景を討論する。講義内容の細目は別に示す。

(2) Pre Clinical Clerkship

救急蘇生法の診断と実習

(3) Clinical Clerkship

ER 実習、ER-ICU/HCU 実習

○教科書

標準救急医学第四版 日本救急医学会監修 2008年、医学書院

○参考書

医学書院救急集中治療部ケースファイルズ 今井孝祐編集 2006年 克誠堂出版

改訂第3版外傷初期診療ガイドライン JATEC 日本外傷学会・日本救急医学会監修 2008年、へるす出版

救急診療指針 日本救急医学会監修 2003年、へるす出版

集中治療医学 日本集中治療医学会編集 2001年 秀潤社

Emergency medicine 6th ed. American college of Emergency Physicians, 2004, McGraw-Hill

Irwin and Rappe's Intensive Care Medicine, Fifth Edition Lippincott Williams & Wilkins, 2003

Trauma 6th ed. EE. Moore, al. 2008, McGraw-Hill

○参照 URL

<http://acls.jp/> [日本 ACLS 協会]

[http://www.heart.org/HEARTORG/CPRAndECC/CPR\\_UCM\\_001118\\_SubHomePage.jsp](http://www.heart.org/HEARTORG/CPRAndECC/CPR_UCM_001118_SubHomePage.jsp)

[American Heart Association, ACLS]

<http://www.nejm.org/multimedia/medical-videos> [緊急室での手技のビデオ]

<http://www.acep.org/clinicalpolicies/> [American College of Emergency Physicians, Clinical Policies]

○成績評価の方法

系統講義に関しては、筆記試験でその理解度、修得度を問い、講義毎に小試験を行うこともある。実習に際しては、受け持ち患者に関するレポートの提出を求める。

Clinical Clerkship の評価点 (30 点満点) と卒業試験 (70 点満点) を合わせて成績評価を行う。

○担当窓口

大友康裕 otomo.accm@tmd.ac.jp

三高千恵子 c.mitaka.icu@tmd.ac.jp

白石 淳 siris.accm@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		救 急 医 学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
7/10	水	12:50～14:10	心肺蘇生法	大友康裕	MDタワー2階 共用講義室1
7/16	火	14:20～15:40	救急領域における輸液	村田希吉	MDタワー2階 共用講義室1
7/22	月	14:20～15:40	外傷初療	大友康裕	MDタワー2階 共用講義室1
7/26	金	10:30～11:50	外傷各論	加地正人	MDタワー2階 共用講義室1
9/3	火	9:00～10:20	災害医学概論	大友康裕	MDタワー2階 共用講義室1
9/3	火	10:30～11:50	災害医療机上シミュレーション	大友康裕	MDタワー2階 共用講義室1
9/6	金	12:50～14:10	ショック	相星淳一	MDタワー2階 共用講義室1
9/9	月	12:50～14:10	急性中毒、血液浄化法	白石淳	MDタワー2階 共用講義室1
9/18	水	9:00～10:20	急性呼吸不全／人工呼吸法	三高千恵子	MDタワー2階 共用講義室1
9/18	水	10:30～11:50	敗血症／多臓器不全	三高千恵子	MDタワー2階 共用講義室1
9/19	木	10:30～11:50	救急領域における感染症、体温異常他	加地正人	MDタワー2階 共用講義室1
9/27	金	9:00～10:20	救急医学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Plastic and Reconstructive Surgery

○ 教育目標

形成外科学とは、主として体表の、先天的または後天的機能障害・形成異常に対して、機能回復をはかるとともに、より形態を重視して修復する外科学の一分野である。また、体表外傷や熱傷に対するプライマリ・ケアを担当する、外科系診療科の基本となる診療科である。

形成外科は、対象とする臓器が特定されておらず、学生にとっては勉強し難いのが問題点であるが、授業では形成外科の定義にはじまり、形成外科の対象となる疾患や病態、及び形成外科の基本手技（切縫、植皮、皮弁、その他の組織移植）を述べ、他の外科系各科と相違点や必要性、他科との連携を含めた病院内での位置づけを理解してもらおう。さらに、現在の形成外科での未解決点、研究課題をトピック的に挙げ、形成外科に対する興味を深めてもらう。

○ 学習目標

- 1) 形成外科の意味あい・歴史的背景を知り、社会的必要性を理解する。
- 2) 形成外科の対象となる疾患や病態を認識し、他科とのチーム医療、病院内での位置づけを理解する。
- 3) 形成外科的基本手技（皮膚切開・縫合、組織の愛護的取扱い、植皮、皮弁、その他の組織移植）における手技を理解し、その結果、どこまで機能的、整容的に修復できるかを知る。
- 4) 形成外科における現時点での未解決点、研究課題を知る。
- 5) 生体組織に代用できる人工物質を知り、将来における代用組織開発への洞察力を養う。

○ 科目を履修して得られる能力

- 1) 形成外科とは何であるか、どうして必要であるかを説明できる。
- 2) 形成外科の対象となる疾患や病態を理解し、他科の医師と連携して適切な対応がとれる。
- 3) 診療に対する基本姿勢、心理的側面（醜形恐怖症、先天性異常）、インフォームド・コンセントの必要性を理解して行動できる。
- 4) 形成外科的基本手技による組織の愛護的な取扱い、縫合糸や器具の選択・使用法、どの様な手技が適切かを知り、外傷のプライマリ・ケアに適応することができる。
- 5) 創傷治癒について、その機序と、治療の原則について述べることができる。

○ 授業の概要と学習方法

1) 総論

- ・ 定義・歴史、創傷治癒、基本手技：皮膚切開、縫合、植皮、皮弁、その他の組織移植
- ・ 応用手技：骨切り術、マイクロサージャリー、ティッシュエキスパンダー、レーザー

2) 顔面領域の構造と外傷

- ・ 顔面軟部組織の損傷、顔面骨骨折、顔面神経麻痺

3) 腫瘍切除後の再建

・頭頸部癌切除後、乳癌術後乳房再建、整形外科・産婦人科領域の主要切除後の再建など

4) 顔面・頭部領域の先天性異常、美容外科

・先天性頭蓋・顔面異常、口唇・口蓋裂、外鼻異常、耳介異常など 美容的形成術

5) 手足・体幹の先天性異常と外傷

・臍ヘルニア、漏斗胸、多指（趾）、合指（趾）、腱切断、手指などの切断

6) 皮膚・軟部の腫瘍（悪性・良性）に対する治療 ・腫瘍の種類、切除範囲、基本的な再建法

7) 熱傷の治療と瘢痕・ケロイド

8) 褥瘡と難治性潰瘍 ・褥瘡、末梢動脈疾患、糖尿病性足病変、放射線皮膚障害

★ 授業は多数の写真スライドを提示するので、授業の前に該当テーマを教科書で一通り読んでおくと、イメージがわいて理解しやすい。

○ 他科目との関連

形成外科では、対象とする臓器が特定されておらず、疾患・病態は多岐にわたる。また、治療には、関連各科との密接な連携によるチーム医療が必要となることが少なくない。具体的には小児先天異常は小児科と、また腫瘍切除後の再建では、耳鼻科・頭頸科、口腔外科、婦人科、整形外科、一般外科などと関連が深い。それらを認識したうえで、他科の授業を聴講すると、知識の幅が広がり、包括的に診療をとらえることができるであろう。

○ 教科書

・標準形成外科学第6版 平林慎一／鈴木茂彦編 医学書院 2011

○ 参考書

・雑誌形成外科各号の特集、

同増刊号 研修医・外科系医師が知っておくべき形成外科の基本知識と手技, 2012.

○ 参照 URL

東京医科歯科大学 形成・再建外科学分野ホームページ

<http://www.tmd.ac.jp/med/plas/plas-J.html>

○ 成績評価の評価法

筆記試験または口頭試験及び授業態度、臨床実習での評価から総合的に判定する。

○ 受講上の注意

形成外科は、「付加価値の科」、「プラスαの科」であるという間違った認識を改める必要がある。それは、形成外科の一面でしかない。創傷治癒、組織の修復、切開・縫合法、組織の愛護的扱い方、外傷や熱傷に対するプライマリケア、褥創・難治性潰瘍の対処法など、将来どの科に進むにしても医者としての必須事項を扱う、外科系診療の最も基本となる診療科であることをしっかり認識しながら受講してほしい。

○ 担当窓口 岡崎 睦 [okazaki.plas@tmd.ac.jp](mailto:okazaki.plas@tmd.ac.jp)

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		形 成 外 科 学			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
7/9	火	9:00～10:20	形成外科総論	森 弘樹	MDタワー2階 共用講義室1
7/10	水	9:00～10:20	顔面領域の構造と外傷	岡崎 睦	MDタワー2階 共用講義室1
7/12	金	10:30～11:50	顔面・頭部領域の先天性異常・美容外科	森 弘樹	MDタワー2階 共用講義室1
7/16	火	12:50～14:10	腫瘍切除後の再建	岡崎 睦	MDタワー2階 共用講義室1
7/23	火	14:20～15:40	皮膚・軟部の腫瘍(悪性・良性)に対する治療	田中 顕太郎	MDタワー2階 共用講義室1
7/25	木	9:00～10:20	手足・体幹の先天性異常と外傷	宇佐美 聡	MDタワー2階 共用講義室1
9/5	木	10:30～11:50	褥瘡・難治性潰瘍	田中 顕太郎	MDタワー2階 共用講義室1
9/9	月	14:20～15:40	熱傷の治療と瘢痕・ケロイド	植村法子	MDタワー2階 共用講義室1
9/20	金	9:00～10:20	形成外科学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Head and Neck Surgery

### ○教育目標

頭頸部外科学は頭蓋顔面および頸部を取り扱う。ただし、頭蓋内は脳外科、眼窩内は眼科の範疇となる。従来この領域は、主として耳鼻咽喉科医、一部を一般外科医が担当していた。本講座は大学の講座としては本邦で初めて本学において誕生したものである。

頭頸部領域の外科全般が担当となるが、中でも悪性腫瘍が主となる。頭頸部がんは、UICC分類(2002)によれば対象となる原発部位は、1) 口唇、口腔、2) 咽頭(上咽頭、中咽頭、下咽頭)、3) 喉頭、4) 鼻副鼻腔、5) 唾液腺、6) 甲状腺となっている。

しかしこれ以外にも、中耳、外耳の悪性腫瘍、悪性リンパ腫、軟部組織の肉腫、頸部への転移がんなども対象となる。それぞれに臨床像は異なり、治療法も各部位ごとに異なっている。

頭頸部領域は、音声言語、呼吸、咀嚼、嚥下、気道の空調、嗅覚、味覚、聴覚など、種々の機能を受け持つ器官を有する。これらの機能は、人が生きていくために最低限必要な機能、あるいは社会生活上重要な機能である。また、顔面は審美上重要である。頭頸部がんの治療に際しては、これらの機能および形態を考慮し、頭頸部外科医を中心とし、放射線治療医、形成外科医、脳神経外科医、化学療法内科医、臨床病理医、歯科医など多くの専門医の参加による集学的治療が行われる。

卒前教育においては以上のような頭頸部の特徴を理解し、各部位、種々の組織型、さらには個々の症例の病態に応じた治療法の選択と、そこに至る診断手順などにつき学ぶ。

### ○授業の概要

1. 系統講義、クリニカルクラークシップよりなる。
2. 系統講義は第4学年に計8回行われる。

#### 頭頸部外科学各論

- 1) 総論、聴器・上咽頭・鼻副鼻腔・頭蓋底の腫瘍
- 2) 口腔・唾液腺の腫瘍
- 3) 中下咽頭・喉頭の腫瘍
- 4) 頭頸部癌の放射線治療
- 5) 頭蓋底、頭頸部再建術の現状と問題点
- 6) 甲状腺、気管食道、頸部の疾患
- 7) 頭頸部領域の臨床解剖
- 8) がん専門病院における頭頸部がん治療の現状

### ○成績評価の評価法

筆記試験(60点以上を合格とする)

### ○担当窓口(教員の氏名とメールアドレス)

杉本 太郎 (sugimoto.oto@tmd.ac.jp)

## 平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		頭 頸 部 外 科			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
9/2	月	10:30～11:50	総論、聴器・鼻副鼻腔・上咽頭・頭蓋底の腫瘍	岸本誠司	MDタワー2階 共用講義室1
9/4	水	12:50～14:10	口腔・唾液腺の腫瘍	別府武	MDタワー2階 共用講義室1
9/5	木	12:50～14:10	頭頸部外科の臨床解剖	秋田恵一	MDタワー2階 共用講義室1
9/11	水	12:50～14:10	中下咽頭・喉頭の腫瘍	杉本太郎	MDタワー2階 共用講義室1
9/12	木	12:50～14:10	甲状腺・気管食道・頸部の疾患	角卓郎	MDタワー2階 共用講義室1
9/13	金	12:50～14:10	頭頸部癌の放射線治療	澁谷均	MDタワー2階 共用講義室1
9/13	金	14:20～15:40	頭蓋底・頭頸部再建術の現状と問題点	岡崎睦	MDタワー2階 共用講義室1
9/19	木	9:00～10:20	がん専門病院における頭頸部がん治療の現状について	川端一嘉	MDタワー2階 共用講義室1
9/24	火	9:00～10:20	頭頸部外科学試験		1号館西9階 特別講堂

(英訳) Liaison Psychiatry and Palliative Medicine

#### ○教育目標

現代の高度化、専門化された医療においては、とかく患者の身体的側面に治療の重点が置かれる傾向にある。しかし、そもそも患者は心身両面を兼ね備えた個体であり、たとえ身体疾患患者であっても、何らかの精神的あるいは心理的問題を抱えていることが多い。したがって、臨床現場においては、どんな患者に対しても全人的、総合的医療が求められており、今後ますますこうした考え方に基づいた治療が必要になってくる。本科では、こうした全人的医療の意義を学ぶことと同時に、実践での対応能力を習得できるよう指導することを目標とする。

#### ○授業の概要

全人的医療という立場から、身体疾患であっても患者の心理的、社会的側面を理解し、診療にあたることを教授する。心身医療においては、各種身体疾患にみられる精神症状への対応を中心に、コンサルテーション・リエゾン精神医学の意義を指導し、身体各科においてみられる様々な精神的問題について包括的に診断・治療できるように教育する。また、とくに終末期患者の身体的および精神的な苦痛を緩和し、患者の QOL を向上させるための実践的な知識を習得できるよう教育する。

#### ○授業のキーワード

コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和医療、サイコオンコロジー

#### ○教科書・参考書

コンサルテーション・リエゾン精神医学 メディカルサイエンス・インターナショナル  
(2002)

精神科 MOOK27 コンサルテーション・リエゾン精神医学 金原出版 (1991)

臨床精神医学講座 17 リエゾン精神医学・精神科救急医療 中山書店 (1999)

Oxford Textbook of Palliative Medicine Oxford University Press (1998)

Cancer Pain Management Newton (1997)

Topics in Palliative Care vol.1 Oxford University Press (1997)

Palliative medicine: A case-based manual Oxford University Press (1998)

緩和ケアマニュアル 最新医学社 (2001)

末期癌患者の診療マニュアル (第2版) 医学書院 (1991)

Psycho-oncology Oxford University Press (1998)

真実を伝える 診断と治療社 (2000)

WM 臨床研修サバイバルガイド 精神科 メディカル・サイエンス・インターナショナル  
(2005)

がん医療におけるコミュニケーション・スキル悪い知らせをどう伝えるか 医学書院 (2007)  
専門医のための精神科臨床リュミエール24 サイコオンコロジー 中山書店(2010)  
精神腫瘍学 クリニカルエッセンス 創造出版(2012)  
がん患者の心のケア こんなときどうする？サイコオンコロジーを学びたいあなたへ 一  
歩進んだケアにつながる16事例 文光堂(2011)  
精神腫瘍学 医学書院(2011)

○他科目との関連

本科の性格上、臨床他科との関連なくしては成り立たず、各科目についての幅広い知識と理解が必要である。

○成績評価の方法

定期試験による。授業後に随時、小試験を実施する。

○受講上の注意

本講義の授業は、卒後研修ひいては各科臨床の場で必要不可欠な内容になっており、積極的に聴講する姿勢をもってほしい。

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 年 前 期		心療ターミナル 医 学		授 業 内 容	担当教員	講 義 室
年月日	曜日	授業時間				
6/18	火	10:30～11:50	緩和医療 1 : 緩和医療における精神面のケア	松島英介	MDタワー2階 共用講義室1	
6/20	木	12:50～14:10	リエゾン精神医学 1	宮島美穂 (松田哲也)	MDタワー2階 共用講義室1	
7/1	月	10:30～11:50	緩和医療 2 : 緩和医療における社会的苦痛と スピリチュアルな痛み	松島英介	MDタワー2階 共用講義室1	
7/8	月	10:30～11:50	緩和医療 3 : 緩和医療における身体症状 コントロール	(永井英明)	MDタワー2階 共用講義室1	
7/17	水	12:50～14:10	リエゾン精神医学 2	(太田克也) (保坂隆)	MDタワー2階 共用講義室1	
7/22	月	9:00～10:20	心療ターミナル医学試験		1号館西9階 特別講堂	

(英訳) Laboratory Medicine

○教育目標

1. 臨床検査の意義、内容、原理、応用を説明できる。
2. 検査計画を立案できる。
3. 臨床検査結果を解釈できる。
4. 臨床検査結果値から病態生理を考察できる。
5. 臨床検査結果を応用して臨床推論ができる。
6. 基本的な検査を実施できる。

○授業の概要

1. 臨床検査の意義、目的、内容、応用を講義で解説し、理解する。
2. 各検査の原理、内容を講義で解説し、理解する。
3. 症例における検査結果の解釈を演習で学習する。

○授業のキーワード

臨床検査、尿検査、便検査、血液学的検査、血液生化学検査、免疫血清検査、病原微生物検査、染色体検査、遺伝子検査

○教科書・参考書

<教科書>

1. 奈良信雄著：臨床検査値ポケットガイドブックー検査値のうしろに何がみえるか、中山書店、2011年

<参考書>

1. 奈良信雄編：臨床研修イラストレイテッド第3巻基本手技「診察と検査」、羊土社、2011年
2. 後藤英司、奈良信雄、藤代健太郎編：鑑別診断ロジカルシンキング、Medical View社、2011年
3. 奈良信雄、三宅一徳、山田俊幸、矢内充編：Reversed CPCによる臨床検査データ読み方トレーニング vol 3、日本医事新報社、2008年
4. 福井次矢、奈良信雄編：内科診断学、医学書院、2008年
5. 奈良信雄監訳：ウィントロブ臨床血液学アトラス、メディカル・サイエンス・インターナショナル社、2008年
6. 奈良信雄編：疾患からまとめた病態生理 FIRST AID、メディカル・サイエンス・インターナショナル社、2007年
7. 奈良信雄編：ベストアプローチ臨床検査ガイド、中外医学社、2006年

8. 熊坂一成、猪狩淳、伊藤紘一、奈良信雄編：Reversed CPC による臨床検査データ読み方トレーニング vol 2、日本医事新報社、2005 年
9. 奈良信雄著：臨床検査小事典、中外医学社、2002 年
10. 熊坂一成、猪狩淳、伊藤紘一、奈良信雄編：Reversed CPC による臨床検査データ読み方トレーニング vol 1、日本医事新報社、2001 年

○他科目との関連

臨床全科、基礎医学（とくに生理学、生化学、微生物学、病理学）

○成績評価の方法

授業終了後に筆記試験（論述形式、多選択肢形式）で評価する。

○受講上の注意

臨床検査の意義、検査値の解釈などは学生自身で考察することが望ましい。このためにも教科書、参考書をよく読んで理解を深めておくこと。また、基礎医学、臨床医学のすべてと関連するので、他科目の知識を応用すること。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

奈良信雄 nara.mlab@tmd.ac.jp

平成25年度医学部医学科授業内容

4 学 前	年 期	臨床検査医学			
年月日	曜日	授業時間	授 業 内 容	担当教員	講 義 室
4/22	月	9:00～10:20	臨床検査医学総論	奈良信雄	MDタワー2階 共用講義室1
4/24	水	10:30～11:50	血液学・遺伝子検査学	東田修二	MDタワー2階 共用講義室1
4/25	木	10:30～11:50	生化学検査	奈良信雄	MDタワー2階 共用講義室1
5/7	火	10:30～11:50	免疫血清検査学	佐藤和人 (非常勤講師、日本女子 大学教授)	MDタワー2階 共用講義室1
5/8	水	10:30～11:50	感染症検査学	松本哲哉 (非常勤講師、東京医科 大学教授)	MDタワー2階 共用講義室1
5/20	月	9:00～10:20	臨床検査医学試験		3号館2階 医学科講義室1

# 自由選択学習

授業科目

授業責任者 中田 隆夫

## (プロジェクトセメスター)

(英訳) Project Semester

### ○ 科目を履修して得られる能力

主な講義・試験及び基礎実習を終えた4年生後期に設定されている約5ヶ月の研究コース。興味を持った分野で指導教員とともに研究テーマを定め、自ら研究を行う。それを通じて、医学の理解に必要な科学的視点、問題点の抽出・解決能力、各種研究技術、研究チームの一員としての協調性、プレゼンテーション・レポート作成技法などを習得する。受け入れ教室は医学科に限らず、本学の諸講座（附属研究所を含む）の他、学外研究機関（要了承）、さらには国際交流協定校のインペリアルカレッジ（ロンドン・英国）、クリニカ・ラスコンデス（チリ）、ガーナ大学野口記念医学研究所（ガーナ）、チュラロンコン大学（タイ）などがある。

### ○ 学習方法

受け入れ分野・施設での基礎研究。但し、患者と接する研究・研修は含まない。

### ○ 教科書

受け入れ分野に相談のこと。

### ○ 参考書

受け入れ分野に相談のこと。

### ○ 参照 URL

特になし。

### ○ 成績評価の評価法

実験への取り組み、ポスター発表会への取り組み、レポートを総合的に評価する。

### ○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

中田 隆夫（細胞生物学）

Mail : nakata.cbio@tmd.ac.jp

## 平成25年度自由選択学習（プロジェクトセメスター）実施日程

平成25年

3月4日(月) 2限：10時30分～（共用講義室（M&Dタワー2階））  
プロジェクトセメスター説明会 学内・学外コース・海外機関紹介の内容

学内コースの各分野担当教員との面接等解禁

3月4日(月) インペリアルカレッジ、チリ大学/クリニカ・ラス・コンデス(チリ)  
チュラロンコン大学(タイ)、ソウル大学(韓国)、ガーナ大学野口記念医学研究所(ガーナ)  
での基礎医学実習 志願者募集開始

3月中旬頃 海外研修奨励制度 公募開始

3月18日(月) 海外派遣 志願者応募締切

3月27日(水) 海外派遣志願者 TOFEL(ITP)受験

4月16日(火) 予定 インペリアルカレッジ基礎医学実習 志願者選考会(面接)

4月24日(水) 予定 ガーナ大学野口記念医学研究所(ガーナ) 基礎医学実習 志願者選考会(面接)

4月25日(木) 予定 チリ大学/クリニカ・ラス・コンデス(チリ)、チュラロンコン大学(タイ)、  
ソウル大学(韓国) 基礎医学実習 志願者選考会(面接)

5月初旬 海外研修奨励制度 候補者選出

5月15日(水) インペリアルカレッジ、チリ大学/クリニカ・ラス・コンデス、チュラロンコン大学、ソウル大学、  
ガーナ大学野口記念医学研究所 派遣学生 および海外研修奨励制度派遣学生 決定

5月20日(月) 学外コース履修計画案の提出締切  
(インペリアルカレッジ、チリ、タイ、ソウル、ガーナ応募者を除く)

5月下旬 学外コース 検討会議、可否決定

6月6日(木) 大学院説明会(AM全体説明、PMパネル展示説明)

6月中旬 学内コース(学外コース、海外機関含む全学生) 分野内定

7月8日(月) 学内コース履修計画案の提出締切

7月17日(水) 平成25年度プロジェクトセメスター配属先 最終決定

7月中旬 学内・学外コース 受入依頼および、動物実験・アイソトープ 利用アンケート  
(インペリアルカレッジ、チリ、タイ、ソウル、ガーナ応募者を除く)

9月27日(金) 10時30分～11時50分（3号館3階 医学科講義室）  
「プロジェクトセメスターにおける研究の手法・進め方」に関する講義(中田教授)

10月 7日(月) プロジェクトセメスター コース開始  
10月 初旬 動物実験施設講習会  
10月 15日(火)頃 10時00分～17時15分 アイソトープ講習会  
10月 21日(月)～ 22日(火)頃 アイソトープ使用者特別健康診断  
12月 24日(火)～ 1月 5日(日) 冬季休暇

平成26年

1月 14日(火)頃 10時30分～11時50分 (M&Dタワー共用講義室1)  
「プロジェクトセメスターにおける研究成果の発表・論文作成の方法」に関する講義(田邊教授) 予定  
2月 12日(水) プロジェクトセメスター成果発表会 抄録提出〆切  
2月 21日(金) コース終了  
2月 21日(金) 平成24年度自由選択科目(プロジェクトセメスター) 成果発表会  
(ポスタープレゼンテーション)  
2月 22日(土)～23日(日) 合宿研修  
2月 24日(月)プロジェクトセメスター レポート提出〆切  
3月 3日(月) 指導教員より評価表提出〆切

# 授 業 概 要

(第5学年)

平成25年度医学科第5学年「東洋医学」, 「先端医学」, 「基礎臨床総合講義」授業内容

5 学 年 後 期	東 洋 医 学	(臨床関連講義) 授業責任者: 下門顕太郎			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
25/11/22	金	18:00~19:00	病態観(病因病機), 治療概念(予防と治療の原則)	別府正志	B棟5F 症例検討室
11/29	金	18:00~19:00	治療手段(生薬の炮製と製剤及び薬性理論、方剤と治法、方剤の分類、方剤の組成)	別府正志	B棟5F 症例検討室
12/6	金	18:00~19:00	東洋医学的治療の実際1(臨床例①メタボリック症候群 ②がん ③慢性疼痛)	(西元慶治)	B棟5F 症例検討室
12/13	金	18:00~19:00	東洋医学的治療の実際2 女性更年期障害の漢方治療	(頼 建守)	B棟5F 症例検討室

5 学 年 後 期	先 端 医 学	科目責任者: 教育委員会			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
26/1/10	金	18:00~19:00	未定		B棟5F 症例検討室
1/17	金	18:00~19:00	未定		B棟5F 症例検討室
1/24	金	18:00~19:00	未定		B棟5F 症例検討室
1/31	金	18:00~19:00	未定		B棟5F 症例検討室
2/7	金	18:00~19:00	未定		B棟5F 症例検討室

5 学 年 後 期	基 礎 臨 床 総 合 講 義	科目責任者: 田中雄二郎			
年 月 日	曜 日	授 業 時 間	授 業 内 容	担 当 教 員	講 義 室
26/2/14	金	18:00~19:00	キャリア形成の考え方1(総論・初期研修)		B棟5F 症例検討室
2/21	金	18:00~19:00	キャリア形成の考え方2(大学研修)		B棟5F 症例検討室
2/28	金	18:00~19:00	キャリア形成の考え方3(一般病院研修)		B棟5F 症例検討室
3/7	金	18:00~19:00	キャリア形成の考え方4(後期研修)		B棟5F 症例検討室
3/14	金	18:00~19:00	キャリア形成の考え方5(女性医師)		B棟5F 症例検討室
3/20	木	18:00~19:00	キャリア形成の考え方(大学院・海外留学)		B棟5F 症例検討室

# 授 業 概 要

(選択科目)

## (英訳) Research Training Program

## ○ 科目を履修して得られる能力

基礎医学分野のみならず、臨床医学分野に進んだ場合でも、医学者として研究を行う機会が多い。いわゆるトランスレーショナルリサーチを行うにも、強力な基礎研究力が必要である。そのためには、研究に興味ある学生は在学中から積極的に研究に触れることが大切である。本プログラムは医学科基礎系研究室が責任を持って学生を受け入れ、通常カリキュラムの時間外に実際の研究を指導する選択実習科目である。

## ○ 学習方法

第2学年開始時に、講義形式の教室(研究室)紹介を行い、その後配属先を登録する。配属先分野で、授業時間外を利用して研究を実践する。定期的に開催されるリサーチミーティングに参加して、学生同士で議論する。

## ○ 教科書

受け入れ分野に相談のこと。

## ○ 参考書

受け入れ分野に相談のこと。

## ○ 参照 URL

特になし

## ○ 成績評価の評価法

「研究実践プログラム」を選択科目として履修したい場合は、5月上旬(5日間程度)に設定された履修登録期間内に、教務課にて履修登録を行ってください。

「研究実践プログラム」は第2学年から第6学年まで履修することができますが、履修登録は毎年度行う必要があります。前年度履修していても翌年度履修登録を行わなければ辞退したものとみなします。

「研究実践プログラム」は毎年履修しても、一旦中断し、翌年度以降再度履修しても構いません。但し、最終的な単位認定は第6学年終了後、履修した期間・これまでの評価を基に「秀・優・良・可(・不可)」の評価および単位数を認定します。よって指導要録に最終的に認定されるのは卒業時になります。

## ○ 担当窓口(教員の氏名とメールアドレス)

中田隆夫(細胞生物学分野 教授)

Mail : nakata.cbio@tmd.ac.jp

研究実践プログラムの教室説明会

	15:50-16:10	16:15-16:35	16:40-17:00
4月9日	細胞生物学	予備	人体解剖学
4月10日	分子腫瘍医学	システム発生・再生医学	国際保健医療協力学
4月11日	法医学	国際環境寄生虫病学	病態代謝解析学
4月12日	システム神経生理学	免疫治療学	政策科学
4月15日	神経機能形態学	健康推進医学	臨床解剖学
4月16日	包括病理学	細胞薬理学	ウイルス制御学
4月17日	予備	予備	予備
4月18日	履修申請の説明		
4月19日	免疫アレルギー	予備	予備

場所：3号館2階講義室

学生の参加形態：自由（出席はとりません）

(英訳) Research Training Program

○ 科目を履修して得られる能力

基礎医学分野のみならず、臨床医学分野に進んだ場合でも、医学者として研究を行う機会は多い。いわゆるトランスレーショナルリサーチを行うにも、強力な基礎研究力が必要である。そのためには、研究に興味ある学生は在学中から積極的に研究に触れることが大切である。本プログラムは医学科基礎系研究室が責任を持って学生を受け入れ、通常カリキュラムの時間外に実際の研究を指導する選択実習科目である。

○ 学習方法

第3学年開始時に、講義形式の教室(研究室)紹介を行い、その後配属先を登録する。配属先分野で、授業時間外を利用して研究を実践する。定期的に開催されるリサーチミーティングに参加して、学生同士で議論する。

○ 教科書

受け入れ分野に相談のこと。

○ 参考書

受け入れ分野に相談のこと。

○ 参照 URL

特になし

○ 成績評価の評価法

「研究実践プログラム」を選択科目として履修したい場合は、5月上旬(5日間程度)に設定された履修登録期間内に、教務課にて履修登録を行ってください。

「研究実践プログラム」は第2学年から第6学年まで履修することができますが、履修登録は毎年度行う必要があります。前年度履修していても翌年度履修登録を行わなければ辞退したものとみなします。

「研究実践プログラム」は毎年履修しても、一旦中断し、翌年度以降再度履修しても構いません。但し、最終的な単位認定は第6学年終了後、履修した期間・これまでの評価を基に「秀・優・良・可(・不可)」の評価および単位数を認定します。よって指導要録に最終的に認定されるのは卒業時になります。

○ 担当窓口(教員の氏名とメールアドレス)

中田隆夫(細胞生物学分野 教授)

Mail : nakata.cbio@tmd.ac.jp

研究実践プログラムの教室説明会

	15:50-16:10	16:15-16:35	16:40-17:00
4月9日	細胞生物学	予備	人体解剖学
4月10日	分子腫瘍医学	システム発生・再生医学	国際保健医療協力学
4月11日	法医学	国際環境寄生虫病学	病態代謝解析学
4月12日	システム神経生理学	免疫治療学	政策科学
4月15日	神経機能形態学	健康推進医学	臨床解剖学
4月16日	包括病理学	細胞薬理学	ウイルス制御学
4月17日	予備	予備	予備
4月18日	履修申請の説明		
4月19日	免疫アレルギー	予備	予備

場所：3号館2階講義室

学生の参加形態：自由（出席はとりません）

(英訳) Leaning program of community medicine

○ 教育目標

患者中心医療のための患者側ニーズの把握  
地域医療充実のための医師養成教育システムの確立

○ 学習方法

地域特別枠にて入学した学生は、年数回（自治体により異なる）実施される研修に参加することを義務づける他、各県を担当する教員（長野県：太田伸生教授，茨城県：宮坂尚幸寄附講座教授）と密に連絡をとり、各県の地域医療に関する現状を常に把握すること。

○ 教科書

特になし

○ 参考書

特になし

○ 参照 URL

特になし

○ 成績評価の評価法

地域特別枠学生：各自治体が主催する研修（夏季地域医療プログラム等）への参加  
上記以外：レポートなど。

自治体が設けたプログラムに参加し、出席が確認された場合は単位を付加する。選択科目とし、卒業要件単位数に含めない。4時間×年2回×6年（モデルケース）で1.0単位  
単位認定は最終学年終了時に行い、それまでの実績を踏まえ総合的に判断する。

○ 担当窓口（教員の氏名とメールアドレス）

長野県：太田伸生（国際環境寄生虫病学 教授）[matata.vip@tmd.ac.jp](mailto:matata.vip@tmd.ac.jp)

茨城県：宮坂尚幸（小児・周産期地域医療学講座 教授）[n.miyasaka.gyne@tmd.ac.jp](mailto:n.miyasaka.gyne@tmd.ac.jp)

医学科コンピテンシー  
【別表】

(第1学年～第3学年)

別表 科目を履修して得られる能力(医学科第2学年)  
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	学習方法	レベル	人体構造総論	細胞生物学	神経生理導入	生理学	組織学	人体解剖学	薬理学	生化学	分子遺伝学	神経解剖学	免疫学	神経科学・基礎	感染・基礎	重併医学	病理学	医動物学		
国際人としての意識	国際感覚/国際的視点	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて、議論できる	講義	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B		
		科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	講義	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
医学/科学の発展への貢献	科学的探求	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法を説明できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
		基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して実習を行える	実習	B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
		臨床的あるいは科学的問題提起ができる	講義・実習	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
		実習実験を実施して結果を得ることができる	実習	B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
		実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面 で明確に説明できる	実習	B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
		他者の貢献、時間、価値感、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる	実習	C								C										
		個人の生活における責務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる	実習	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		医学生としての健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる	講義	B													B					
自己管理	動労習慣	時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
		文書課題を、正解で判断しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
プロフェッショナルリズム	法規、機関内規、専門職社会内規範	本学を含めた当該機関内規、法律、専門職社会内規範を遵守できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A		
		常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	講義・実習	A		A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
		他者への良識を逸する振舞い(無礼、短気など)を認識し、助言を求め、今後良き振舞いとなるよう振舞いを修正することができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
		情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる	講義・実習	B		B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
		記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自身の知識・能力・振舞いを批判的に審察し、長所と課題点を同定し、改善の為に学習目標を設定し、それを達成するのに適した学習活動に取り組むことができる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		自身に対するフィードバックにもとづき審察し自己改善を実現できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
		ポートフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A
知識とその応用	医学知識(基礎)	疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる	講義・実習	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
		疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる	講義・実習	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	
診療の実践	医療安全	患者隔離の必要な感染症につき、感染経路や症状、予防、治療を説明できる	講義	B													B					
		創傷し事故、針刺し創傷等による感染症感染源につき、感染経路や症状、予防、治療を説明できる	講義	C														C				



別表 科目を履修して得られる能力 (医学科第3学年)  
医学科コンピテンシーより

大領域	小領域	細目	レベル	腫瘍学	法医学	社会医学	衛生学	公衆衛生学	臨床医学導入	循環器	呼吸器	消化器	液体制御・泌尿	内分泌・代謝	血液・腫瘍	一般外科	神経科学	皮膚・泌尿器・腫瘍	感染症・臨床		
コミュニケーション	医療チーム内/間コミュニケーション	書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる	B																		
	患者および家族とのコミュニケーション	患者の様々な背景や文化がどれだけ医師・患者間のコミュニケーションに影響するかを説明できる	B																		
		重大で複雑な難しいヒストリー(sexual history, 疾患名告知, 退院計画議論, ターミナルケアなど)について患者や患者家族と議論する際に、配慮すべき点や重要な点を説明できる	B																		
知識とその応用	医学知識(基礎)	患者中心の医療について説明できる	C				C														
		B: 疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる A: 基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に応用できる	BA	B					A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	
	医学知識(臨床)	頻度の高い疾患について、疫学/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる	B																		
		症候/問題の原因詳細において用いられる評価法についての知識(通称/合併症/限局)を提示できる	C																		
	予防と健康管理・増進	頻度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる	B																		
		様々な集団や場と特有の健康問題を説明できる	B																		
		社会医学の知識を提示できる	B																		
		B: 世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる A: 世界の保健・医療課題を、疾病の発生状況、資源、制度、環境の視点から説明できる	BA																		
	EBM/臨床推論	病歴聴取	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる	B																	
			様々な集団や場と特有の健康問題を説明できる	B																	
研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる		B																			
D: 臨床推論にもとづく診断過程を説明できる C: 主要な症候をきかず病態/疾患を列挙できる		DC																			
患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる		D																			
診療の実践	身体診察	成人の身体診察を、基本的要素ことに行える	C																		
		D: 正骨所見を説明できる	DC																		
	医療安全	感染に対する標準予防策(Standard precaution)を説明できる	B																		
		C: 感染患者隔離の対応に関する法的根拠を説明できる B: 患者隔離に必要な感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	CB																		
		C: 針刺し事故、針刺し創傷等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる B: 針刺し事故、針刺し創傷等の予防および遭遇した際の対処を説明できる	CB																		
医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる	B																				
急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力にもとづくアプローチについて、説明できる	C																				
様々な制度・資源を考慮した診療	医療・福祉制度の理解と応用	病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関の役割を説明できる	C																		
		医療体制の主な構成要素(患者、多職種)にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬師)について、役割・意義を説明できる	B																		
		医療アクセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる	B																		
		医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響(特に異なる背景の患者間の格差、物・地域、年齢、医師の配置)を、説明できる	B																		

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルA=卒業時レベル)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)
国際人としての基礎	一般教養		健康/医療/歯科医療に貢献する者として必要な、幅広い教養と豊かな感性を持つ			
	国際感覚/国際的視点	国際的視野を持つ上で、実際に海外での活動(留学を含む)に参加する	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関するトピックについて精通するよう情報収集する習慣を有し、議論できる	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて、議論できる	世界的に注目されている医学/歯学/健康に関する主たるトピックについて、説明できる。	
	国際言語(英語)の運用力	海外での研究・臨床実習に参加することができる英語力を有する	医学/歯学における最新の情報を入手し、また発信できる英語力を有する	科学/医学/歯学専門用語/表現の理解/表記/発音ができる	非専門的(一般的)英語表現・英単語の表記・発音等ができる	
			医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる	基礎的および臨床的研究の倫理的事項に配慮して研究を実施できる	基礎的および臨床的研究の倫理的事項を説明できる	
医学/科学の発展への貢献	科学的探求		未解決の臨床的あるいは科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と実践を指導・監督のもとで実行することができる	臨床的あるいは科学的問題提起ができる		
			臨床や科学の興味ある領域での研究を、指導・監督のもとで実施できる	実習実験を実施して結果を得ることができる		
			自由研究で明らかになった新しい知見を、口頭および書面で明確に説明できる	実習実験により得られた結果の意義を、口頭あるいは書面で明確に説明できる		
			他者の貢献、時間、価値観、人格を尊重し、常に敬意を払って接することができる			
プロフェッショナルリズム	品位、礼儀		専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動をとることができる	専門職にある者として適切な服装、衛生管理、言葉遣い、態度、行動を説明できる		
			専門職務非遂行時においても、専門職種にふさわしい振舞いができる	専門職務非遂行時においても専門職種にふさわしい振舞いを説明できる	専門職にある者としての立場を理解している	
			患者制要素に配慮した最適なアプローチにて、常に良好な医師・患者関係を築くことができる	患者の、文化、人種、年齢、社会的経済的地位、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応が行える	患者の、文化、人種、年齢、社会的経済的地位、性別、性嗜好、信仰、障害、その他の多様性に配慮した対応を説明できる	
			患者および家族と、共感、敬意、思いやりをもって接することができる			
	専門職としての対人関係		医療における他の専門職との交流に際して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示すことができる			
			診療において、患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動をとることができる	患者や患者家族とのラポール構築のために必要な行動を説明でき、向係らに提示できる	ラポールについて説明できる	
	患者との関係、職務上の優先性		患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)における適切な距離を維持することが困難な場合があるいは維持できなかった場合に、それを認識でき、相談し、解決策や予防策を立てることができる	患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持することができる	患者との関係(情報漏洩、親密性、金品授受など)において適切な距離を維持する必要性を説明できる	
			個人の生活における義務と医学科での学習及び社会的な責務について、適切にバランスを取ることができる			

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルA=卒業時レベル)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)	
プロフェッションナリズム	患者との関係、職務上の優先性		自立と監督・指導の必要性との適切なバランスを常に保つことができる				
			臨床実習において、技能、知識、患者情報の次加を認識し、必要に応じて援助を求めることができる				
			メンタルストレスに直面した際、それを認識し、適切な解決処置をとれる	メンタルストレスやその対処法を説明できる			
			医療従事者の健康管理(予防接種を含む)を実践できる	医学生としての健康管理(予防接種を含む)の重要性を説明できる			
	自己管理		時間厳守、信頼性、適切な準備、率先性、遂行能力を示すことができる				
			文書課題を、正確で判読しうる質にて作成し、規定期限内に提出できる				
			本学を含めた当該機関内規、法律、専門職協会内規範を遵守できる				
			常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動できる	常に、誠実さ、正直さ、確実さをもって行動する必要性を理解している			
	動労習慣		他者への良識を養う振舞い(無礼、短期などを認識し、助言を求め、今後起こさぬよう振舞いを修正することができる)				
			医療過誤、患者情報収集におけるエラーや、データの誤った説明などを、指導・監督者に報告できる	情報やデータ収集におけるエラーを認識し、学習グループのメンバーや指導・監督者に報告できる			
			他人による職務上の不正を認識し、発覚やメンターや指導・監督者からの助言を得て倫理的に適切な対応を計画し、説明・遂行できる				
			患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる	守秘義務と患者プライバシーに関して説明できる			
	倫理		臨床実習において、適切なインフォームドコンセントの取得に關与することができる	模擬患者から、インフォームドコンセントを取得することができる	インフォームドコンセントの重要性およびその過程を説明できる		
			記述、プレゼンテーション、論文、および研究情報などの利用において、著作権を尊重し、それに沿って行動できる	著作権侵害にあたる行動を列挙できる			
		利益相反が生じる可能性を認識し、適切に対処できる	利益相反および回避するための行動を説明できる				
		企業とは倫理的に適切な関係を保つことができる	企業との関係における倫理的な側面につき説明できる				
		自身の知識、能力・振舞いを批判的に省察し、長所と課題点を特定し、改善のための学習目標を設定し、それを達成するのを通じた学習活動に取り組むことができる					
		自身に対するフィードバックにもとづき省察し自己改善を実現できる	フィードバックの意義を説明でき、受容できる				

大領域	小領域	細目(レベルA)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)	
プロフェッションナリズム	振返りを通した自己研鑽/生涯学習	他人に建設的なフィードバックを適切な形で提示できる				
		ポर्टフォリオを活用して、課題設定を行い、自己学習・自己研鑽できる				
		口頭および書面にて、患者に関する全ての臨床情報を統合し、わかりやすく要約することができる		書面にて、患者に関する臨床情報を統合し要約することができる		
		様々な状況において、問題解決のための適切なアプローチ法を用いて、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示でき、関連する情報にもとづきアセスメントプランを考察し提示できる		様々な状況(回診か、症例検討会か)、複雑的なプレゼンテーションが求められているのか、目的を絞ったプレゼンテーションか)に即した形式で、患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる		患者情報を系統的に、正確に、かつ論理的に提示することができる
		診療録、指示書、処方箋などの書類を、正確で読みやすく、簡潔に書けることなく作成することができる		診療録、指示書、処方箋の意義、記載内容、記載方法を説明できる		
		多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる		多職種チームのすべてのメンバーと、敬意を払って効果的な議論ができる		多職種チームでの学習の場で、敬意を払って会話し、チームに貢献し学習できる
		診療の引き継ぎ(ローテーション終了時、転科、転院等)に関して、引き継ぐ診療チームに診療提供すること、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる		診療の引き継ぎ(ローテーション終了時、転科、転院等)に関して、引き継ぐ診療チームに診療提供すること、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる		
		患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる		患者や患者家族と、誠実で、常に患者/患者家族をサポートする姿勢を保ちながら、コミュニケーションをとることができる		
		重大で繊細な難しいトピック(sexual history, 疾患名告知、退院計画議論、タミフルケアなど)について患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する		重大で繊細な難しいトピック(sexual history, 疾患名告知、退院計画議論、タミフルケアなど)について患者や患者家族との議論に、診療チームの一員として参加する		
		監督・指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列表・整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる		監督・指導のもとに、患者や患者家族に提示すべき臨床所見/情報を列表・整理し、診療計画を作成し、指導教員に説明することができる		
患者および家族とのコミュニケーション	患者および家族とのコミュニケーション	患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える条件を理解し対処できる		患者の病いの捉え方や、患者がケアにおいて最も重要だと考える条件を、患者から会話において聞き出すために効果的な技能を提示できる		
		基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に活用できる		基礎医学の知識を疾患の病因・病態・臨床徴候などの理解に必要な基礎医学知識を提示できる		
		病度の高い疾患/問題について、発症/病因/病理/病態/症候/予後の知識を診療に応用できる		病度の高い疾患/問題について、発症/病因/病理/病態/症候/予後を説明できる		
		様々な症候/問題の原因評価において、適切な評価法を選択し、所見を適切に解釈できる		病度の高い症候/問題の原因評価において、評価法についての知識(適応/合併症/限界)を応用できる	症候/問題の原因評価において用いられる評価法についての知識(適応/合併症/限界)を提示できる	
		様々な疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を診療に応用できる		病度の高い疾患に対する治療法(薬物療法、非薬物療法の双方を含む)に関する知識を提示できる		
		社会医学の知識を、医療・保健活動に応用できる		社会医学の知識を提示できる		
		世界の健康の向上および増進のため、国際機関等の活動に参加する		世界の保健・医療関連事象の推移と地域分布を説明できる		
		医学知識(基礎)				
		医学知識(臨床)				
		知識とその応用				

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルA=卒業時レベル)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)	
知識とその応用	予防と健康管理・増進	地域および行政機関等において、人々の健康の向上および増進のための活動に参加する	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を診療に応用できる	頻度の高い疾病についての予防戦略についての知識を提示できる			
		歯科医学的側面を考慮した診療ができる	住民の健康状態を把握し、その向上及び増進のために必要な医療および保健指導を説明できる	様々な集団や場々に特有の健康問題を説明できる			
	歯科医学関連知識	歯科医学的側面を考慮した診療ができる	歯科医学的側面を考慮した診療ができる	診療上必要な歯科医学の知識を提示できる	顎・口腔領域の構造と機能を説明できる		
		全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる	全身疾患と口腔疾患の関連を考慮した診療ができる	全身疾患と口腔疾患の関連を説明できる			
		臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる	臨床において、情報技術を利用し、適切な情報源/エビデンスを活用できる	情報技術を利用し、関連する情報源/エビデンスを発見できる	E-learning, blackboard, 文献検索エンジンなどを活用できる		
		臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	臨床上の問題を明確化し、解決のために最適な情報源を選定できる	臨床上の問題を明確化できる			
		臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	臨床研究の吟味において、研究デザインや統計的手法についての知識を応用できる	研究デザインや統計的手法についての知識を提示できる			
		適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	適切な用語を用いて、医学的介入の利点と欠点を説明できる	医学的介入(予防/治療)に関するエビデンス吟味に用いられる用語(NNT, NNHなど)を説明できる			
		監督・指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	監督・指導のもとで、臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	仮想症例の臨床判断に際し、関連するエビデンスの質を判断できる	入手したエビデンスのレベルを正確に説明できる	情報信頼性の信頼性および有用性について、批判的視点を待つ	
		診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる	診療ガイドラインにアクセスし、診療に活用できる	診療ガイドラインにアクセスし、仮想症例の検討に活用できる			
診療の実践	病歴聴取	適切な用語を用いて、患者の疾患可能性に最もよく診断的採量の意義を検討できる	適切な用語を用いて、患者の疾患可能性に最もよく診断的採量の意義を検討できる	診断に関するエビデンス吟味に用いられる用語(感度、特異度、尤度比など)を説明できる			
		実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切に選り、のびる個別疾患を挙げた上で、適切な診断的採量法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	実際の症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切に選り、のびる個別疾患を挙げた上で、適切な診断的採量法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	仮想症例の診断的評価に際し、臨床推論を行い、得られた情報から適切に選り、のびる個別疾患を挙げた上で、適切な診断的採量法を選定でき、適切に検査所見を解釈でき、適切な臨床診断に到達することができる	主要な症候をきたす病態/疾患を列挙できる	臨床推論にもとづく診断過程を説明できる	
	身体診察	臨床採量の学習項目に挙げられる特定の状況(例、急性疼痛、高齢、小児、術前など)に応じた病歴を聴取できる	臨床採量の学習項目に挙げられる特定の状況(例、急性疼痛、高齢、小児、術前など)に応じた病歴を聴取できる	病歴聴取において、必要に応じて、患者/家族以外の情報源(ファミリー/ケア提供者や、患者の診療に携わる他の医師/ケア提供者)も利用できる	病歴を網羅的に、系統立てて聴取し、標準書式にまとめることができる	患者から基本的情報を収集・統合し、病歴の標準書式にまとめることができる	
		救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、目的を絞った病歴聴取ができる	救急診療やコンサルテーション等に際して、臨床推論にもとづき、聴取すべき病歴要素を選定/調整し、目的を絞った病歴聴取ができる				
		身体診察を構造的に、系統立てて、適切な順序で済やかに効率的に行える	身体診察を構造的に、系統立てて、適切な順序で済やかに効率的に行える	身体診察を構造的に、系統立てて、適切な順序で行える			
		高齢者の機能評価評価を行える	高齢者の機能評価評価を行える				
		小児の成長/発達の評価を行える	小児の成長/発達の評価を行える				

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルA=卒業時レベル)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)	
診療の実践	身体診察		状況に応じた、的を絞った身体診察を、効率よく行える	臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を選定し、行える	臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を		
			診察において異常所見を認識、説明、記録でき、必要な病歴、診察を追加し、適切な鑑別疾患を列挙することができる	臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を認識し、口頭で説明し、記録できる	臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を認識し、口頭で説明し、記録できる	臨床推論にもとづき、実施すべき身体診察要素を認識し、口頭で説明し、記録できる	
	臨床手技		コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を実施できる	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を呈示できる(シミュレータ/模擬患者などで)	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技を呈示できる(シミュレータ/模擬患者などで)	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技の方法/適応/留意点を説明できる	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた臨床手技の方法/適応/留意点を説明できる
			初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、適切なプロブレムリスト構築のもと、臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	初診時診療録/入院時要約/週間要約/退院時要約を、適切なフォーマットに沿って、SOAP形式で記載できる	
	診療録記載		日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、日々の変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	日々の診療録を、適切なフォーマットに沿って、SOAP形式で記載できる	
			再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	再来受診の際の診療録を、適切なフォーマットに沿って、前回受診時からの変化、適切な優先順位に配列したプロブレムリスト、そして臨床推論をSOAP形式で反映させ、正確に記載できる	再来受診の際の診療録を、SOAP形式で記載できる	
	患者管理		鑑察・指運のもとで、急性・慢性疾患を随う患者の、外来・病棟診療での管理ができる	鑑察・指運のもとで、急性・慢性疾患を随う患者の、外来・病棟診療での管理ができる	鑑察・指運のもとで、急性・慢性疾患を随う患者の、外来・病棟診療での管理ができる		
			安全で質の高い医療の提供のために、状況に応じて指導医による鑑察・指運の必要性を適切に判断でき、求めることができる	安全で質の高い医療の提供のために、状況に応じて指導医による鑑察・指運の必要性を適切に判断でき、求めることができる	安全で質の高い医療の提供のために、状況に応じて指導医による鑑察・指運の必要性を適切に判断でき、求めることができる		
	医療安全		鑑察・指運のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理・予防計画の策定ができる	鑑察・指運のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理・予防計画の策定ができる	鑑察・指運のもとで、退院計画や患者教育を含めた疾患管理・予防計画の策定ができる		
			診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる	診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる	診療の引き継ぎに際して、情報を効果的に伝えることができる	様々なセッティングにおける診療の引き継ぎに際して、伝えるべき情報とその形を説明できる	
医療安全		感染に対する標準予防策(Standard precaution)にしたがい、清潔操作を行うことができる	感染に対する標準予防策(Standard precaution)にしたがい、清潔操作を行うことができる	感染に対する標準予防策(Standard precaution)を説明できる	感染に対する標準予防策(Standard precaution)を説明できる		
		感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる	感染患者隔離の必要な状況、および対処方法を説明できる	感染患者隔離の必要な状況につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	感染患者隔離の必要な状況につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	感染患者隔離の必要な状況につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	
医療安全		針刺し事故、針刺し切断等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる	針刺し事故、針刺し切断等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる	針刺し事故、針刺し切断等を予防でき、かつ遭遇した際に適切に対処できる	針刺し事故、針刺し切断等の予防および遭遇した際の対処を説明できる	針刺し事故、針刺し切断等による感染症感染症につき、感染経路や症候、予後、予防・治療を説明できる	
		医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる	医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる	医療機関における医療安全管理体制の在り方を説明できる	医薬品、医療機器の安全管理体制を説明できる		
様々な制度・資源を考慮した診療	医療機関内の制度・資源の理解と活用	医療機関内のインフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を活用できる	医療機関内のインフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を活用できる	医療機関内のインフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を活用できる	医療機関内のインフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を活用できる	医療機関内のインフラ(医療情報、医学情報、様々な診療部門、運営/管理業務)を活用できる	

大領域	小領域	細目(レベルS)	細目(レベルA=卒業時レベル)	細目(レベルB)	細目(レベルC)	細目(レベルD)		
様々な制度・資源を考慮した診療	医療・福祉制度の理解と応用		多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉制度を、指導/監督のもと、活用できる	多学科チームでの仮想症例を通してチーム医療学習の場で、多職種よりなるチーム医療を成立させる医療・福祉システムを活用できる。	急性期、慢性期、および長期的ケアを含む医療の向上に向けた、様々な専門分野の協力のもとづくアプローチについて、説明できる	診療チームを構成するメンバーを特定し、彼らの役割を説明できる		
			臨床実習において、指導/監督のもとで、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	仮想症例検討において、病院、診療所、福祉施設など、様々な診療提供システム・機関を活用できる	病院、診療所、福祉施設、システム・機関の役割を説明できる			
			様々な情報源(かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など)から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる	様々な情報源(かかりつけ医、家族、地域の福祉職員や、入院および外来診療録など)から関連する情報を効果的に取得し、診療に活用することができる				
			医療体制の主な構成要素の役割・意義を理解・考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	医療体制の主な構成要素(患者、多職種にわたる医療供給者、医療機関、保険者、行政、医療産業(製薬会社等)、診療報酬、薬価)について、役割・意義を説明できる	医療アセス、コスト、資源分配など、医療政策の重要な概念とそれらの関係、そして診療への影響を説明できる			
			医療保険、コスト、医療の質、そして医療アセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる	医療保険、コスト、医療の質、そして医療アセスを考慮した診療を、指導/監督のもとで実践できる				
			費用対効果研究、比較効果研究に関するエビデンスの批判的吟味ができ、診療への影響を説明できる	医療政策の有効性が吟味ができ、診療への影響を説明できる	医療制度や医療提供体制が、医療の質と量へ与える影響(特に異なる背景の患者間の格差、例：地域、年齢、医師の配置)を、説明できる	医療政策形成過程を説明できる		

# 學生周知事項

# 学生周知事項

## 1. 連絡・通知

すべての告示、通知、連絡（試験関係、休講、講義室変更、奨学金関係、健康診断、授業料の納付、呼び出し等）は、Webclass（電子掲示板）により行います。

新たに掲示があった場合はメールリングリストで周知するので、1日に1回はメールを確認するよう心がけ、見落として不利益を被らないよう十分注意してください。

## 2. 電話等による学生の呼び出し

電話等による学生の呼び出しは、緊急かつ重大な場合以外は行わないので、各関係者に説明しておいてください。

## 3. 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。

入学時に交付したものを6年間使用しますので、紛失や破損等しないよう大切に取扱ってください。

なお、学生証は、定期試験受験時や通学定期券の購入時に提示を求められたら速やかに提示できるよう、常に携帯してください。

### (1) 再交付手続

学生証を紛失または破損した場合は、学務企画課（1号館西1階）に申し出て、再交付の手続きをとってください。また、再交付の申請を行う場合は、再交付にかかる実費を徴収しますので注意してください。

### (2) 返却

卒業、退学または除籍となった場合は、直ちに学生証を学務企画課へ返却してください。なお、返却できない場合は、再交付時と同様に実費を徴収しますので注意してください。

## 4. 証明書等

証明書等は、教務課にて発行するものと、自動発行機にて発行するものがあります。

### (1) 教務課（受付時間 8:30～17:15）

次に掲げるものは、教務課で発行しますので証明書交付願を提出してください。

（交付は④を除き原則として交付願を受理した日の明後日となります。）

①成績証明書

②卒業見込証明書（第6学年在籍者のみ。）

③調査書

④英文の在学証明書（交付に1週間程度要します。）

⑤通学証明書（交通機関から請求された場合に限る。）

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入してください。

(2) 自動発行機（利用時間 8：30～18：00）

在学証明書は、学生談話室（5号館3階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（問い合わせ先）学務企画課（03-5803-5074）

## 5. 学生旅客運賃割引証（学割証）

(1) 学生が課外活動や帰省などでJR線を利用する場合、乗車区間が片道100kmを超えるときに旅客運賃の割引（2割）受けることができます。

この制度は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的とするものなので、計画的に使用すること。（年間使用限度は1人10枚、1回につき2枚までです。）

(2) 次に掲げる行為があったときは、普通運賃の2倍の追徴金を徴収されるばかりでなく、本学の全学生に対する学割証の発行が停止されることがありますので、乱用または不正使用のないよう注意してください。

①他人名義の学割証を使って乗車券を購入したとき。

②名義人が乗車券を購入し、それを他人に使用させたとき。

③使用有効期間を経過したものを使用したとき。

(3) 学割証は、学生談話室（5号館3階）に設置されている「自動発行機」にて発行します。（利用時間 8：30～21：00）

（問い合わせ先）学生支援課（03-5803-5077）

## 6. 氏名・住所等の変更

本人または正副保証人の氏名または住所等（電話番号を含む。）に変更が生じた場合は、速やかに教務課へ申し出て所定の手続きをとってください。

この手続きを怠った場合、大学から本人または保証人へ緊急に連絡する必要があるが生じて、連絡が取れなくなる恐れがあるので注意してください。

## 7. 欠席、休学、復学、退学

(1) 授業の欠席

病気または家庭の事情等で授業を欠席する（した）場合は、欠席届を教務課へ提出してください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

## (2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3ヶ月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付してください。）

なお、休学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、休学事由および休学によって生じる修学上の諸問題について十分相談してください。

また、休学を許可される期間は、通算して2年以内です。

（特別の事情があるときは、更に1年以内の休学が許可されることがあります。）

## (3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の医師の診断書を添付してください。）

## (4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を教務課へ提出し、学長の許可を受けてください。

なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談してください。

## 8. ロッカーの貸与

各人にロッカーを貸与します。（1年生は湯島キャンパスでの貸与はありません）

ロッカーでの盗難が多発していますので、貴重品等の管理は厳重にしてください。

また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状に復してください。

## 9. 授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「医学生教育研究賠償責任保険」（医学賠）の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

なお、針刺し事故（B型・C型肝炎）が起こった場合は、教務課医学教務掛（03-5803-5120）へ連絡のうえ指示を受けた後、事故報告書を提出してください。

他人に対する針刺し事故については、上記の「医学賠」保険の対象となります。

## 10. 遺失物および拾得物

学内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

（1）講義室、実習室、ロッカー室・・・学務部教務課

（03-5803-5120）

(2) 上記(1)以外・・・・・・・・・・医学部総務課

(03-5803-5096)

## 11. その他

(1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管していますので、責任者は適宜確認してください。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようにお願いします。

(2) 事務の窓口

教務事務・・・・・・・・学務部教務課医学教務掛

(1号館西1階・03-5803-5120)

授業料の納入・・・・・・・・財務部資金課収入管理掛

(1号館西3階・03-5803-5048)

奨学金・授業料免除・・学務部学生支援課学生支援総括掛

(1号館西1階・03-5803-5077)

# 東京医科歯科大学学則

平成 16 年 4 月 1 日  
規 程 第 4 号

## 第 1 章 総則

- 第 1 条 本学は、医学及び歯学の理論並びに応用を教授研究し、併せて人格の陶冶をなすものである。
- 2 各学科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、当該学科において別に定める。

第 2 条 本学に、国立大学法人東京医科歯科大学組織運営規程（平成 16 年規程第 1 号。以下「組織運営規程」という。）の定めるところにより、次の学部及び学科を置く。

医 学 部 医学科  
保健衛生学科

歯 学 部 歯学科  
口腔保健学科

- 2 医学部保健衛生学科に、看護学専攻及び検査技術学専攻を置く。
- 3 歯学部口腔保健学科に、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻を置く。
- 4 本学に、組織運営規程の定めるところにより、教養部を置く。

第 3 条 医学部医学科及び歯学部歯学科の修業年限は 6 年、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の修業年限は 4 年とする。

第 4 条 学生の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学科・専攻	入学定員	編入学定員	収容定員
医 学 部	医 学 科	100	5（2 年次編入）	625
	保健衛生学科			
	看護学専攻	55		220
	検査技術学専攻	35		140
歯 学 部	歯 学 科	53		318
	口腔保健学科			
	口腔保健衛生学専攻	22	6（3 年次編入）	100
	口腔保健工学専攻	10	5（2 年次編入）	55

## 第 2 章 授業科目

第 5 条 削除

第 6 条 本学の授業科目は、全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

- 2 全学共通科目は教養部において、専門科目は各学部において行う。
- 3 全学共通科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。
- 4 専門科目の開設授業科目及び単位数は、別に定める。

### 第3章 学年、学期及び休業日

第7条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終る。

第8条 学年を分けて、次の学期とする。

前期 4月1日から9月30日まで

後期 10月1日から翌年3月31日まで

第9条 授業を行わない日（以下「休業日」という。）は次のとおりとする。

- (1) 日曜日及び土曜日
  - (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
  - (3) 本学創立記念日 10月12日
  - (4) 春季休業 4月1日から4月7日まで
  - (5) 夏季休業 7月11日から9月10日まで
  - (6) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで
- 2 前項の規定にかかわらず学長が必要と認めるときは、休業日を変更し、又は臨時に休業日を定めることができる。

### 第4章 入学、休学、転学及び退学

第10条 入学は、学年の始めにおいてする。

第11条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者又は通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者
- (3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 文部科学大臣の指定した者
- (6) 大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）により文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者
- (7) 相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると、本学で認めた者

第12条 大学医学部医学科の卒業生で歯学部歯学科に、大学歯学部歯学科の卒業生で医学部医学科に編入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学の許可をすることがある。

第13条 大学医学部医学科の学生で医学部医学科に、大学歯学部歯学科の学生で歯学部歯学科に、大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）の学生で医学部保健衛生学科又は歯学部口腔保健学科に転入学を希望する者があるときは、欠員がある場合に限り、選考の上、相当の学年に入学を許可することがある。

第14条 医学部医学科の2年次に編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 大学を卒業した者（医学を履修する課程を卒業した者を除く。）
- (2) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者（学校教育における15年の課程を修了し、学士の学位に相当する学位を取得したと大学において認めた者を含む。）

第15条 削除

第16条 医学部保健衛生学科の2年次に編入学することができる者は、四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修しており、かつ、協定大学の学部で2年次以上在学した者で、選考の上、入学を許可する。

第17条 削除

第18条 歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の3年次編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 歯科衛生士を養成する短期大学を卒業した者
- (2) 歯科衛生士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第18条の2 歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の2年次編入学をすることができる者は、次の各号の一に該当する者で、選考の上、入学を許可する。

- (1) 高等専門学校又は短期大学を卒業した者
- (2) 大学を卒業した者
- (3) 歯科技工士を養成する専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

第19条 本学学生で退学した者が再び入学を請うときは、欠員がある場合に限り、選考の上、原学年以下に入学を許可することができる。

2 前項に規定するもののほか、第25条の規定による休学者が退学（休学期間満了のため学部を退学した者をいう。）し、本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、原学科の原学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。

3 前2項に規定するもののほか、第31条の2の規定による退学者が本学医学部医学科又は歯学部歯学科に再び入学を志願するときは、退学時の在籍学科の在籍学年以上に入学を許可する。ただし、懲戒事由等に相当する事由があると認められる志願者の入学については、選考の上許可するものとする。

第20条 編入学、転入学及び再入学により入学し、その後所定の年限在学した者は、第3条に規定する年限を在学したものとみなす。

第21条 本学に入学を志願する者は、所定の手続により、願い出なければならない。

第22条 入学志願者については、別に定めるところにより選考を行う。

第23条 前条の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、定められた期日までに宣誓簿に署名し、誓約書その他所定の書類を提出するとともに、入学料を納付するものとする。ただし、第45条の規定により入学料の免除又は徴収猶予を申請し受理された者にあつては、当該免除又は徴収猶予を許可し又は不許可とするまでの間、入学料の徴収を猶予する。

2 学長は、前項の手続を完了した者に入学を許可する。

第24条 学生は、病気その他の事由により引き続き3月以上休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第25条 本学医学部医学科又は歯学部歯学科に4年以上在学した者が引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に在学するために休学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第26条 前2条の規定による休学者で、休学期間中にその事由が消滅したときは、所定の手続きにより、復学の許可を学長に願い出ることができる。

第27条 休学期間は、通算して2年を超えることはできない。ただし、特別の事由があるときは、さらに1年以内の休学を許可することがある。

2 大学院医歯学総合研究科博士課程に在学する者の第24条の規定による休学期間及び第25条の規定による休学期間は、第1項の規定にかかわらず、通算して3年を超えることができない。ただし、特別の事由があるときは、さらに1年以内の休学を許可することができる。

3 休学した期間は、修業年限及び在学年限に算入しない。

第28条 学長は、学生が病気その他の事由により修学が不相当と認められるときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、休学を命ずることがある。

第29条 学生は、学長の許可なくして、他の大学、本学の他の学科又は専攻に入学を志願することはできない。

第30条 学生が転学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けるものとする。

2 前項の許可を与えたときは、退学とする。

第31条 学生が病気その他の事由で退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出てその許可を受けるものとする。

第31条の2 四大学連合憲章に基づく協定による複合領域コースを履修している者が協定大学に編入学するために退学しようとするときは、所定の手続きにより、学長に願い出て許可を受けなければならない。

第32条 医学部医学科及び歯学部歯学科の学生は10年を、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の学生は8年を超えて在学することができない。

2 編入学、転入学及び再入学により入学した者の在学年限は、各学部において定める。

第33条 学長は、学生が次の各号の一に該当するときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を

履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。)を経て、退学を命ずることがある。

- (1) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (2) その他病気等の事由により、成業の見込みがないと認められる者

## 第5章 履修方法及び単位等

第34条 学生が授業科目を履修し、試験に合格したときは、所定の単位を与える。

- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、その学修の成果を評価して試験によらずに単位を与えることができる。

第35条 前条に定める他、履修及び学習の評価方法については、各学部及び教養部において定める。

第36条 1単位の授業科目を、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、1単位当たりの授業時間を次の基準により、各学部及び教養部において定める。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間の範囲
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の範囲

第37条 本学の教育上有益と認めるときは、本学に入学（編入学、転入学等を除く。）する前の大学（短期大学並びに外国の大学及び短期大学を含む。）において修得した単位を合計30単位を限度として、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、第3条に定める修業年限を短縮することはできない。

- 2 前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

第38条 本学の教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学において履修した従業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 前項に係る手続き等については、各学部及び教養部において定める。

## 第6章 卒業及び学位

第39条 卒業の認定は、第3条に定める年限を在学し、かつ、第6条第3項に定める授業科目を、医学部医学科においては209単位以上、歯学部歯学科においては220単位以上、医学部保健衛生学科看護学専攻においては124単位以上、医学部保健衛生学科検査技術学専攻においては135単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻においては128単位以上、歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻においては126単位以上を修得した者に対し、当該学部教授会の議を経て学長が行う。

第40条 前条による卒業するには、次の区分により学士の学位を授与する。

学 部	学科・専攻	学 位
医 学 部	医学科 保健衛生学科	学士（医 学）

歯学部	看護学専攻	学士（看護学）
	検査技術学専攻	学士（保健学）
	歯学科	学士（歯学）
	口腔保健学科	学士（口腔保健学）

## 第7章 検定料、入学料及び授業料

第41条 授業料、入学料及び検定料の額については、別に定める。

第42条 入学志願者は、出願と同時に検定料を納付しなければならない。

第43条 授業料は、次の2期に分けて納付しなければならない。

前期 4月中  
後期 10月中

- 2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。
- 3 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第1項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。
- 4 第1項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（医学部掲示板・歯学部掲示板・教養部掲示板）に掲示するものとする。

第44条 既納料金は、如何なる理由があっても返還しない。

- 2 第42条の規定に基づき徴収した検定料について、第1段階目の選抜で不合格となった者から返還の申出があったときは、前項の規定にかかわらず、第2段階目の選抜に係る額に相当する額を返還する。
- 3 前条第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、第1項の規定にかかわらず、納付した者の申出により当該授業料に相当する額を返還する。
- 4 前条第2項及び第3項の規定に基づき授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期以前に休学又は退学した場合には、第1項の規定にかかわらず、後期分の授業料に相当する額を返還する。

第45条 本学に入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、入学料の納付が著しく困難であると認められる者及び当該者に準ずる者であって、学長が相当と認める事由がある者については、本人の申請により、入学料の全額又は半額を免除することができる。

- 2 本学に入学者であって、経済的理由によって納付期限までに入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者、入学前1年以内において学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに入学料の納付が困難であると認められる者及びその他やむを得ない事情があると認められる者については、本人の申請により、入学料の徴収猶予をすることがある。
- 3 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者のう

ち、前項該当する者は、免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に徴収猶予の申請をすることができる。

4 前3項の取扱いについては、別に定める。

第46条 停学に処せられた者の授業料は徴収するものとする。

第47条 行方不明、その他やむを得ない事情がある者の授業料は本人又は保証人の申請により徴収を猶予することができる。

第48条 死亡又は行方不明のため除籍され、或は授業料の未納を理由として退学を命ぜられた者の未納の授業料は全額を免除することができる。

第49条 毎学期開始前に休学の許可を受けた者及び休学中に休学延期の許可を受けた者の休学中の授業料は免除する。ただし、各学期の途中で休学の許可を受けた者の授業料は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までに相当する額を免除する。

2 各学期の途中で復学する者のその期の授業料は、復学当月から次の授業料徴収期の前月まで月割計算により復学の際徴収する。

第50条 経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者及び学生又は学生の学資負担者が風水害等の災害を受け、授業料の納付が困難と認められる者については、本人の申請により授業料の全額若しくはその一部を免除又は徴収猶予することができる。

2 前項の取扱いについては別に定める。

第51条 入学料の免除の申請をした者で、免除を許可されなかった者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学料を免除の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。ただし、第45条第3項の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。

2 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可されなかった者が、納付すべき入学料を徴収猶予不許可を告知した日から起算して14日以内に納付しない場合は、除籍する。

3 入学料の徴収猶予の申請をした者で、徴収猶予を許可された者が、納付期限までに入学料を納付しない場合は、除籍する。

第52条 授業料を所定の期間内に納付しない者で、督促を受け、なおかつ怠る者は退学を命ずる。

2 前項の督促は文書をもってするものとする。

## 第8章 大学院

第53条 本学に、組織運営規程の定めるところにより、大学院を置く。

2 大学院の学則は、別に定める。

## 第9章 外国人留学生

第54条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、本学の教育研究に支障のない場合に限り、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

2 外国人留学生については、別に定める。

## 第10章 科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生

第55条 本学の学生以外の者で、本学が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、選考の上、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 前項により入学した者には、第34条の規定を準用し、単位を与える。

3 その他科目等履修生については、別に定める。

第56条 特定の授業科目について聴講を志願する者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生については、別に定める。

第57条 他の大学の学部学生で、当該大学との協定に基づき、本学が開設する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、選考の上、特別聴講学生として入学を許可する。

2 特別聴講学生については、別に定める。

## 第11章 懲戒

第58条 学長は、学生が本学の諸規則に違反し、その他学生の本分に反する行為をしたときは、当該学部教授会の議（全学共通科目を履修している学生については、教養部長から当該学部長への通知による。）を経て、これを懲戒する。

2 懲戒は、退学、停学、訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り成業の見込みがないと認められる者

(3) 学内の秩序を著しく乱し、その他学生の本分に著しく反した者

## 第12章 専攻生

第59条 本学教員の指導を受け特に専門学科目（附置研究所及び医歯学研究支援センターにおいては、特定の研究題目）につき研究しようとする者は、選考の上、医学部、歯学部、附置研究所又は医歯学研究支援センター専攻生として入学を許可することがある。

第60条 専攻生を志願することのできる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。

医学部医学科専攻生

(1) 大学医学部において医学を履修し卒業した者

(2) 旧専門学校令による医学専門学校を卒業した者

(3) 大学歯学部において歯学を履修し卒業した者又は旧専門学校令による歯科医学専門学校を卒業した者

(4) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

医学部保健衛生学科専攻生

(1) 大学を卒業した者

(2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

歯学部歯学科専攻生

(1) 大学歯学部において歯学を履修し卒業した者

(2) 旧専門学校令による歯科医学専門学校を卒業した者

(3) 大学医学部において医学を履修し卒業した者又は旧専門学校令による医学専門学校を卒業した者

(4) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

歯学部口腔保健学科専攻生

(1) 大学を卒業した者

(2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

附置研究所専攻生又は医歯学研究支援センター専攻生

(1) 大学を卒業した者

(2) その他、上記の者と同等以上の学力があると認められる者

第61条 専攻生を志願する者は、所定の願書を指導教員を経て学長に願出するものとする。

第62条 専攻生を志願する者は、出願と同時に、別に定める額の検定料を納付しなければならない。

第63条 専攻生の選考に合格した者は、所定の期日までに、別に定める額の入学料を納付しなければならない。

第64条 専攻生の入学許可は各学期の始めとする。

第65条 専攻生は、別に定める額の授業料を次の2期に分けてそれぞれ6月分を納付しなければならない。ただし、特別の事由がある場合には、3月分ごとに分納することができる。

前期 4月中

後期 10月中

2 入学年度の前期に係る授業料については、前項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

3 第1項の授業料納入の告知・督促は、所定の場所（医学部掲示板・歯学部掲示板・生体材料工学研究所掲示板・難治疾患研究所掲示板・難治疾患研究所湯島地区掲示板・学内共同教育研究施設掲示板）に掲示するものとする。

第66条 専攻生の研究期間は1年とする。

2 専攻生で、前項の在学期間を超えて引続き在学しようとする者は、指導教員を経て学長に願出、その許可を受けなければならない。

第67条 専攻生の研究時数は週30時以上とする。

第68条 専攻生は、研究終了の際その研究成績を指導教員を経て長に報告するものとする。

第69条 専攻生で研究の実が挙げないと認めるときは退学を命ずることがある。

第70条 専攻生には本章のほかすべて学部学生の学則を準用する。

### 第13章 寄 宿 舎

第71条 本学に寄宿舍を置く。

2 寄宿舍に関する規定は、別に定める。

### 附 則

1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。

- 2 第4条の規定にかかわらず、歯学部口腔保健学科の平成16年度から平成18年度までの3年次編入学員及び収容定員は、次のとおりとする。

区分	年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
	3年次編入学定員	—	—	10
収容定員		25	50	85

- 3 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学び編入学する者の教育課程の履修については、この学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 4 この学則の施行前に廃止前の東京医科歯科大学学則（昭和27年学規第1号）の規定によりなされた手続その他の行為は、この学則の相当規定によりなされた手続その他の行為とみなす。

附 則（平成17年3月23日規程第2号）

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 平成17年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成17年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成18年3月28日規程第1号）

- この学則は平成18年4月1日から施行する。
- 平成18年3月31日において現に本学に在学する者（以下在学者という。）及び平成18年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の第39条、別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による

附 則（平成19年3月29日規程第3号）

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 平成19年3月31日において現に本学に在学する者（平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び平成19年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成20年1月16日規程第1号）

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科及び歯学部口腔保健学科の平成20年度から平成22年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科・専攻	収容定員		
	平成20年度	平成21年度	平成22年度
医学部保健衛生学科			
看護学専攻	215	210	215
検査技術学専攻	135	130	135
歯学部口腔保健学科	118	116	118

附 則（平成20年3月26日規程第5号）

- この学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成20年4月1日において現に本学に在学する者（平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。）及び20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年1月8日規程第1号）

- この学則は、平成21年4月1日から施行する。

- 2 この学則改正前に、本学に4年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、平成21年4月1日より休学を願い出ている者については、改正後の東京医科歯科大学学則第25条の2の規程を適用する
- 3 この学則の施行の際限に本学に4年以上在学し、引き続き大学院医歯学総合研究科博士課程に入学するため、退学した者が再び入学を志願する場合の取扱いは、なお従前の例による。
- 4 平成21年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月19日規程第3号）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成21年度から平成25年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収容定員				
	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医学部医学科	480	490	500	510	520

- 3 平成21年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成21年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表（1）及び別表（2）の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、平成21年4月1日以降に歯学部口腔保健学科に3年次編入学する者については、改正後の別表（2）の規定を適用する。

附 則（平成21年12月18日規程第9号）

この規程は、平成22年1月1日から施行する。

附 則（平成22年3月30日規程第3号）

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成22年度から平成26年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科	収容定員				
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学部医学科	500	520	540	560	580

- 3 平成22年3月31日において現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成23年3月4日規程第1号）

- 1 この学則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成23年度から平成27年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度 区分	収容定員				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
収容定員	525	550	575	600	615

- 3 改正後の第4条の規定にかかわらず、歯学部歯学科の平成23年度から平成27年度までの収容定員は、次のとおりとする。

年度 区分	収容定員				
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
収容定員	358	346	334	322	320

4 改正後の第4条の規定にかかわらず、歯学部口腔保健学科の平成23年度から平成25年度までの収容定員は、次のとおりとする。

	区分	年度		
		平成23年度	平成24年度	平成25年度
口腔保健衛生学専攻	収容定員	115	110	105
口腔保健工学専攻	2年次編入定員		5	5
	収容定員	10	25	40

附 則（平成23年6月30日規程第6号）

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年3月31日規程第3号）

1 この学則は、平成24年4月1日から施行する。

2 改正後の第4条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成24年度から平成27年度までの編入学定員等は、次のとおりとする。

区分	年度			
	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
編入学定員	5（2年次編入） 5（3年次編入）	5（2年次編入）	5（2年次編入）	5（2年次編入）
収容定員	555	580	605	620

3 平成24年度においては、改正後の第14条の「2年次」は「3年次及び2年次」と読み替えるものとする。

## 東京医科歯科大学医学部履修規則

〔平成16年 4月 1日〕  
規則第201号

## (趣旨)

第1条 東京医科歯科大学医学部における授業の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほかこの規則の定めるところによる。

## (授業科目)

第2条 本学部の授業科目は、学則第6条第1項に定める全学に共通する教育科目（以下「全学共通科目」という。）と専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）とする。

## (全学共通科目の履修)

第3条 全学共通科目の履修については、東京医科歯科大学教養部履修規則（平成16年規則第217号）の定めるところによるものとする。

## (専門科目の履修)

第4条 専門科目の履修については、別表1に定める教育課程によるものとする。

## (専門科目の履修要件)

第5条 全学共通科目を修了しなければ、専門科目を履修することができない。ただし、医学科を除く。

## (授業の方法)

第6条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修又は選択必修とする。

## (1単位当たりの授業時間)

第7条 学則第34条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

## (1)医学科

ア 講義及び演習	22時間
イ 実習	45時間

## (2)保健衛生学科

ア 講義	15時間
イ 演習	30時間
ウ 実習	45時間

## エ 臨地実習

看護学専攻 45時間

検査技術学専攻 30時間

(編入学者、転入学者の単位認定)

第8条 学則第12条から第16条までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び本学部専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については本学部において行うものとする。

3 入学を許可する学年及び履修方法等については、教養部と協議するものとする。

(再入学)

第9条 学則第19条第1項に規定する再入学は、本学部を退学した者が再度、原学科の原学年以下に入学することとする。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第10条 学則第12条から第16条まで及び第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可された学年までの経過学年数を減じた年数とする。

(試験)

第11条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、実験・実習を伴う授業科目及び試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 試験方法及び学習の評価等については、教授会の議を経て別に定める。

(進級等要件)

第12条 学生は、別表2に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学科にあつては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずることがある。

(卒業単位認定)

第13条 卒業に要する単位の認定については、教授会の議を経て、医学部長がこれを行う。

(補則)

第14条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は教授会の議を経て別に定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの(以下「在学者」という。)及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者の教育課程の履修については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則(平成18年3月31日規則第9号)

この規則は、平成18年4月1日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

#### 附 則(平成19年3月31日規則第16号)

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 平成19年3月31日において現に本学に在学する者(平成18年度に入学した者を除く。以下「在学者」という。)及び平成19年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1(2)及び(3)の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則(平成20年3月31日規則第7号)

- 1 この規則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 平成20年3月31日において現に本学に在学する者(以下「在学者」という。)及び平成20年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表1・別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。

## 別表1

## (1)医学科教育課程

授 業 科 目	単位数	履 修 学 年					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
多様な医師像	1.0	○	○				
医学の展望		○	○				
国際医療	1.0	○					
医の原則	2.0	○					
腫瘍学(基礎)	1.0			○			
神経科学	7.5			○	○		
神経科学実習	0.5			○			
免疫Ⅰ	1.0		○				
免疫Ⅱ	1.0		○				
感染	3.0			○			
感染系実習	1.0			○			
循環器学	2.5			○			
消化器	2.5				○		
呼吸器	1.5			○			
腎・体液制御	1.5			○			
生殖・発達・加齢	1.5			○			
代謝内分泌	1.0			○			
血液	1.0				○		
社会医学	1.5			○			
人体構造総論	1.0	○					
細胞の構造Ⅰ	1.0	○					
細胞の構造Ⅱ	1.0		○				
細胞の機能	1.0		○				
人体発生学	0.5		○				
人体解剖学	1.5			○			
人体解剖学実習	3.0			○			
臨床解剖学	1.0					○	
組織学	1.0			○			
組織学実習	1.0			○			
生理学	1.5			○			
生理学実習	1.0			○			

生 化 学	1.0			○			
生 化 学 実 習	1.0			○			
薬 理 学	1.0			○			
薬 理 学 実 習	1.0			○			
病 理 学 総 論	1.0			○			
病 理 学 実 習	2.0				○		
C P E	1.0					○	
衛 生 学	1.0			○			
衛 生 学 実 習	0.5			○			
公 衆 衛 生 学	0.5				○		
公 衆 衛 生 学 実 習	1.0				○		
医 動 物 学	1.0			○			
医 動 物 学 実 習	0.5			○			
法 医 学	1.0			○			
法 医 学 実 習	0.5			○			
医 事 法 学	0.5			○			
老 年 病 学	0.5				○		
膠 原 病 ・ リ ウ マ チ 学	0.5			○			
小 児 科 学	1.0			○			
神 經 精 神 医 学	1.0				○		
外 科 学	1.0				○		
整 形 外 科 学	1.5				○		
皮 膚 科 学	1.5				○		
泌 尿 器 科 学	1.0				○		
眼 科 学	1.0				○		
耳 鼻 咽 喉 科 学	1.0				○		
放 射 線 医 学	1.0				○		
産 科 ・ 婦 人 科 学	1.0				○		
麻 酔 ・ 蘇 生 学	1.0				○		
臨 床 実 習 I	13.0					○	
臨 床 実 習 II	16.0					○	
臨 床 実 習 III	15.5					○	○
口 腔 外 科 学	0.5				○		
先 端 医 学	1.0					○	
遺 伝 子 と 生 命	1.0	○					
メディカルインフォマティクス(MI)	2.0		○				

統 計		○					
医 学 英 語 I	1.0	○	○				
医 学 英 語 II	2.0			○	○		
救 命 救 急 医 学	1.0				○		
形 成 外 科 学	0.5				○		
頭 頸 部 外 科 学	0.5				○		
心 療・ターミナル医学	0.5				○		
基 礎 臨 床 総 合 講 義	0.5					○	
臨 床 関 連 講 義	1.0			○	○	○	
臨 床 検 査 医 学	0.5				○		
自 由 選 択 学 習	8.5				○		
計	139.0						

注)すべて必修科目とする。

## 別表2 医学部進級等要件

### 1 医学科

(1) 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することができない。

多様な医師像、医学の展望、国際医療、医の原則、腫瘍学(基礎)、神経科学実習、免疫Ⅰ、免疫Ⅱ、感染、感染系実習、循環器学、呼吸器、腎・体液制御、生殖・発達・加齢、代謝内分泌、社会医学、人体構造総論、細胞の構造Ⅰ、細胞の構造Ⅱ、細胞の機能、人体発生学、人体解剖学、人体解剖学実習、組織学、組織学実習、生理学、生理学実習、生化学、生化学実習、薬理学、薬理学実習、病理学総論、衛生学、衛生学実習、医動物学、医動物学実習、法医学、法医学実習、医事法学、膠原病・リウマチ学、小児科学、遺伝子と生命、メディカルインフォマティクス(MI)、統計、医学英語Ⅰ

(2) 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第5学年に進級することができない。

神経科学、消化器、血液、病理学実習、公衆衛生学、公衆衛生学実習、老年病学、神経精神医学、外科学、整形外科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科・婦人科学、麻酔・蘇生学、口腔外科学、医学英語Ⅱ、救命救急医学、形成外科学、頭頸部外科学、心療・ターミナル医学、臨床検査医学、自由選択学習

(3) 共用試験(コンピュータ活用試験(CBT)、客観的臨床能力試験(OSCE))に合格しなければ、臨床実習Ⅲを履修することができない。

### 2 保健衛生学科(看護学専攻及び検査技術学専攻)

(1) 第2学年の必修科目(実習科目を除く。)のうち、単位未修得の科目が4科目以上ある又は第2学年の必修科目となっている実習科目に単位未修得の科目があるときは、原則として、第3学年に進級することができない。

(2) 第2学年及び第3学年の必修科目の単位を全て修得しなければ、第4学年に進級することはできない

## 東京医科歯科大学学部専門科目履修規則

平成22年3月30日  
規則第41号

(趣旨)

第1条 東京医科歯科大学における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(専門科目の履修)

第2条 専門科目の履修については、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て別表1に定めるとおりとする。

(授業)

第3条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

(1単位当たりの授業時間)

第4条 学則第36条に定める1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- |        |      |
|--------|------|
| (1) 講義 | 15時間 |
| (2) 演習 | 30時間 |
| (3) 実習 | 45時間 |

2 前項第3号の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科の臨地実習の1単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- |             |      |
|-------------|------|
| (1) 看護学専攻   | 45時間 |
| (2) 検査技術学専攻 | 30時間 |

(編入学者、転入学者の単位認定)

第5条 学則第12条から第18条の2までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部（以下「在籍学部」という。）におい

て行うものとする。

3 在籍学部は、入学を許可する学年及び履修方法等について、教養部と協議するものとする。

(再入学の単位認定)

第6条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

(編入学者、転入学者、再入学者の在学年限)

第7条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可されたまでの経過学年数を減じた年数とする。

(試験及び単位)

第8条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を修得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を修得することができない。

5 学習の評価は、別表2のとおりとする。

6 単位の認定は、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て当該学部長がこれを行う。

7 試験の方法に関しては別に定める。

(進級要件)

第9条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずる。

(卒業認定)

第10条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第11条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

#### 附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年規則第201号）は、廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成16年規則第213号）は、廃止する。
- 4 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。
- 5 平成22年3月31日において現に歯学部在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

#### 附 則（平成23年3月4日規則第15号）

- 1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 平成23年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

#### 附 則（平成24年2月3日規則第19号）

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 平成24年3月31日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成24年4月1日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1

## (1)医学科教育課程

授 業 科 目	単位数	履 修 学 年					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年
多様な医師像	1.0	○	○				
医学の展望		○	○				
国際医療	1.0	○					
医の原則	2.0	○					
腫瘍学(基礎)	1.0			○			
神経科学	7.5			○	○		
神経科学実習	0.5			○			
免疫 I	1.0		○				
免疫 II	1.0		○				
感 染	3.0			○			
感染系実習	1.0			○			
循環器学	2.5			○			
消化器	2.5				○		
呼吸器	1.5			○			
腎・体液制御	1.5			○			
生殖・発達・加齢	1.5			○			
代謝内分泌	1.0			○			
血液	1.0				○		
社会医学	1.5			○			
人体構造総論	1.0	○					
細胞の構造 I	1.0	○					
細胞の構造 II	1.0		○				
細胞の機能	1.0		○				
人体発生学	0.5		○				
人体解剖学	1.5			○			
人体解剖学実習	3.0			○			
臨床解剖学	1.0					○	
組 織 学	1.0			○			
組織学実習	1.0			○			
生 理 学	1.5			○			
生理学実習	1.0			○			

生 化 学	1.0			○			
生 化 学 実 習	1.0			○			
薬 理 学	1.0			○			
薬 理 学 実 習	1.0			○			
病 理 学 総 論	1.0			○			
病 理 学 実 習	2.0				○		
C P E	1.0					○	
衛 生 学	1.0			○			
衛 生 学 実 習	0.5			○			
公 衆 衛 生 学	0.5				○		
公 衆 衛 生 学 実 習	1.0				○		
医 動 物 学	1.0			○			
医 動 物 学 実 習	0.5			○			
法 医 学	1.0			○			
法 医 学 実 習	0.5			○			
医 事 法 学	0.5			○			
老 年 病 学	0.5				○		
膠 原 病 ・ リ ウ マ チ 学	0.5			○			
小 児 科 学	1.0			○			
神 経 精 神 医 学	1.0				○		
外 科 学	1.0				○		
整 形 外 科 学	1.5				○		
皮 膚 科 学	1.5				○		
泌 尿 器 科 学	1.0				○		
眼 科 学	1.0				○		
耳 鼻 咽 喉 科 学	1.0				○		
放 射 線 医 学	1.0				○		
産 科 ・ 婦 人 科 学	1.0				○		
麻 酔 ・ 蘇 生 学	1.0				○		
臨 床 実 習 I	13.0					○	
臨 床 実 習 II	16.0					○	
臨 床 実 習 III	15.5					○	○
口 腔 外 科 学	0.5				○		
先 端 医 学	1.0					○	
遺 伝 子 と 生 命	1.0	○					
メディカルインフォマティクス(MI)	2.0		○				

統 計		○					
医 学 英 語 I	1.0	○	○				
医 学 英 語 II	2.0			○	○		
救 命 救 急 医 学	1.0				○		
形 成 外 科 学	0.5				○		
頭 頸 部 外 科 学	0.5				○		
心 療・ターミナル医学	0.5				○		
基 礎 臨 床 総 合 講 義	0.5					○	
臨 床 関 連 講 義	1.0			○	○	○	
臨 床 検 査 医 学	0.5				○		
自 由 選 択 学 習	8.5				○		
計	139.0						

注)すべて必修科目とする。

## 別表2 医学部進級等要件

### 1 医学科

(1) 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することができない。

多様な医師像、医学の展望、国際医療、医の原則、腫瘍学(基礎)、神経科学実習、免疫Ⅰ、免疫Ⅱ、感染、感染系実習、循環器学、呼吸器、腎・体液制御、生殖・発達・加齢、代謝内分泌、社会医学、人体構造総論、細胞の構造Ⅰ、細胞の構造Ⅱ、細胞の機能、人体発生学、人体解剖学、人体解剖学実習、組織学、組織学実習、生理学、生理学実習、生化学、生化学実習、薬理学、薬理学実習、病理学総論、衛生学、衛生学実習、医動物学、医動物学実習、法医学、法医学実習、医事法学、膠原病・リウマチ学、小児科学、遺伝子と生命、メディカルインフォマティクス(MI)、統計、医学英語Ⅰ

(2) 次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第5学年に進級することができない。

神経科学、消化器、血液、病理学実習、公衆衛生学、公衆衛生学実習、老年病学、神経精神医学、外科学、整形外科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科・婦人科学、麻酔・蘇生学、口腔外科学、医学英語Ⅱ、救命救急医学、形成外科学、頭頸部外科学、心療・ターミナル医学、臨床検査医学、自由選択学習

(3) 共用試験(コンピュータ活用試験(CBT)、客観的臨床能力試験(OSCE))に合格しなければ、臨床実習Ⅲを履修することができない。

### 2 保健衛生学科(看護学専攻及び検査技術学専攻)

(1) 第2学年の必修科目(実習科目を除く。)のうち、単位未修得の科目が4科目以上ある又は第2学年の必修科目となっている実習科目に単位未修得の科目があるときは、原則として、第3学年に進級することができない。

(2) 第2学年及び第3学年の必修科目の単位を全て修得しなければ、第4学年に進級することはできない

別表 1

## (1) 医学科教育課程

授業科目	単位数		履修学年					
	必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年	6年
医学導入	6.5		○					
人体構造総論	1.5			○				
細胞生物学	1.0			○				
神経生理導入	1.0			○				
生理学	3.0			○				
医歯学基盤教育 (生命倫理 I)	7.0			○	○			
医歯学基盤教育 (臨床統計 I)				○				
医歯学基盤教育 (加齢・ミニマクソロジー I)				○				
医歯学基盤教育 (生命倫理 II)							○	
医歯学基盤教育 (臨床統計 II)							○	
医歯学基盤教育 (加齢・ミニマクソロジー II)							○	
医歯学基盤教育 (臨床統計 III)								○
医歯学基盤教育 (加齢・ミニマクソロジー III)								○
組織学			2.5			○		
人体解剖学	4.5			○				
頭頸部・基礎	4.0			○				
薬理学	2.5			○				
生化学	2.5			○				
分子遺伝学	1.0			○				
神経解剖学	3.0			○				
免疫学	2.0			○				
神経科学・基礎	3.5			○				
感染・基礎	2.5			○				
東洋医学	1.0			○	○			
病理学	1.0			○				
医動物学	2.0			○				
腫瘍学	1.0				○			
法医学	1.5				○			
社会医学	1.5				○			
衛生学	1.5				○			
公衆衛生学	2.0				○	○		
臨床医学導入	1.0				○			
循環器	3.0				○			
呼吸器	2.0				○			
消化器	3.0				○			
体液制御・泌尿器	3.0				○			
内分泌・代謝	2.0				○			
血液・腫瘍	2.0				○			
一般外科	1.0				○			
神経科学・臨床	4.0				○			
骨・関節・脊椎	2.0				○			
皮膚・アレルギー・膠原病	2.0				○			
感染・臨床	1.0				○			
頭頸部・臨床	4.0				○			

老年医学	2.0				○			
生殖・発達	4.0					○		
救急・麻酔	2.0					○		
自由選択学習	12.0					○		
臨床導入実習	8.0					○		
臨床実習	49.5						○	○
包括医療統合教育	2.0							○
研究実践プログラム		10.0		○	○	○	○	○
地域医療学習プログラム		1.0	○	○	○	○	○	○
計	169	11						

別表 2

成績区分	評価区分	単位認定
100～90点	秀	合格
89～80点	優	
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

## 別表3

## (1) 医学科

<p>(1) 第1学年の末までに次の授業科目の単位を修得しなければ、第2学年に進級することができない。</p> <p>医学導入</p>
<p>(2) 第2学年の末までに次の授業科目に合格しなければ、第3学年に進級することができない。</p> <p>医歯学基盤教育（グローバル・コミュニケーションⅠ）、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅰ）</p>
<p>(3) 第2学年の末までに次の授業科目の単位を全て修得しなければ、第3学年に進級することができない。</p> <p>腫瘍学、神経科学・基礎、神経解剖学、免疫学、感染・基礎、細胞生物学、人体構造総論、人体解剖学、組織学、頭頸部・基礎、神経生理導入、生理学、生化学、薬理学、病理学、医動物学、分子遺伝学</p>
<p>(4) 第3学年の末までに次の授業科目に合格しなければ、第4学年に進級することができない。</p> <p>医歯学基盤教育（グローバル・コミュニケーションⅡ）、医歯学基盤教育（臨床統計Ⅱ）、医歯学基盤教育（生命倫理Ⅰ）、公衆衛生学（講義）</p>
<p>(5) 第3学年の末までに次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第4学年に進級することができない。</p> <p>神経科学・臨床、感染・臨床、循環器、消化器、呼吸器、体液制御・泌尿器、内分泌・代謝、血液・腫瘍、社会医学、頭頸部・臨床、衛生学、法医学、老年医学、皮膚・アレルギー・膠原病、一般外科、骨・関節・脊椎、東洋医学、臨床医学導入</p>
<p>(6) 第4学年の末までに次の授業科目の単位をすべて修得しなければ、第5学年に進級することができない。</p> <p>医歯学基盤教育、生殖・発達、公衆衛生学、救急・麻酔、臨床導入実習、自由選択学習</p>

(7) 共用試験〔コンピュータ活用試験（CBT）、客観的臨床能力試験（OSCE）〕に合格しなければ、臨床実習を履修することができない。

注1：医歯学基盤教育はグローバル・コミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲ、臨床統計Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、生命倫理Ⅰ、Ⅱから成り立っており、全ての授業科目に合格しなければ、単位を修得することができない。

注2：公衆衛生学は講義（第3学年）と実習（第4学年）に合格しなければ、単位を修得することができない。

## 東京医科歯科大学医学部医学科専門科目履修内規

平成23年2月2日  
医学部長制定

## (趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。）第14条に基づき、医学部医学科における専門に関する教育科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

## (学習の評価)

第2条 卒業試験、科目試験及び追試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、履修規則別表2のとおり学習の評価を行う。

- 2 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。
- 3 第1項及び前項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。
- 4 共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

## (仮進級)

第3条 科目試験の不合格者については、特別な事情がある場合に限り、医学科教育委員会において協議し、仮進級を認めることができる。

- 2 仮進級者は、翌年度、速やかに同科目の単位認定を受けなければならない。

## (G P)

第4条 G Pで成績を評価する場合は次のとおりとする。

成績評価	秀	優	良	可	不可
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0
100点方式との対応	90以上	89~80	79~70	69~60	59以下

- 2 選択科目は、G P A (Grade Point Average) の計算式には算入しない。

## 附 則

- 1 この内規は、平成23年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

# 東京医科歯科大学医学部試験規則 平成21年度以前入学者用

平成16年4月1日制定

## (趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学医学部履修規則（平成16年制定。以下「履修規則」という。）第11条第3項に基づき、医学部における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の試験に関し、必要な事項を定める。

## (試験の種類)

第2条 試験は、定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験とする。

## (試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口頭試験、実地試験のいずれかによって行う。

## (定期試験)

第4条 定期試験とは、履修した授業科目について、定期に行う試験をいう。

- 2 定期試験は、当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。
- 3 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。
- 4 定期試験を受験することのできる者は、次のとおりとする。
  - (1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者
  - (2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者
  - (3) 医学科第6学年の定期試験は、次の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が60点以上の者  
臨床解剖学、臨床実習関連講義、CPE、先端医学、基礎臨床総合講義
- 5 試験の結果は、合否をもって公示する。

## (科目試験)

第5条 科目試験とは、原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい、試験の実施日時は、当該年度の授業時間割に明記し、受験資格並びに試験の結果は、前条第4項第1号、第2号及び第5項のとおりとする。

## (共用試験)

- 第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（以下「CBT」という。）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（以下「OSCE」という。）をいい、当分の間医学科において行う。
- 2 CBTは第4学年の前期末、OSCEは第5学年の臨床実習Ⅰ終了後に行う。
  - 3 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。
  - 4 共用試験を受験することのできる者は次のとおりとする。
    - (1) CBT 第4学年に在学する者
    - (2) OSCE 臨床実習Ⅰを終了した者
  - 5 試験の結果は、合否をもって公示する。

## (追試験)

- 第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により定期試験、科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して、受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。
- 2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、当該定期試験等終了後5日以内に医学部長に願い出て、許可を受けなければならない。
  - 3 医学部長は、前項の申請について担当教員と協議のうえ、その可否を決定し、申請者に通知するものとする。
  - 4 試験の結果は、合否をもって公示する。

(再試験)

第8条 再試験とは、定期試験等を受験し、不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し、当該授業科目又は共用試験について、改めて行う試験をいう。

2 再試験の時期は、次のとおりとする。

(1) 医 学 科 定期試験 第6学年の学年末

科目試験 原則として第3学年は学年末、第4学年は12月

共用試験 CBTは第4学年の12月、OSCEは第5学年の夏季休業中

(2) 保健衛生学科 原則として、次の定期試験期間及び第4学年の学年末

3 再試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により試験期日の7日前までに医学部長に願い出なければならない。

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(学習の評価)

第9条 定期試験、科目試験及び追試験並びに履修規則第11条第1項ただし書きによる成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、次のとおり学習の評価を行う。

成績区分	評価区分	単位認定
100～80点	優	合格
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

2 再試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし、成績は、60点を上限とする。

3 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。

4 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。

5 共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

(成績の報告)

第10条 担当教員は、定期試験、科目試験、追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長は、共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第11条 試験において、不正行為があったときは、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成16年4月1日から施行する。

2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この規則の規定にかかわらずなお従前の例による。

平成16年4月1日  
規則第202号

(趣旨)

第1条 この規則は、東京医科歯科大学学部専門科目履修規則(平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。)第11条第8項の規定に基づき、医学部における専門に関する教育科目(以下「専門科目」という。)の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(試験の種類)

第2条 試験は、定期試験、科目試験、共用試験、追試験及び再試験とする。

(試験の方法)

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験、実地試験のいずれかによって行う。

(定期試験)

第4条 定期試験とは、履修した授業科目について、定期に行う試験をいう。

2 定期試験は当該授業科目の授業が終了した学期末に行う。

3 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 定期試験を受験することのできる者は次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

(3) 医学科第6学年の定期試験は、次の授業科目の単位をすべて取得し、かつ、臨床実習Ⅱ及び臨床実習Ⅲの実習評価が60点以上の者

臨床解剖学、臨床関連講義、CPE、先端医学、基礎臨床総合講義

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

(科目試験)

第5条 科目試験とは、原則として履修した授業科目の最終日に行う試験をいい、試験の実施日時は、当該年度の授業時間割に明記し、受験資格並びに試験の結果は、前条第4項第1号及び第2号並びに第5項のとおりとする。

(共用試験)

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験(以下「CBT」という。)及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験(以下「OSCE」という。)をいい、当分の間、医学科において行う。

2 共用試験は第5学年の臨床実習Ⅰ終了後に行う。

3 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

4 共用試験を受験することのできる者は臨床実習Ⅰを終了した者とする。

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

#### (追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により定期試験、科目試験又は共用試験（以下「定期試験等」という。）を受験できなかった者に対して、受験できなかった授業科目又は共用試験について行う試験をいう。

- 2 追試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、当該定期試験等終了後5日以内に医学部長に願い出て、許可を受けなければならない。
- 3 医学部長は前項の申請について、担当教員と協議のうえ、その可否を決定し、申請者に通知するものとする。
- 4 試験の結果は、合否をもって公示する。

#### (再試験)

第8条 再試験とは、定期試験等を受験し、不合格となった授業科目がある者又は共用試験が不合格となった者に対し、当該授業科目又は共用試験について、改めて行う試験をいう。

- 2 再試験の時期は、次のとおりとする。
  - (1) 医学科 定期試験 第6学年の学年末  
科目試験 原則として第3学年は学年末、第4学年は12月  
共用試験 第5学年の9月末日まで
  - (2) 保健衛生学科 原則として次回の定期試験期間及び第4学年の年度末
- 3 再試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。
- 4 再試験を受験しようとする者は、所定の受験申請書により試験期日の7日前までに医学部長に願い出なければならない。
- 5 試験の結果は、合否をもって公示する。

#### (学習の評価)

第9条 定期試験、科目試験及び追試験並びに履修規則第11条第1項ただし書の規定による成績については、授業科目ごとに担当教員が100点満点で採点し、履修規則第11条第6項別表2により学習の評価を行う。

- 2 再試験の成績については、授業科目ごとに担当教員が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。
- 3 正当な理由がなく試験を受験しなかった場合の成績は、0点とする。
- 4 第1項及び第2項の学習の評価に、平常の学修の成果を加味することができる。
- 5 共用試験の評価については、医学科教育委員会が別に定める。

#### (成績の報告)

第10条 担当教員は、定期試験、科目試験、追試験及び再試験について授業科目ごとに所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

- 2 医学科教育委員会委員長は、共用試験並びにそれに伴う追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに医学部長に報告しなければならない。

#### (罰則)

第11条 試験において、不正行為があったときは、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号）第58条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第12条 この規則に定めるもののほか、試験等に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立前の東京医科歯科大学医学部に平成16年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの（以下「在学者」という。）及び平成16年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この規則の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成18年3月31日規則第9号）

この規則は、平成18年4月1日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成22年8月25日規則第61号）

- 1 この規則は、平成22年8月25日から施行し、平成22年4月1日から適用する。
- 2 平成22年3月31日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成22年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則の例による。

（平成23年4月1日）  
規則第1号

（趣旨）

第1条 この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成16年規程第4号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成16年規則第217号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

（試験の種類）

第2条 試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

（試験の方法）

第3条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

（本試験）

第4条 本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

2 共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

（定期試験）

第5条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

2 定期試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

(1) 講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上履修した者

(2) 実習 当該授業科目の授業時間数の4分の3以上履修した者

4 定期試験の結果は、公示する。

5 第3項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

（共用試験）

第6条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（CBT）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（OSCE）をいう。

2 共用試験の実施日時は、試験実施日の2週間前までに公示する。

3 共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。

4 共用試験の結果は、公示する。

#### (追試験)

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として1回限りとする。

2 追試験を受験しようとする者(以下「追試験申請者」という。)は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として5日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長(以下「学部長等」という。)に願い出て、許可を受けなければならない。

3 学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。

4 追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第2項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

#### (再試験)

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

2 再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。

3 再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。

4 再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第3項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

#### (試験の成績)

第9条 本試験及び追試験による成績については、科目責任者が100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

2 再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。

3 共用試験の成績については、前2項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

#### (成績の報告)

第10条 科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第 1 1 条 試験において不正行為があったときは、学則第 5 8 条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第 1 2 条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 2 3 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部試験規則（平成 1 6 年規則 2 0 2 号）は廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成 1 6 年規則 2 1 4 号）は廃止する。
- 4 この規則は、平成 2 3 年 3 月 3 1 日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 2 3 年 4 月 1 日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

## 東京医科歯科大学医学部医学科試験内規

平成22年1月19日  
医学部長制定

### (趣 旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学試験規則(平成23年規則第1号。以下「試験規則」という。)

第5条第5項、第6条第3項、第8条第6項及び第12条に基づき、医学部医学科における専門に関する教育科目の履修及び試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

### (試験の種類)

第2条 試験規則第5条に規定する定期試験は、卒業試験及び科目試験の2種類とする。

### (卒業試験)

第3条 前条に規定する卒業試験とは、履修した授業科目について、卒業前に行う試験をいう。

2 卒業試験は第6学年の学年末までに行う。

3 試験規則第5条第3項の規定にかかわらず、卒業試験を受験することのできる者は次のとおりとする。

臨床実習の実習評価が60点以上の者

4 卒業試験による成績については、全科目60点以上であることを卒業の要件とする。

5 試験の結果は、合否をもって公示する。

### (科目試験)

第4条 第2条に規定する科目試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

2 試験の結果は、合否をもって公示する。

### (共用試験)

第5条 試験規則第6条第1項に規定する共用試験は、第4学年の臨床導入実習終了後に行う。

2 共用試験を受験することのできる者は、臨床導入実習を終了した者とする。

3 試験の結果は、合否をもって公示する。

### (再試験)

第6条 卒業試験又は各学年において実施される科目試験(これらの追試験を含む。)の5割以上が不合格であった者は、原則として再試験の受験を許可しないものとする。

2 再試験は、次に掲げる時期までに行うものとする。

(1) 卒業試験 第6学年の学年末まで

(2) 科目試験 第2, 第3, 第4学年の各学年末まで

(3) 共用試験 第4学年の3月末日まで

3 試験の結果は、合否をもって公示する。

### 附 則

1 この内規は、平成23年4月1日から施行する。

2 東京医科歯科大学医学部に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学部の在学者となったもの(以下「在学者」という。)及び平成23年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

# 東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ

〔平成20年2月8日〕  
申 合 せ

## 1. 目的

この申合せは、東京医科歯科大学学則（以下「学則」という。）第58条の規定に基づく学生の懲戒に関し、基本的な考え方、手続、標準その他の必要な事項を定めることにより、その適正及び公正を図ることを目的とする。

## 2. 基本的な考え方

- (1) 学生に対する懲戒は、大学の規律、秩序を維持し、教育目的を達成するため、一定の事由の発生を要件として、学生に対して制裁を課すものである。
- (2) 懲戒は、懲戒対象行為の態様、結果、影響等を総合的に検討し、教育的配慮を加えたうえで行うものとする。
- (3) 懲戒の取扱いについては、刑事訴追の有無を処分決定の絶対的な基準とはしないものとする。

## 3. 懲戒の種類

懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

### (1) 退学

退学は、学生の身分を失わせることである。

### (2) 停学

- ① 停学は、一定の期間登校を禁止することである。
- ② 停学は、無期停学及び有期停学とする。
- ③ 有期停学の期間は6か月未満とする。
- ④ 停学期間は、在学年限及び修業年限に含まないものとする。ただし、短期間（1か月以内）の場合には、在学年限及び修業年限に含めることができる。
- ⑤ 無期停学は、原則として6か月を経過した後でなければ解除することができない。
- ⑥ 停学期間には、学則第9条の「休業日」を含むものとする。

### (3) 訓告

訓告は、懲戒対象行為について、注意を与え、将来にわたってそのようなことがないように戒めることである。

## 4. 謹慎

学生の当該行為が懲戒に該当することが明白であり、かつ、停学以上の懲戒がなされることが確実である場合は、部局長（医学部長、歯学部長又は教養部長をいう。以下同じ。）は、当該学生に懲戒決定前に謹慎を命ずることができる。この場合、謹慎の期間は特に定めないが、この間は当該学生の登校を禁止する。

なお、謹慎の期間はその全部又は一部を停学期間に通算することができる。

## 5. 懲戒の手続

### (1) 調査委員会の設置

- ① 学部長は、懲戒に相当すると思われる学生の行為（以下「事案」という。）を知っ

たときは、直ちに学長に報告するとともに、当該学生が所属する学部教授会の議を経て、当該学部教授会の構成員で組織する調査委員会を設置するものとする。

なお、調査委員会には、事案により当該学部教授会の構成員以外の者を加えることができる。

- ② 調査委員会は、当該事案について、調査及び事実の確認を行い、懲戒に関する事実認定の報告書（様式1）を作成するものとする。

(2) 事情聴取等

- ① 調査委員会は、調査に当たり当該学生に対し事情聴取を行うものとする。ただし、学生が心身の故障、身柄の拘束、その他の事由により直接事情聴取を受けることができないときは、これに替えて文書による質問、照会等により事情聴取することができる。

- ② 調査委員会は、事情聴取に際し、当該学生に口頭又は文書により弁明する機会を与えるものとする。

(3) 調査等の結果の報告

調査委員会は、懲戒に関する事実認定の報告書を学部長に提出するものとする。

(4) 教授会審議

学部長は、調査委員会の報告に基づき、当該学部教授会において、懲戒の要否及び種類・程度を審議し、その結果を学長に報告するものとする。

(5) 懲戒の決定

学長は、学部長の報告に基づき、懲戒の要否及び種類・程度を決定するものとする。

(6) 懲戒通知書の交付等

学部長は、学長の命により当該学生に対し懲戒通知書（様式2）を交付するものとする。

(7) 退学願いの不受理

学部長は、懲戒の手続中の学生から自主退学の願い出があった場合は、これを受理しないものとする。

(8) その他

二つ以上の部局に関わる事案があるときは、当該部局長は相互に連絡協議するものとする。

6. 不服が申立てられた場合の手続

- (1) 当該学生から事実誤認、新事実の発見等の理由により不服が申立てられた場合で、学長が再審議の必要性があると判断したときは、学長は学部長に再審議を行わせるものとする。

- (2) 学部長は、当該学部教授会に再審議をする旨を報告の上、新たな構成員で組織される調査委員会に再調査等を行わせるものとする。

7. 無期停学の解除

- (1) 学部長は、無期停学処分を受けた学生について、指導教員等と協議し、その反省の程度及び学習意欲等を総合的に判断して、その処分を解除することが適当であると思われるときは、当該学部教授会の議を経て、学長に申出るものとする。

- (2) 学長は、学部長の申出に基づき、無期停学の解除を決定するものとする。

- (3) 学部長は、学長の命により当該学生に対し停学解除通知書（様式3）を交付するものとする。

## 8. 試験の無効等

### (1) 試験の無効

試験における不正行為を行った学生が受験した当該科目の試験は無効とする。

### (2) 停学期間中の受験及び履修手続

停学期間中の受験は認めない。ただし、履修手続きは可能とする。

## 9. 懲戒の標準は、別表のとおりとする。

## 10. 科目等履修生等の懲戒

この申合せの規定は、学則第10章及び第12章に規定する科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生並びに大学院研究生の懲戒について準用する。

## 11. 大学院学生の懲戒

大学院学生の懲戒については、この申合せの規定を準用する。この場合において、以下のように字句を読み替えるものとする。

(1) 「学部教授会」を「研究科運営委員会等」

(2) 「学部長」、「部局長（医学部長、歯学部長、教養部長をいう。以下同じ。）」及び部局長を「研究科長等」

(3) 「試験」を「試験（単位認定を目的とした定期試験をいう。）」

(4) 様式2中、「東京医科歯科大学学則第58条」を「東京医科歯科大学大学院学則第60条の規定により準用する東京医科歯科大学学則58条」

なお、この申合せにおける「大学院学生」には、大学院学則（平成16年4月1日規程第5号）第12章から第14章までに規定する聴講生、特別聴講学生及び特別研究学生、科目等履修生を含むものとする。

### 附 則

この申合せは、平成20年2月8日から施行する。

#### 附 則（平成24年2月24日制定）

1 この申合せは、平成24年4月1日から施行する。

2 この申合せの施行日において本学に専攻生として在籍する者の取扱いについては、平成24年9月30日まで、なお従前の例による。

別表

懲戒の標準

・懲戒対象行為の標準的な例及び懲戒の種類は次の表のとおりとする。

懲戒対象行為の標準的な例	懲戒の種類
<p>1. 試験における不正行為</p> <p>(1) 代理（替玉）受験を行った場合又は行わせた場合</p> <p>(2) 許可されていないノート及び参考書等を参照した場合</p> <p>(3) 答案を交換した場合</p> <p>(4) その他、試験において不正行為を行った場合</p>	<p>退学 停学 停学 停学又は訓告</p>
<p>2. その他の懲戒対象行為</p> <p>(1) 殺人、傷害、強盗、放火、誘拐、窃盗、痴漢等の犯罪</p> <p>① 殺人、傷害、強盗、強姦、放火、誘拐等の犯罪を行った場合</p> <p>② 窃盗、詐欺、恐喝等の犯罪を行った場合</p> <p>③ 痴漢（のぞき見、盗撮等を含む）を行った場合</p> <p>(2) 交通事故・交通法規違反</p> <p>① 人身事故を伴う交通事故を起こした場合であって、ひき逃げ行為であるとき、又はその原因行為が飲酒運転、無免許運転、暴走運転等悪質なとき</p> <p>② 飲酒運転、無免許運転、暴走運転等の重大な交通法規違反を犯した場合</p> <p>(3) ハラスメント等行為 性的関係の強要、飲酒の強要、いじめや嫌がらせ、ストーカー行為を行った場合</p> <p>(4) 薬物犯罪 違法薬物の売買又はその仲介、違法薬物の自己使用等を行った場合</p> <p>(5) 個人情報情報の漏えい 授業又は実習・研修等で知り得た、教職員、学生及び患者の個人情報情報を漏らした場合</p> <p>① 情報の漏えいが故意の場合</p> <p>② 情報の漏えいが過失の場合</p> <p>(6) コンピュータ等の不正行為 コンピュータ及びコンピュータネットワークの不正使用等並びにこれらを利用した不正行為等</p> <p>(7) 本学の教育・研究活動を妨げる不正行為</p> <p>① 研究成果作成の際に論文やデータの捏造を行った場合</p> <p>② 知的財産を喪失させる行為又は妨げる行為を行った場合</p> <p>③ 学生の学修、研究及び正当な活動並びに教職員の業務を暴力、威力等の不当な手段によって妨害した場合</p>	<p>退学 退学又は停学 停学又は訓告  退学又は停学  停学又は訓告  退学、停学又は訓告  退学又は停学  退学又は停学 停学又は訓告  退学、停学又は訓告  退学又は停学 退学又は停学 退学、停学又は訓告</p>
<p>3. 再犯学生の懲戒</p> <p>過去に懲戒を受けた学生が、再び懲戒対象行為を行った場合は、より「悪質性」が高いものとみなし、各標準を超える重い懲戒を行うことがある。</p>	

備考

- ・「標準的な例」に掲げられていない行為についても、懲戒の対象となる場合がある。
- ・「懲戒の種類」に掲げられていない種類の懲戒が課せられる場合もある。

## 懲戒に関する事実認定の報告書

### 1. 対象学生

- ・ 学部（研究科）                      学科（専攻）                      課程・コース
- ・ 学籍番号
- ・ 氏 名                                      年                      月                      日生
- ・ 入学年月日                              年                      月
- ・ 現住所                                      電話番号

### 2. 事件の経緯・概要

### 3. 学生の弁明

### 4. 審議経緯

### 5. その他参考資料等

#### 記載要領

- 2は、事件の経緯、概要、大学側の対応、事実の確認等について年月日順に記載する。
- 3は、当該学生が行った弁明について、日時、場所、証拠、証人、補佐人の有無、内容等を記載する。
- 5は、その他の必要事項又は参考資料があれば記載又は添付する。

懲戒通知書

学 部 名 \_\_\_\_\_  
学 籍 番 号 \_\_\_\_\_  
氏 名 \_\_\_\_\_

東京医科歯科大学学則第 58 条の規定により、下記のとおり懲戒する。

記

1. 懲戒の種類
2. 停学の期間（停学の場合）
3. 処分理由

平成 年 月 日

東京医科歯科大学長

印

停学解除通知書

学 部 名 \_\_\_\_\_  
学 籍 番 号 \_\_\_\_\_  
氏 名 \_\_\_\_\_

東京医科歯科大学における学生の懲戒に関する申合せ7の規定により、

平成 年 月 日付で停学を解除する。

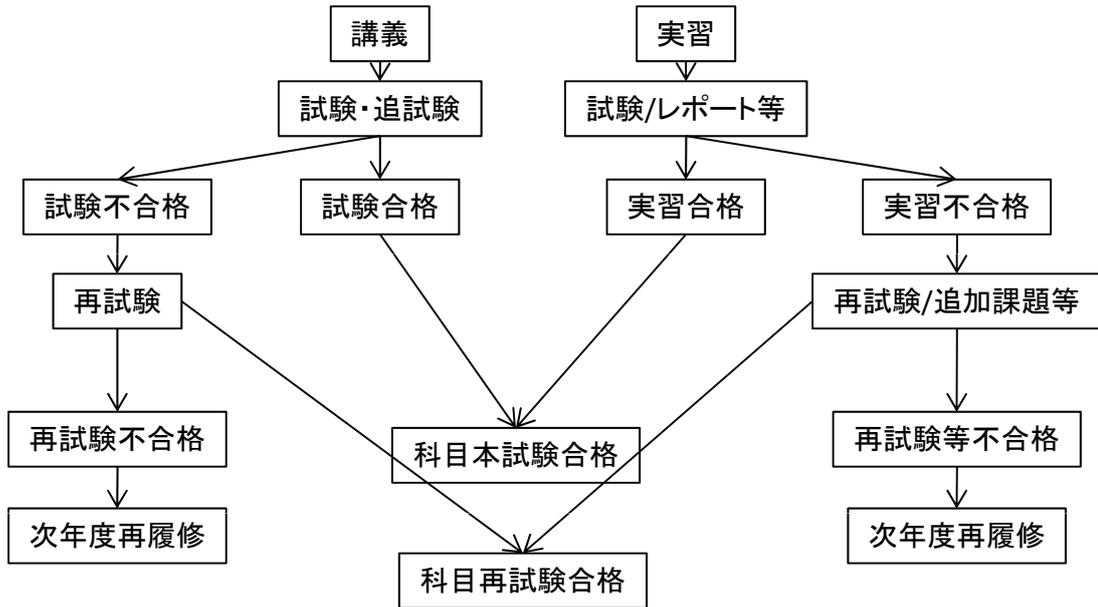
平成 年 月 日

東京医科歯科大学長

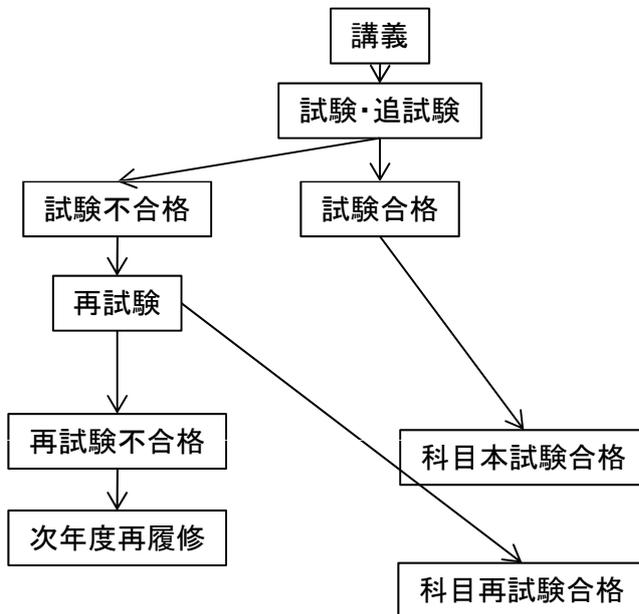
印

# 第2学年進級判定

## 実習がある科目



## 実習がない科目



### 実習あり(9):

神経解剖学  
感染・基礎  
人体解剖学  
組織学  
頭頸部・基礎  
生理学  
生化学  
薬理学  
医動物学

### 実習なし(9):

医歯学基盤教育(グローバル・コミュニケーション I)  
医歯学基盤教育(臨床統計)  
神経科学・基礎  
免疫学  
細胞生物学  
人体構造総論  
神経生理導入  
病理学  
分子遺伝学

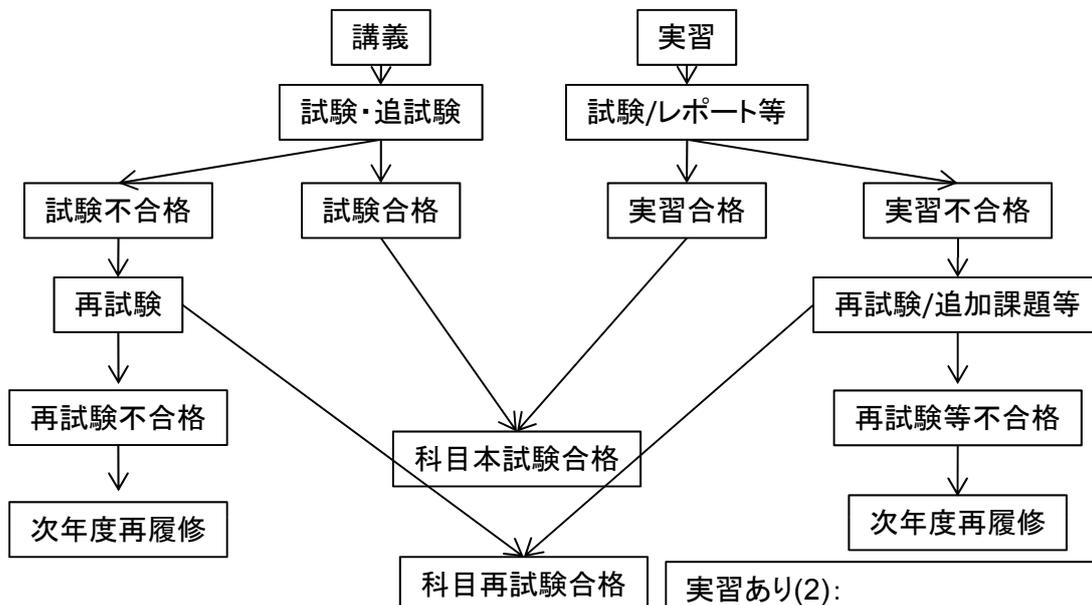
科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。  
再試験の合格判定を得るためには、上記18科目のうち10科目以上合格していることが必要になる。  
\* 科目本試験の不合格科目数が9科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

進級には18科目すべての合格が必要になる。

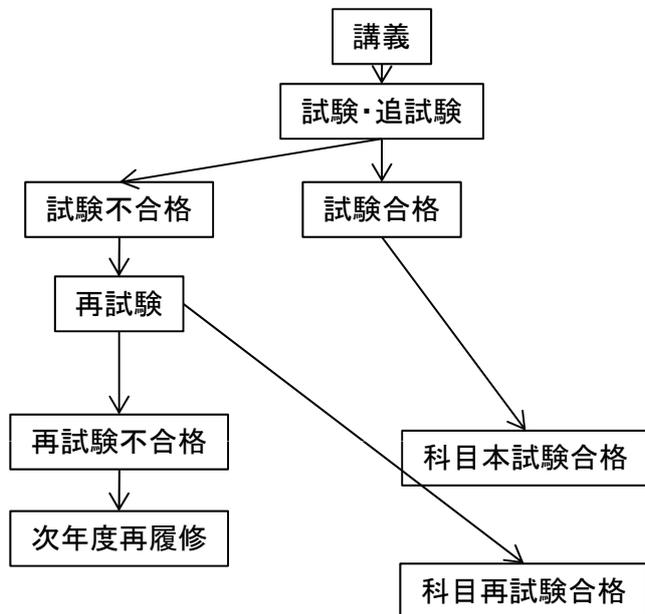
ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

# 第3学年進級判定

## 実習がある科目



## 実習がない科目



### 実習あり(2):

法医学  
衛生学

### 実習なし(21):

医歯学基盤教育(グローバル・コミュニケーションⅡ)  
医歯学基盤教育(臨床統計Ⅱ)  
医歯学基盤教育(生命倫理Ⅰ)  
公衆衛生学(講義)  
腫瘍学  
神経科学・臨床  
感染・臨床  
循環器  
消化器  
呼吸器  
体液制御・泌尿器  
内分泌・代謝  
血液・腫瘍  
社会医学  
頭頸部・臨床  
老年医学  
皮膚・アレルギー・膠原病  
一般外科  
骨・関節・脊椎  
東洋医学  
臨床医学導入

科目の合格には現在発表されている学科試験のみの合格ではなく、実習の合格も必要である。  
再試験の合格判定を得るためには、上記23科目のうち12科目以上合格していることが必要になる。  
\* 科目本試験の不合格科目数が13科目以上になった時点で、当該年度の再試験はすべて無効となる。

進級には23科目すべての合格が必要になる。

ただし、不合格の原因に特別な事情があり、次年度の科目に加えて再履修科目も履修できると教育委員会によって判断された学生は、仮進級が認められることがある。

## 湯島キャンパス・駿河台キャンパス



**1** 1号館西  
【1号館・管理棟】

**2** 2号館  
【2号館・附属教育施設等】

**3** 1号館東  
【歯科研究棟】

**4** 7号館  
【歯学部校舎棟】

**5** 歯科棟北  
【歯科棟】

**6** 歯科棟南  
【歯科外来事務棟】

**7** 10号館  
【総合教育研究棟】

**8** 旧3号館

**9** 医科A棟  
【医科新棟】

**10** 医科B棟  
【医科新棟】

**11** 3号館  
【医歯学総合研究棟（I期棟）】

**12** M&Dタワー  
【医歯学総合研究棟（II期棟）】

**13** 5号館

**14** 6号館

**15** 8号館南  
【共同研究棟】

**16** 8号館北  
【RI実験施設棟】

**17** 生体材料工学研究所

**18** 難治疾患研究所駿河台棟

**19** 12号館  
【駿河台臨床研究棟】

**20** 看護師宿舎  
（レジデンス茗芳）